

食育に関する意識調査

報告書

平成26年10月

宇都宮市

目 次

I 調査の概要

1. 調査目的.....	1
2. 調査設計.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 報告書の見方.....	1

II 回答者の属性

一般.....	2
中学生・高校生.....	6
幼児・小学生（保護者）.....	9

III 調査結果の詳細 — 一 般 —

(1) 食育の認知度.....	13
(2) 食育の関心度.....	15
(3) 食育の実践度.....	19
(3-1) 実践しない理由.....	24
(4) 食生活の問題点の有無.....	26
(4-1) 問題点の内容.....	28
(5) 朝食摂取度.....	30
(5-1) 食べない理由.....	34
(6) 家族や友人との朝食（共食）.....	36
(7) 家族や友人との夕食（共食）.....	39
(8) 食事の際のマナー.....	42
(9) 咀嚼.....	44
(10) 食べ残しや食品の廃棄への関心.....	48
(11) 食堂、レストラン等が提供する食事の栄養バランス.....	50
(12) 外食の利用頻度.....	52
(12-1) 外食でのメニューの選び方.....	55
(13) 中食の利用頻度.....	57
(13-1) 中食でのメニューの選び方.....	60
(14) 飲食業者に対する希望.....	62
(15) 食事バランスガイドの認知度.....	64
(15-1) 食事バランスガイドの利用度.....	68
(16) メタボリックシンドロームの認知度.....	70
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践.....	72
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組.....	77

(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由	79
(18) 減塩の取り組み	81
(18-1) 減塩の取組を実践しない理由	83
(19) 1日に必要な野菜摂取量	85
(19-1) 野菜を摂取しない理由	87
(20) 食生活改善推進員・健康づくり推進員の認知度	89
(21) 食品の安全性への不安	91
(21-1) 不安の内容	93
(22) 食品の安全性についての情報や知識の習得	95
(22-1) 食品の安全性についての情報や知識の習得方法	97
(22-2) 食品の安全性についての情報や知識を習得しない理由	99
(23) 食品の安全性の向上	101
(24) 地産地消の認知度	103
(25) 地場農産物の購入	105
(25-1) 地場農産物にこだわらない理由	107
(26) 食文化や伝統料理への関心度	109
(26-1) 食文化や伝統料理に関心を持つためのきっかけ	111
(27) 日本型食生活の認知度	113
(28) 日本型食生活の実践度	115

IV 調査結果の詳細 — 中学生・高校生 —

(1) 食育の認知度	117
(2) 食育の関心度	119
(3) 食生活の問題点の有無	121
(3-1) 問題点の内容	123
(4) 朝食摂取度	125
(4-1) 食べない理由	128
(5) 家族との朝食（共食）	130
(6) 家族との夕食（共食）	132
(7) 咀嚼	134
(8) 食事の際のマナー	136
(9) 食べ残しや食品の廃棄への関心	138
(10) 食事バランスガイドの認知度	140
(10-1) 食事バランスガイドの利用度	142
(11) 就寝時刻	144
(12) 起床時刻	146
(13) メタボリックシンドロームの認知度	148
(14) 地産地消の認知度	150
(15) 食品の安全性への不安	152

(15-1) 不安の内容.....	154
(16) 食文化や伝統料理への関心度.....	156

V 調査結果の詳細 — 幼児・小学生（保護者） —

I 子どものことについて

(1) 朝食摂取度.....	158
(1-1) 朝食を食べない理由.....	160
(2) 家族との朝食（共食）.....	162
(3) 家族との夕食（共食）.....	164
(4) 就寝時刻.....	166
(5) 起床時刻.....	168
(6) 咀嚼.....	170
(7) 好き嫌い.....	172
(7-1) 嫌いなものを食べさせる工夫.....	174
(8) 食生活の問題点の有無.....	176
(8-1) 問題点の内容.....	178
(9) 実践している食育.....	180

II 保護者のことについて

(10) 食育の認知度.....	182
(11) 食育の関心度.....	184
(12) 食事の際のマナー.....	186
(13) 食べ残しや食品の廃棄への関心.....	188
(14) 食品の安全性への不安.....	190
(14-1) 不安の内容.....	192
(15) 地場農産物の購入.....	194
(16) メタボリックシンドロームの認知度.....	196
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践.....	198
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組.....	200
(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由.....	202

VI 資料（調査票）

一般.....	204
中学生・高校生.....	214
幼児・小学生（保護者）.....	220

I 調査の概要

◆調査の概要

1. 調査目的

市民の食育に対する意識や食習慣等の実態を調査し、第2次宇都宮市食育推進計画（平成24年度から平成28年度までの5年間）の実践目標の達成状況の把握や各事業の方向性の検討のための基礎資料とする。

2. 調査設計

(1) 調査地域 宇都宮市全域

(2) 調査対象者

ア. 18歳以上の市民 : 3,000人

イ. 中学生・高校生 : 1,351人

ウ. 幼児・小学生の保護者 : 1,284人

(3) 調査方法

ア. 18歳以上の市民 : 郵送による配布・回収

イ. 中学生・高校生 : 学校を通じた配布・回収

ウ. 幼児・小学生の保護者 : 保育園・幼稚園・学校を通じた配布・回収

(4) 調査時期 平成26年6月

3. 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
一 般	3,000	1,354	1,354	45.1%
中 学 生 ・ 高 校 生	1,351	1,298	1,156	85.6%
幼 児 ・ 小 学 生 (保 護 者)	1,284	1,136	1,134	88.3%

* 配布数、回収数は市外居住者を含む。そのうち市内居住者を有効回収数としている。

4. 報告書の見方

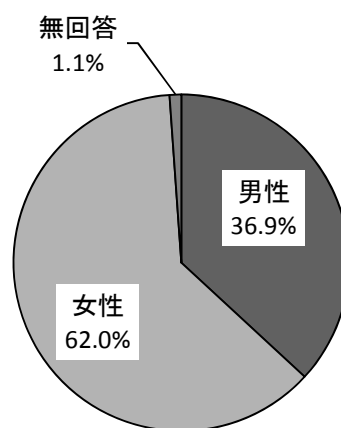
- (1) N (Number of cases の略) は、質問に対する回答者数であり、回答比率における100%に相当する。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならないことがある。
- (3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- (4) 集計表や図では、選択肢の語句を一部簡略化してあらわしている。
- (5) クロス集計においては、表側にある設問（性別や年代別など）に無回答だった方の人数は記載していない。そのためNの値を足しあげても全体の値とは等しくならない。
- (6) クロス集計にある設問（性別や年代別など）では、Nの値が少なくなることがある。Nの値が少ないほどデータの正確さを保証するのは困難であるため、Nが少ないものについては参考として掲載し、数値をあげた具体的なコメントは割愛している。

II 回答者の属性

一 般

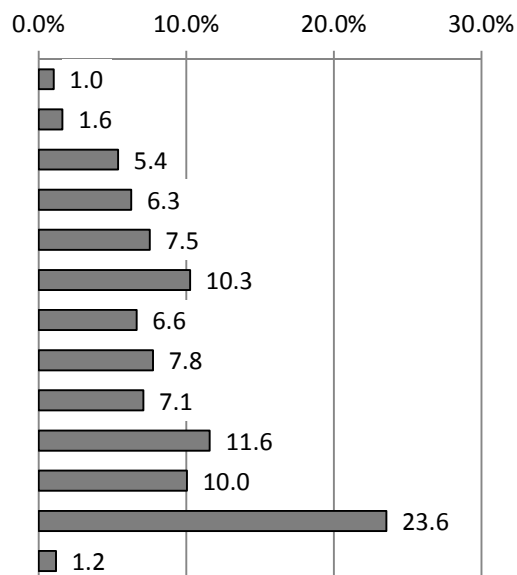
F 1 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 男性	499	36.9
2 女性	840	62.0
無回答	15	1.1
全体	1354	100.0



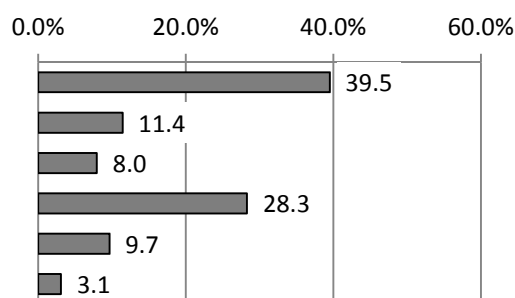
F 2 年齢

	基数 (人)	構成比 (%)
1 20歳未満	14	1.0
2 20～24歳	22	1.6
3 25～29歳	73	5.4
4 30～34歳	85	6.3
5 35～39歳	102	7.5
6 40～44歳	139	10.3
7 45～49歳	90	6.6
8 50～54歳	105	7.8
9 55～59歳	96	7.1
10 60～64歳	157	11.6
11 65～69歳	136	10.0
12 70歳以上	319	23.6
無回答	16	1.2
全体	1354	100.0



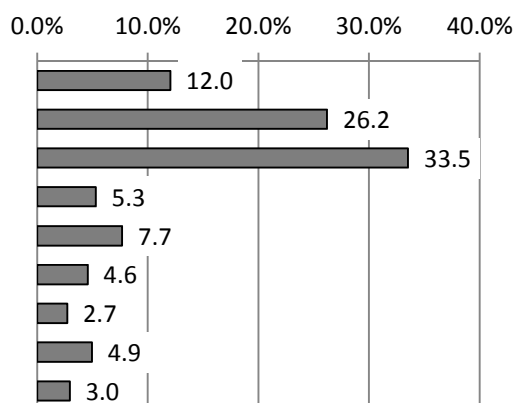
F3 居住地区

	基数 (人)	構成比 (%)
1 中央	535	39.5
2 東部	155	11.4
3 北西部	108	8.0
4 南部	383	28.3
5 河内・上河内	131	9.7
無回答	42	3.1
全体	1354	100.0



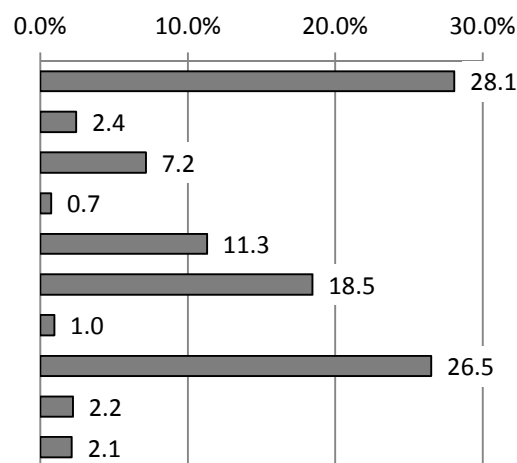
F4 同居家族

	基数 (人)	構成比 (%)
1 ひとり暮らし	163	12.0
2 自分と配偶者	355	26.2
3 自分と配偶者と子ども	454	33.5
4 自分と子ども	72	5.3
5 自分と配偶者と子どもと親	104	7.7
6 自分と親	62	4.6
7 自分と親と兄弟姉妹	37	2.7
8 その他	67	4.9
無回答	40	3.0
全体	1354	100.0



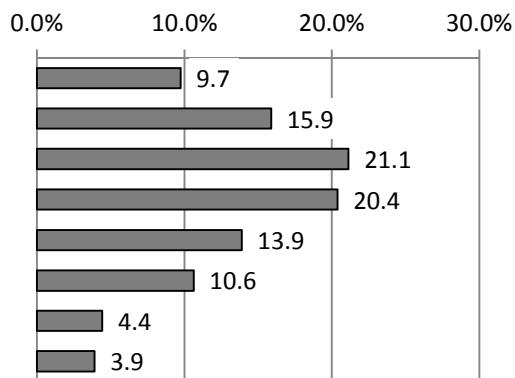
F5 職業

	基数 (人)	構成比 (%)
1 会社員・公務員・団体職員	380	28.1
2 契約社員・派遣社員	33	2.4
3 自営業	97	7.2
4 農林業	10	0.7
5 パート・アルバイト	153	11.3
6 専業主婦 (夫)	250	18.5
7 学生	13	1.0
8 無職	359	26.5
9 その他	30	2.2
無回答	29	2.1
全体	1354	100.0



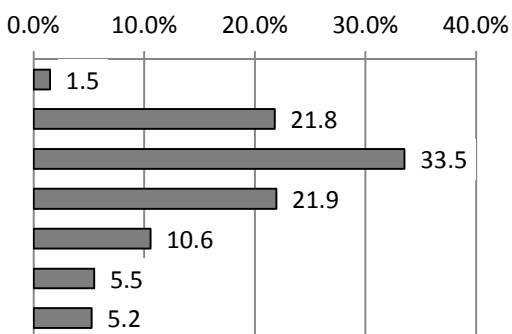
F6 身長

	基数 (人)	構成比 (%)
1 150cm未満	132	9.7
2 150～155cm未満	215	15.9
3 155～160cm未満	286	21.1
4 160～165cm未満	276	20.4
5 165～170cm未満	188	13.9
6 170～175cm未満	144	10.6
7 175cm以上	60	4.4
無回答	53	3.9
全体	1354	100.0



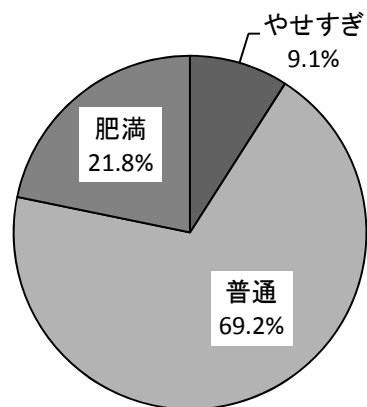
F6 体重

	基数 (人)	構成比 (%)
1 40kg未満	20	1.5
2 40～50kg未満	295	21.8
3 50～60kg未満	454	33.5
4 60～70kg未満	297	21.9
5 70～80kg未満	143	10.6
6 80kg以上	74	5.5
無回答	71	5.2
全体	1354	100.0

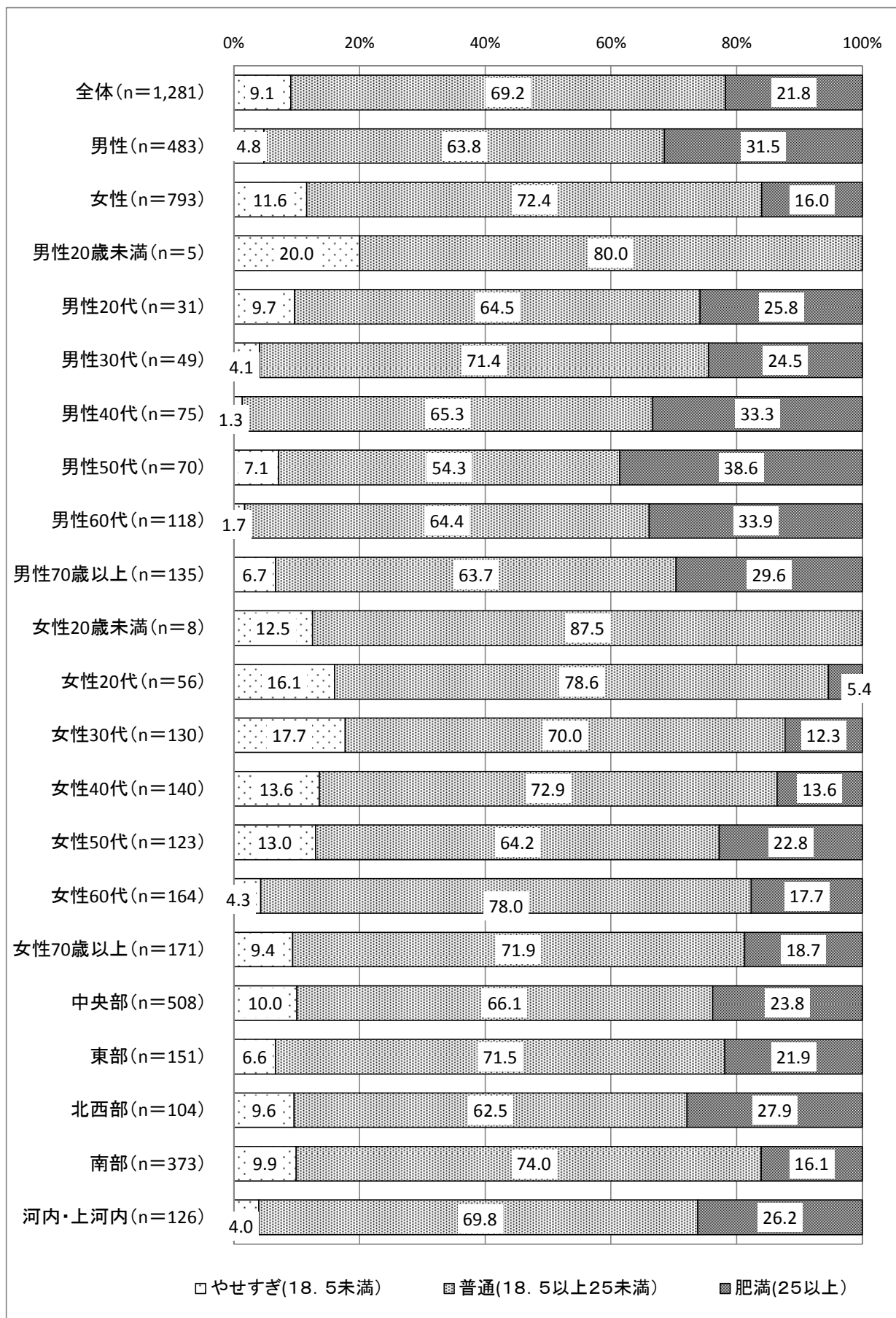


BMI

	基数 (人)	構成比 (%)
1 やせすぎ (18.5未満)	116	9.1
2 普通 (18.5以上25未満)	886	69.2
3 肥満 (25以上)	279	21.8
全体	1281	100.0



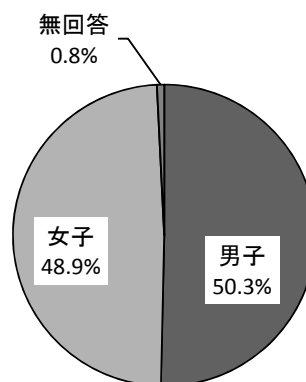
BMI (性・年代別)



中学生・高校生

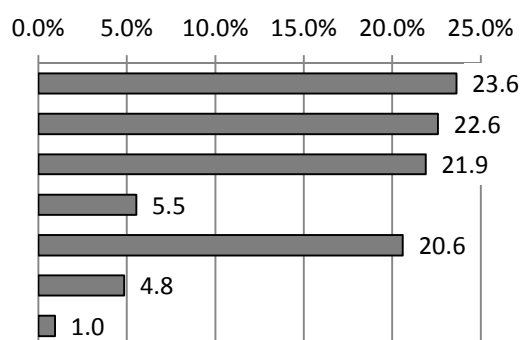
F1 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 男子	582	50.3
2 女子	565	48.9
無回答	9	0.8
全体	1156	100.0



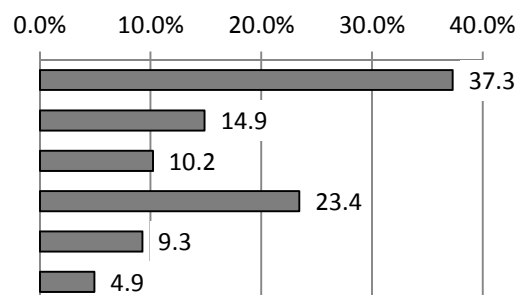
F2 学年

	基数 (人)	構成比 (%)
1 中学1年	273	23.6
2 中学2年	261	22.6
3 中学3年	253	21.9
4 高校1年	64	5.5
5 高校2年	238	20.6
6 高校3年	56	4.8
無回答	11	1.0
全体	1156	100.0



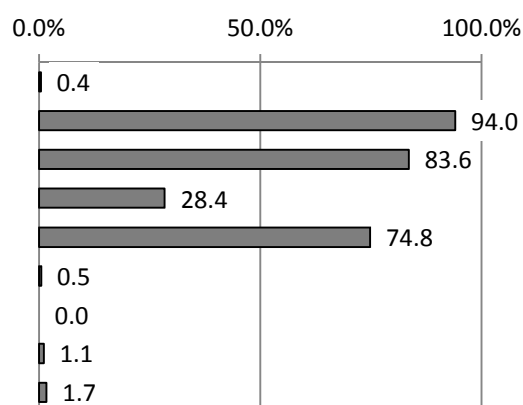
F3 居住地区

	基数 (人)	構成比 (%)
1 中央	431	37.3
2 東部	172	14.9
3 北西部	118	10.2
4 南部	271	23.4
5 河内・上河内	107	9.3
無回答	57	4.9
全体	1156	100.0



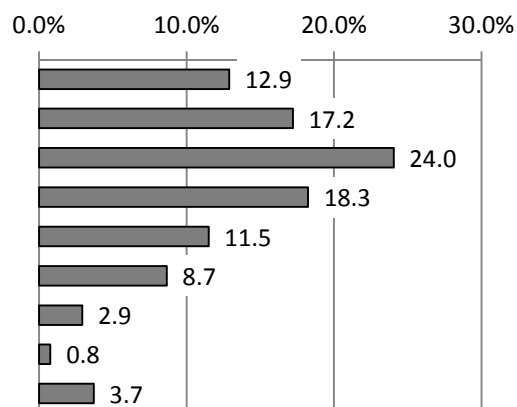
F 4 同居家族

	基数 (人)	構成比 (%)
1 ひとり暮らし	5	0.4
2 母	1087	94.0
3 父	966	83.6
4 祖母や祖父	328	28.4
5 兄弟姉妹	865	74.8
6 親せき	6	0.5
7 学生寮に住んでいる	0	0.0
8 その他	13	1.1
無回答	20	1.7
全体	1156	



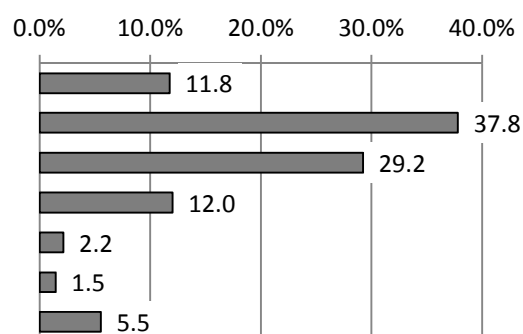
F 5 身長

	基数 (人)	構成比 (%)
1 150cm未満	149	12.9
2 150～155cm未満	199	17.2
3 155～160cm未満	278	24.0
4 160～165cm未満	211	18.3
5 165～170cm未満	133	11.5
6 170～175cm未満	100	8.7
7 175～180cm未満	34	2.9
8 180cm以上	9	0.8
無回答	43	3.7
全体	1156	100.0



F 5 体重

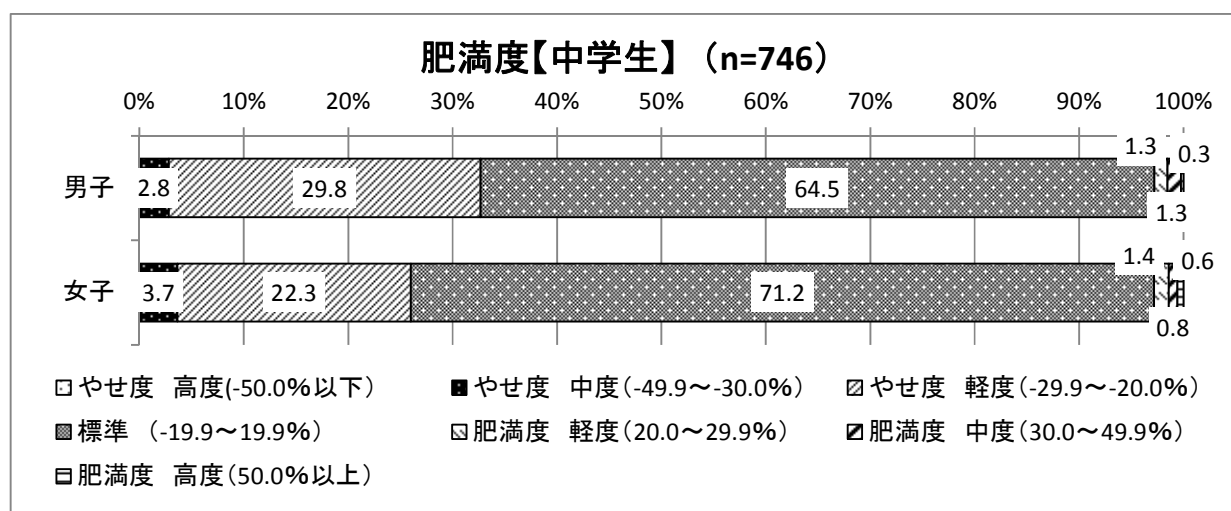
	基数 (人)	構成比 (%)
1 40kg未満	136	11.8
2 40～50kg未満	437	37.8
3 50～60kg未満	338	29.2
4 60～70kg未満	139	12.0
5 70～80kg未満	25	2.2
6 80kg以上	17	1.5
無回答	64	5.5
全体	1156	100.0



肥満度

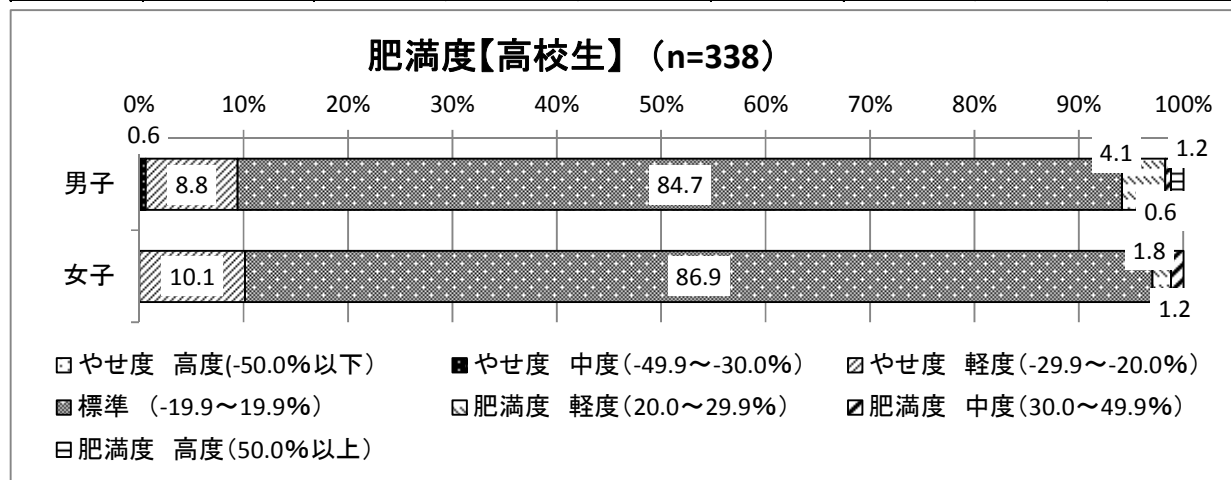
【中学生】(単位：人，%)

	全体		やせ度						標準		肥満度					
			高度		中度		軽度				軽度		中度		高度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男子	392	100.0	0	0.0	11	2.8	117	29.8	253	64.5	5	1.3	5	1.3	1	0.3
女子	354	100.0	0	0.0	13	3.7	79	22.3	252	71.2	5	1.4	3	0.8	2	0.6
合計	746	100.0	0	0.0	24	3.2	196	26.3	505	67.7	10	1.3	8	1.1	3	0.4



【高校生】(単位：人，%)

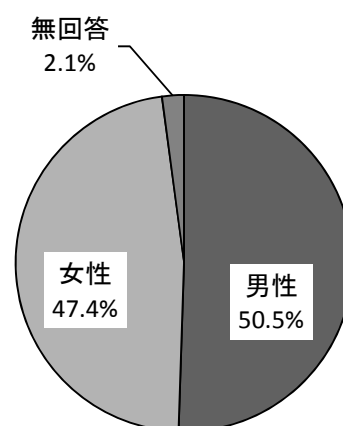
	全体		やせ度						標準		肥満度					
			高度		中度		軽度				軽度		中度		高度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男子	170	100.0	0	0.0	1	0.6	15	8.8	144	84.7	7	4.1	1	0.6	2	1.2
女子	168	100.0	0	0.0	0	0.0	17	10	146	86.9	3	1.8	2	1.2	0	0
合計	338	100.0	0	0.0	1	0.3	32	9.5	290	85.8	10	3.0	3	0.9	2	0.6



幼児・小学生（保護者）

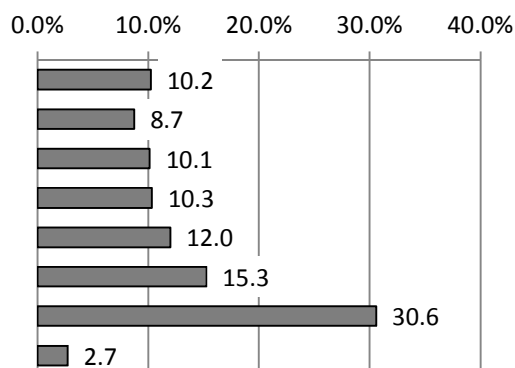
F1 子どもの性別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 男性	573	50.5
2 女性	537	47.4
無回答	24	2.1
全体	1134	100.0



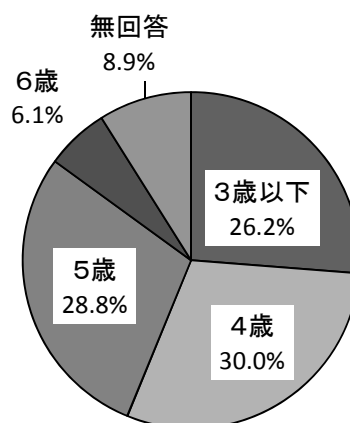
F2 子どもの学年（年齢）

	基数 (人)	構成比 (%)
1 小学校 1 年生	116	10.2
2 小学校 2 年生	99	8.7
3 小学校 3 年生	115	10.1
4 小学校 4 年生	117	10.3
5 小学校 5 年生	136	12.0
6 小学校 6 年生	173	15.3
7 未就学	347	30.6
無回答	31	2.7
全体	1134	100.0



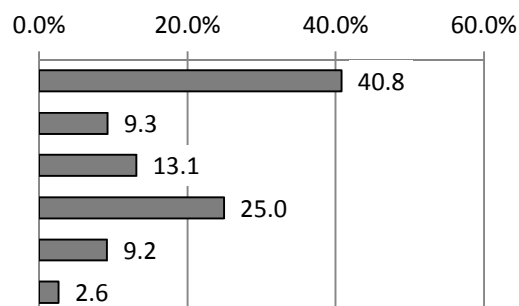
【未就学児の年齢】

	基数 (人)	構成比 (%)
1 3 歳以下	91	26.2
2 4 歳	104	30.0
3 5 歳	100	28.8
4 6 歳	21	6.1
無回答	31	8.9
全体	347	100.0



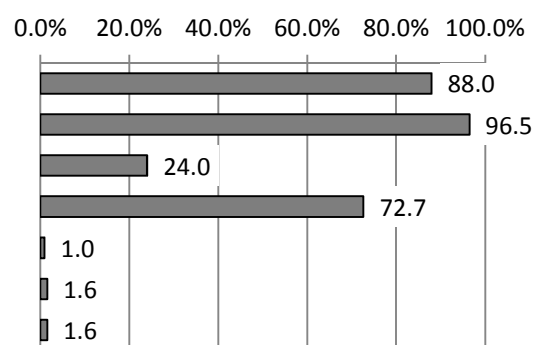
F3 居住地区

	基数 (人)	構成比 (%)
1 中央	463	40.8
2 東部	105	9.3
3 北西部	149	13.1
4 南部	283	25.0
5 河内・上河内	104	9.2
無回答	30	2.6
全体	1134	100.0



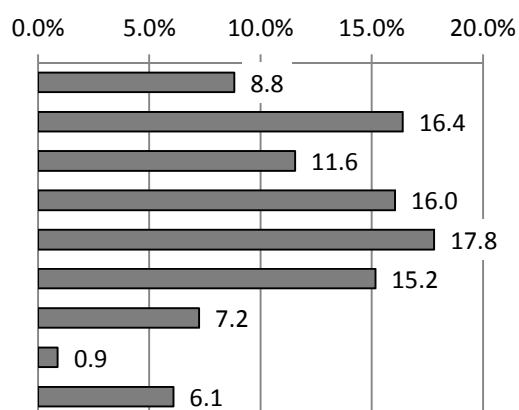
F4 同居家族

	基数 (人)	構成比 (%)
1 父	998	88.0
2 母	1094	96.5
3 祖父や祖母	272	24.0
4 兄弟姉妹	824	72.7
5 親戚	11	1.0
6 その他	18	1.6
無回答	18	1.6
全体	1134	



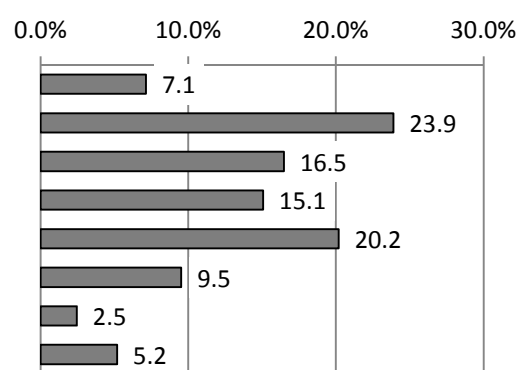
F5 子どもの身長

	基数 (人)	構成比 (%)
1 100cm未満	100	8.8
2 100～110cm未満	186	16.4
3 110～120cm未満	131	11.6
4 120～130cm未満	182	16.0
5 130～140cm未満	202	17.8
6 140～150cm未満	172	15.2
7 150～160cm未満	82	7.2
8 160cm以上	10	0.9
無回答	69	6.1
全体	1134	100.0



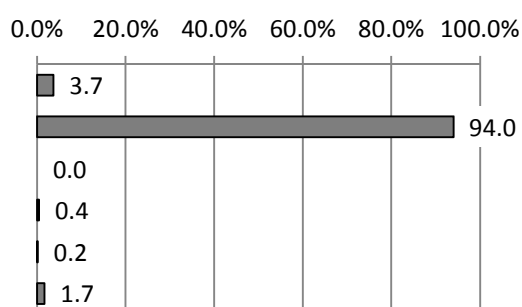
F5 子どもの体重

	基数 (人)	構成比 (%)
1 15kg 未満	81	7.1
2 15～20kg 未満	271	23.9
3 20～25kg 未満	187	16.5
4 25～30kg 未満	171	15.1
5 30～40kg 未満	229	20.2
6 40～50kg 未満	108	9.5
7 50kg 以上	28	2.5
無回答	59	5.2
全体	1134	100.0



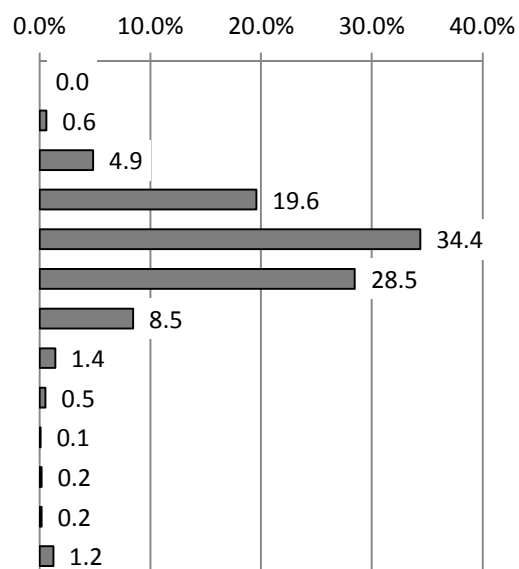
F6 子どもとの続柄

	基数 (人)	構成比 (%)
1 父	42	3.7
2 母	1066	94.0
3 祖父	0	0.0
4 祖母	5	0.4
5 その他	2	0.2
無回答	19	1.7
全体	1134	100.0



F7 保護者の年齢

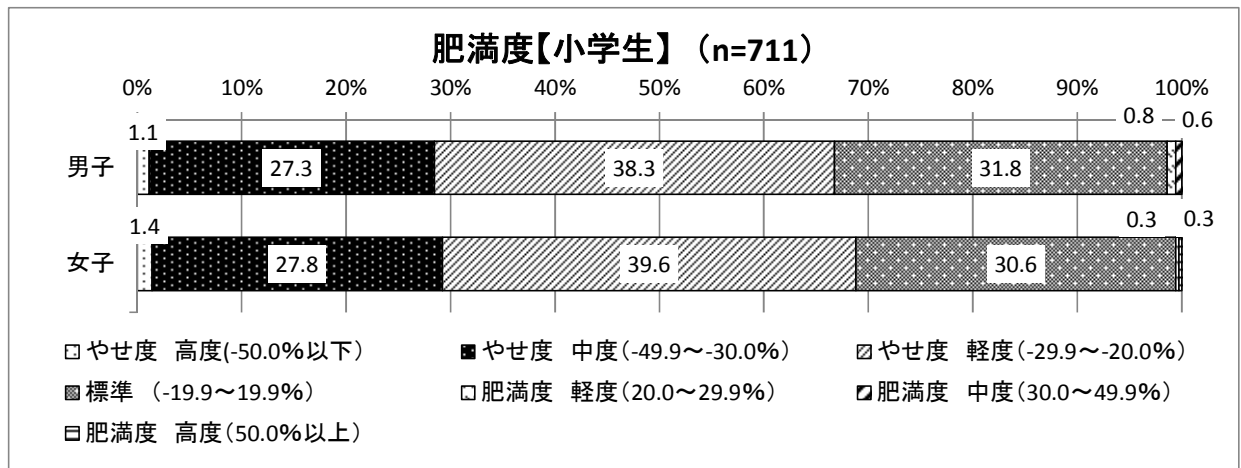
	基数 (人)	構成比 (%)
1 20歳未満	0	0.0
2 20～24歳未満	7	0.6
3 25～29歳未満	55	4.9
4 30～34歳未満	222	19.6
5 35～39歳未満	390	34.4
6 40～44歳未満	323	28.5
7 45～49歳未満	96	8.5
8 50～54歳未満	16	1.4
9 55～59歳未満	6	0.5
10 60～64歳未満	1	0.1
11 65～69歳未満	2	0.2
12 70歳以上	2	0.2
無回答	14	1.2
全体	1134	100.0



肥満度

【小学生】(単位：人，%)

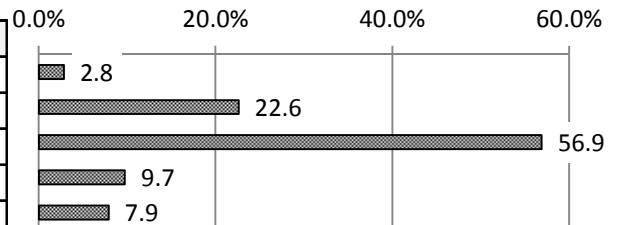
	全体		やせ度						標準		肥満度					
			高度		中度		軽度				軽度		中度		高度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男子	355	100.0	4	1.1	97	27.3	136	38.3	113	31.8	3	0.8	2	0.6	0	0
女子	356	100.0	5	1.4	99	27.8	141	39.6	109	30.6	1	0.3	0	0.0	1	0.3
合計	711	100.0	9	1.3	196	27.6	277	39.0	222	31.2	4	0.6	2	0.3	1	0.1



ローレル指数

【小学生】

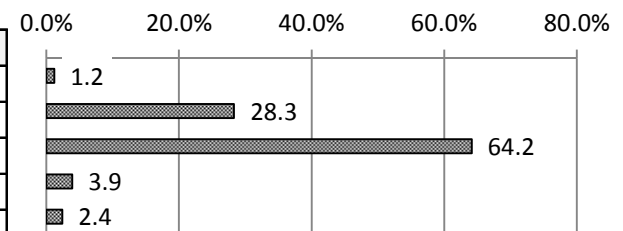
	基数	構成比
1 やせすぎ(100以下)	20	2.8
2 やせぎみ(101~115)	160	22.6
3 ふつう(116~144)	403	56.9
4 太りぎみ(145~159)	69	9.7
5 太りすぎ(160以上)	56	7.9
全体	708	100.0



カウブ指数

【未就学】

	基数	構成比
1 やせ(13.0未満)	4	1.2
2 やせぎみ(13.0~14.9)	94	28.3
3 正常(15.0~17.9)	213	64.2
4 肥満ぎみ(18.0~19.9)	13	3.9
5 肥満(20.0以上)	8	2.4
全体	332	100.0



Ⅲ 調査結果の詳細

— 一般 —

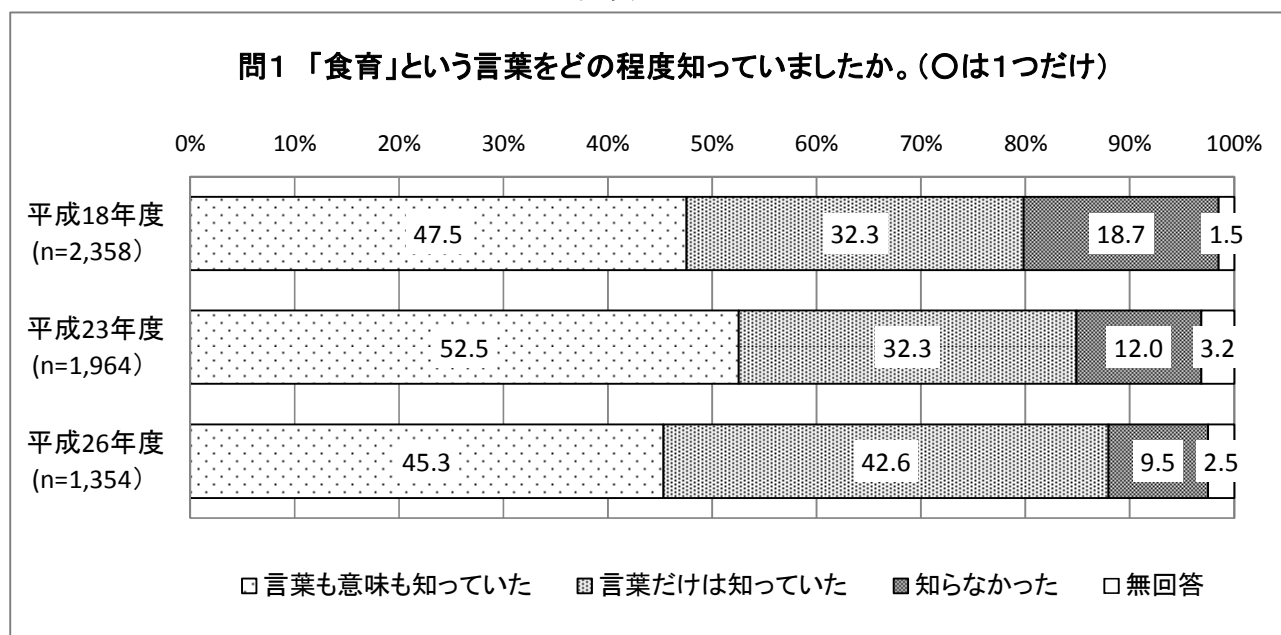
(1) 食育の認知度

1 「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」人が8割強

「食育」の認知度は、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）は87.9%と8割強に上り、平成18年度調査（79.8%）、平成23年度調査（84.8%）と比較して微増となっている。しかし、「言葉も意味も知っていた」人の割合は45.3%となっており、平成23年度調査の52.5%に比べ減少している。（図表I-1-1）

図表 I - 1 - 1



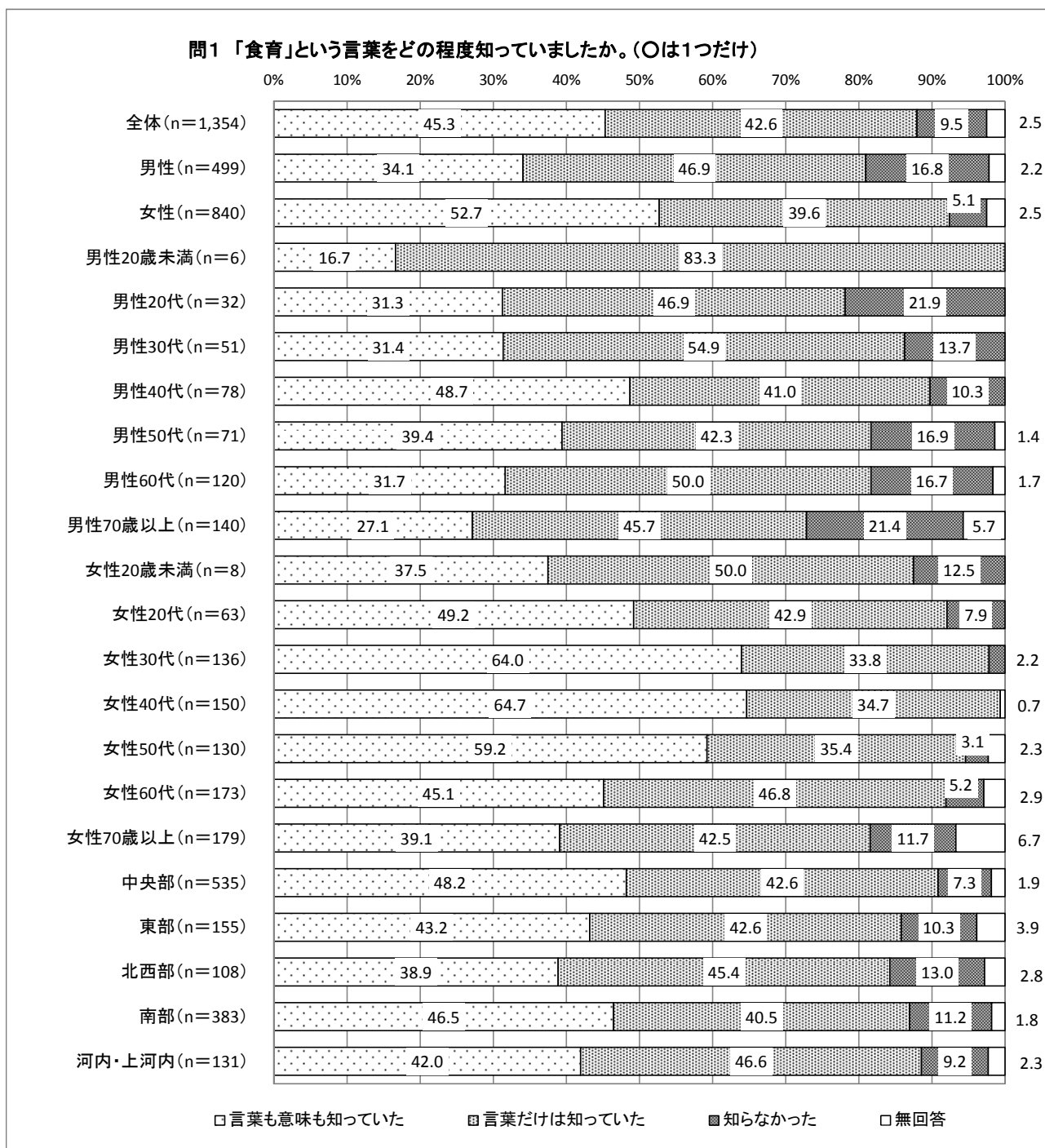
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「言葉も意味も知っていた」は女性 52.7%、男性 34.1%と、女性の方が 18.6%高くなっている。

性・年齢別では、「言葉も意味も知っていた」は、「女性 40 代」(64.7%) が最も高く、男性では「40 代」(48.7%) が高くなっている。一方で、男性の「20 代」「30 代」「60 代」「70 歳以上」では、他の年齢に比べ低くなっている。

居住地区別では、「言葉も意味も知っていた」が最も高いのは「中央部」で 48.2%、「知らなかった」が最も高いのは「北西部」で 13.0%となっている。(図表 I-1-2)

図表 I-1-2



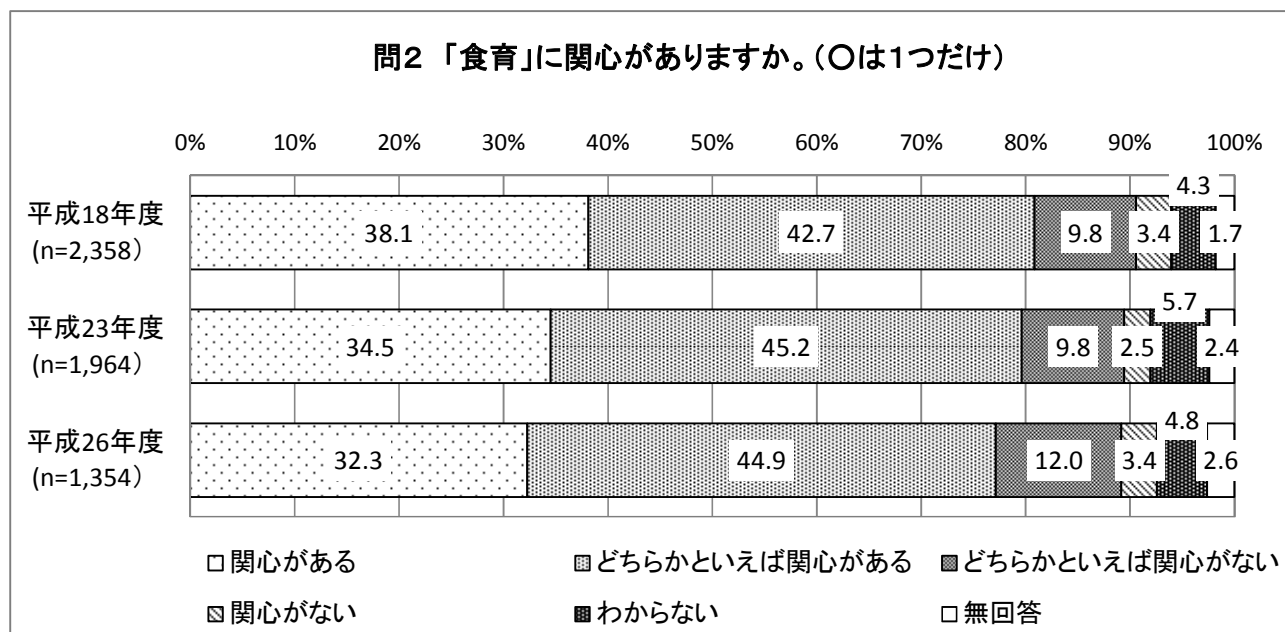
(2) 食育の関心度

2 「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が約8割

「食育」の関心度は、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は77.2%となるが、平成18年度調査（80.8%）、平成23年度調査（79.7%）と比較すると微減となっている。「関心がない」（「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の合計）は15.4%となっており、平成18年度調査（13.2%）、平成23年度調査（12.3%）と比較すると微増となっている。（図表I-1-3）

図表 I - 1 - 3



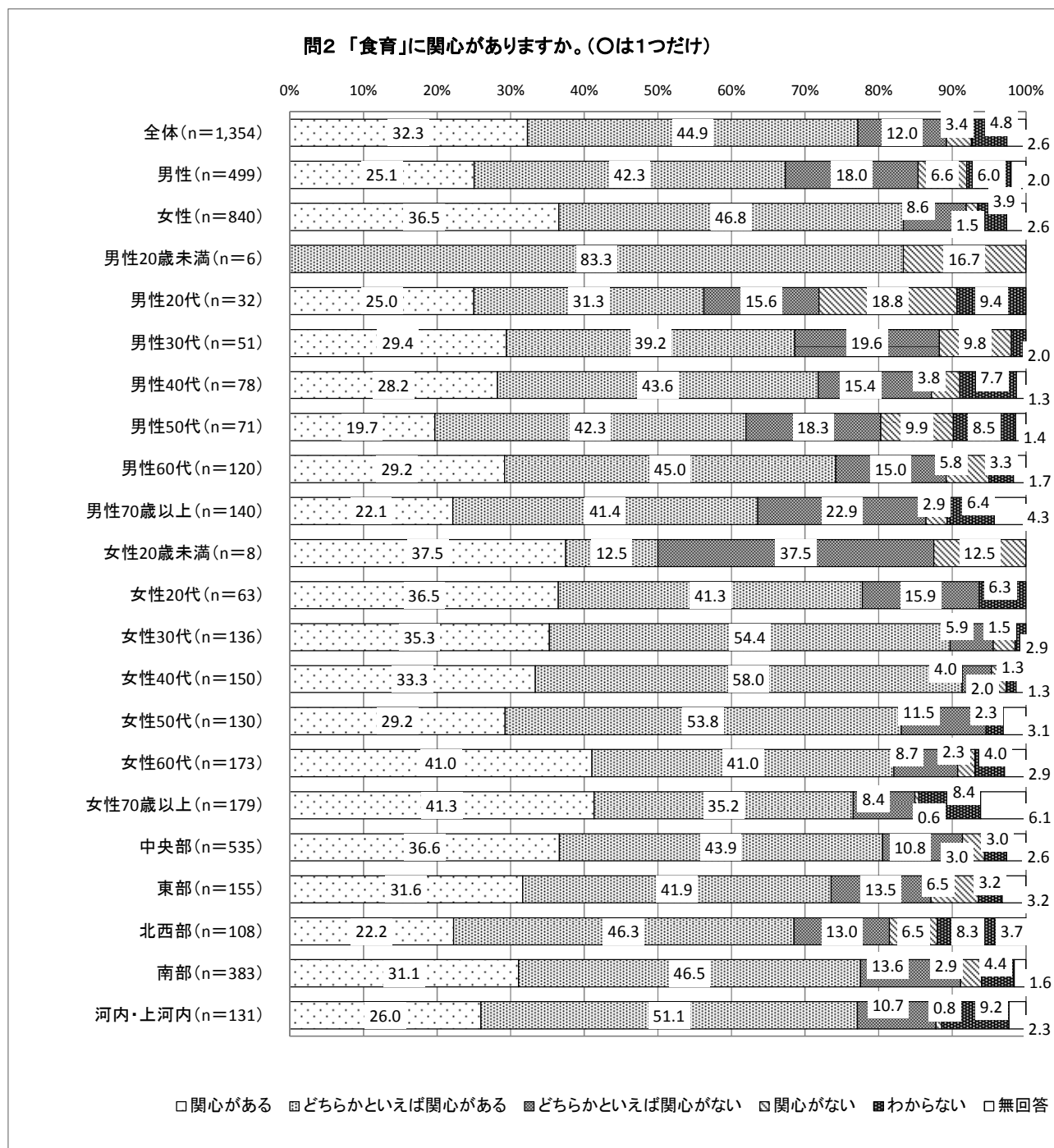
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、女性の「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）が83.3%，男性では67.4%と、女性の方が15%以上高くなっている。

性・年齢別では、「関心がある」の割合が「女性40代」（91.3%）と特に高くなっている。一方で、「関心がない」の割合が「男性20代」で18.8%と高くなっている。

居住地区別は、「中央部」（80.5%）で「関心がある」の割合が最も高くなっている。（図表I-1-4）

図表 I - 1 - 4

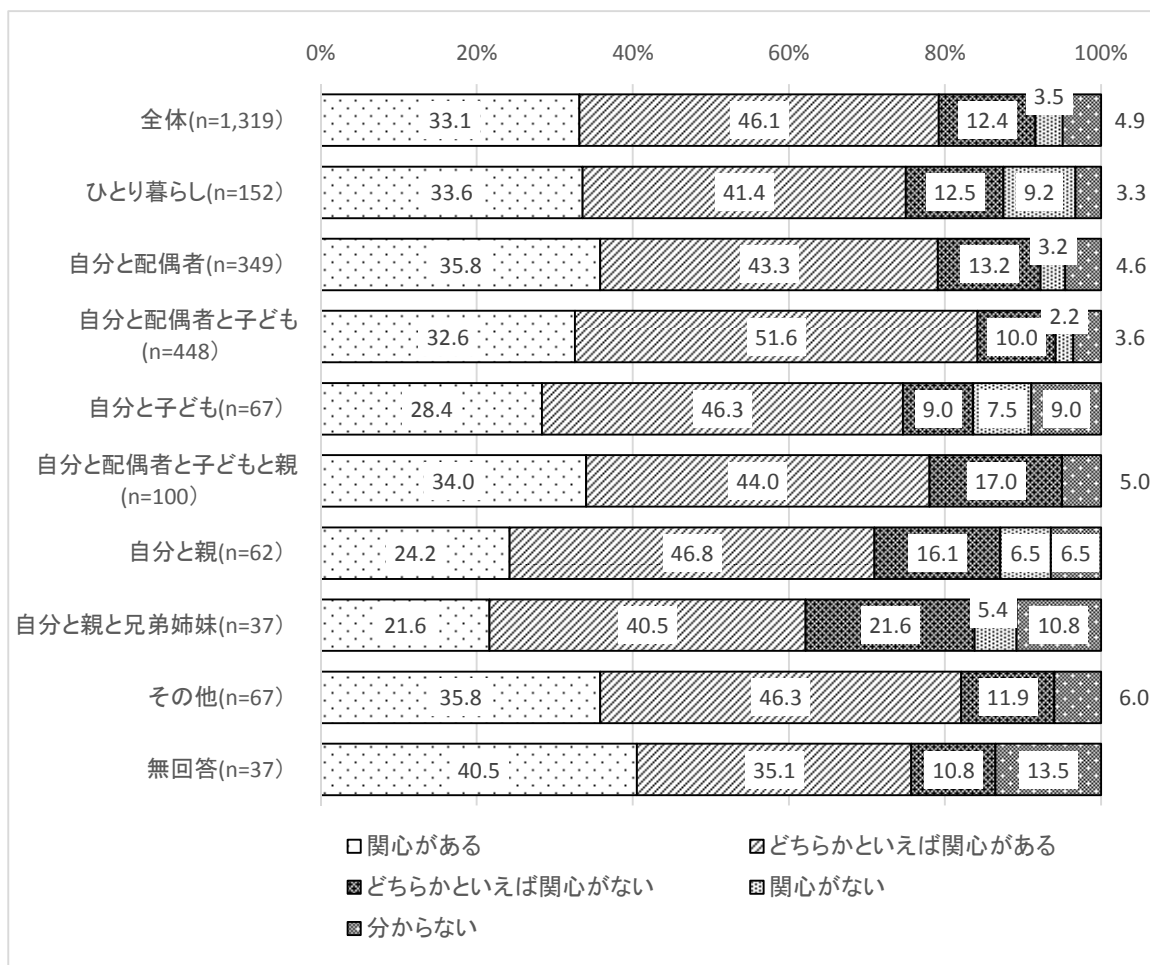


【食育の関心度と家族構成の関連性】

◆「自分と配偶者と子ども」の家族構成が、他の家族構成に比べて関心度が高い傾向

食育の関心度と家族構成の関連性を分析したところ、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は、「自分と配偶者と子ども」（84.2%）、「自分と配偶者」（79.1%）、「自分と配偶者と子どもと親」（78.0%）で、他の家族構成と比較して高い傾向となっている。（図表 I-1-5）

図表 I-1-5

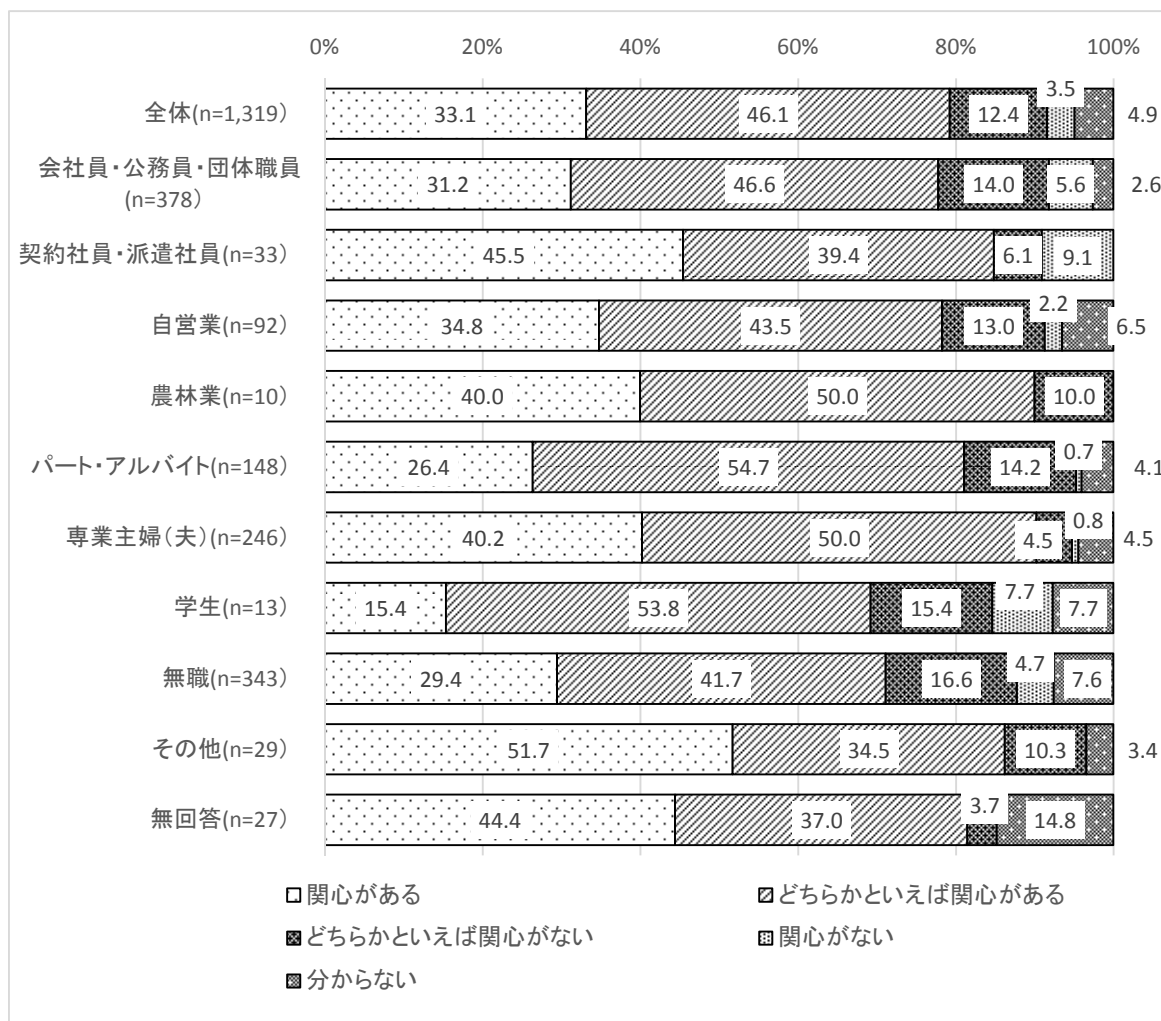


【食育の関心度と職業の関連性】

◆「専業主婦（夫）」は関心度が高く、「学生」「無職」は低い傾向

食育の関心度と職業の関連性を分析したところ、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は、「専業主婦（夫）」では90.2%と、他の職業と比較して、関心度が高い傾向であった。一方、「学生」（69.2%）、「無職」（71.1%）は低い傾向であった。（図表 I - 1 - 6）

図表 I - 1 - 6



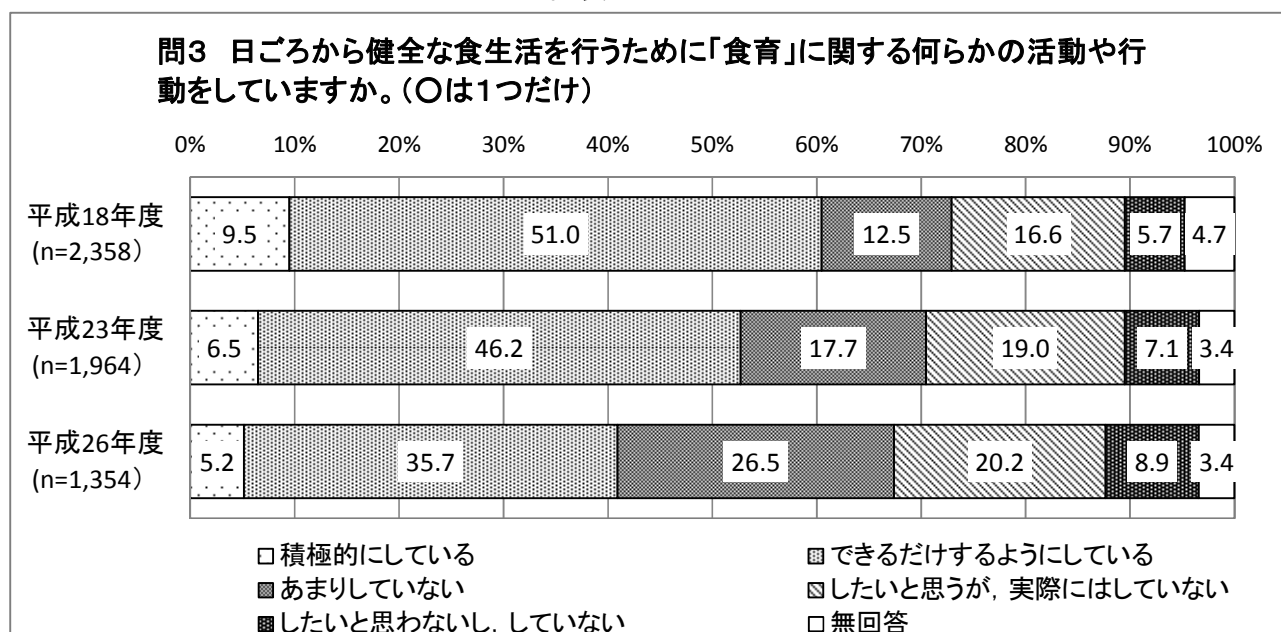
(3) 食育の実践度

3 日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。

◆「できるだけするようにしている」が3割台半ば

「食育」に関する何らかの活動や行動を「している」（「積極的にしている」と「できるだけにするようにしている」の合計）は40.9%と、平成18年度調査（60.5%）、平成23年度調査（52.7%）と比較して減少している。特に「できるだけするようにしている」人が、平成18年度調査では51.0%と半数を超えているのに対し、平成23年度調査では46.2%、本調査では35.7%と減少している。一方、「あまりしていない」人は26.5%と、平成23年度調査（17.7%）、平成18年度調査（12.5%）と比較して増加している。（図表I-1-7）

図表 I - 1 - 7



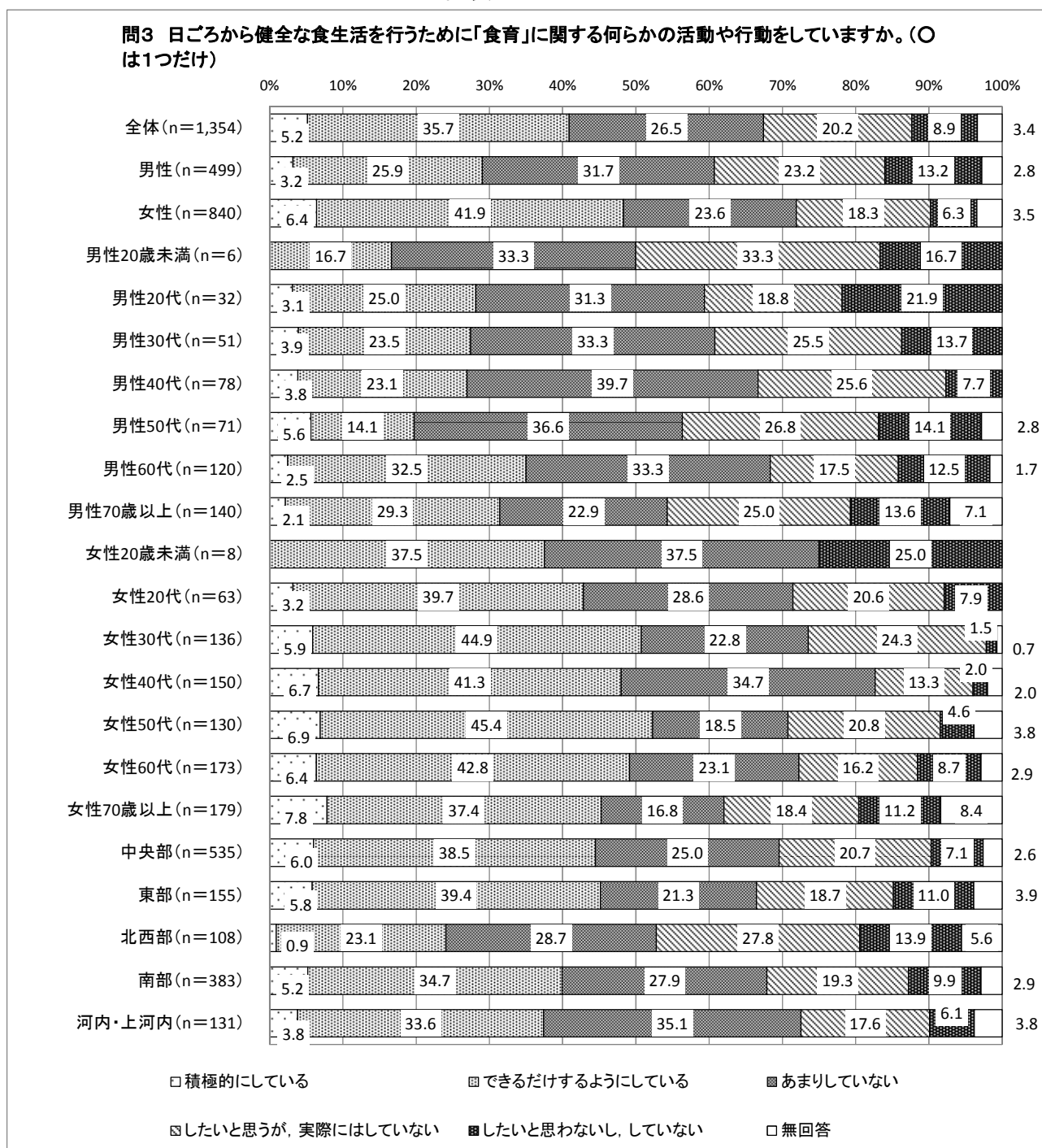
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「できるだけするようにしている」は女性が41.9%と、男性の25.9%より16%高くなっている。また、「したいと思わないし、していない」は男性(13.2%)が、女性(8.9%)より4%低くなっている。

性・年齢別では、「男性50代」、「女性70歳以上」で「積極的にしている」の割合が他の年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、「中央部」で「積極的にしている」(6.0%)の割合が最も高く、一方で「北西部」(0.9%)で最も低くなっている。(図表I-1-8)

図表 I - 1 - 8

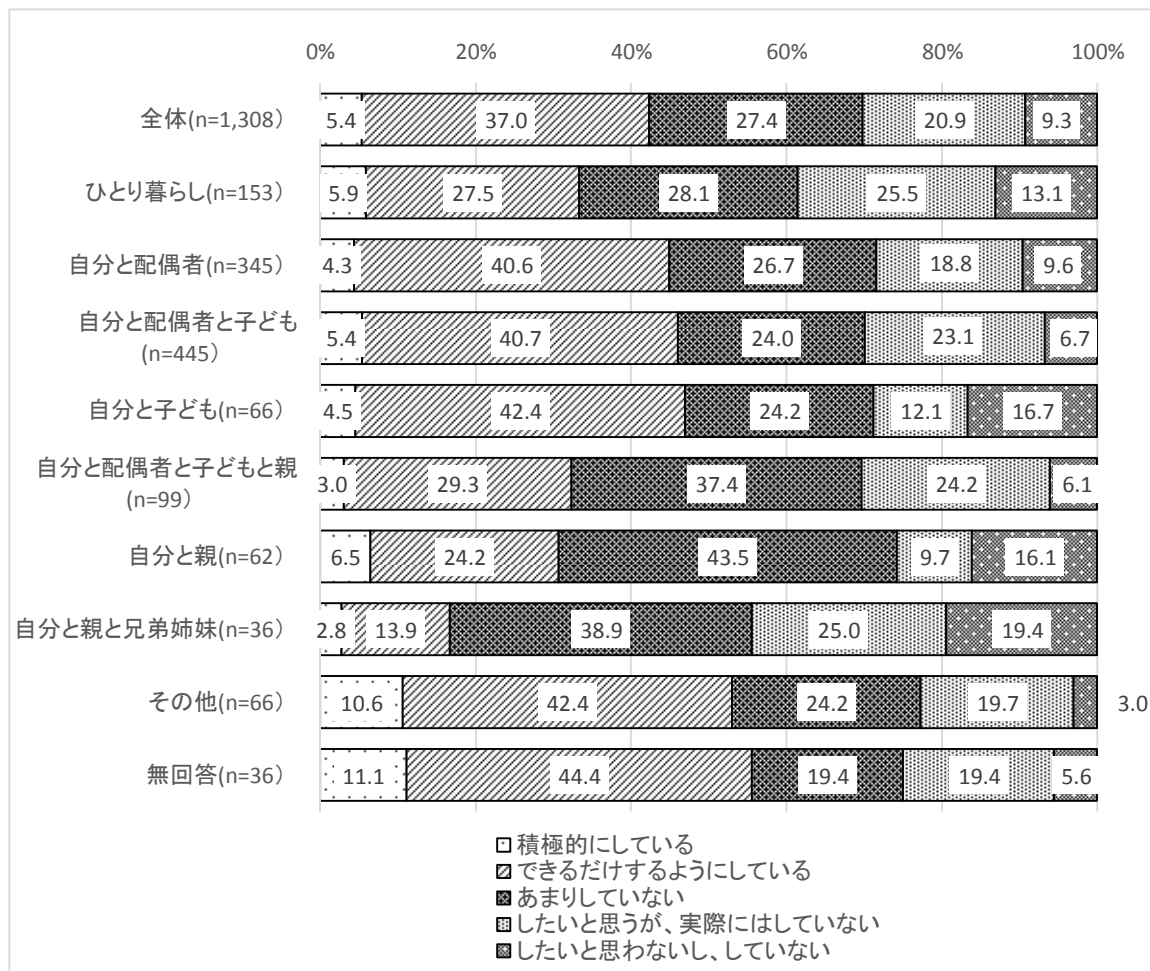


【食育の実践度と家族構成の関連性】

◆「自分と子ども」「自分と配偶者と子ども」の家族構成が他の家族構成に比べて実践度が高い傾向

食育の実践度と家族構成の関連性を分析したところ、「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）は、「自分と子ども」（46.9%）、「自分と配偶者と子ども」（46.1%）、「自分と配偶者」（44.9%）で、高い傾向にある一方で、「自分と親と兄弟姉妹」（16.7%）「自分と親」（30.7%）では低い傾向となっている。（図表 I-1-9）

図表 I-1-9

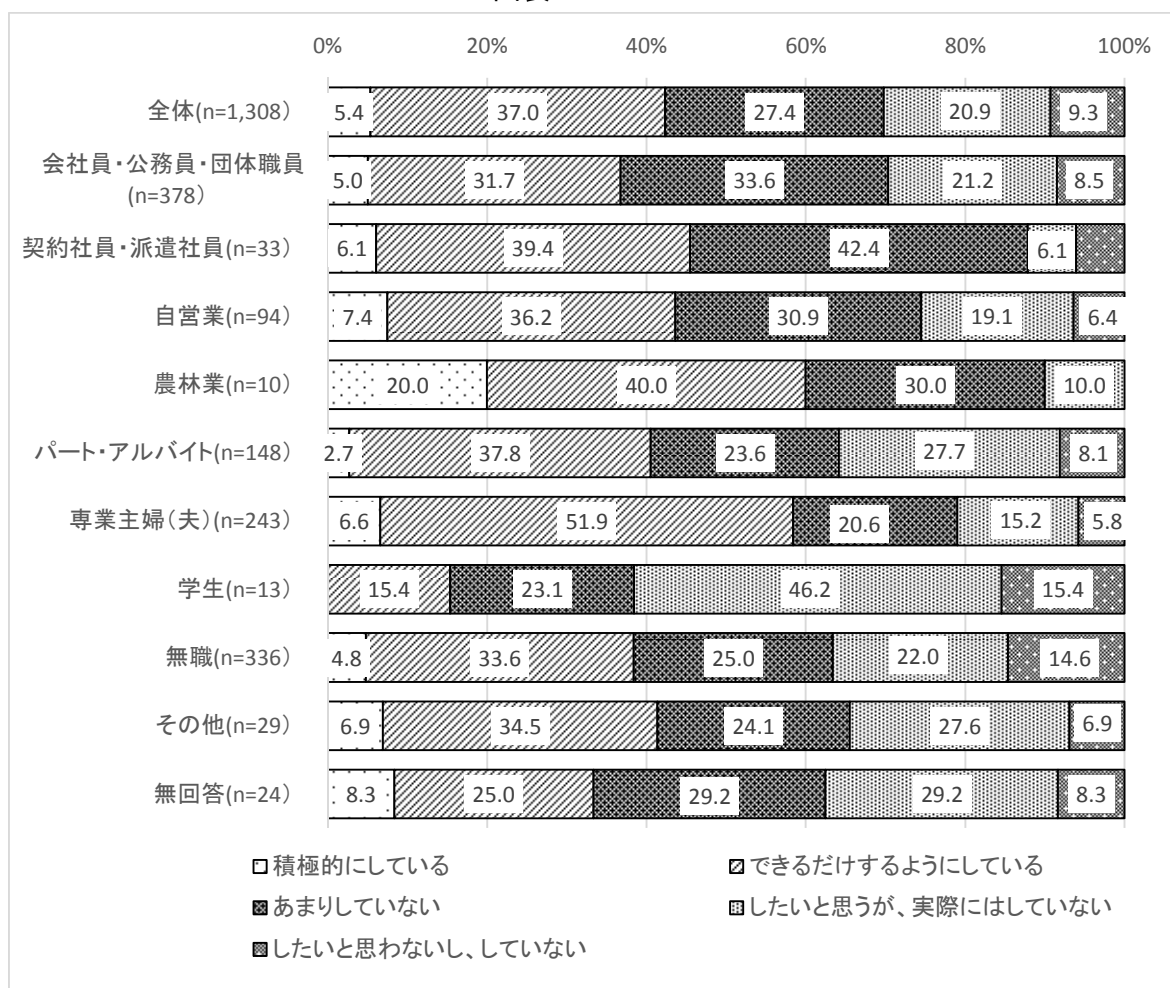


【食育の実践度と職業の関連性】

◆「専業主婦（夫）」で高く、「会社員・公務員・団体職員」「無職」「学生」で低い傾向

食育の実践度と職業の関連性を分析したところ、「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）は、「農林業」（60.0%）、「専業主婦（夫）」（58.5%）で高い傾向にある一方で、「学生」（15.4%）、「会社員・公務員・団体職員」（36.7%）、「無職」（38.4%）では低い傾向となっている。（図表 I-1-10）

図表 I-1-10

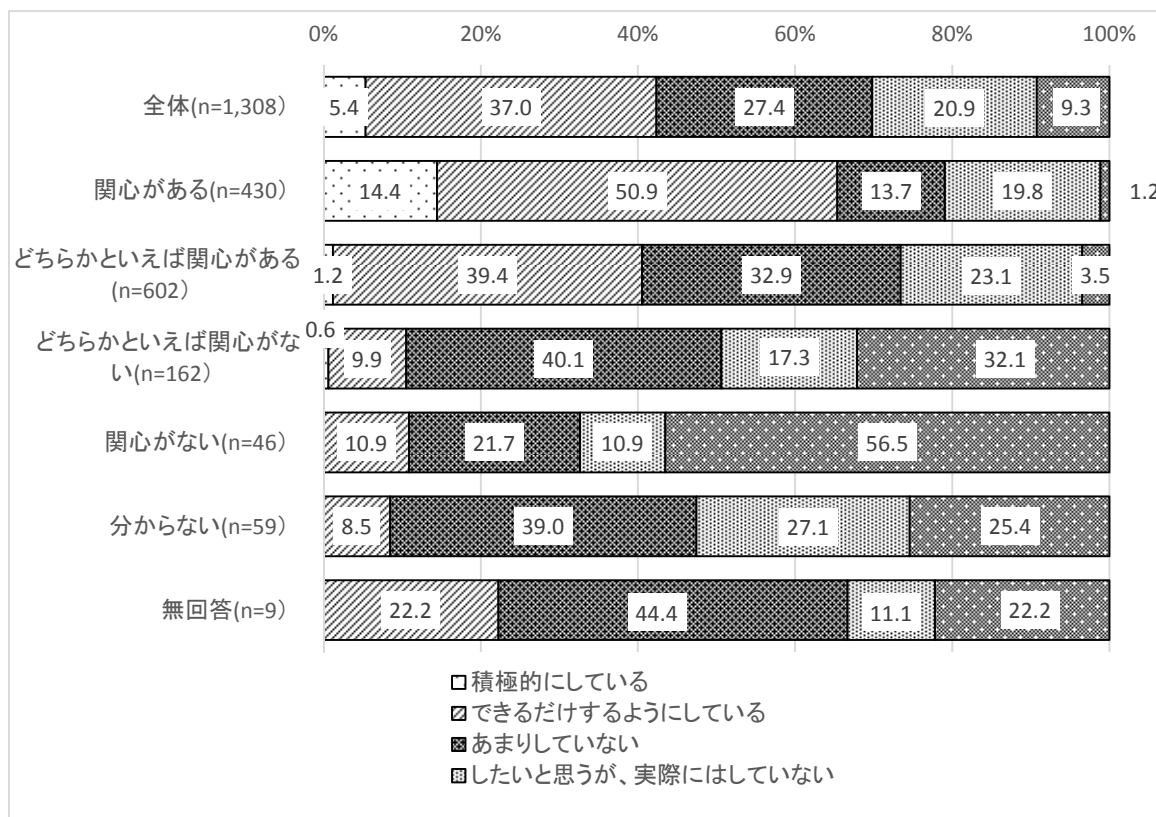


【食育の実践度と関心度の関連性】

◆食育の関心度が高い人ほど、食育の実践度が高い傾向

食育の実践度と関心度の関連性を分析したところ、食育に「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）では、食育の取組を「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）が65.3%と、関心がない人に比べて高い傾向であった。（図表 I - 1 - 11）

図表 I - 1 - 11



(3-1) 実践しない理由

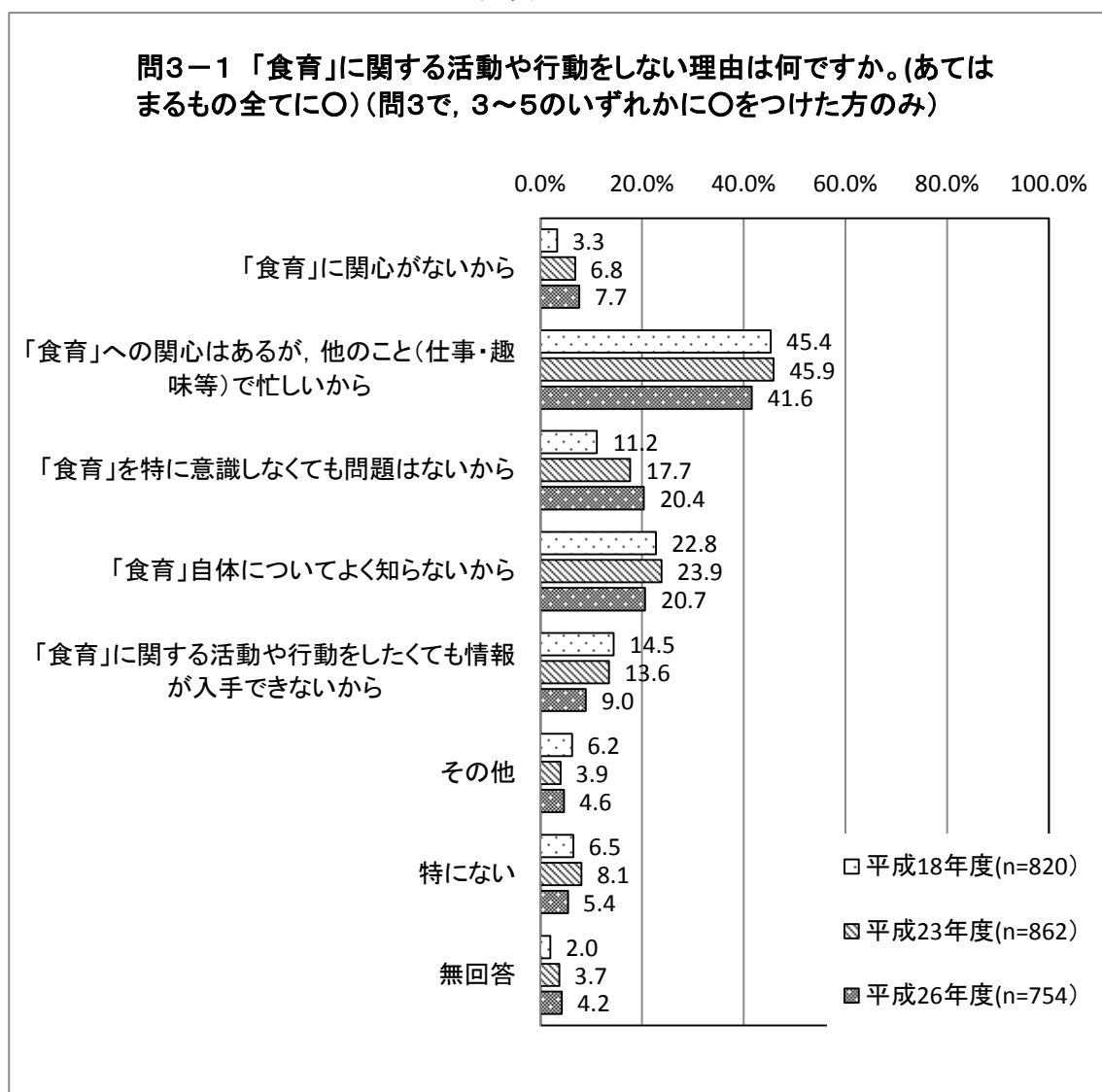
3-1 「食育」に関する活動や行動をしない理由は何ですか。

◆「食育への関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）で忙しいから」が4割

前問で「していない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「食育への関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）で忙しいから」（41.6%）が、4割を超えており、平成18年度調査、平成23年度調査と同様の傾向となっている。以下、「食育自体についてよく知らないから」（20.7%）、「食育を特に意識しなくても問題はないから」（20.4%）となっている。

また、平成18年度調査、平成23年度調査と比較すると、「食育に関する活動や行動をしたくても情報が入手できない」が減少している一方、「食育を特に意識しなくても問題ないから」が増加している。（図表I-1-12）

図表 I - 1 - 12



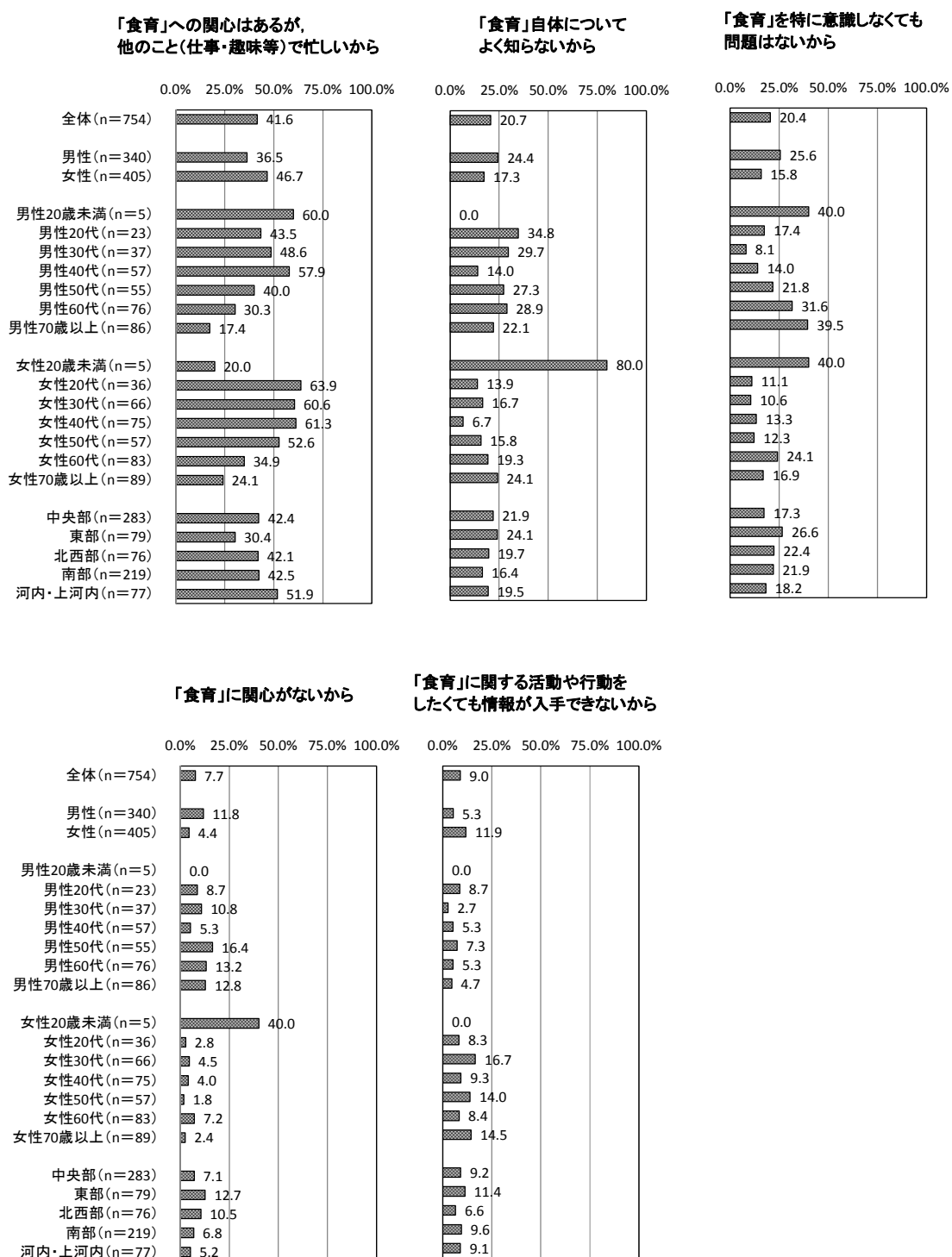
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」が「女性」で46.7%と高くなっており、「男性」（36.5%）と10%程度差がある。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性60代」, 「女性20代」～「女性70歳以上」で「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」が高くなっている。また、年齢が上がるにつれ「食育への関心はあるが他のことで忙しいから」が減少しており、「食育を特に意識しなくても問題ないから」が増加する傾向にある。

居住地区別では、全地区で「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」の割合が高くなっている。（図表I-1-13）

図表 I - 1 - 13



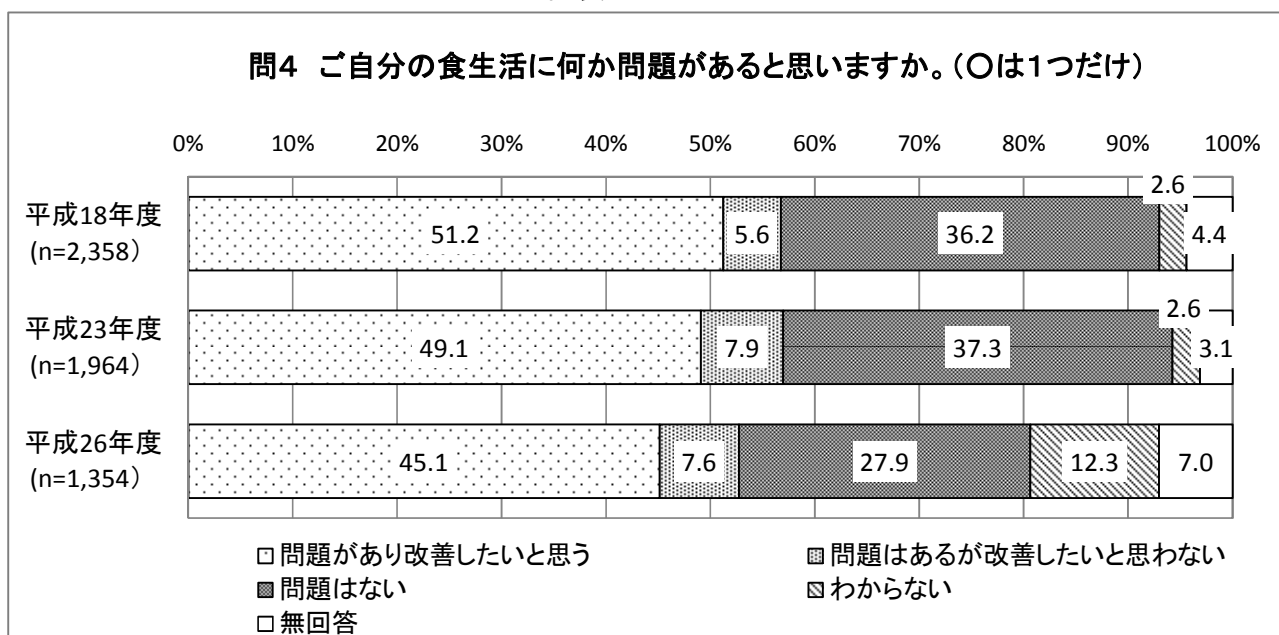
(4) 食生活の問題点の有無

4 ご自分の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題があり改善したいと思う」が微減

自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「問題があり改善したいと思う」(45.1%)が約半数を占めているが、平成18年度調査から約6%、平成23年度調査から4%減少している。また、平成23年度調査から「問題はない」(27.9%)が9.4%減少し、「わからない」(12.3%)が9.2%増加している。(図表I-2-1)

図表 I - 2 - 1



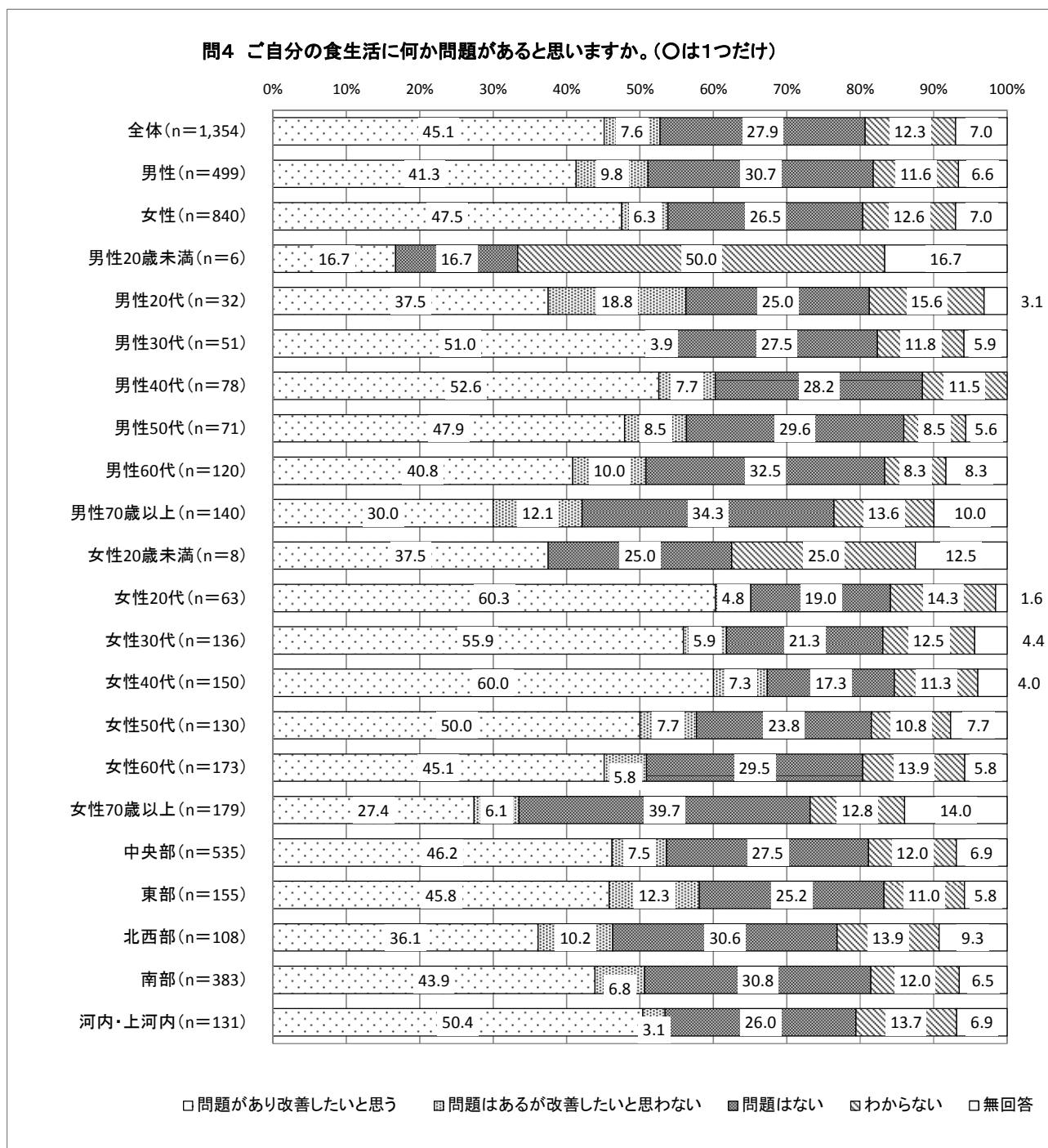
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の方が「問題があり改善したいと思う」の割合が高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「20代」～「60代」までが「問題があり改善したいと思う」の割合が高くなっている。特に、「女性20代」では60.3%と最も高くなっている。

居住地区別では、全地区で「問題があり改善したいと思う」が高くなっており、特に「河内・上河内」では50.4%と最も高くなっている。(図表 I-2-2)

図表 I-2-2



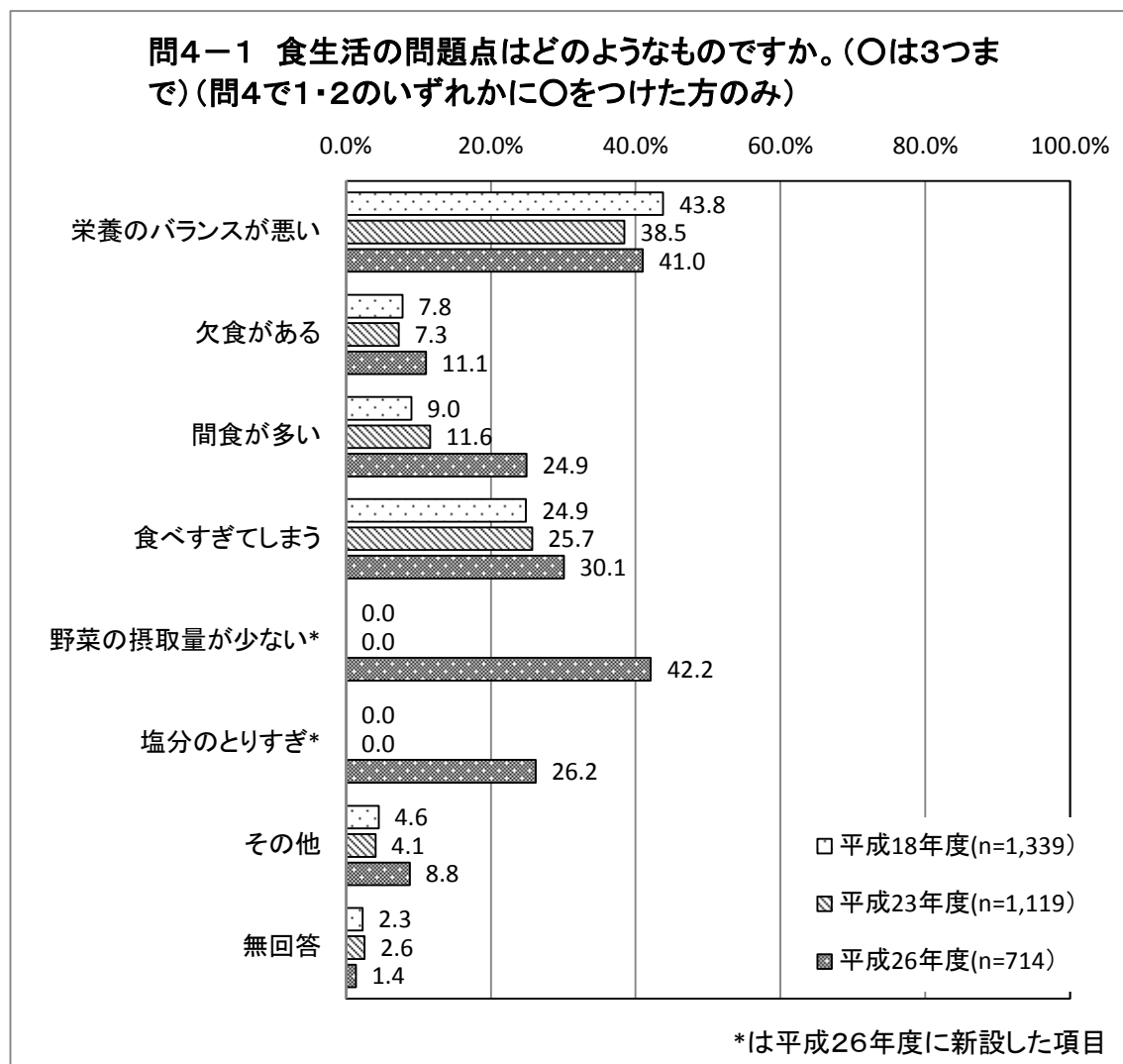
(4-1) 問題点の内容

4-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「野菜の摂取量が少ない」「栄養のバランスが悪い」が約4割

前問で「問題がある」と答えた人に、その問題点を聞いたところ、「野菜の摂取量が少ない」(42.2%)が約4割と最も多く、次いで「栄養のバランスが悪い」(41.0%)となっている。前回調査と比較すると、平成18年度調査で4割を超えていた「栄養のバランスが悪い」が、平成23年度調査で38.5%と約5%減少したものの、本調査では41.0%と約3%の微増となっている。(図表I-2-3)

図表 I-2-3



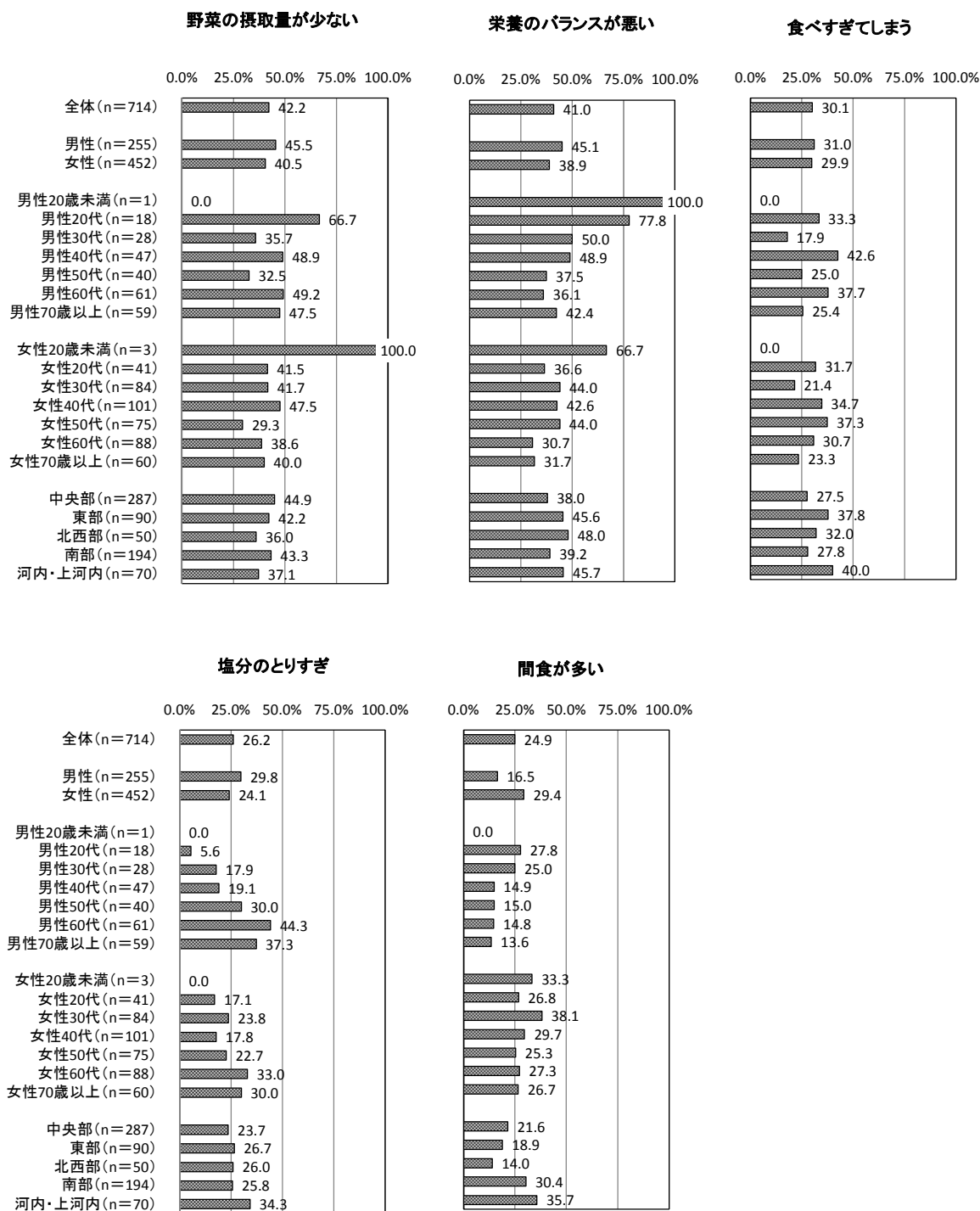
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも「野菜の摂取量が少ない」が最も多くなっている。女性では男性に比べ「間食が多い」が多くなっている。

性・年齢別においても「栄養のバランスが悪い」、「野菜の摂取量が少ない」が多くなっている。また、他の年代に比べ「60代」、「70歳以上」では、「塩分のとりすぎ」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「中央部」、「南部」で「野菜の摂取量が少ない」、「東部」、「北西部」、「河内・上河内」で「栄養のバランスが悪い」の割合が最も高くなっている。(図表 I-2-4)

図表 I-2-4



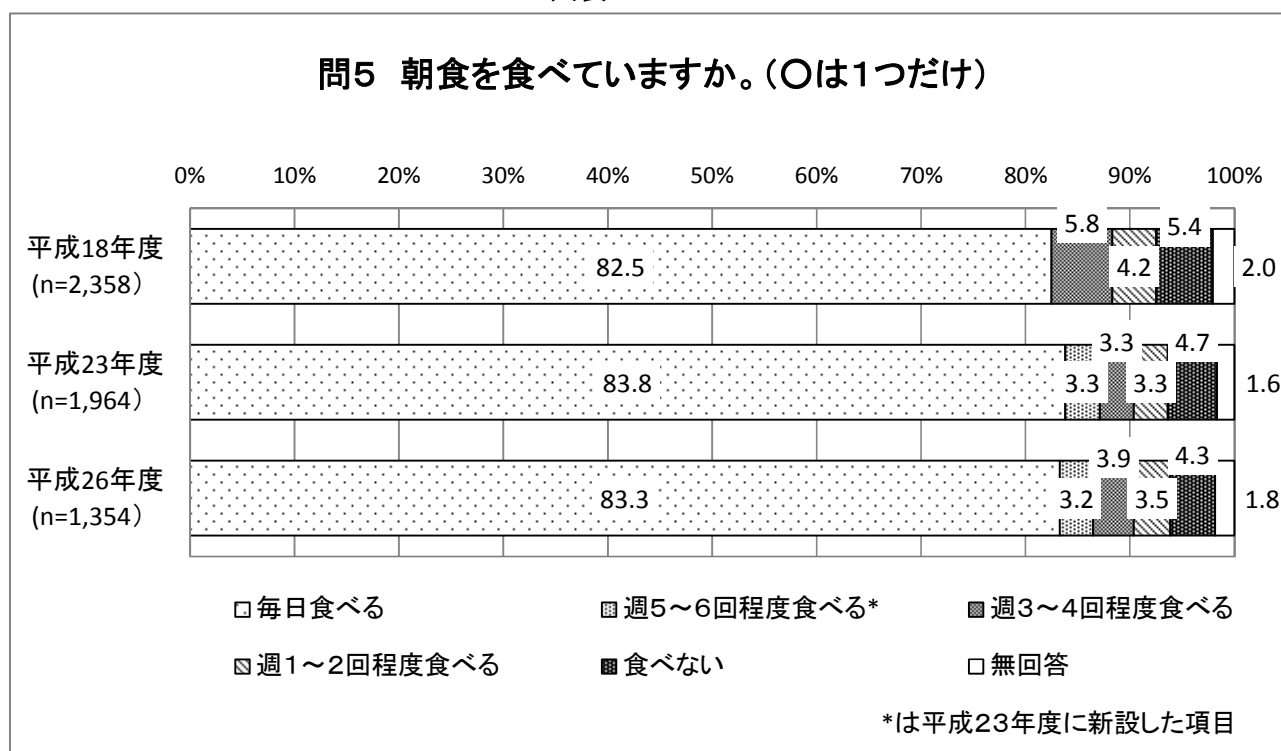
(5) 朝食摂取度

5 朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割強

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」(83.3%)が8割強と高い割合を占めるが、平成18年度調査から経年的に見て、大きな変化はない。(図表I-2-5)

図表 I - 2 - 5



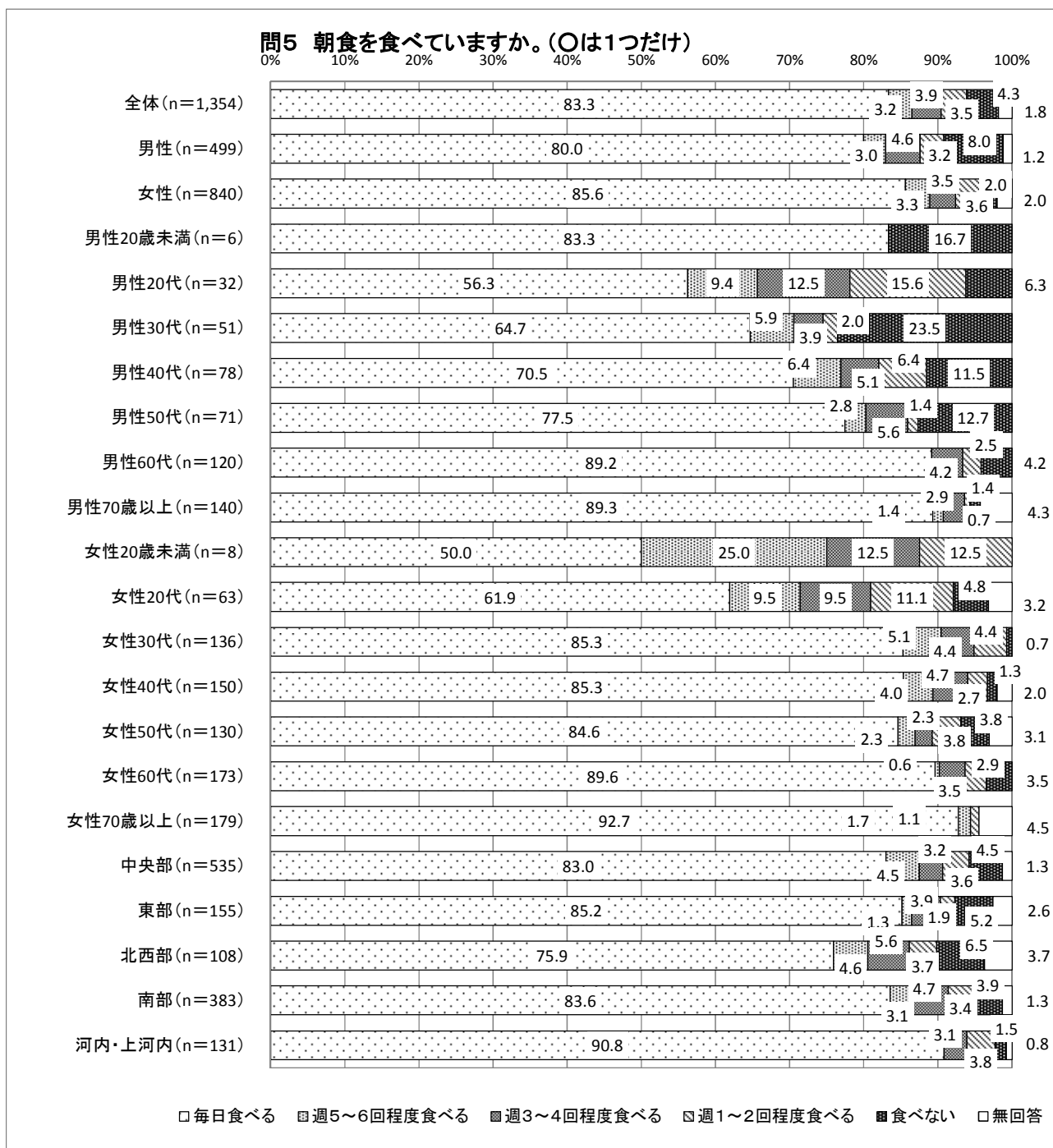
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「毎日食べる」が8割を超えている。

性・年齢別では、男女ともに、「20代」から年齢が上がる毎に「毎日食べる」の割合が高くなる傾向にあるが、「食べない」は、「男性30代」が最も多く23.5%となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「毎日食べる」が90%以上となっている。(図表I-2-6)

図表 I - 2 - 6

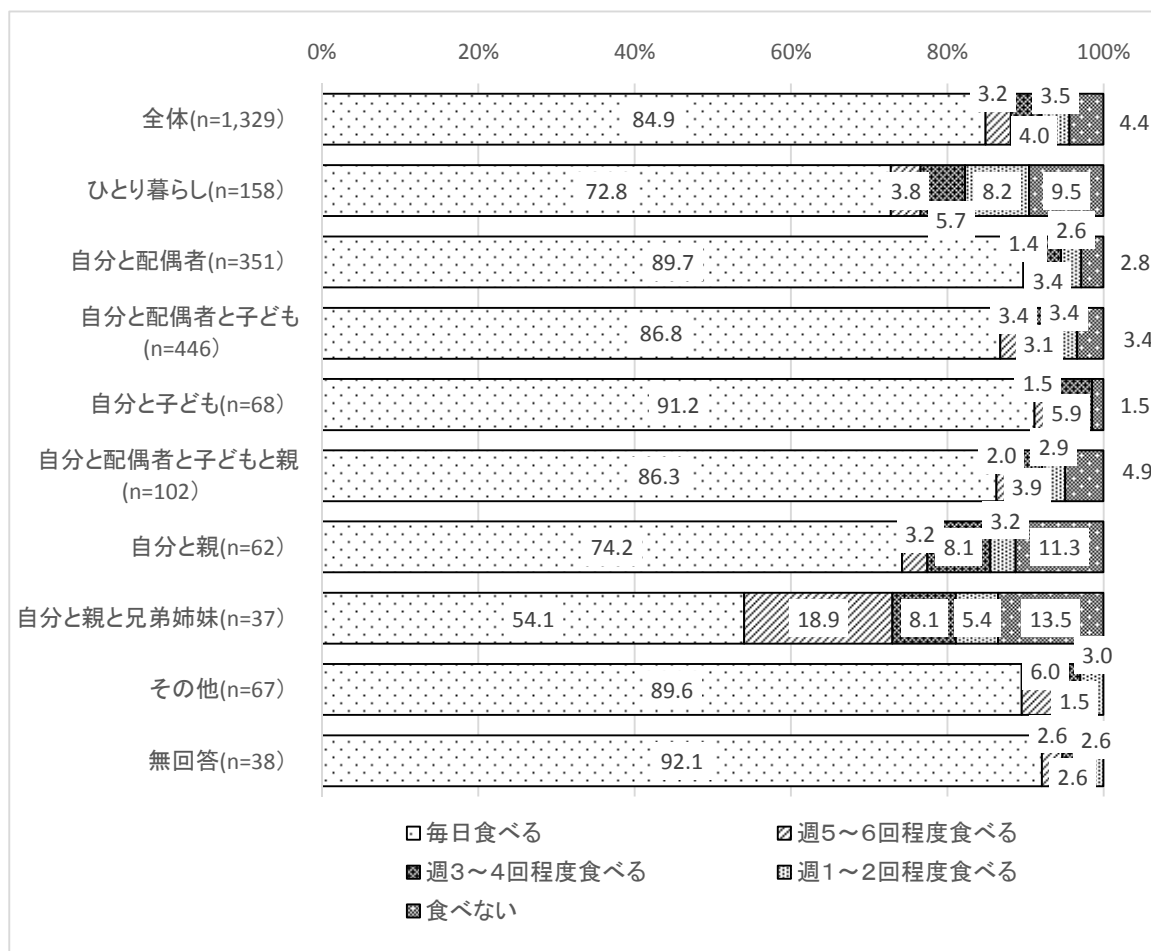


【朝食摂取度と家族構成の関連性】

◆「自分と親と兄弟姉妹」「ひとり暮らし」で、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

朝食摂取度と家族構成の関連性を分析したところ、「毎日食べる」の割合が、「自分と親と兄弟姉妹」(54.1%)、「ひとり暮らし」(72.8%)、「自分と親」(74.2%)で、他の家族構成と比較して低い傾向であった。(図表 I-2-7)

図表 I-2-7

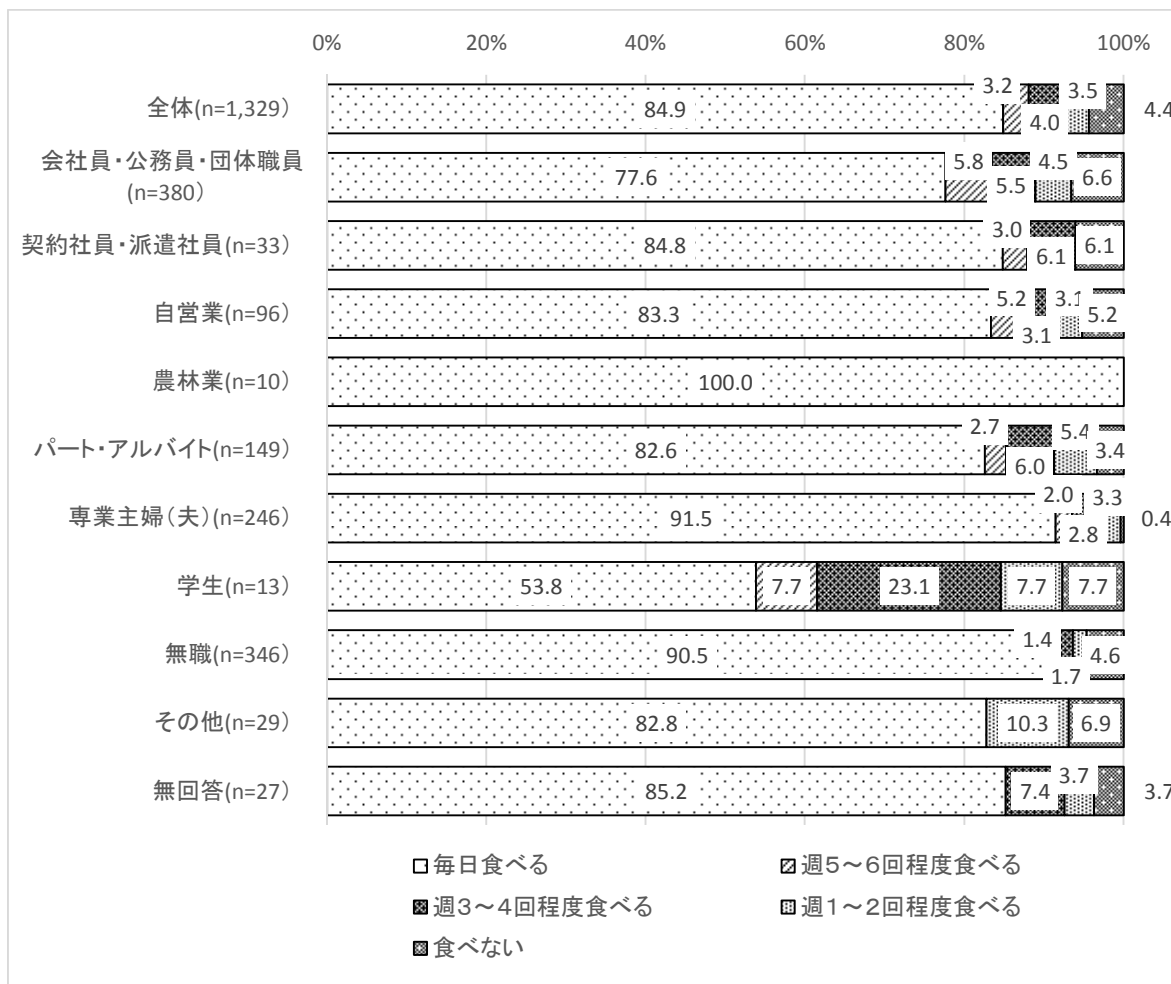


【朝食摂取度と職業の関連性】

◆「学生」や「会社員・公務員・団体職員」で、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

朝食摂取度と職業の関連性を分析したところ、「毎日食べる」の割合が、「学生」(53.8%)、「会社員・公務員・団体職員」(77.6%)で他の職業と比較して低い傾向であった。(図表 I-2-8)

図表 I-2-8



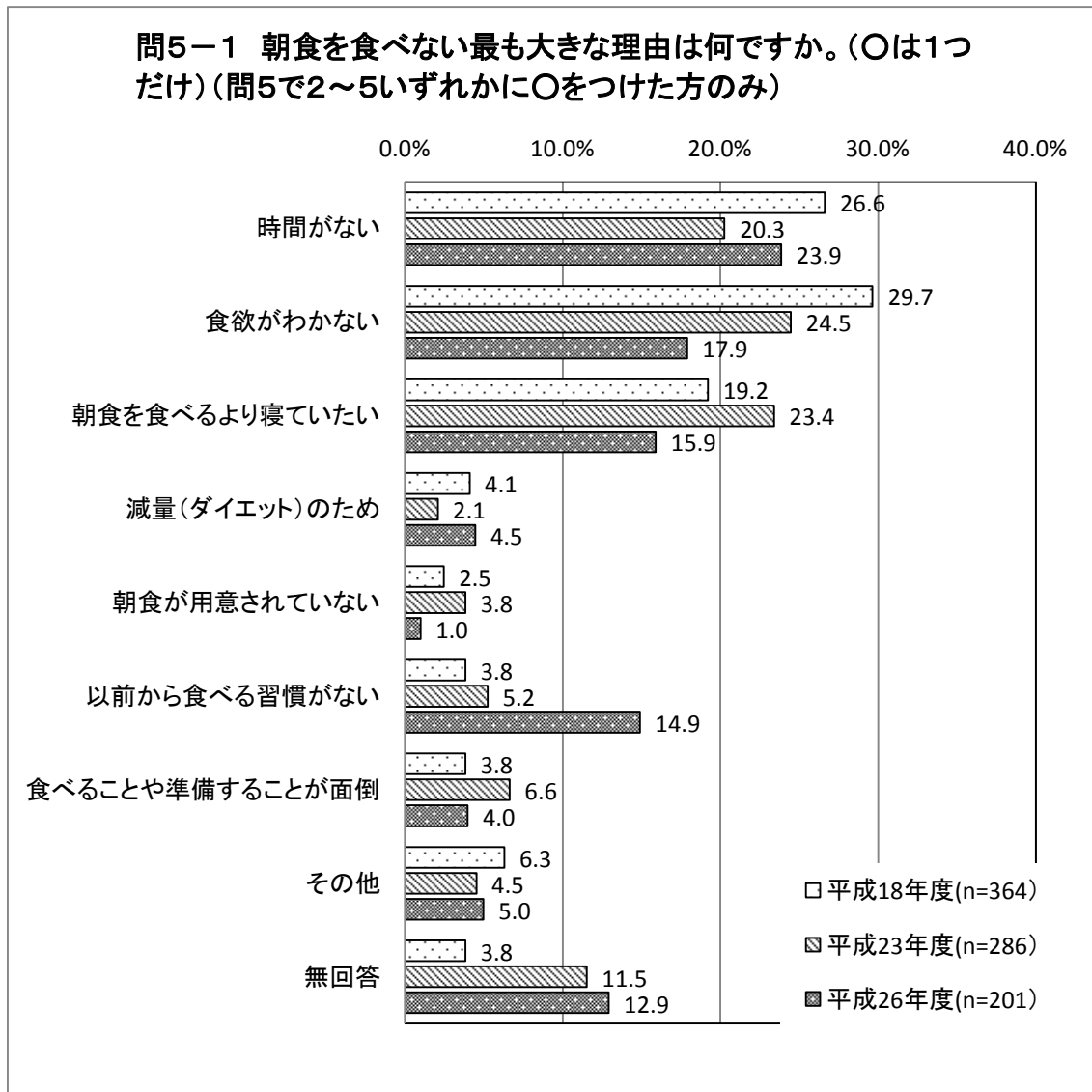
(5-1) 食べない理由

5-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「時間がない」が2割強で増加

前問で「毎日食べる」以外と答えた人に、朝食を食べない最も大きな理由を聞いたところ、「時間がない」(23.9%)が最も多くなっている。平成18年度調査からは減少傾向にあり、平成23年度調査では20.3%と6.3%減少していたが本調査では23.9%と微増した。また「以前から食べる習慣がない」は、平成23年度調査(5.2%)から本調査では14.9%と急増している。(図表I-2-9)

図表 I - 2 - 9



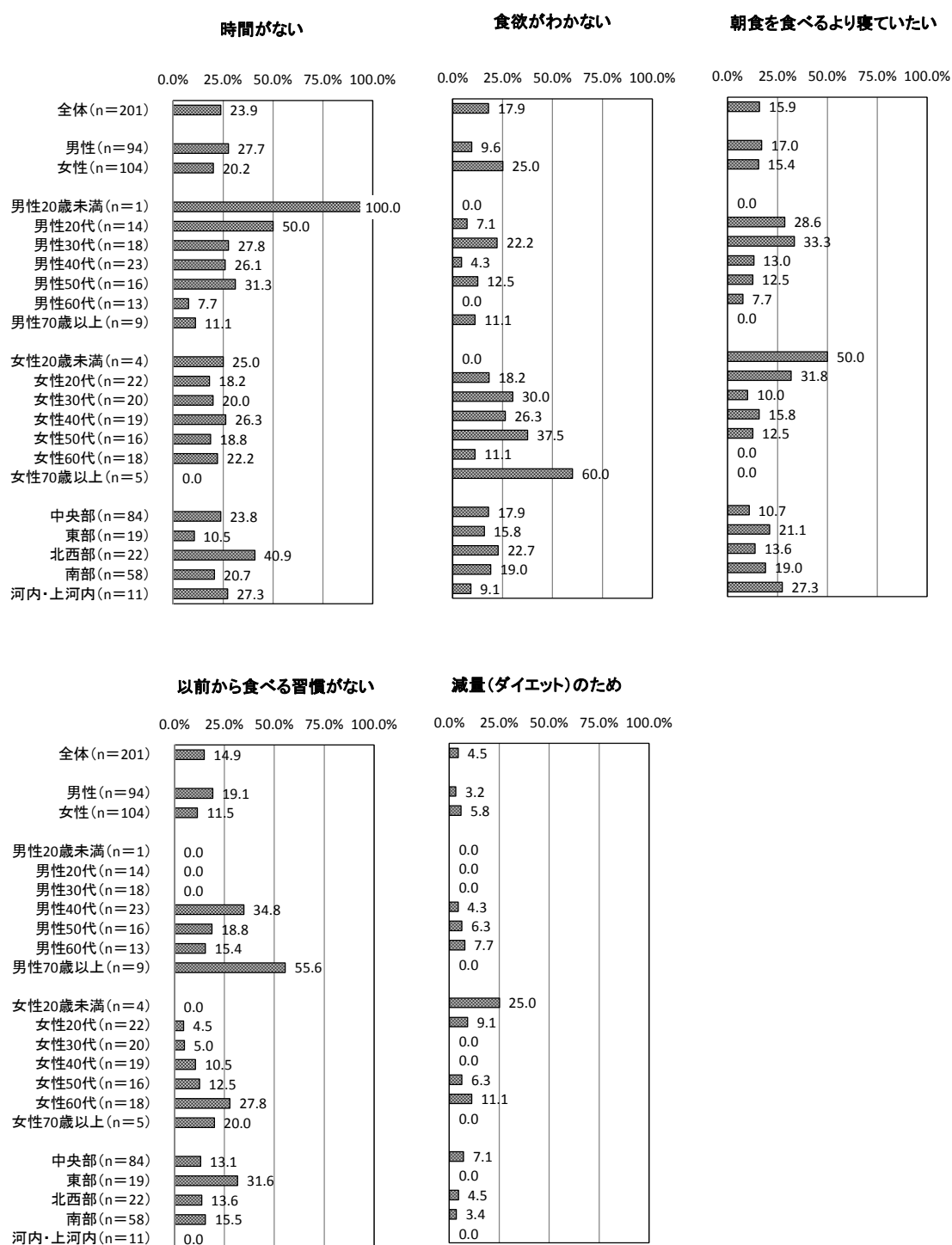
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性で「時間がない」(27.7%)、女性で「食欲がわからない」(25.0%) が最も多くなっている。

性・年齢別では、男性では「40代」「70歳以上」、女性では「60代」で「以前から食べる習慣がない」の割合も多くなっている。

居住地区別では、「北西部」の「時間がない」(40.9%)、「東部」の「以前から食べる習慣がない」(31.6%) が他地区に比べ高くなっている。(図表 I - 2 - 10)

図表 I - 2 - 10



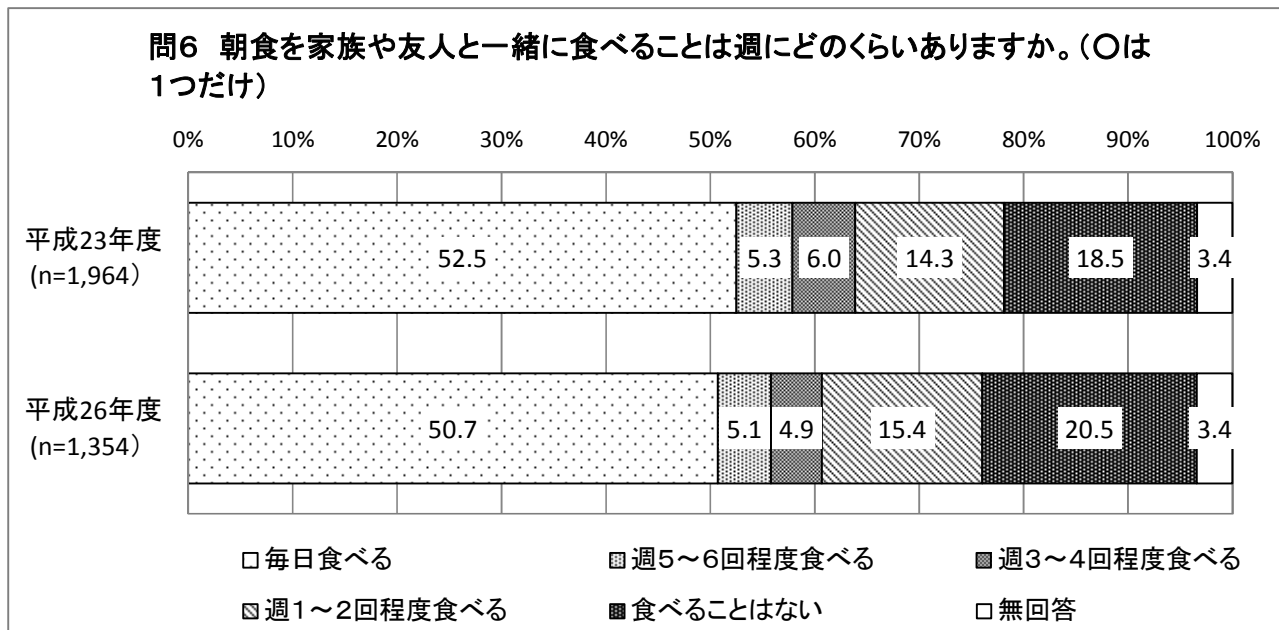
(6) 家族や友人との朝食（共食）

6 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約5割

家族と一緒に朝食を食べる機会は、「毎日食べる」(50.7%)と最も多く、次いで「食べることはない」(20.5%)、「週に1～2回程度食べる」(15.4%)の順となっている。「毎日食べる」の割合が半数を超えており、平成23年度の水準を維持している。(図表I-2-11)

図表 I - 2 - 11



【性別／性・年齢別／地区別】

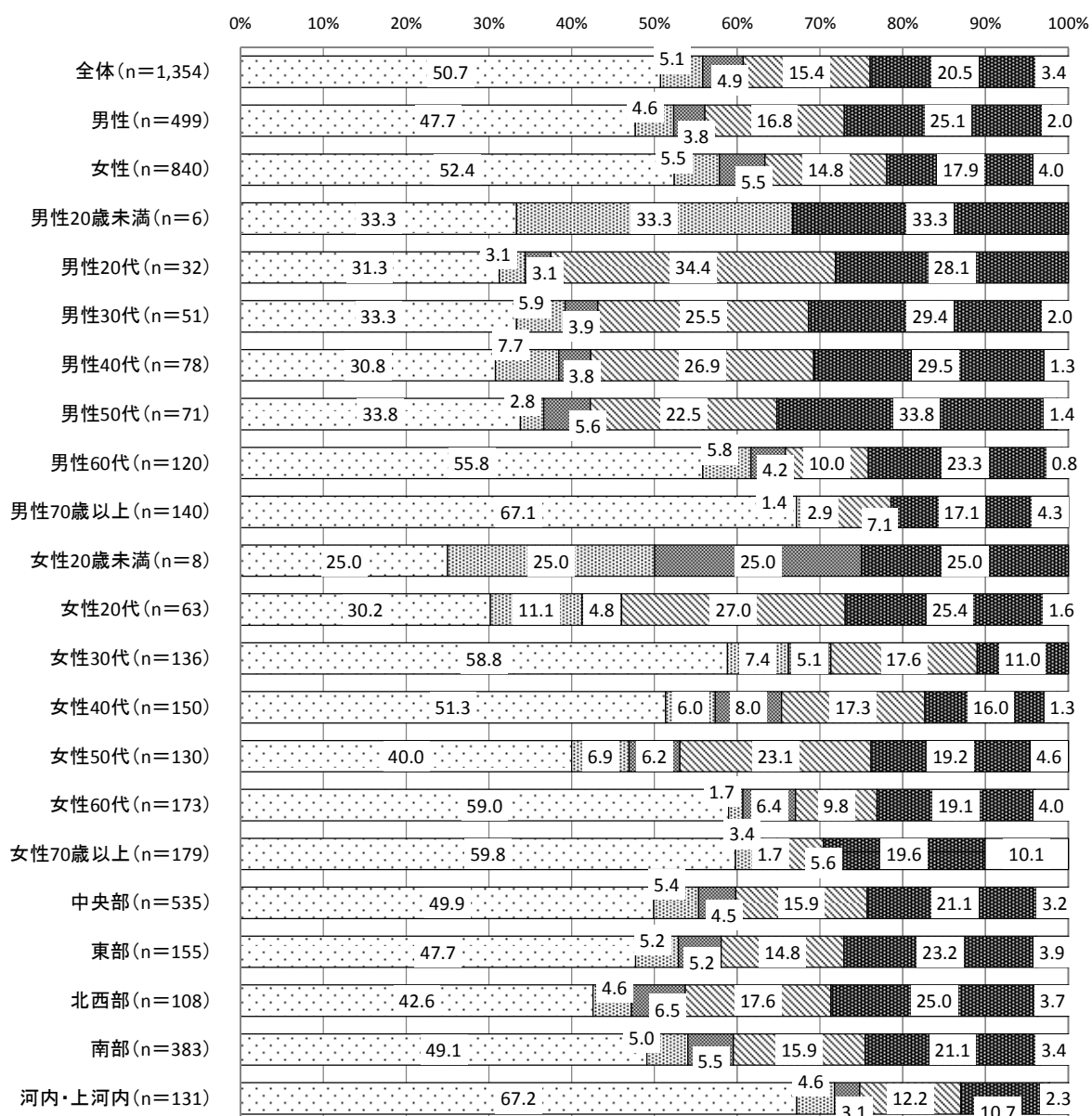
性別では、「毎日食べる」が女性 52.4%，男性 47.7%と、女性が約 5%高くなっている。

性・年齢別では、20代から60代において、「食べることはない」の割合が女性に比べ、男性の方が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「毎日食べる」(67.2%)の割合が、他地区に比べ高くなっている。(図表 I-2-12)

図表 I-2-12

問6 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(〇は1つだけ)



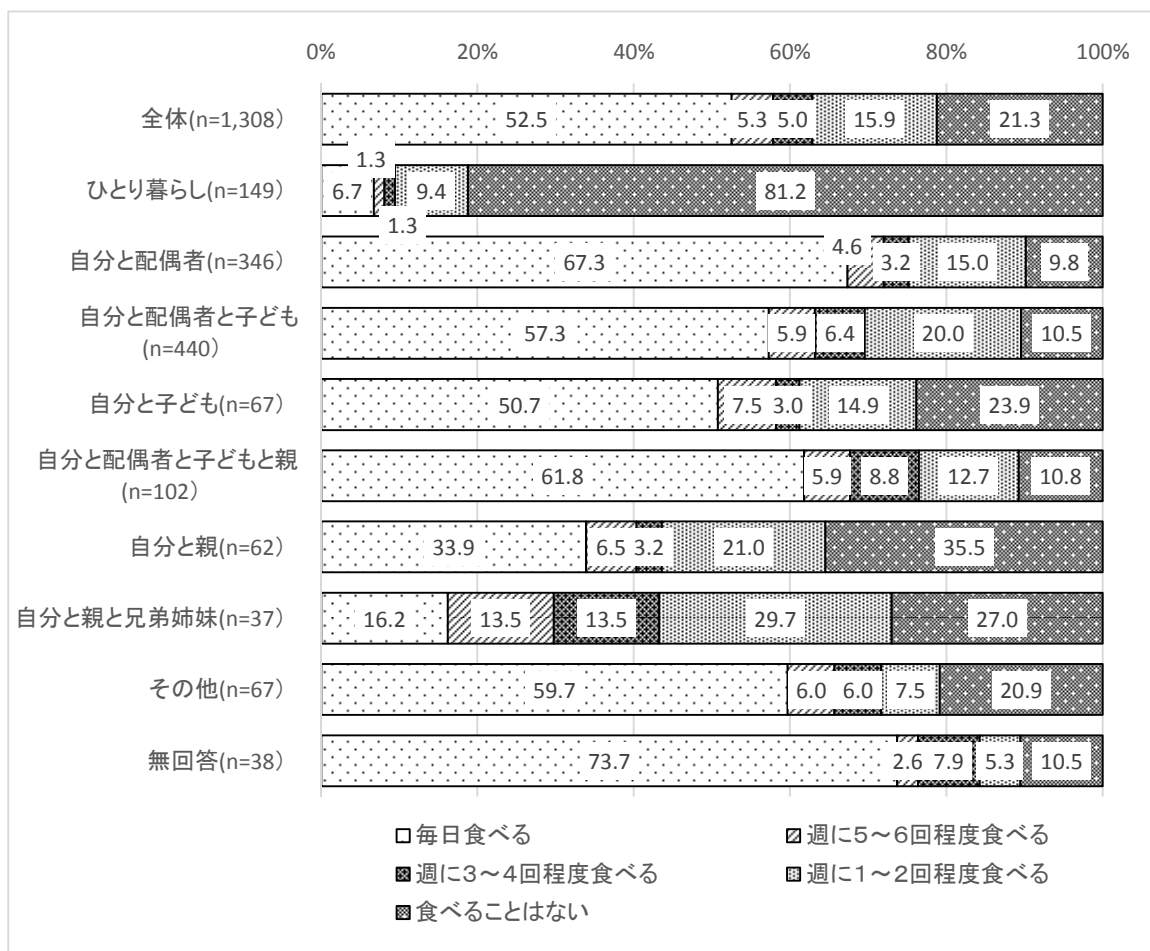
□毎日食べる □週5~6回程度食べる □週3~4回程度食べる □週1~2回程度食べる □食べることはない □無回答

【朝食の共食と家族構成の関連性】

◆「ひとり暮らし」のほか、「自分と親」「自分と親と兄弟姉妹」で未実施の割合が高い傾向

朝食の共食実施と家族構成の関連性を分析したところ、「食べることはない」の割合が、「ひとり暮らし」で81.2%と突出しているほか、「自分と親」(35.2%)、「自分と親と兄弟姉妹」(27.0%)でも、他の家族構成より高い傾向であった。(図表 I - 2 - 13)

図表 I - 2 - 13



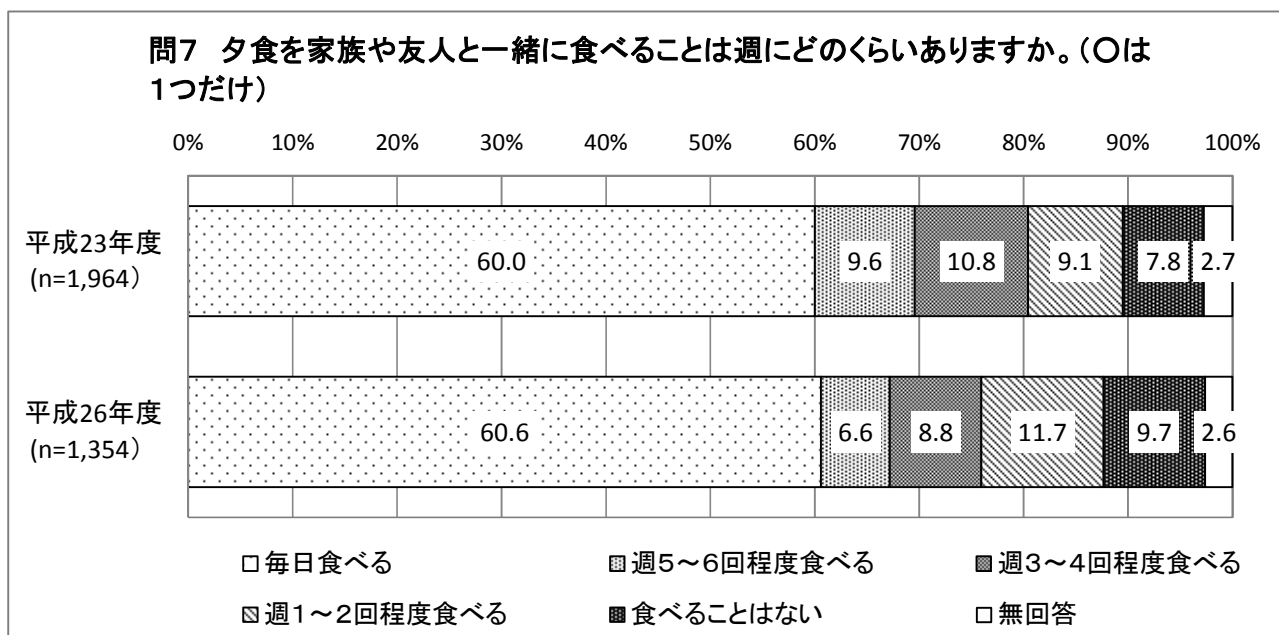
(7) 家族や友人との夕食（共食）

7 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

家族と一緒に夕食を食べる機会は、「毎日食べる」（60.6%）が約6割を占め、平成23年度の水準を維持している。（図表I-2-14）

図表 I - 2 - 14



【性別／性・年齢別／地区別】

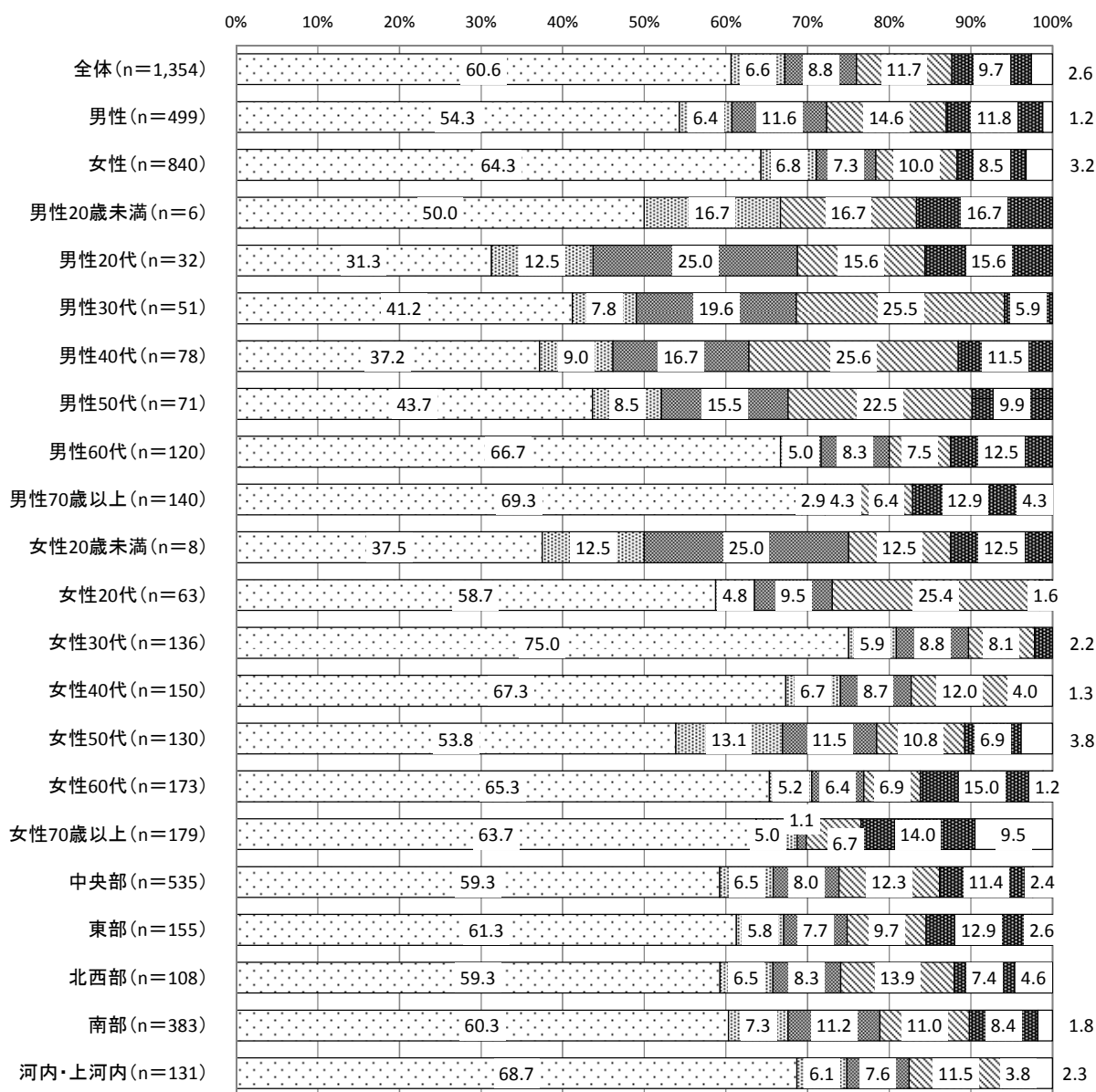
性別では、女性は「毎日食べる」(64.3%)が男性より約10%多くなっているが、男性も54.3%と、5割を超えている。

性・年齢別では、「毎日食べる」の割合が「女性30代」で75.0%と最も多くなっている。女性は「毎日食べる」の割合が高くなっている一方で、男性の20代から50代では、「毎日食べる」の割合が、他の年代に比べて低くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られないが、「河内・上河内」で「毎日食べる」(68.7%)の割合が、他地区に比べ高くなっている。(図表I-2-15)

図表 I - 2 - 15

問7 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(〇は1つだけ)



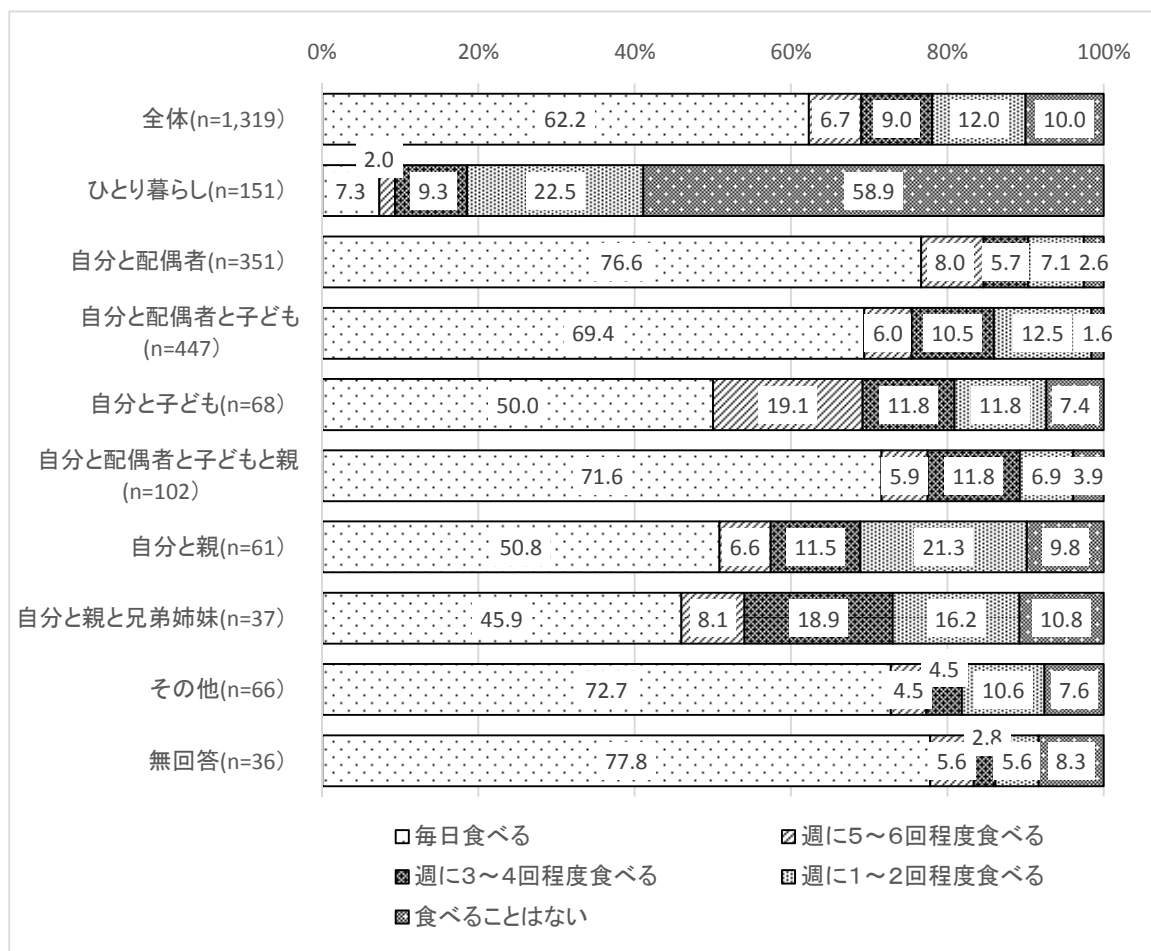
□毎日食べる □週5~6回程度食べる ■週3~4回程度食べる ▨週1~2回程度食べる ■食べることはない □無回答

【夕食の共食と家族構成の関連性】

◆「ひとり暮らし」のほか、「自分と親」「自分と親と兄弟姉妹」で未実施の割合が高い傾向

夕食の共食実施と家族構成の関連性を分析したところ、朝食と同様に「食べることはない」の割合が、「ひとり暮らし」で58.9%と突出しているほか、「自分と親と兄弟姉妹」（10.8%）「自分と親」（9.8%）で、他の家族構成より高い傾向であった。（図表 I - 2 - 16）

図表 I - 2 - 16



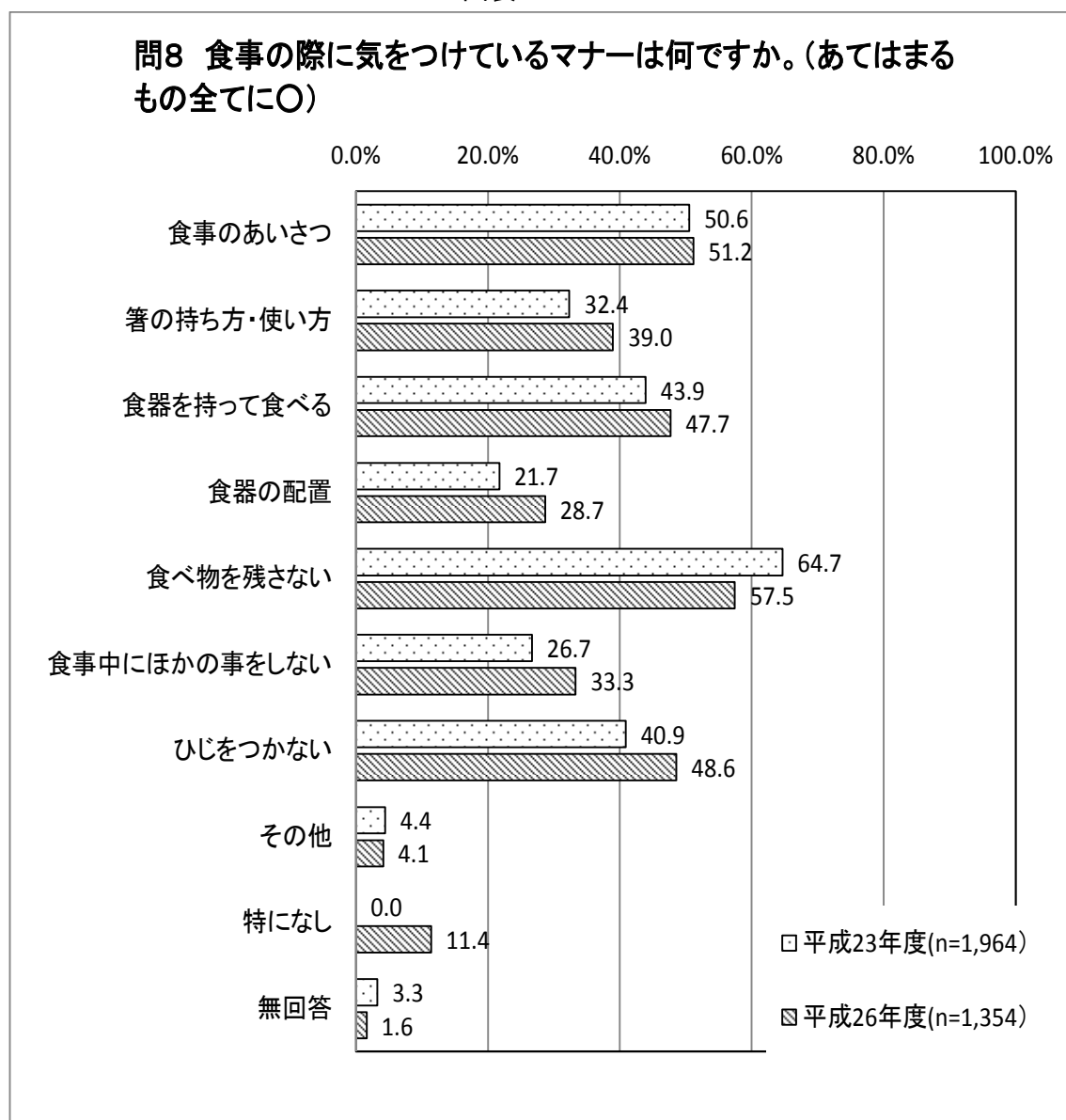
(8) 食事の際のマナー

8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食べ物を残さない」が約6割

食事の際に気をつけているマナーは、「食べ物を残さない」(57.5%)が約6割を占め、「食事のあいさつ」(51.2%)が5割を超えている。以下、「ひじをつかない」(48.6%),「食器を持って食べる」(47.7%)の順となっている。(図表I-2-17)

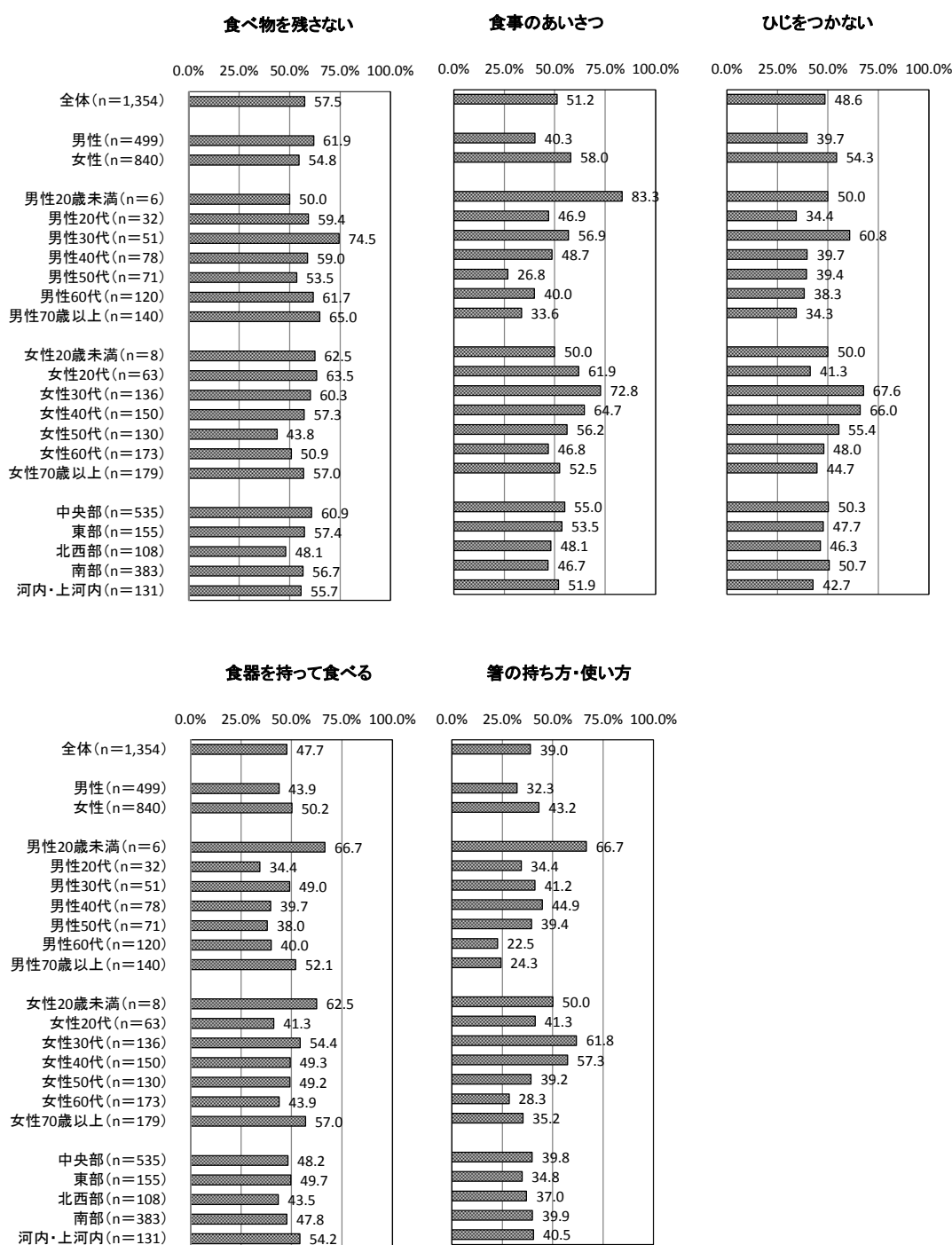
図表 I - 2 - 17



【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「食べ物を残さない」(61.9%)は男性の方が多く、「食事のあいさつ」(58.0%),「食器を持って食べる」(50.2%),「ひじをつかない」(54.3%)等は,女性の方が多くなっている。性・年齢別では,「食べ物を残さない」は,男性では「30代」(74.5%),女性では「20代」(63.5%)が最も高くなっている。また「女性30代」は,「食事のあいさつ」(72.8%),「ひじをつかない」(67.6%),「箸の持ち方・使い方」(61.8%)が最も高くなっている。居住地区別では,大きな差は見られない。(図表I-2-18)

図表 I - 2 - 18



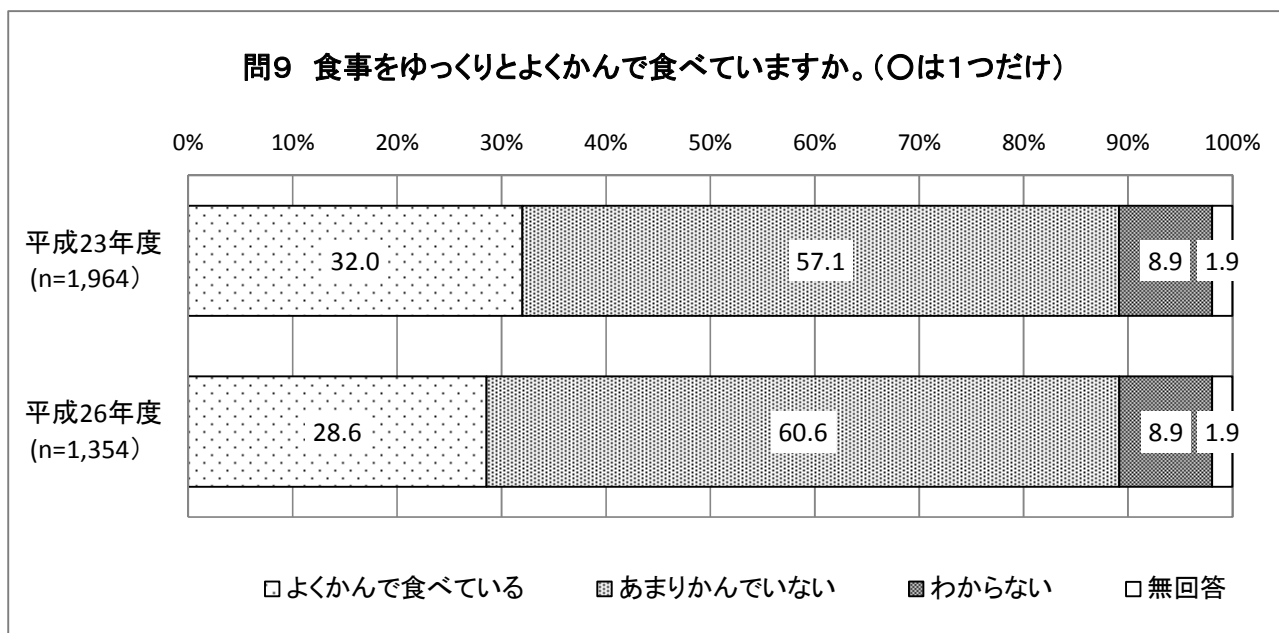
(9) 咀嚼

9 食事をゆっくりとよくかんで食べていますか。

◆「あまりかんでいない」が6割超

食事をゆっくりとよくかんで食べているか聞いたところ、「あまりかんでいない」(60.6%)が6割を超えている。平成23年度調査に比べると「よくかんで食べている」が減少している。(図表I-2-19)

図表 I - 2 - 19



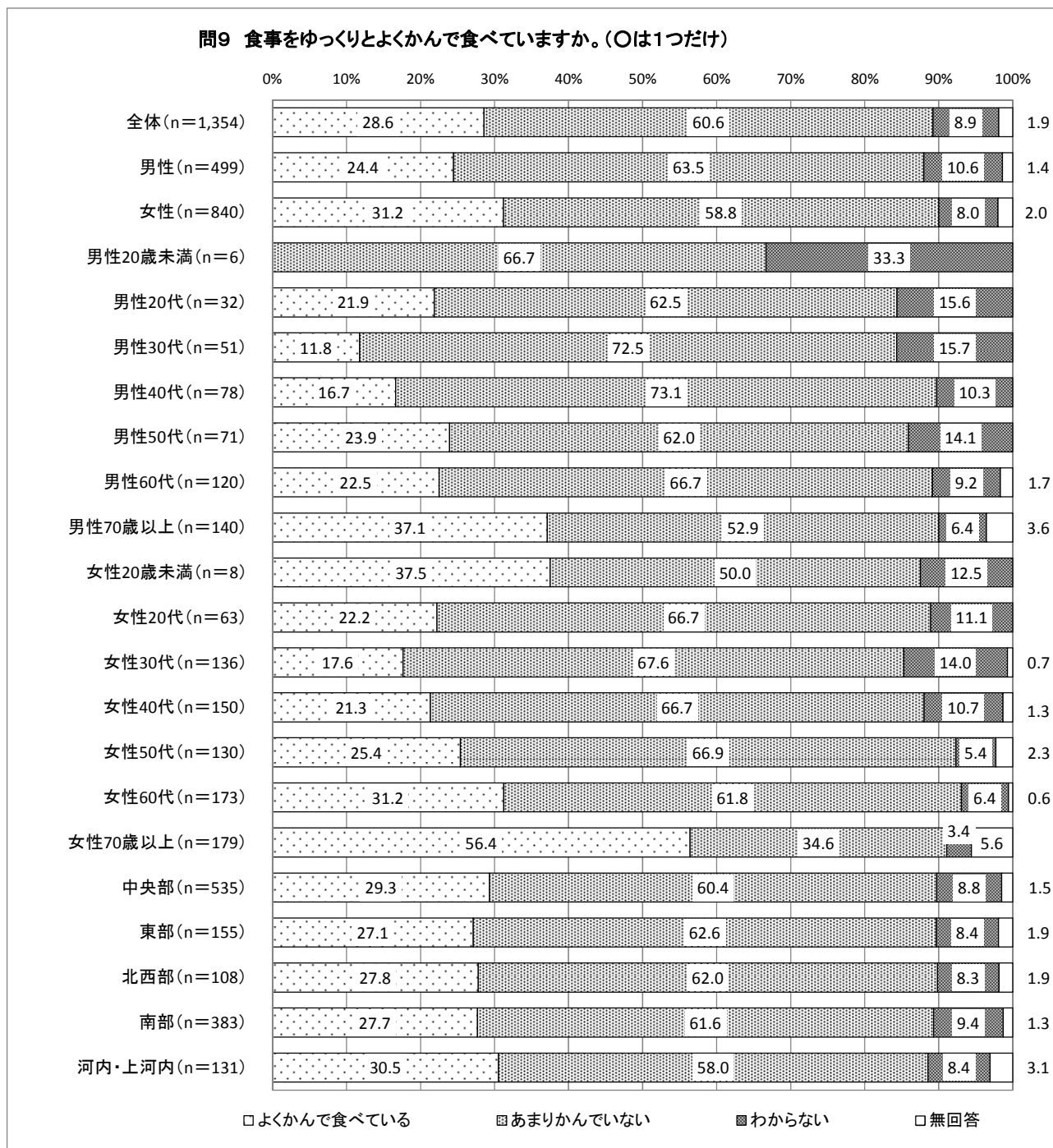
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「よくかんで食べている」で男性より女性の割合が多くなっている。

性・年齢別では、男女とも年齢が高くなる程、「よくかんで食べている」の割合が多くなっており、「女性70歳以上」が56.4%と最も高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 20)

図表 I - 2 - 20

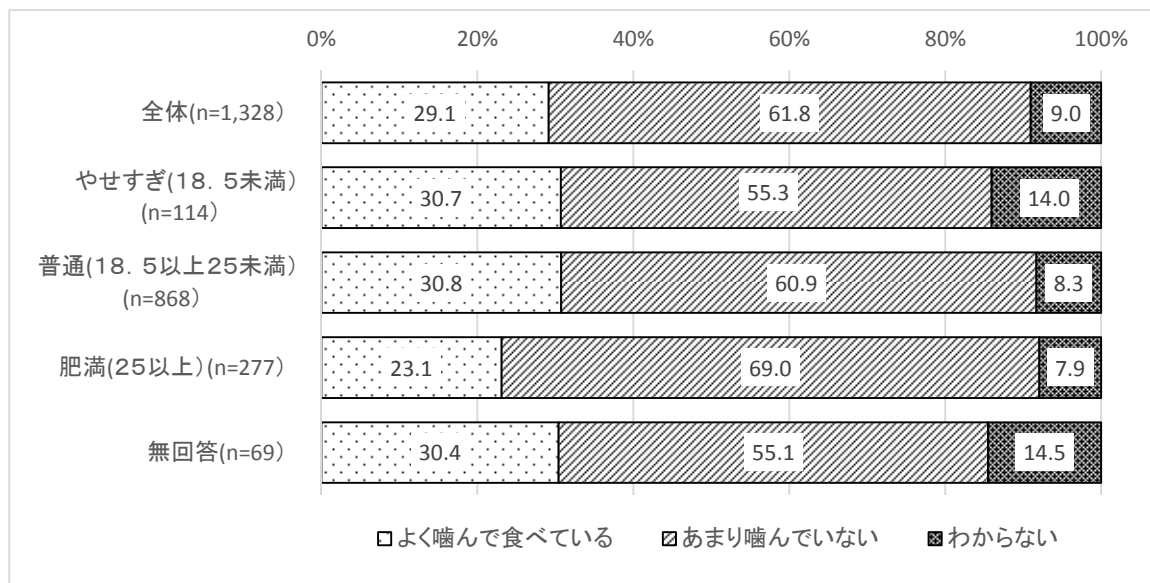


【咀嚼と体型の関連性】

◆肥満の方が、よくかんで食べている人が少ない傾向

咀嚼と体型の関連性を分析したところ、「よくかんで食べている」人の割合は、「肥満」で23.1%と、「標準」(30.8%)「やせすぎ」(30.7%)と比較して少ない傾向であった。(図表 I - 2 - 21)

図表 I - 2 - 21



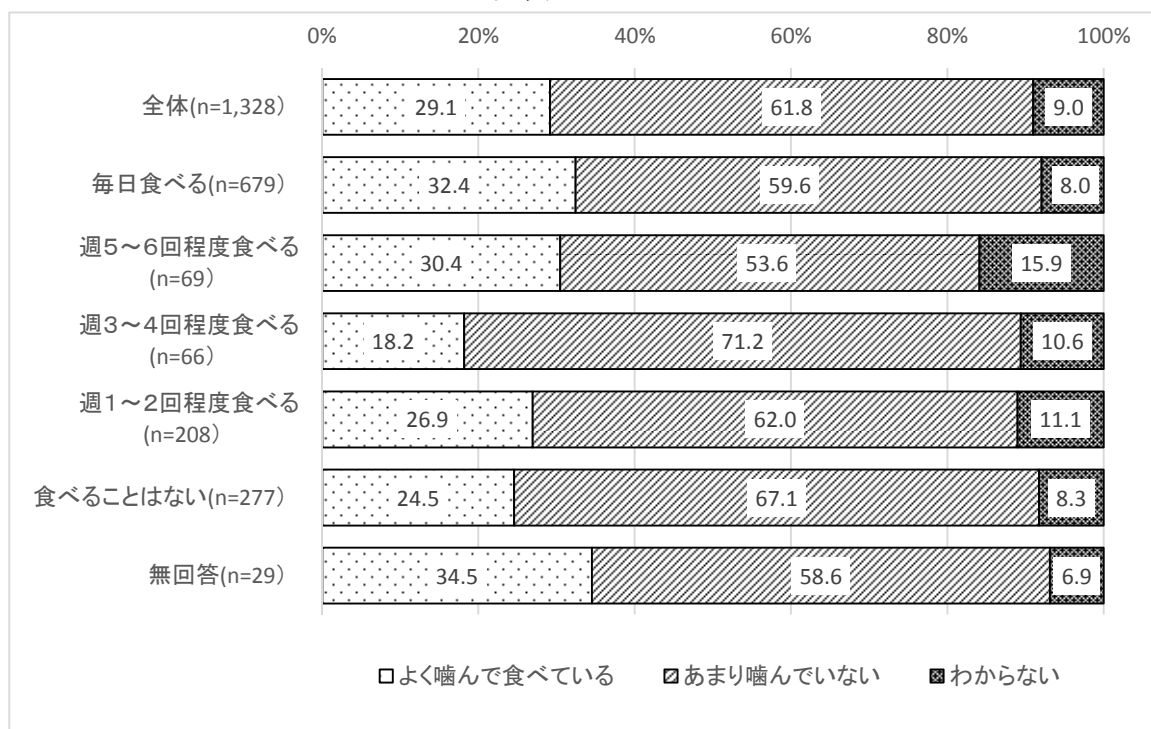
【咀嚼と共食の関連性】

◆共食を実施している人の方が、よくかんで食べている人の割合が多い傾向

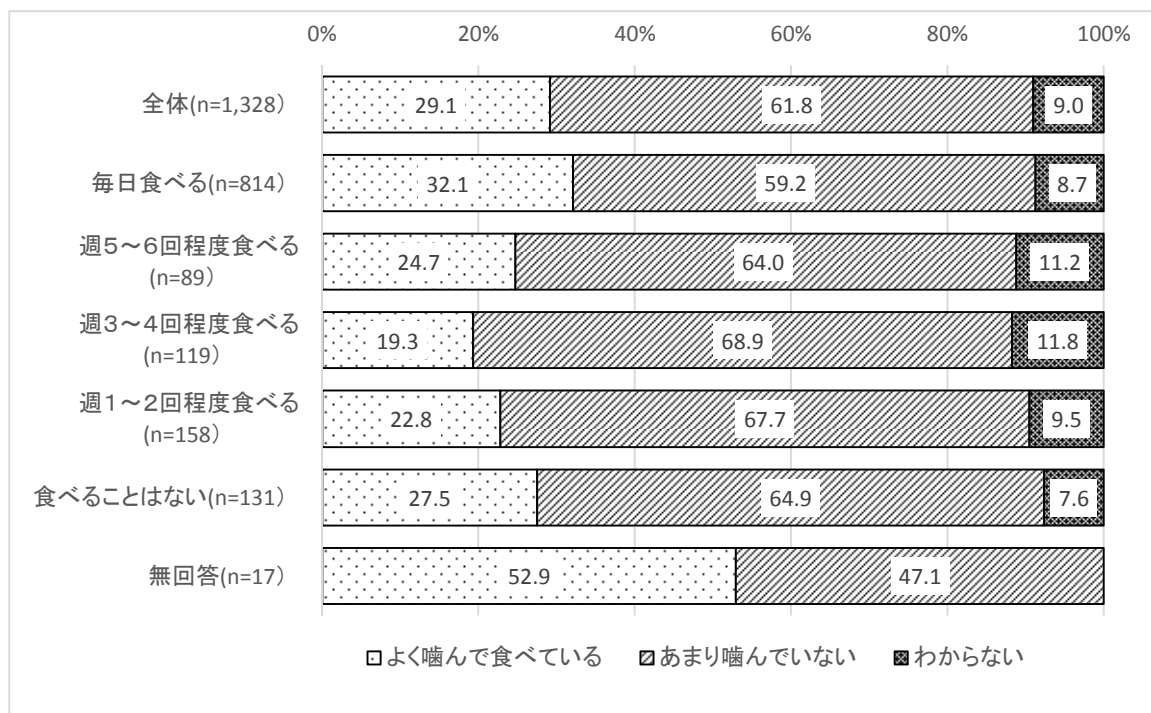
咀嚼と共食の関連性を分析したところ、「よくかんで食べている」人の割合が、朝食を家族と「毎日食べる」人では32.4%と、共食の実施回数が少ない人と比較して多い傾向であった。(図表I-2-22)

また、夕食の場合も同様に、「よくかんで食べている」人の割合が、夕食を家族と「毎日食べる」人では32.1%と、共食の実施回数が少ない人と比較して多い傾向であった。(図表I-2-23)

図表 I - 2 - 22



図表 I - 2 - 23



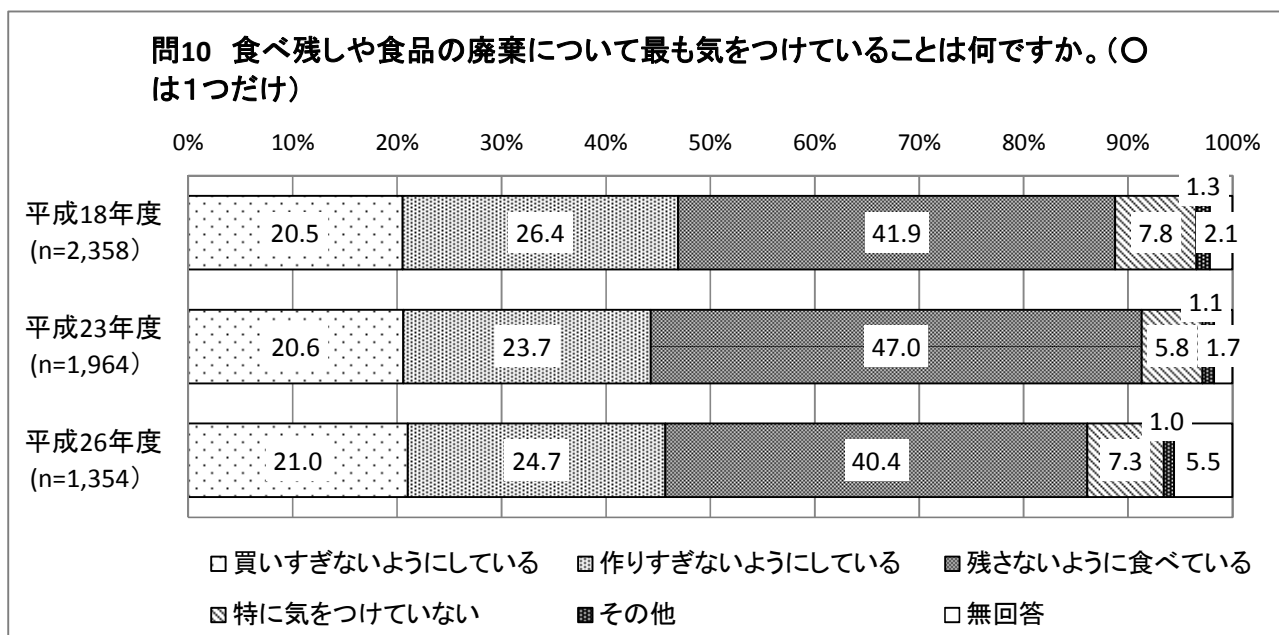
(10) 食べ残しや食品の廃棄への関心

10 食べ残しや食品の廃棄に関して最も気をつけていることは何ですか。

◆「残さないように食べている」が4割

食べ残しや廃棄に関して、「残さないように食べている」が、平成18年度調査では41.9%、平成23年度調査では47.0%まで増加していたが、本調査では40.4%と減少した。(図表I-2-24)

図表 I - 2 - 24



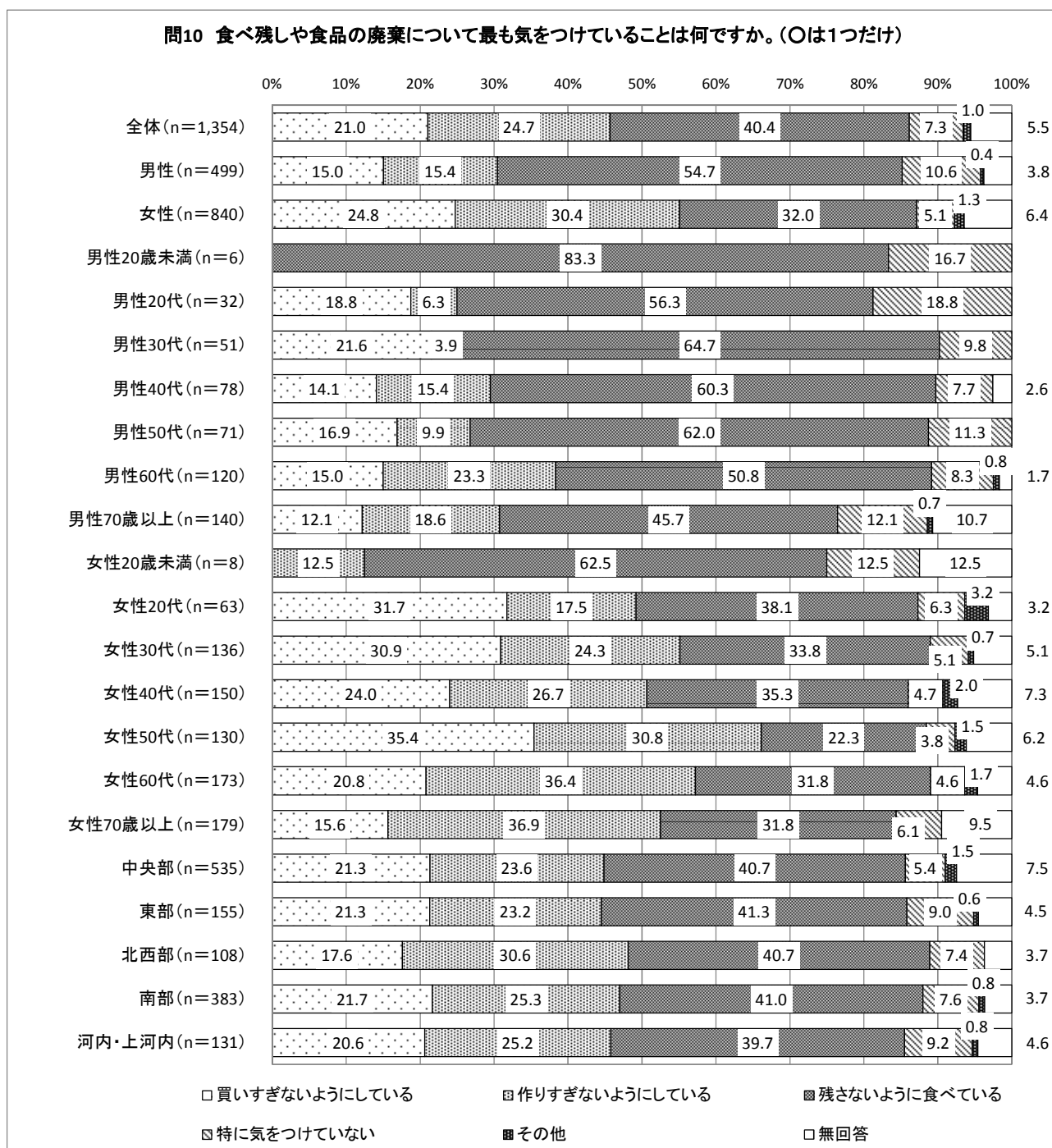
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「残さないように食べている」の割合が「女性」(32.0%)に比べ「男性」(54.7%)の方が高くなっている。また「特に気をつけていない」の割合も「女性」(5.1%)に比べ、「男性」(10.6%)の方が高くなっている。

性・年齢別では、「男性」は全年代で「残さないように食べている」の割合が最も多く、「女性」では「20歳未満」～「40代」では「残さないように食べている」,「50代」では「買い過ぎないようにしている」,「60代」～「70歳以上」では「作り過ぎないようにしている」が最も多くなっている。

居住地区別では、特に大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 25)

図表 I - 2 - 25



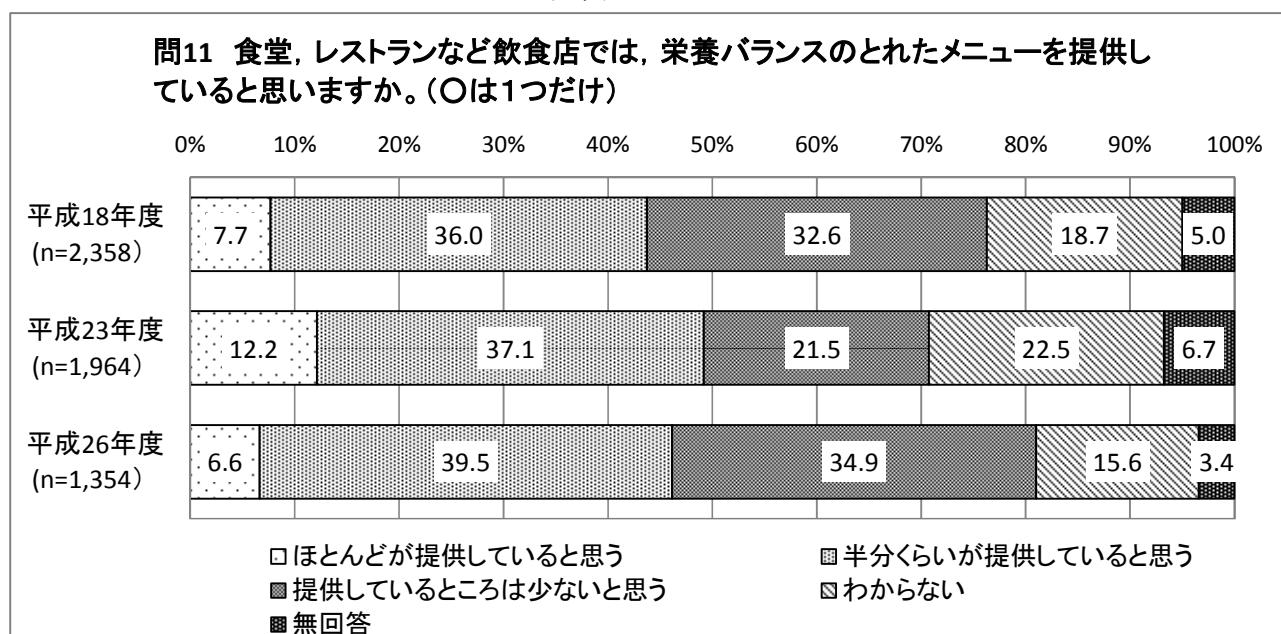
(11) 食堂, レストラン等が提供する食事の栄養バランス

11 食堂, レストランなど飲食店では, 栄養バランスのとれたメニューを提供していると思いますか。

◆「提供しているところは少ないと思う」が増加

外食の場合, 栄養バランスのとれたメニューを「ほとんどが提供していると思う」が平成18年度調査の7.7%から, 平成23年度調査では12.2%に増加したが, 本調査では6.6%まで減少した。また, 「提供しているところは少ないと思う」が32.6%から21.5%と大幅に減少していたが, 34.9%まで増加している。(図表I-2-26)

図表 I - 2 - 26

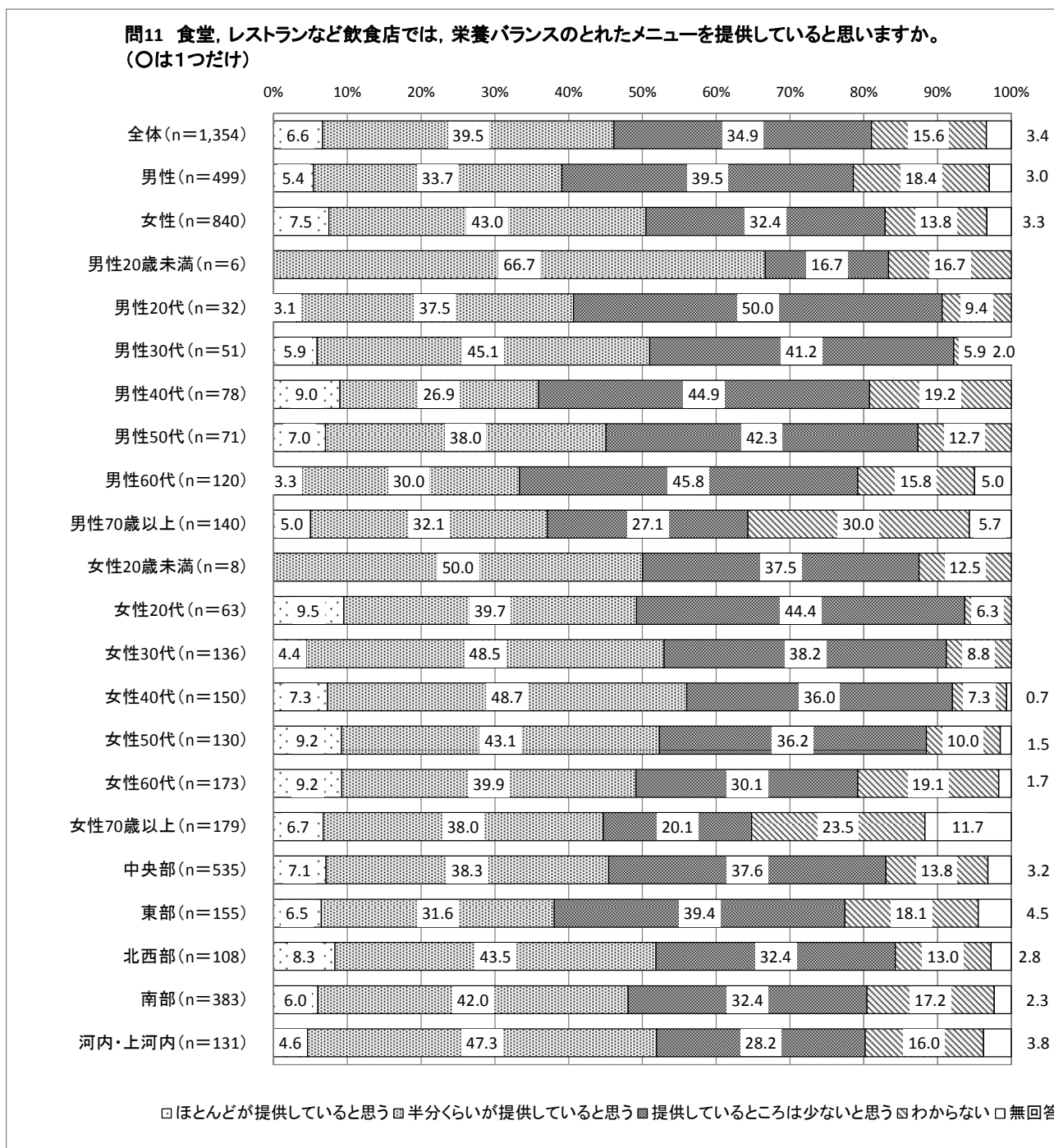


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「女性」は「男性」よりも「半分くらいが提供していると思う」が高くなっている。
 性・年齢別では、女性ではほとんどの年代で「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「東部」では「提供しているところは少ないと思う」の回答が最も多く、その他の地区では「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっている。(図表 I - 2 - 27)

図表 I - 2 - 27



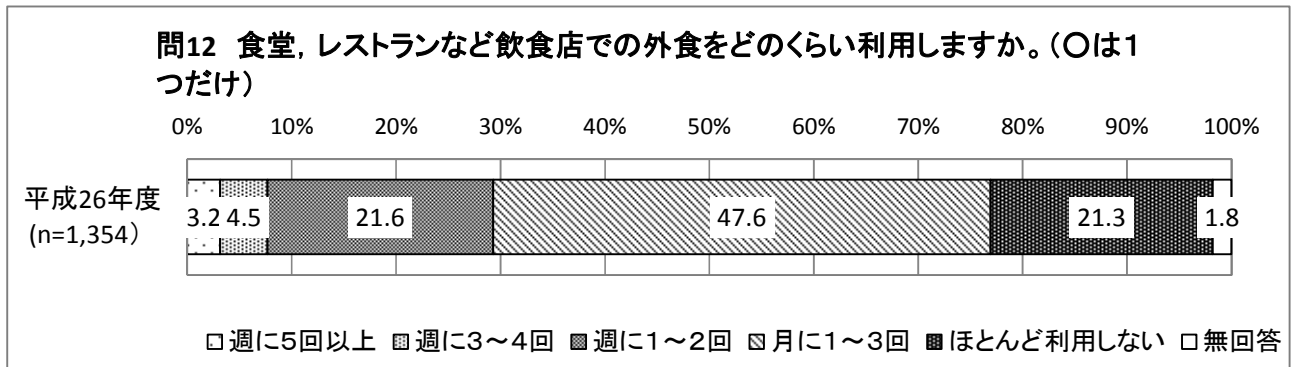
(12) 外食の利用頻度

12 食堂, レストランなど飲食店での外食をどのくらい利用しますか。

◆「月に1～3回」が約半数

外食の利用度について、「月に1～3回」が47.6%と約半数を占める。次いで「週に1～2回」(21.6%), 「ほとんど利用しない」(21.3%) となっている。(図表I-2-28)

図表 I - 2 - 28

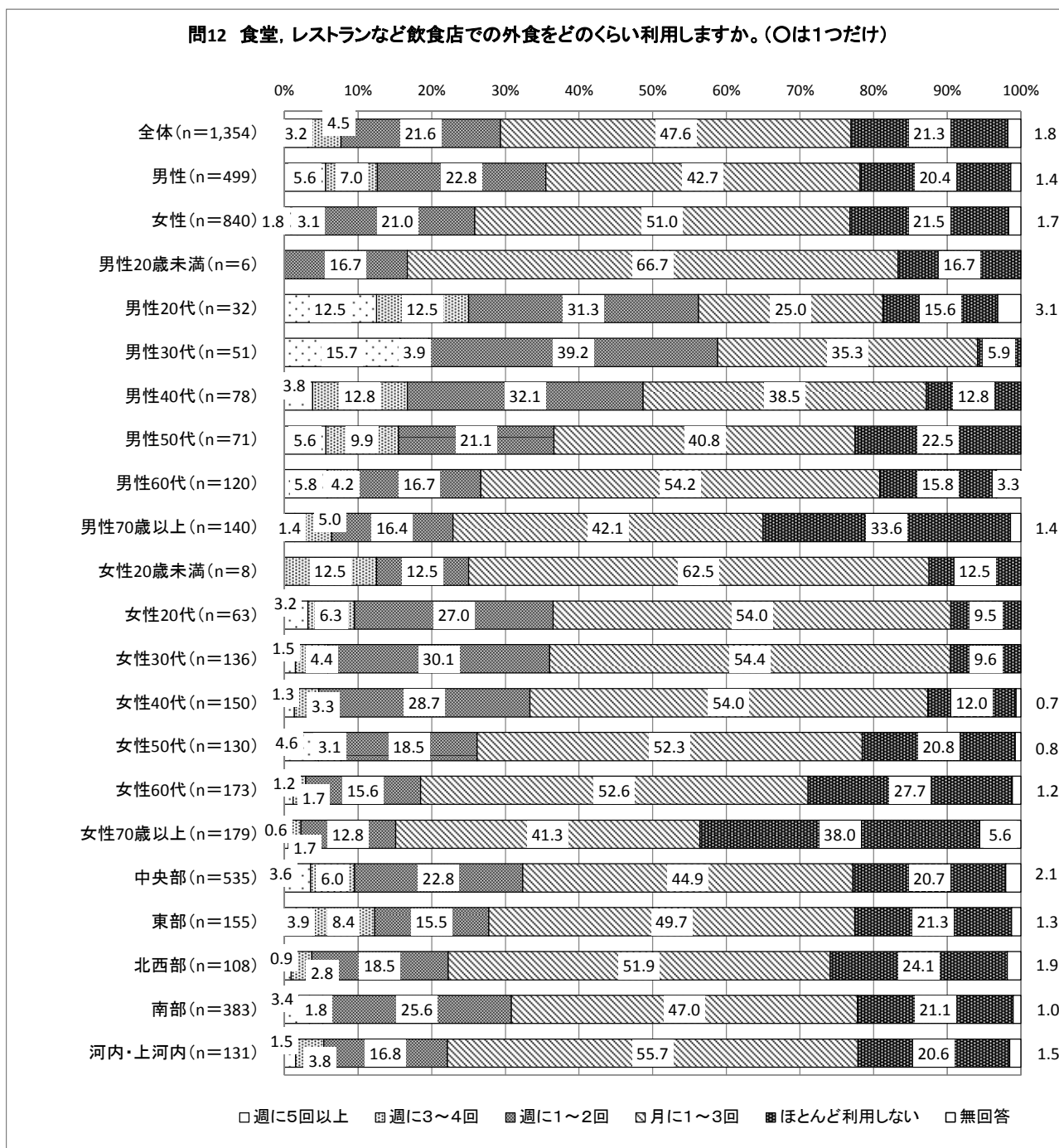


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「週に5回以上」は「女性」(1.8%)より「男性」(5.6%)が約4%高くなっている。
 性・年齢別では、男女ともに年齢が低い程、外食の割合が多い傾向にあり、男性の「20代」「30代」では「週1回以上利用する」(「週に5回以上利用する」「週に3~4回以上利用する」「週に1~2回」の合計)の割合が約5割を超えている。

居住地区別では、全地区で「月に1~3回」の割合が高くなっている。(図表I-2-29)

図表 I - 2 - 29

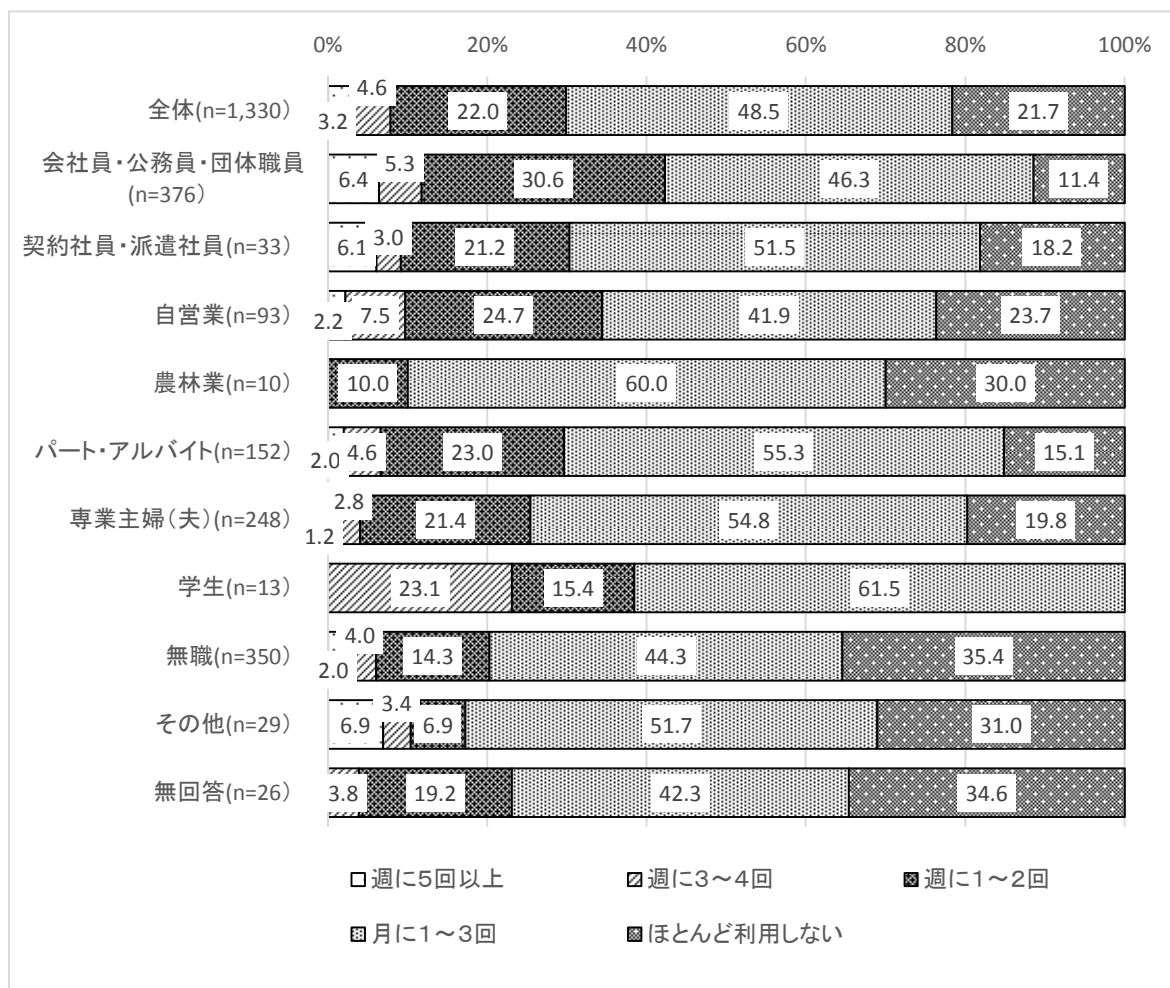


【外食の利用頻度と職業の関連性】

◆「会社員・公務員・団体職員」で利用頻度が高い傾向

外食の利用頻度と職業の関連性を分析したところ、週1回以上（「週5回以上」「週3～4回」「週1～2回」の合計）の割合が、「会社員・公務員・団体職員」では42.3%と、他の職業と比較して高い傾向であった。（図表I-2-30）

図表 I - 2 - 30



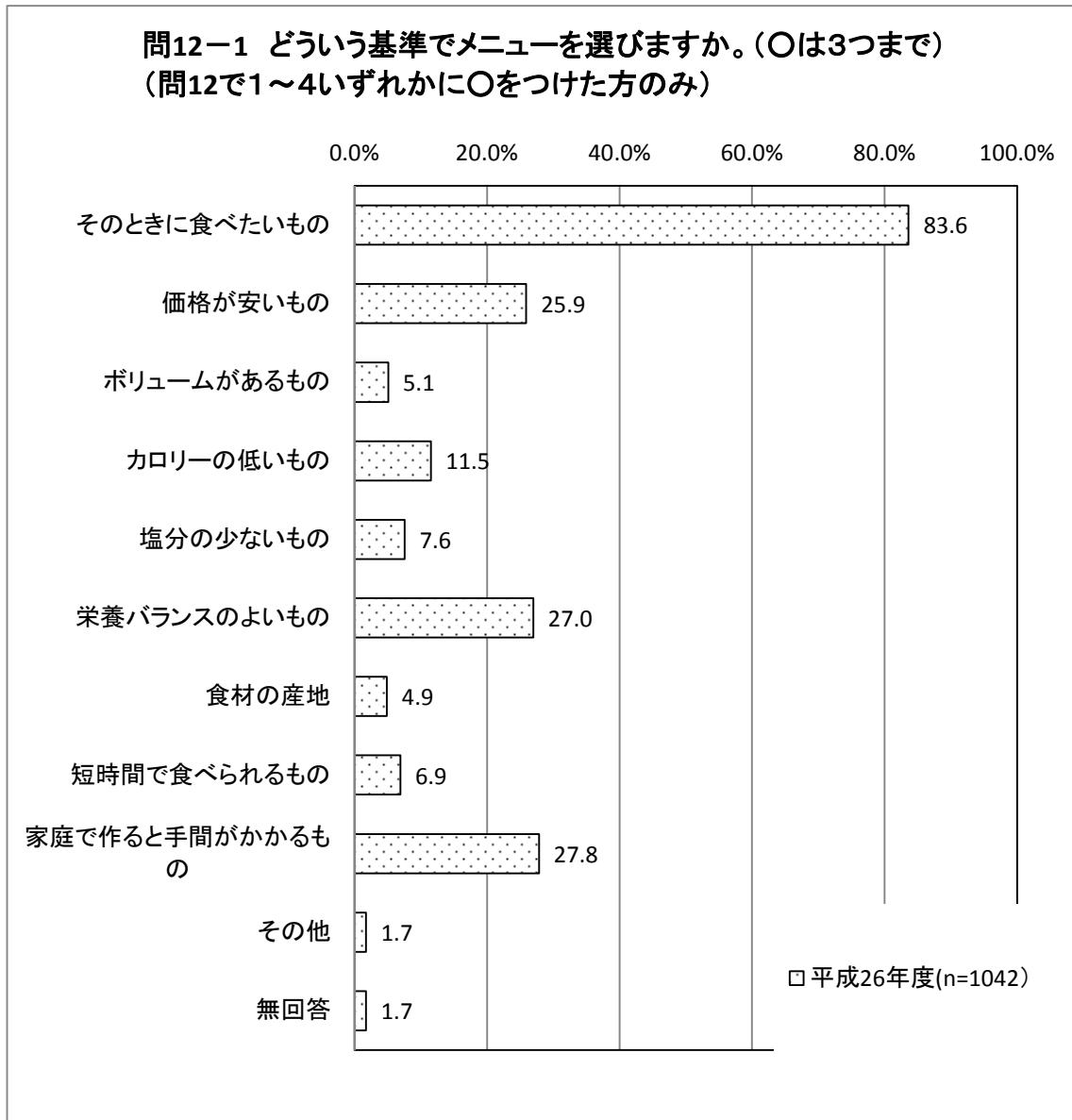
(12-1) 外食でのメニューの選び方

12-1 どのような基準でメニューを選びますか。

◆「そのときに食べたいもの」が約8割

前問で「月に1回以上飲食店を利用している」と回答した人にメニューを選ぶ基準を聞いたところ、「そのときに食べたいもの」が83.6%と最も多く、次いで「家庭で作ると手間がかかるもの」(27.8%)、「栄養バランスのよいもの」(27.0%)となっている。(図表I-2-31)

図表 I - 2 - 31



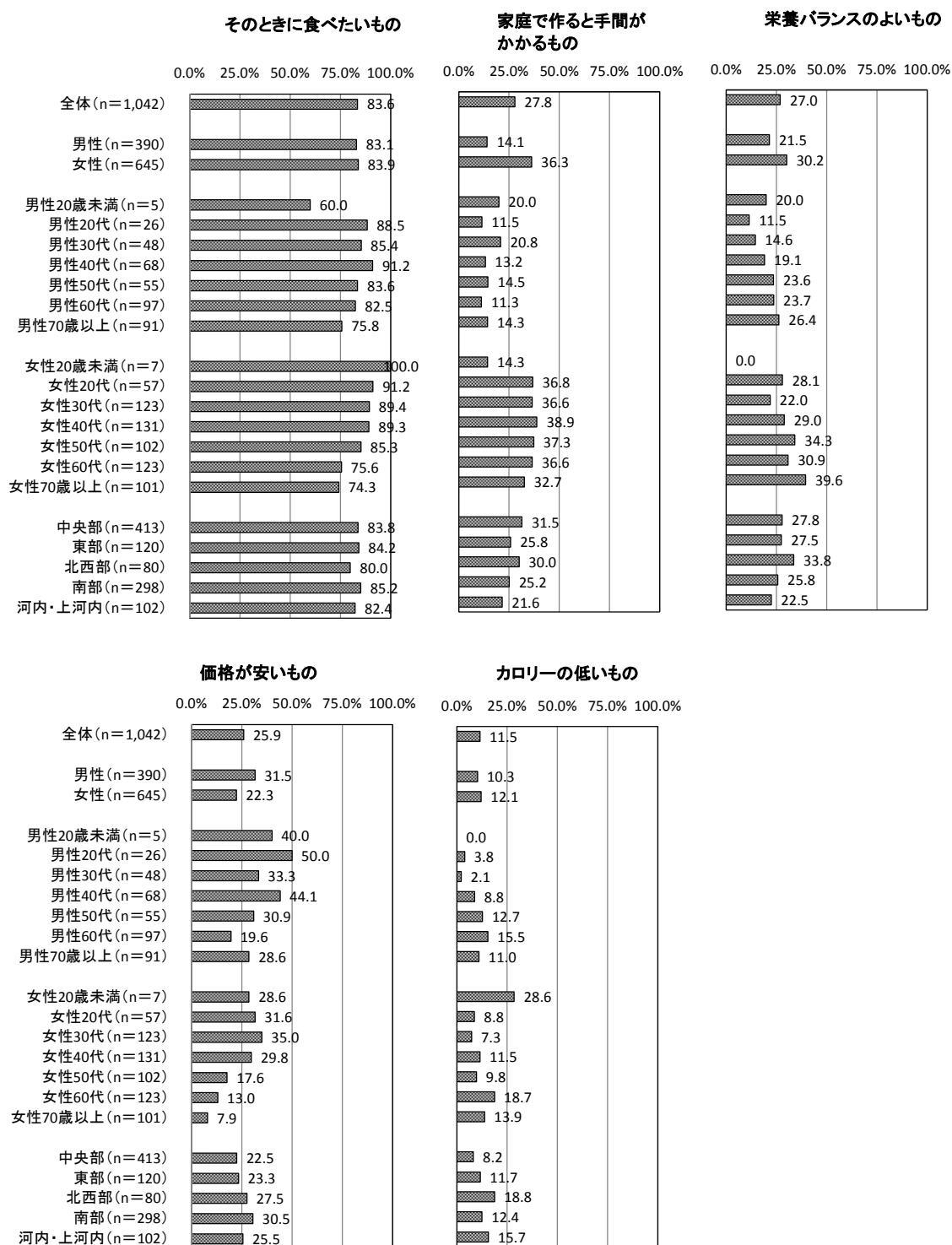
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「そのときに食べたいもの」が8割占め、次いで男性では「価格が安いもの」、女性では「家庭で作ると手間がかかるもの」、「栄養バランスのよいもの」となっている。

性・年齢別では、年齢が高くなるほど、「栄養バランスのよいもの」の割合が高くなる傾向にある。また、年齢が低いほど「価格の安いもの」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 32)

図表 I - 2 - 32



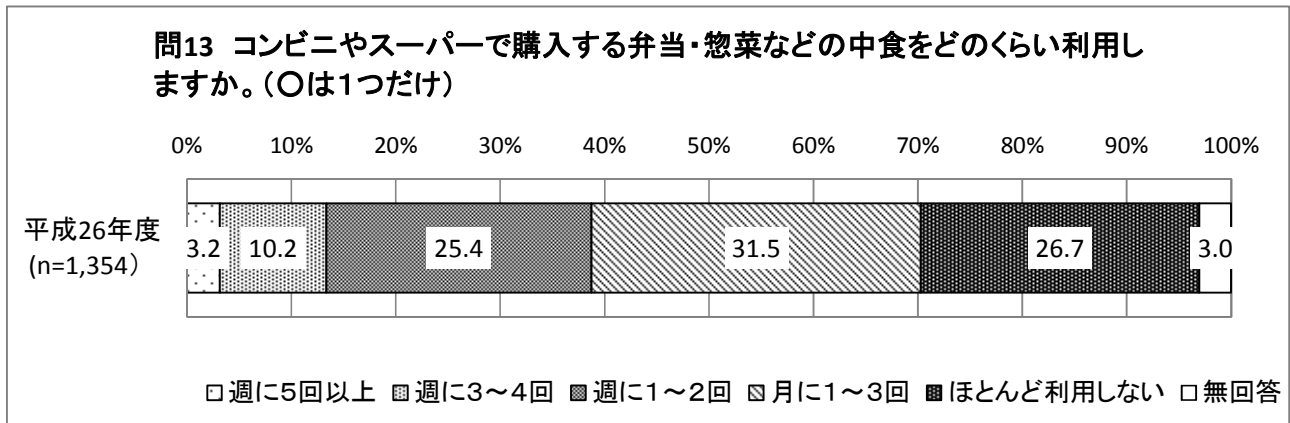
(13) 中食の利用頻度

13 コンビニやスーパーで購入する弁当・惣菜などの中食をどのくらい利用しますか。

◆「月に1～3回」が約3割

中食の利用では、「月に1～3回」(31.5%)が最も多く、次いで「ほとんど利用しない」(26.7%), 「週に1～2回」(25.4%)となっている。(図表I-2-33)

図表 I - 2 - 33



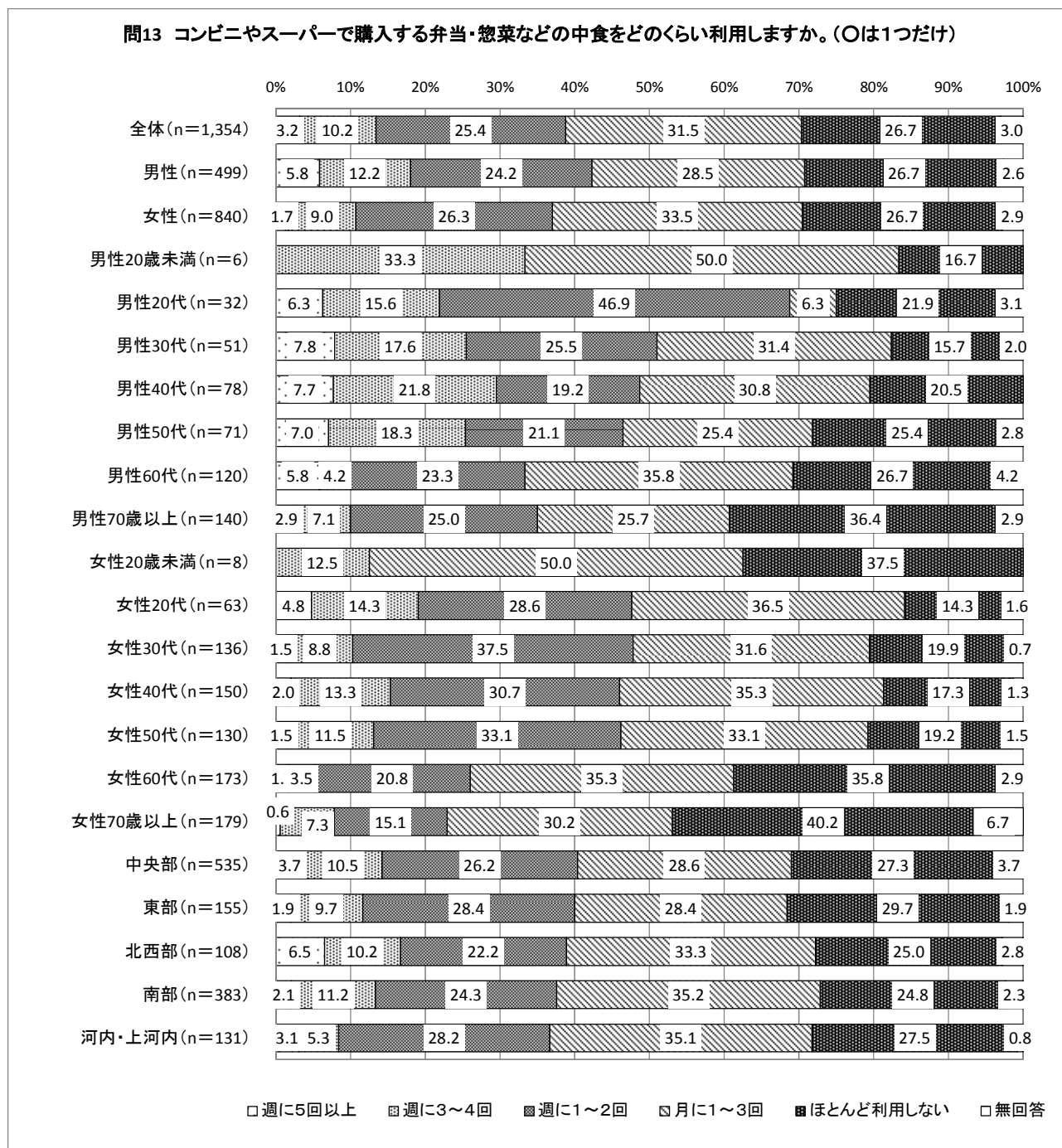
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「月に1～3回」が最も多くなっている。

性・年齢別では、男女ともに20代から50代の利用頻度が高く、約5割が「週1回以上利用」（「週に5回以上利用する」「週に3～4回以上利用する」「週に1～2回」の合計）している。特に「男性20代」では「週1回以上利用」が約7割を占めている。

居住地区別では、「北西部」で「週に5回以上」の割合が他地区に比べて高くなっている。（図表I-2-34）

図表 I - 2 - 34

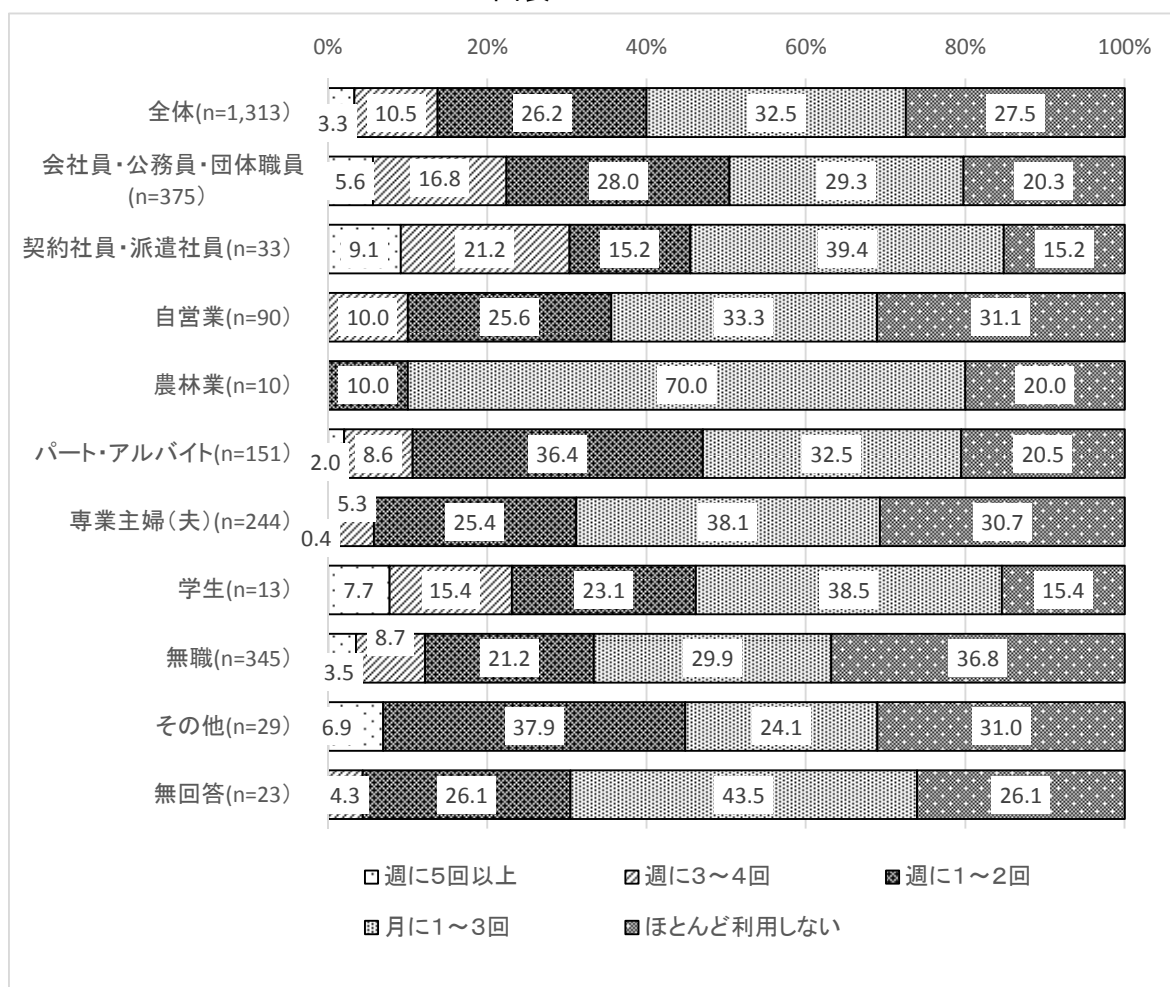


【中食の利用頻度と職業の関連性】

◆「会社員・公務員・団体職員」で利用頻度が高い傾向

中食の利用頻度と職業の関連性を分析したところ、週1回以上（「週5回以上」「週3～4回」「週1～2回」の合計）の割合が、「会社員・公務員・団体職員」では50.4%と、他の職業と比較して高い傾向であった。（図表I-2-35）

図表 I - 2 - 35



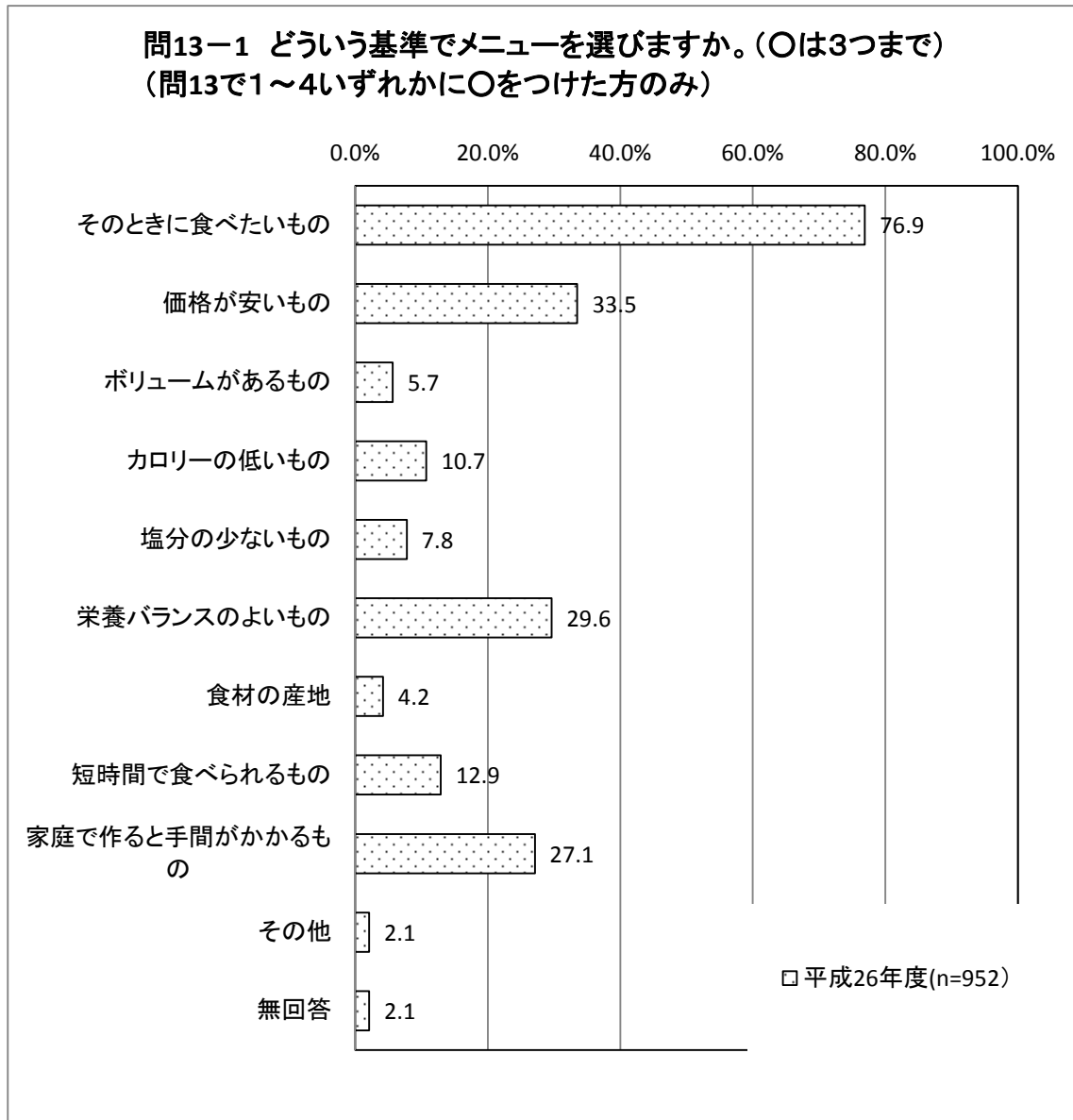
(13-1) 中食でのメニューの選び方

13-1 どういう基準でメニューを選びますか。

◆「そのときに食べたいもの」が約8割

前問で「月に1回以上中食を利用する」と回答した人にメニューを選ぶ基準を聞いたところ「その時に食べたいもの」が76.9%と最も多く、次いで「価格が安いもの」(33.5%)、「栄養バランスのよいもの」(29.6%)、「家庭で作ると手間がかかるもの」(27.1%)となっている。(図表I-2-36)

図表 I - 2 - 36



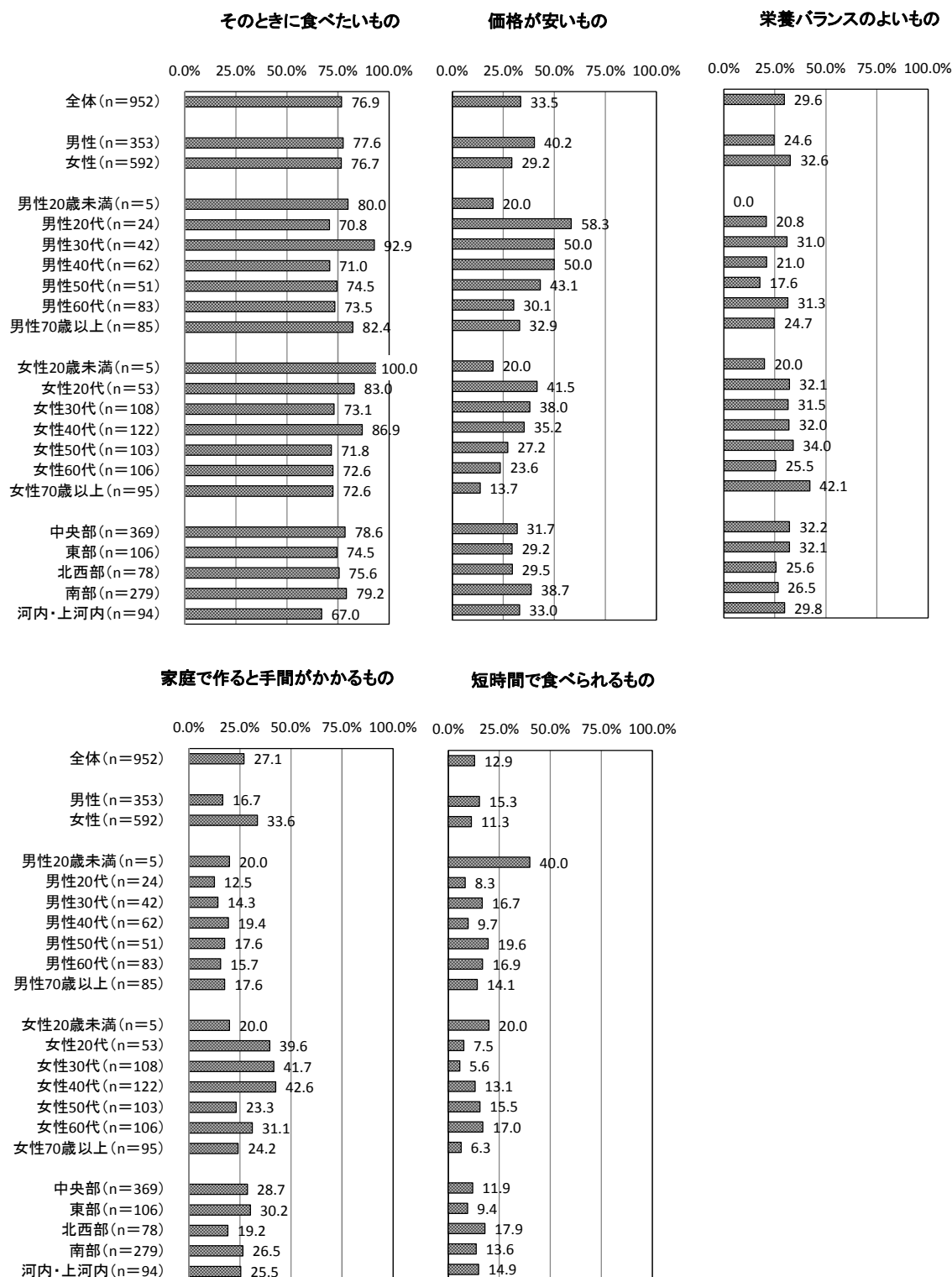
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「そのときに食べたいもの」が約8割占め、次いで男性では「価格が安いもの」、女性では「家庭で作ると手間がかかるもの」、「栄養バランスのよいもの」となっている。

性・年齢別では、年齢が低いほど、「価格が安いもの」の割合が多くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 37)

図表 I - 2 - 37



(14) 飲食業者に対する希望

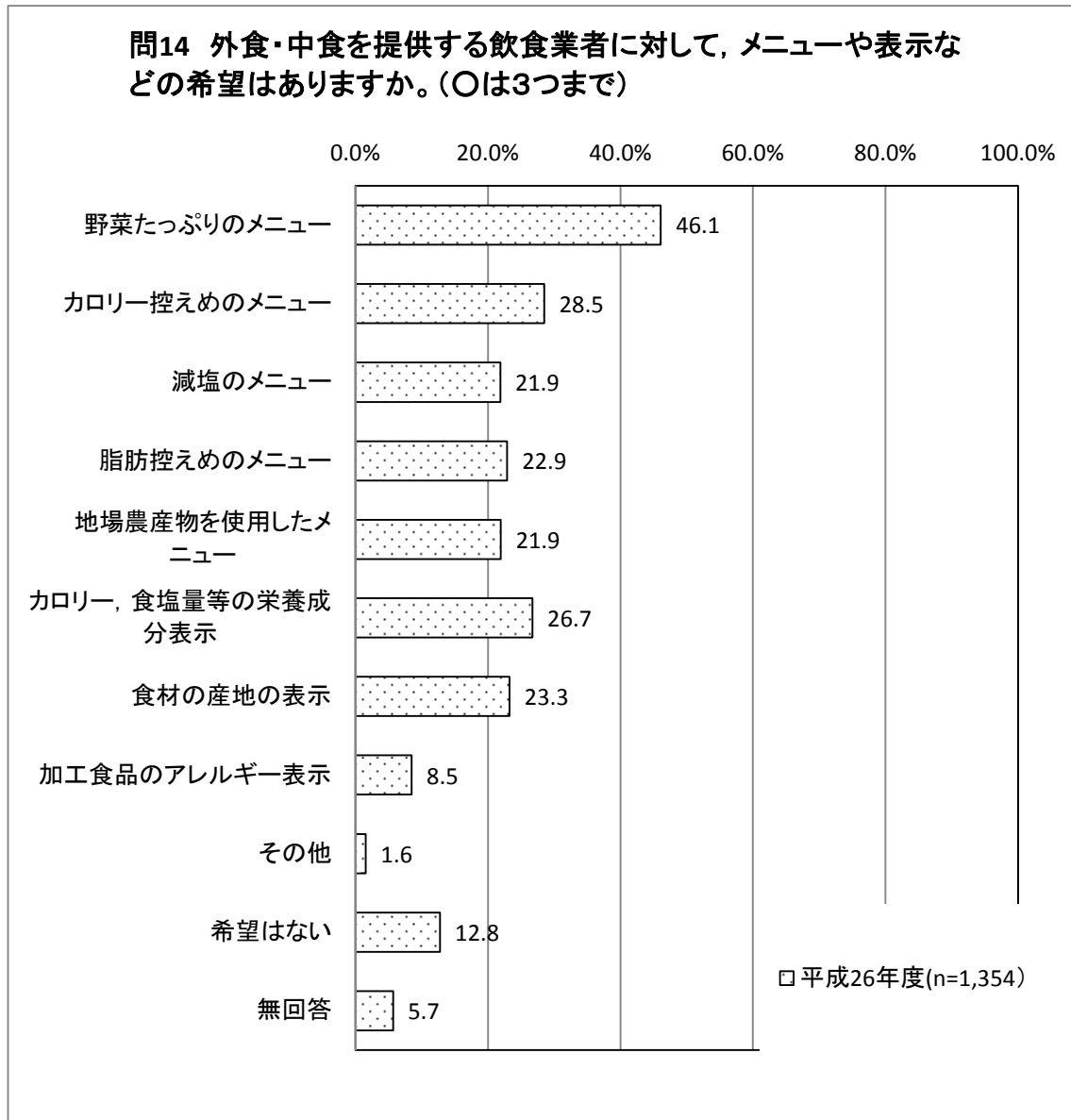
14 外食・中食を提供する飲食業者に対して、メニューや表示などの希望はありますか。

◆「野菜たっぷりのメニュー」が4割強

メニューや表示の希望では、「野菜たっぷりのメニュー」(46.1%)が最も多く、次いで「カロリー控えめのメニュー」(28.5%)、「カロリー、食塩量等の栄養成分表示」(26.7%)となっている。

(図表 I-2-38)

図表 I-2-38



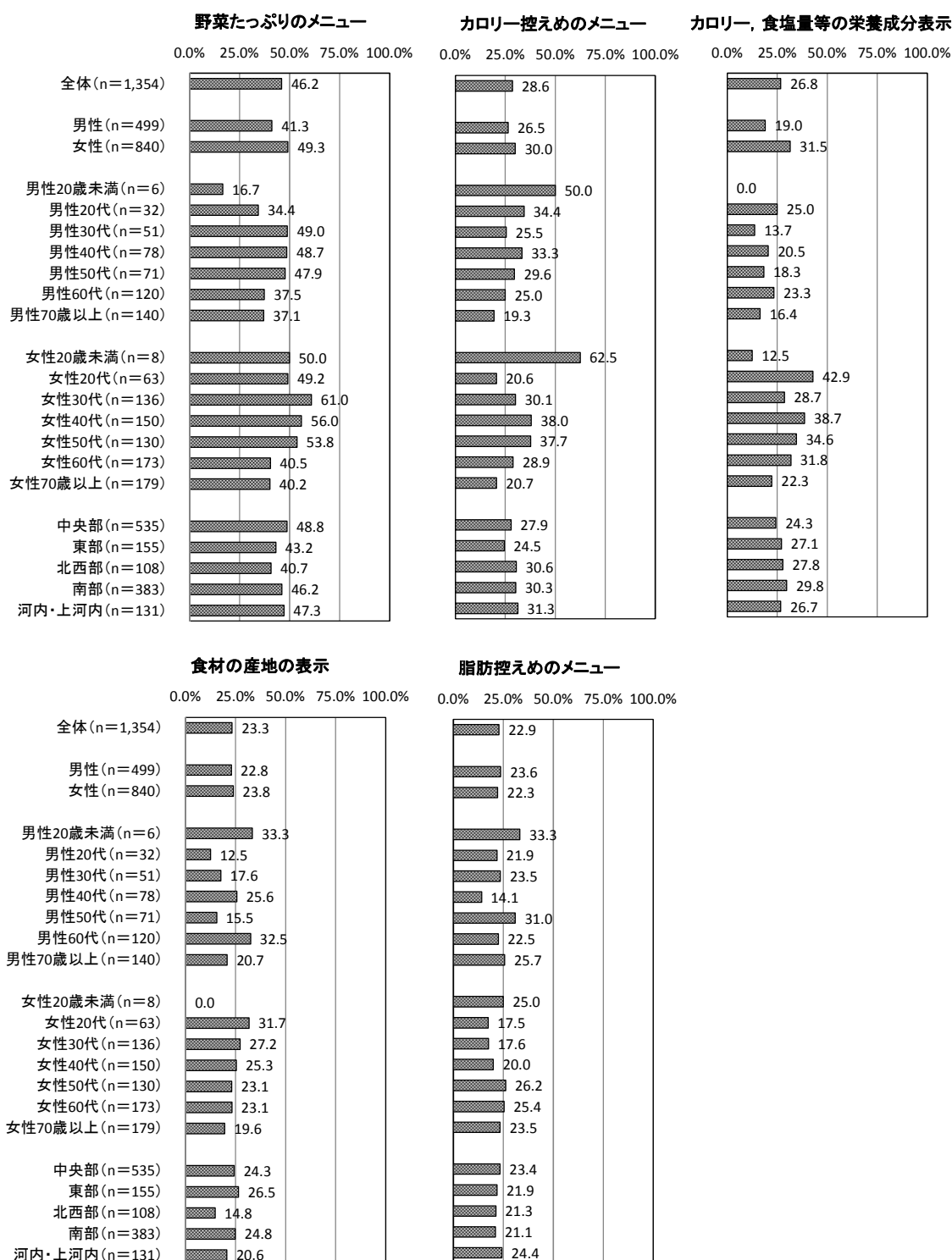
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「カロリー、食塩量等の栄養成分表示」は男性より、女性の割合が高くなっている。

性・年齢別では、「女性30代」で「野菜たっぷりのメニュー」(61.0%)が6割を占め、男性30代から50代でも「野菜たっぷりのメニュー」が約半数を占めている。

居住地区別では、「北西部」の「食材の産地表示」が他地区に比べて低くなっている。(図表I-2-39)

図表 I - 2 - 39



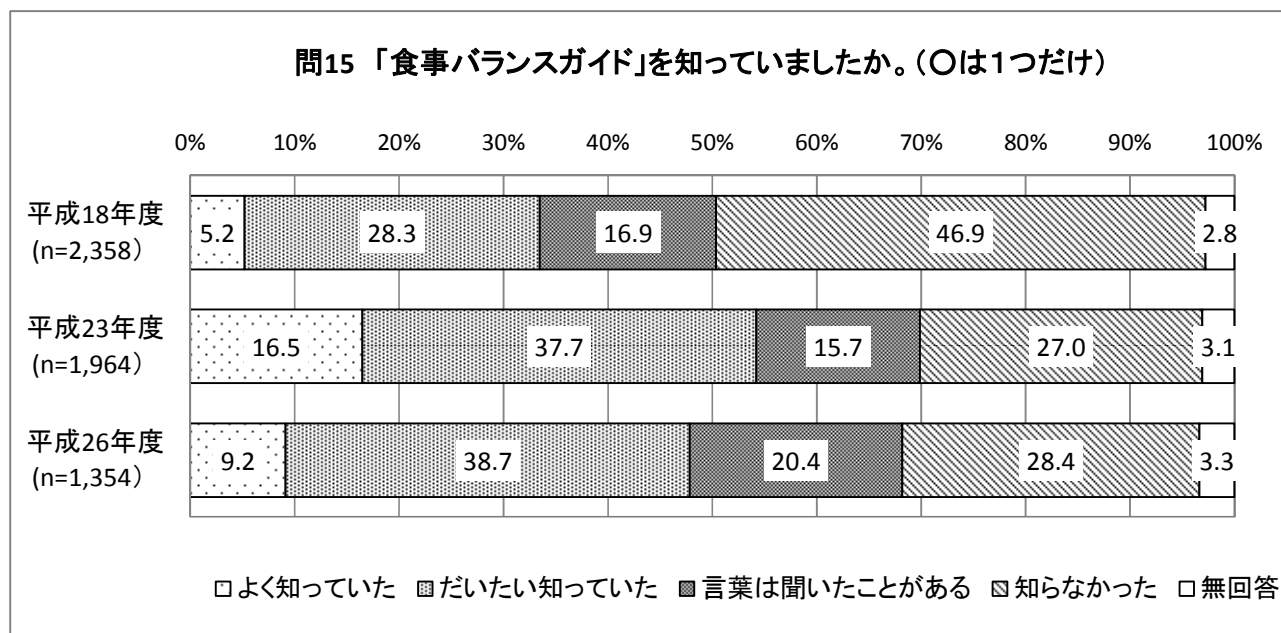
(15) 食事バランスガイドの認知度

15 「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「知っていた」が約5割

「食事バランスガイド」をどの程度知っているか聞いたところ、「よく知っていた」の割合は、平成23年度調査で5.2%から16.5%へ増加したものの、本調査では9.2%に減少した。一方、「言葉は聞いたことがある」の割合は増加傾向にある。(図表I-2-40)

図表 I - 2 - 40

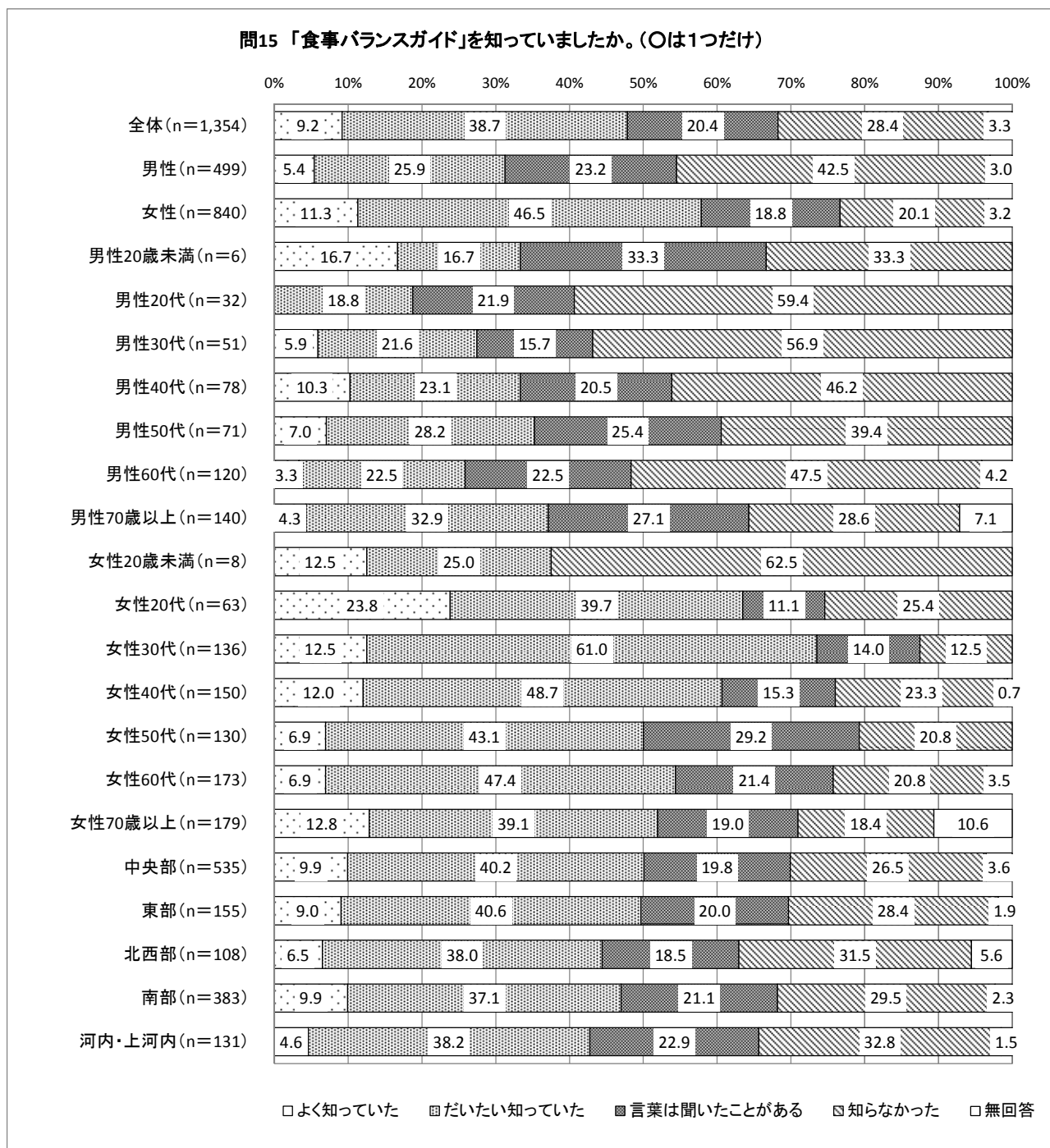


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性では「知らなかった」、女性では「だいたい知っていた」が最も多くなっている。性・年齢別では、「男性20歳代」～「男性60代」では「知らなかった」、「男性70歳以上」では「だいたい知っていた」の割合が多く、「女性20代」～「女性70歳以上」で「だいたい知っていた」の割合が多くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「よく知っていた」の割合が他地区に比べ低くなっている。
(図表 I - 2 - 41)

図表 I - 2 - 41

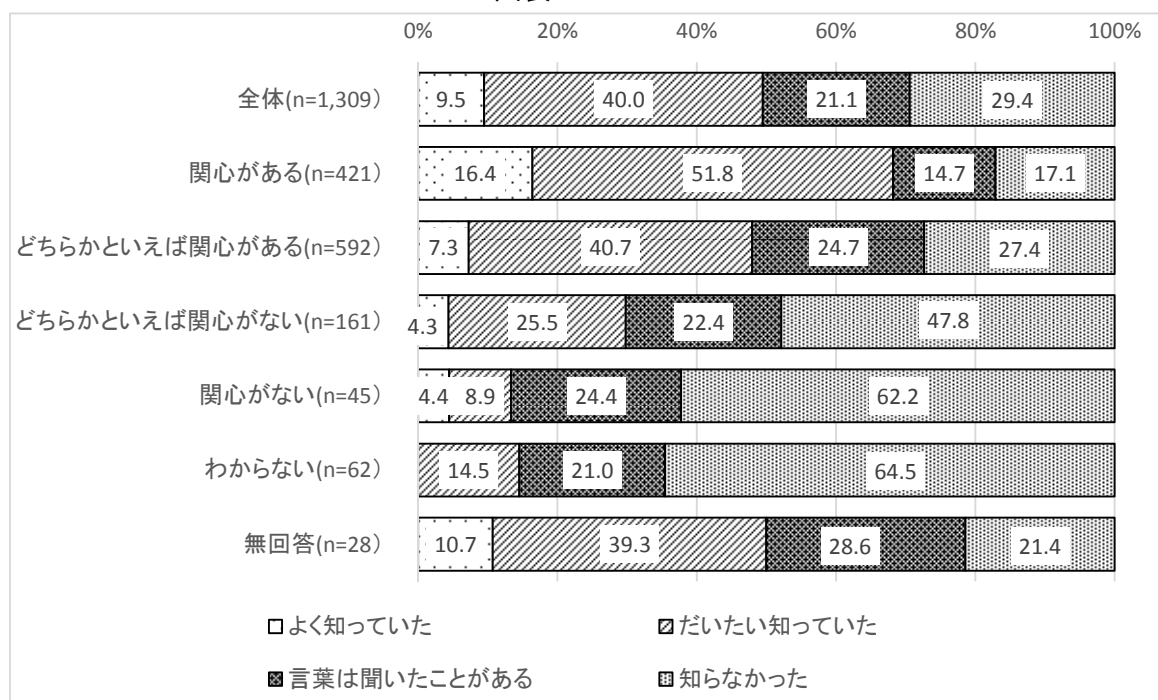


【食事バランスガイド認知度と食育関心度の関連性】

◆食育に関心がある人の方が、食事バランスガイドの認知度が高い傾向

食事バランスガイド認知度と食育関心度の関連性を分析したところ、食事バランスガイドを「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）人は、食育に「関心がある」人で68.2%と、関心度が低い人と比べて認知度が高い傾向であった。（図表 I - 2 - 42）

図表 I - 2 - 42

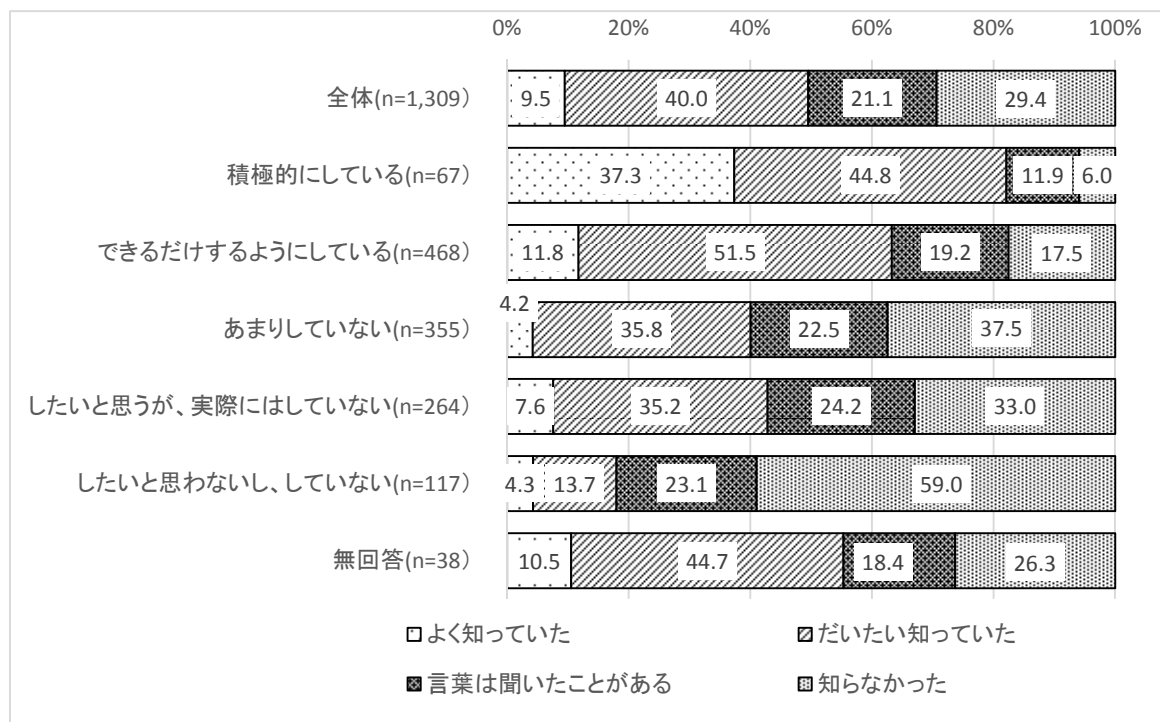


【食事バランスガイド認知度と食育実践度の関連性】

◆食育を実践している人の方が、食事バランスガイドの認知度が高い傾向

食事バランスガイド認知度と食育実践度の関連性を分析したところ、食事バランスガイドを「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）人は、食育の取組を「積極的にしている」（82.1%）「できるだけするようにしている」（63.3%）と、実践度が低い人と比べて認知度が高い傾向であった。（図表 I - 2 - 43）

図表 I - 2 - 43



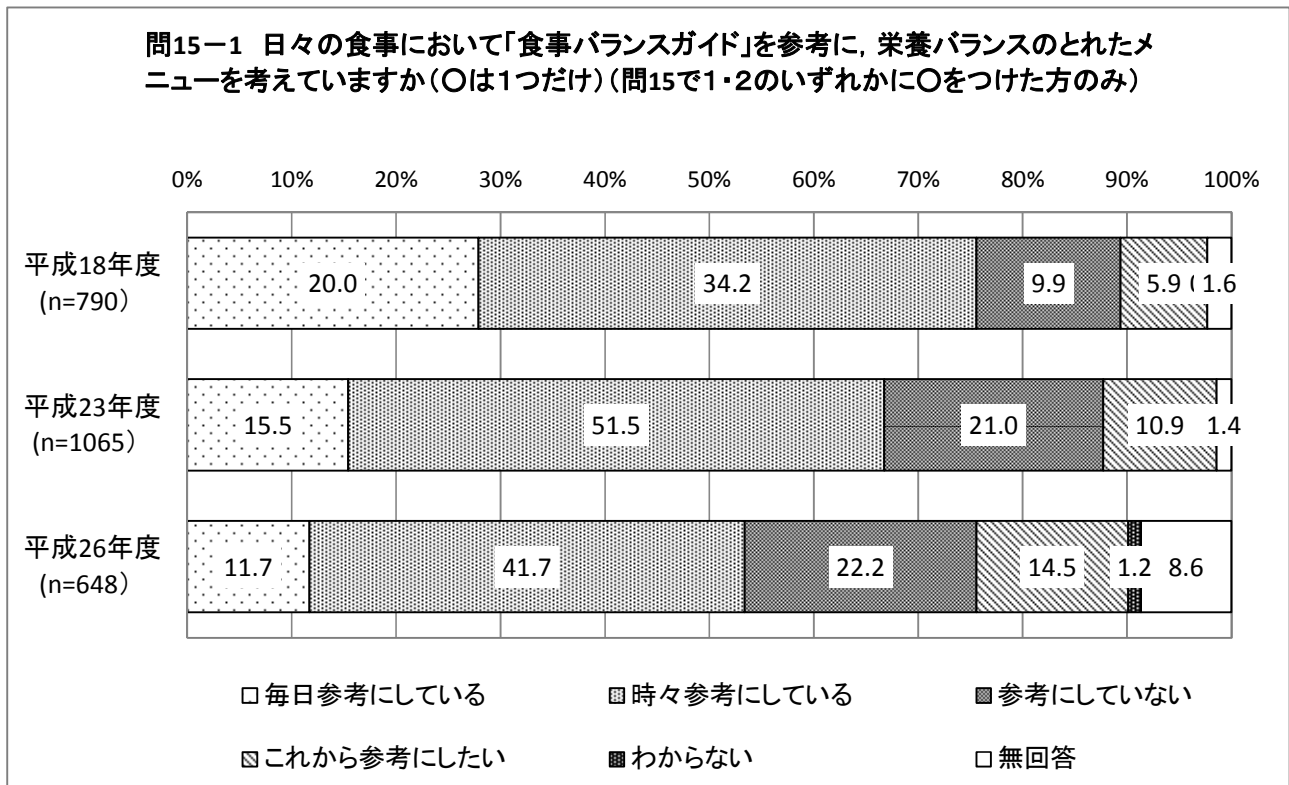
(15-1) 食事バランスガイドの利用度

15-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「参考にしている」が減少

前問で「よく知っていた」「だいたい知っていた」と回答した人に食事バランスガイドの利用度を聞いたところ、「時々参考にしている」が41.7%と、平成23年度調査から減少している。(図表I-2-44)

図表 I - 2 - 44



【性別／性・年齢別／地区別】

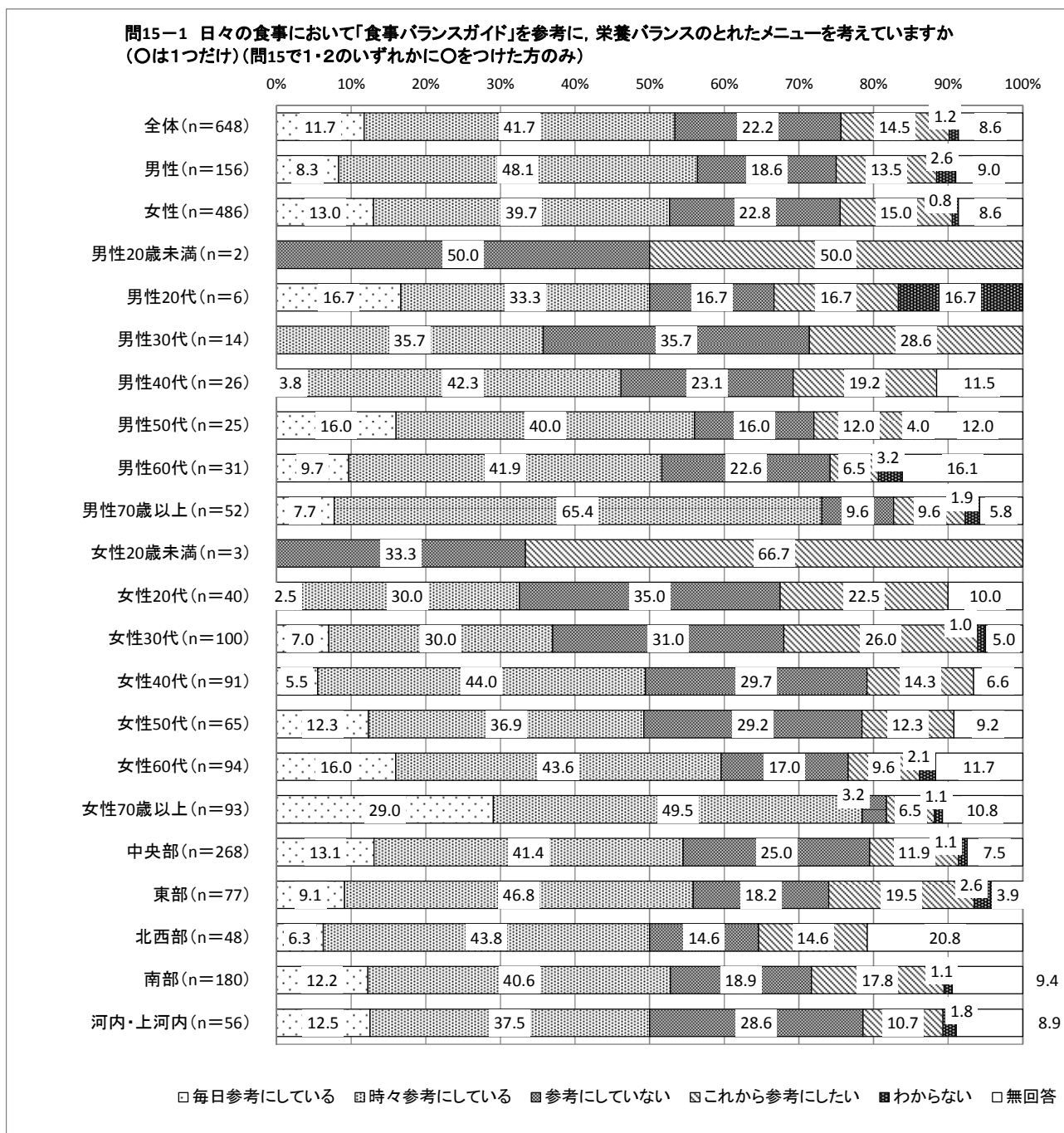
性別では、「参考にしている」（「毎日参考にしている」と「時々参考にしている」の合計）割合が、「男性」（56.4%）は「女性」（52.7%）より約4%高くなっている。

性・年齢別では、男女ともに年齢が低い程、「参考にしていない」、「これから参考にしたい」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「河内・上河内」で「参考にしていない」の割合が他地区より高くなっている。

（図表 I - 2 - 45）

図表 I - 2 - 45



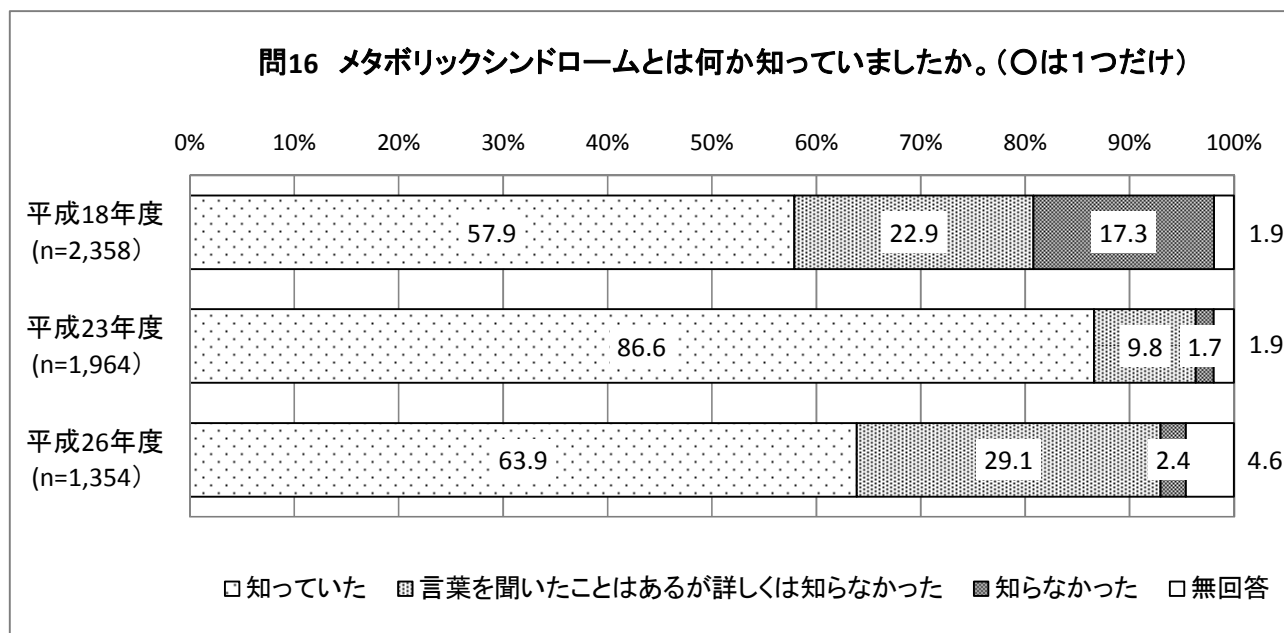
(16) メタボリックシンドロームの認知度

16 メタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が6割超

「知っていた」と回答した人が63.9%と半数以上を占める。また、「知っていた」と「言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らなかった」の合計では、本調査(93.0%)は平成23年度調査(96.4%)に比べ微減となった。(図表I-3-1)

図表 I - 3 - 1



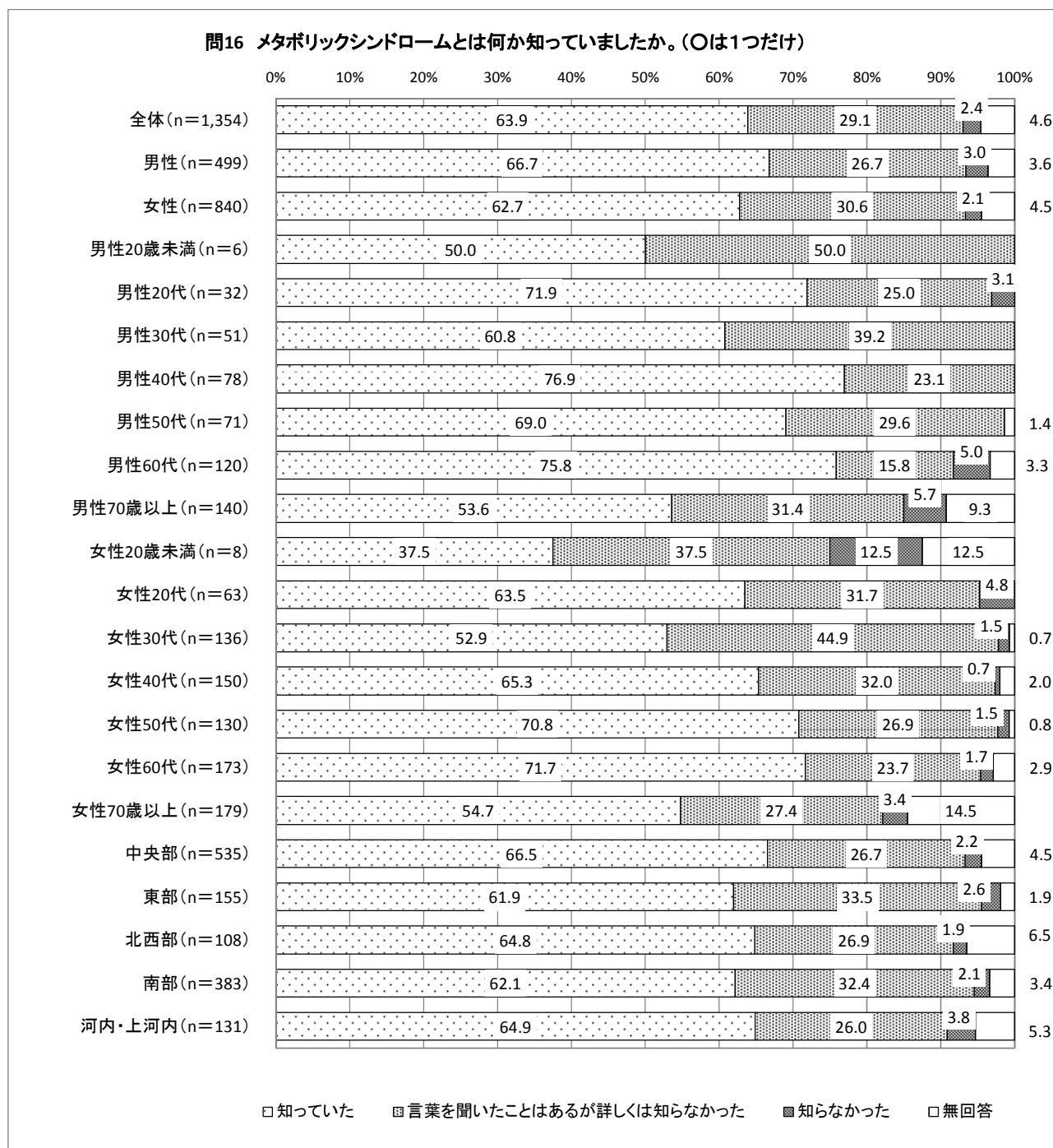
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも差はなく「知っていた」が6割を超えている。

性・年齢別では、男女・全年代で「知っていた」が最も多くなっているが、「男性60代」、「男性70歳以上」、「女性70歳以上」で「知らなかった」の割合が他年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I-3-2)

図表 I-3-2



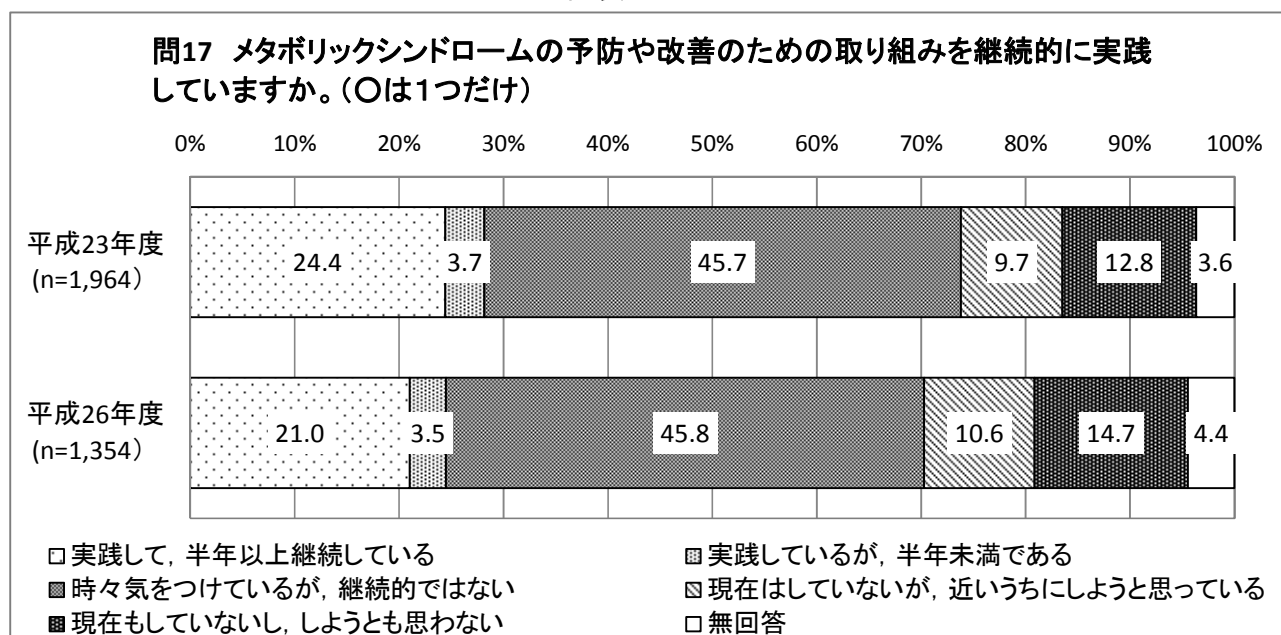
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

17 メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が約半数

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について、「実践して、半年以上継続している」(21.0%)、「実践しているが、半年未満である」(3.5%)を合わせると24.5%であり、平成23年度調査(28.1%)と比較して減少している。また、「時々気をつけているが、継続的ではない」は、45.8%と約半数となっている。(図表I-3-3)

図表 I - 3 - 3



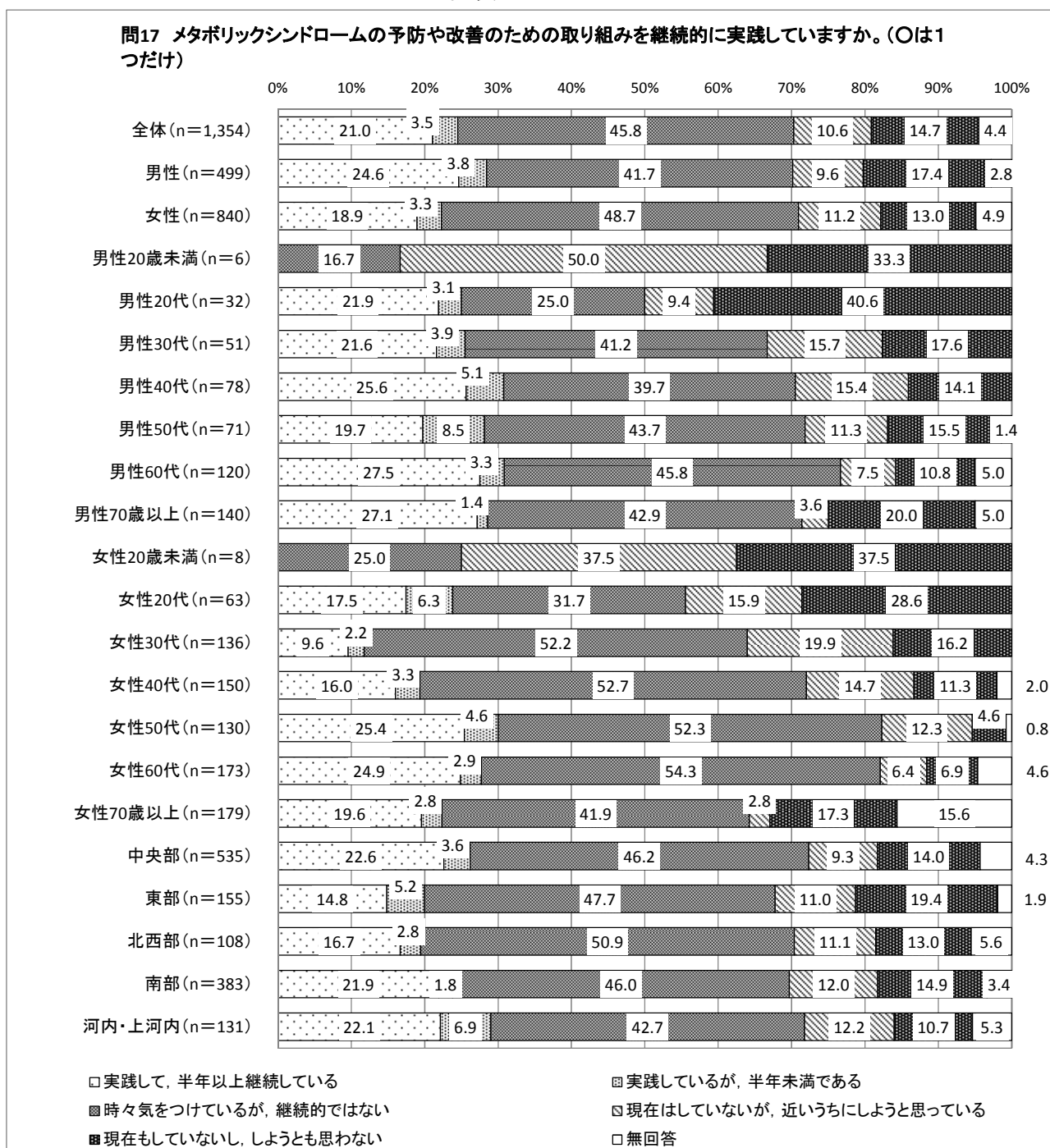
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高く、特に「女性」は48.7%と、5割近くに上っている。また、「現在もしていないし、しようとも思わない」の割合では、「女性」(13.0%)より「男性」(17.4%)が、約4%高くなっている。

性・年齢別は、「男性20代」で、「現在もしていないし、しようとも思わない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、全地区で「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高くなっており、中でも「北西部」では50.9%と、5割を超えている。(図表I-3-4)

図表 I - 3 - 4

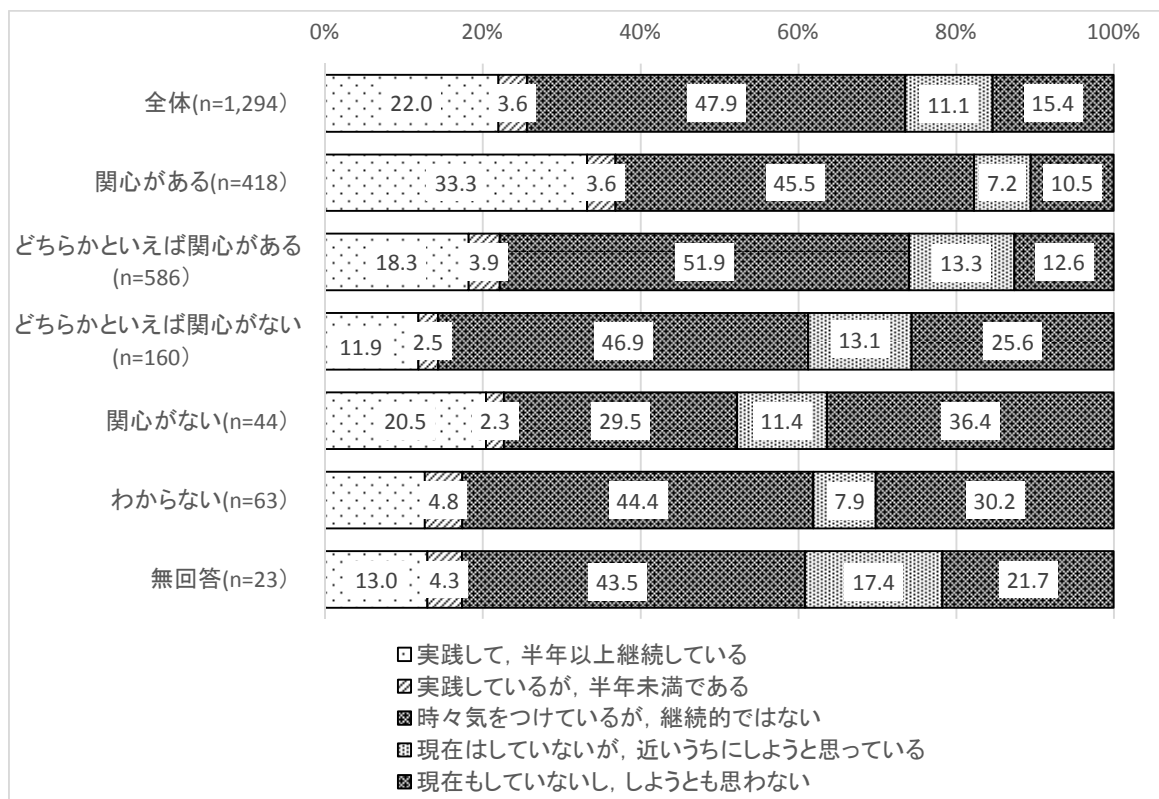


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育関心度の関連性】

- ◆ 食育関心度が高い人の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が多い傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育の関心度の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、食育に「関心がある」で33.3%と、関心度が低い人と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-5)

図表 I-3-5

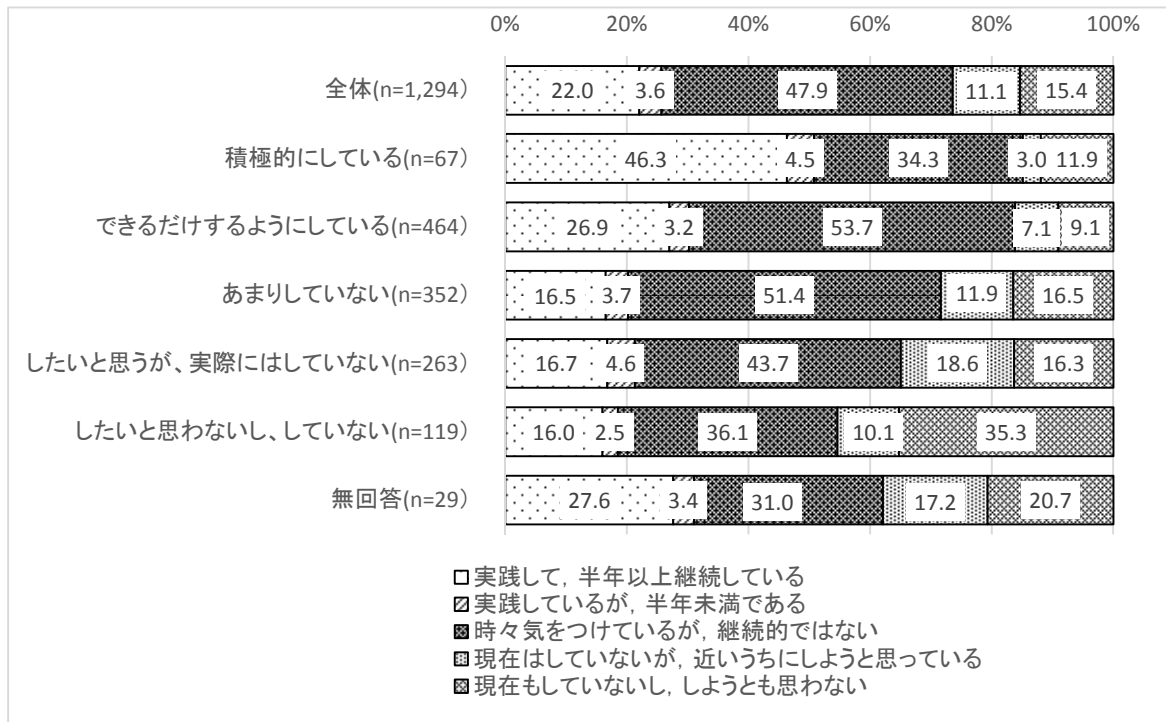


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育実践度の関連性】

- ◆ 食育実践度が高い人の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が多い傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育の実践度の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、食育の取組を「積極的にしている」(46.3%)「できるだけするようにしている」(26.9%)と、実践度が低い人と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-6)

図表 I-3-6

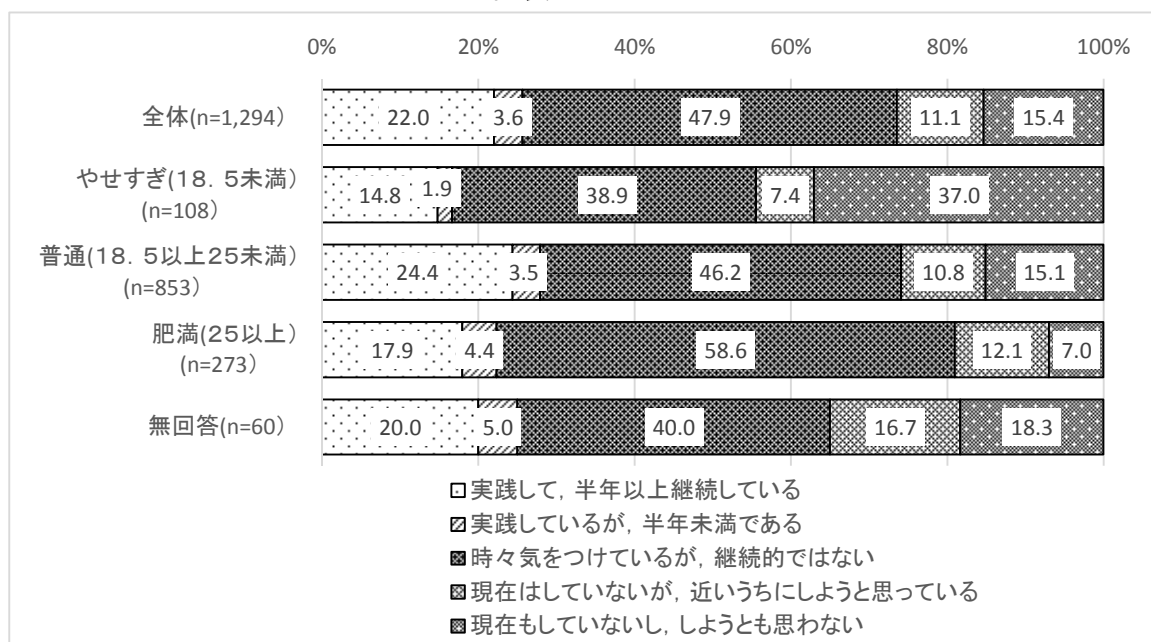


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と体型の関連性】

- ◆ 肥満の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が少ない傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と体型の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、「肥満」(17.9%)と、「普通」(24.4%)と比較して低い傾向にあった。また、「時々気をつけているが、継続的ではない」人では、「肥満」(58.6%)と「普通」(46.2%)と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-7)

図表 I-3-7



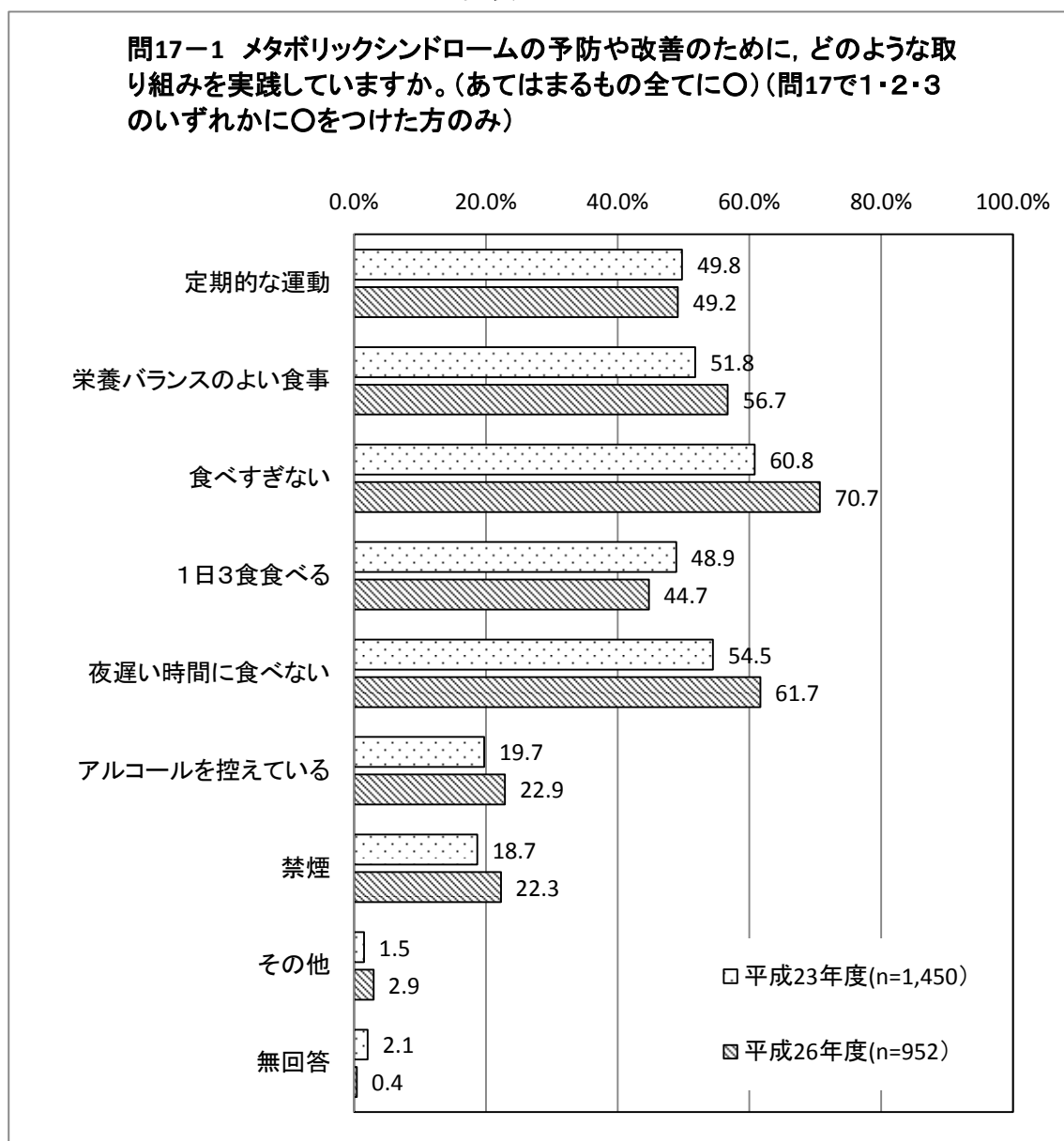
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

17-1 メタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「食べすぎない」が7割超

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について聞いたところ、「食べすぎない」(70.7%)が7割を超え、次いで「夜遅い時間に食べない」(61.7%),「栄養バランスのよい食事」(56.7%)の順となっている。(図表I-3-8)

図表 I - 3 - 8



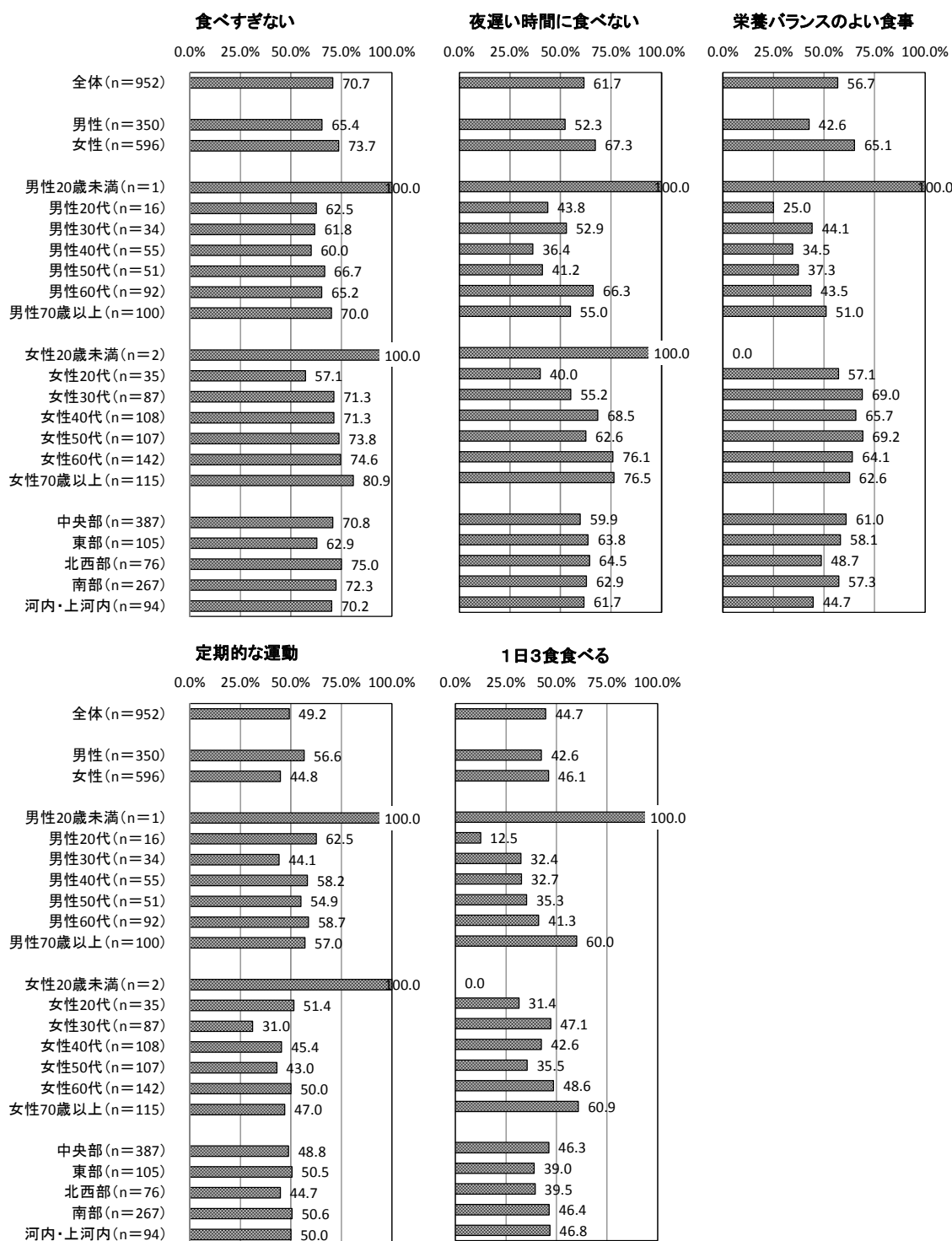
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「食べすぎない」が最も多く、男性では65.4%、女性では73.7%と高い割合となっている。

性・年齢別では、性別・全年代において「食べすぎない」が最も多くなっている。そのなかでも、「女性70歳以上」(80.9%)が最も多い。

居住地区別では、全地区において「食べすぎない」が最も多くなっている。(図表I-3-9)

図表 I - 3 - 9



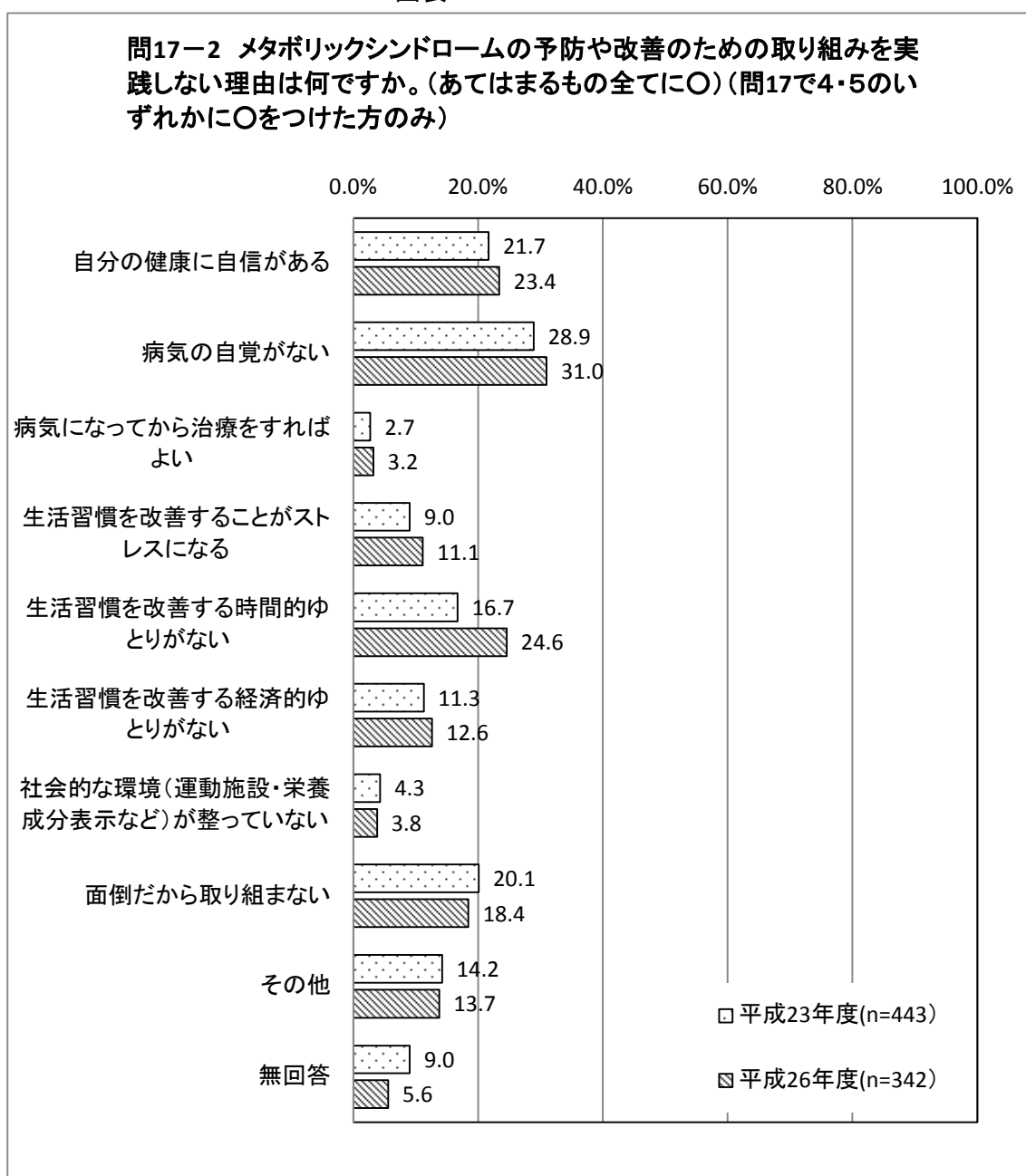
(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

17-2 メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が約3割

予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(31.0%)が最も多く、次いで、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」(24.6%)、「自分の健康に自信がある」(23.4%)の順となっている。また、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合が、平成23年度調査に比べ、約8%の増加となった。(図表I-3-10)

図表 I - 3 - 10



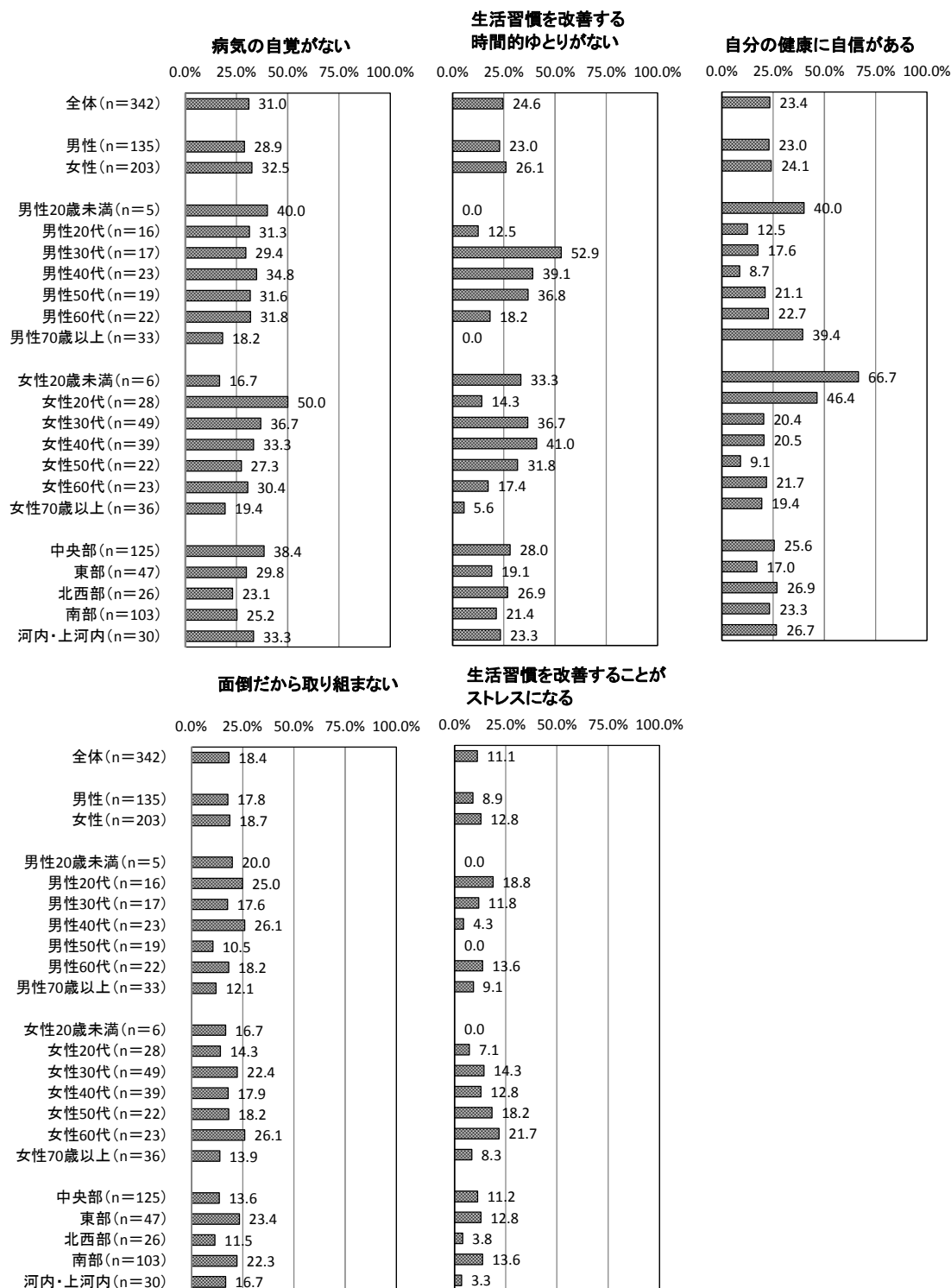
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の「病気の自覚がない」(32.5%)が男性より約4%高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「30代」～「50代」で、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合が最も多くなっている。

居住地区別では、「北西部」以外で「病気の自覚がない」が最も多くなっているが、「北西部」では「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」、「自分の健康に自信がある」が高くなっている。(図表 I-3-11)

図表 I-3-11



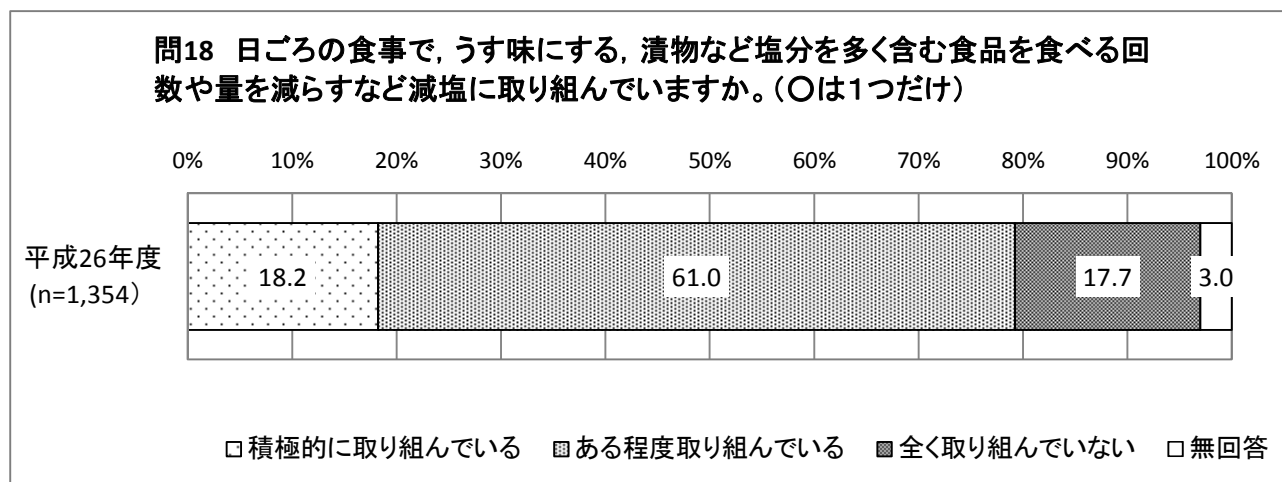
(18) 減塩の取組

18 日ごろの食事で、うす味にする、漬物など塩分を多く含む食品を食べる回数や量を減らすなど減塩に取り組んでいますか。

◆「ある程度取り組んでいる」が約6割

減塩の取組は、「ある程度取り組んでいる」(61.0%)が最も多く、次いで、「積極的に取り組んでいる」(18.2%)、「全く取り組んでいない」(17.7%)の順となっている。(図表I-3-12)

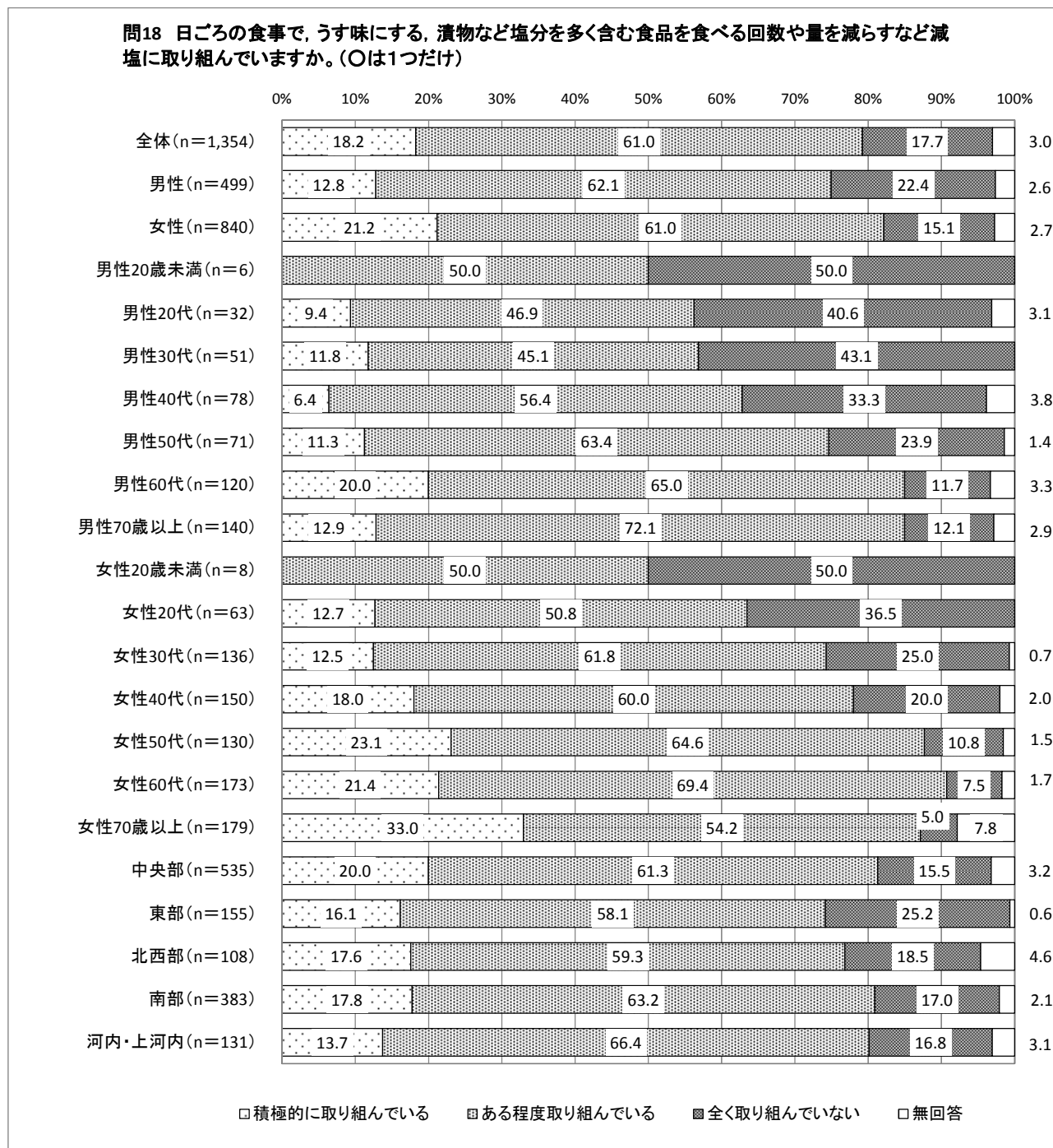
図表 I - 3 - 12



【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の「積極的に取り組んでいる」(21.2%)が男性より約8%高くなっている。
 性・年齢別では、男女ともに若い人ほど「全く取り組んでいない」の割合が多い傾向にある。
 居住地区別では、「東部」で「全く取り組んでいない」が2割と、他地区に比べ高くなっている。(図表 I - 3 - 13)

図表 I - 3 - 13



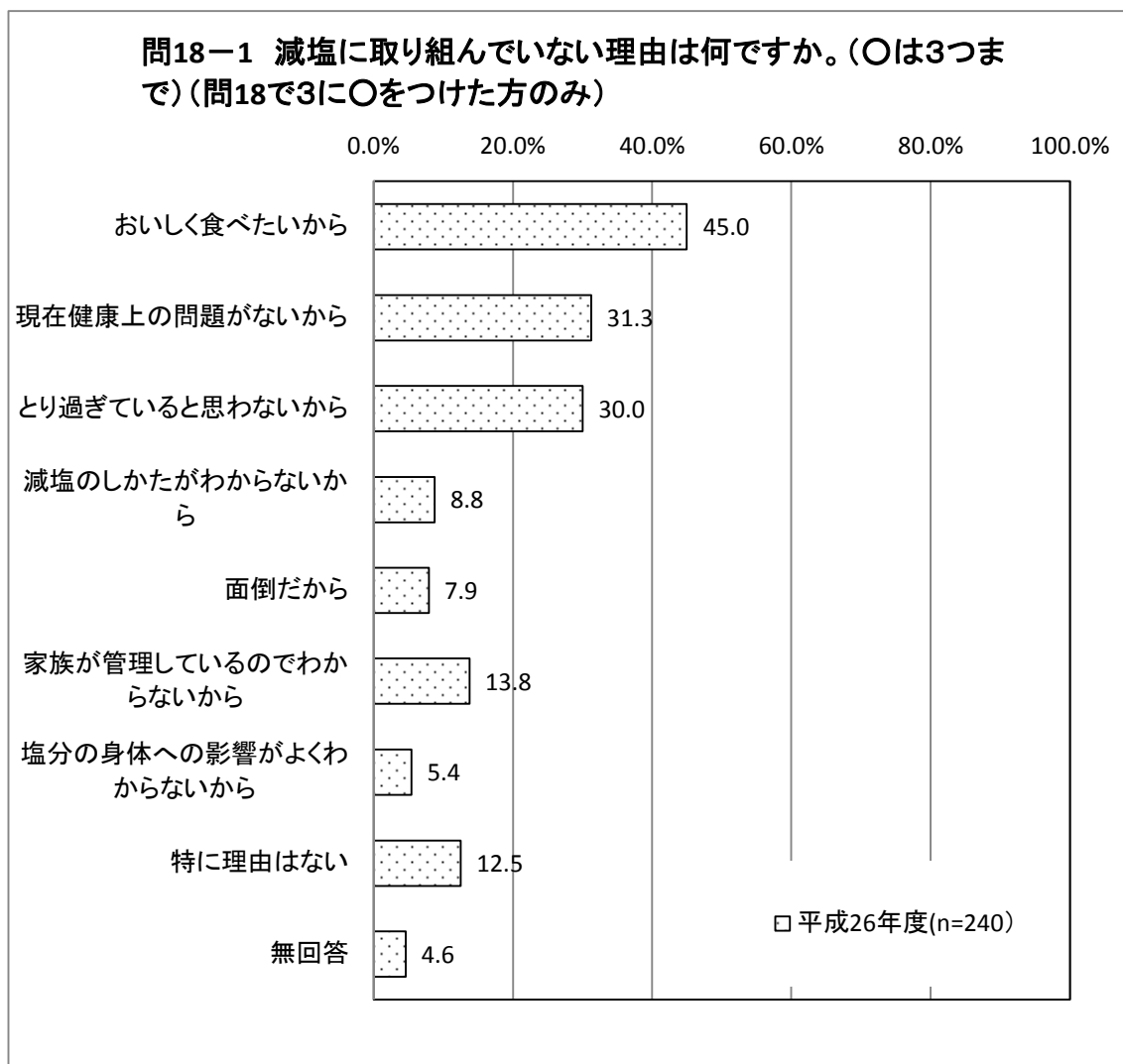
(18-1) 減塩の取組を実施しない理由

18-1 減塩に取り組んでいない理由は何ですか。

◆「おいしく食べたいから」が4割超

前問で「全く取り組んでいない」と回答した人に減塩の取組を実践しない理由を聞いたところ、「おいしく食べたいから」(45.0%)が最も多く、次いで、「現在健康上の問題がないから」(31.3%)、「とり過ぎていると思わないから」(30.0%)の順となっている。(図表I-3-14)

図表 I - 3 - 14



【性別／性・年齢別／地区別】

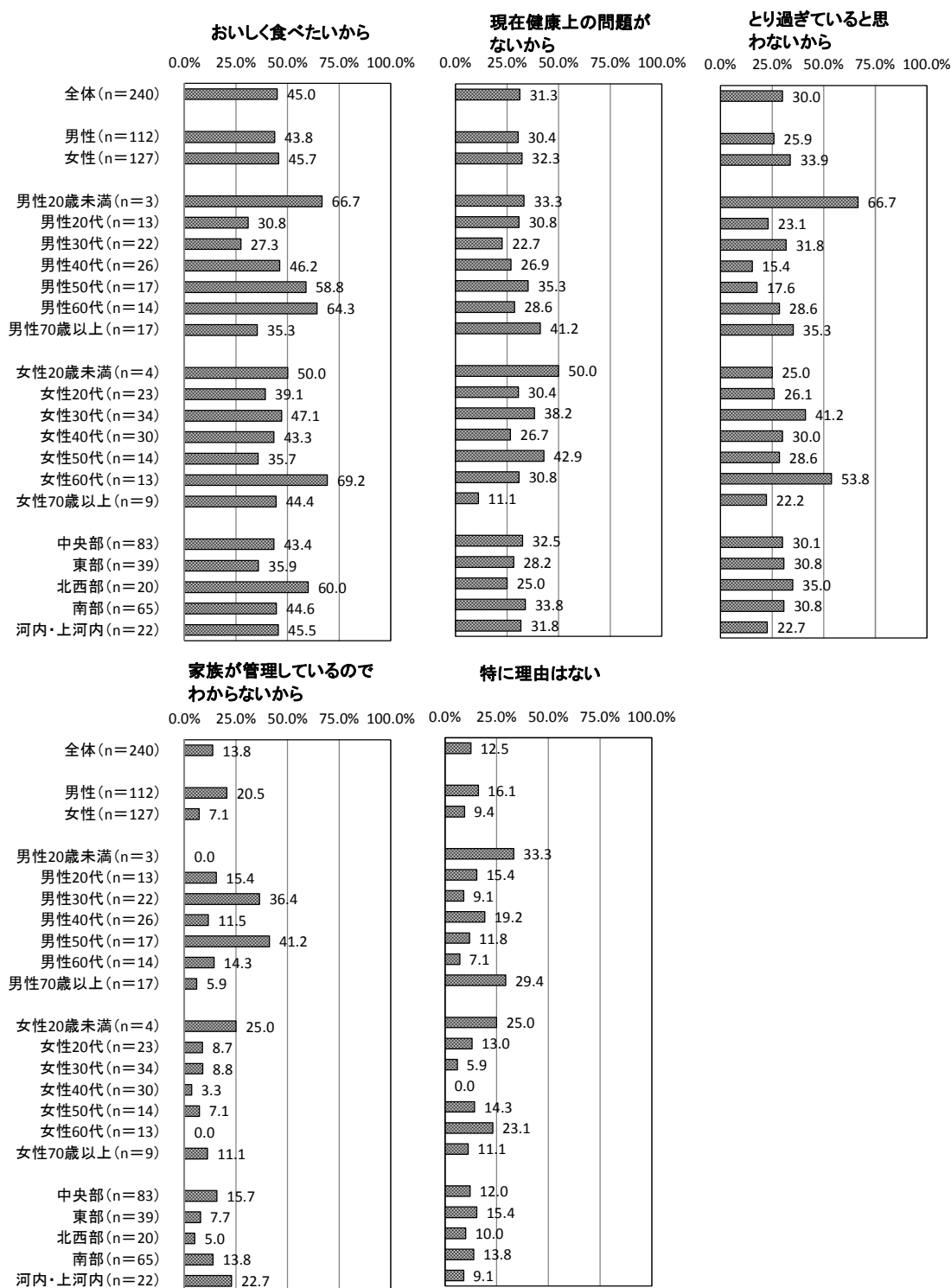
性別では、男女ともに「おいしく食べたいから」が最も多くなっている。男性の「家族が管理しているのわからない」の割合が女性より約13%も多くなっている。また、女性の「とり過ぎていると思わないから」の割合が男性より約8%多くなっている。

性・年齢別では、「男性50代」の「家族が管理しているのわからない」(41.2%)が目立っている。

居住地区別では、「東部」と「北西部」で「おいしく食べたいから」の割合で約24%の差がある。

(図表 I - 3 - 15)

図表 I - 3 - 15



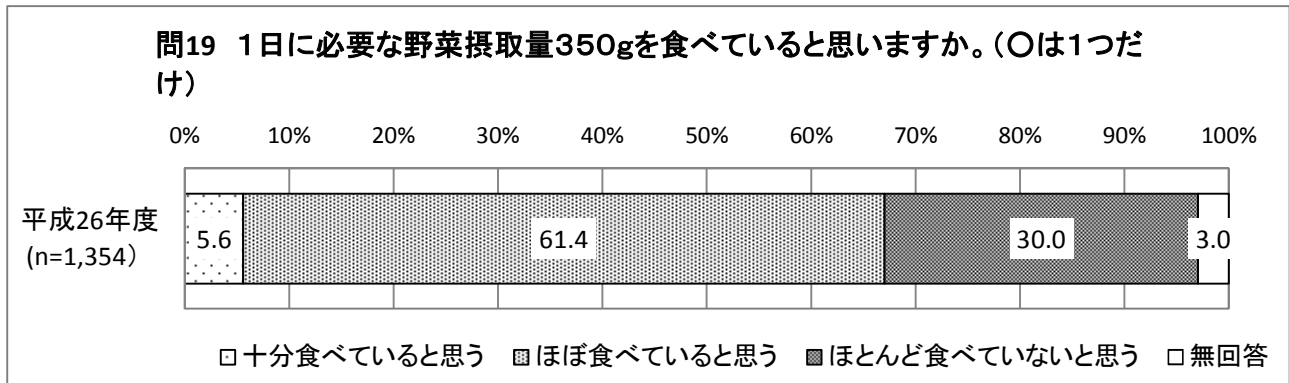
(19) 1日に必要な野菜摂取量

19 1日に必要な野菜摂取量 350g を食べていると思いますか。

◆「ほぼ食べていると思う」が約6割

野菜の摂取量については「ほぼ食べていると思う」(61.4%)が最も多く、次いで、「ほとんど食べていないと思う」(30.0%)、「十分食べていると思う」(5.6%)の順となっている。(図表I-3-16)

図表 I - 3 - 16



【性別／性・年齢別／地区別】

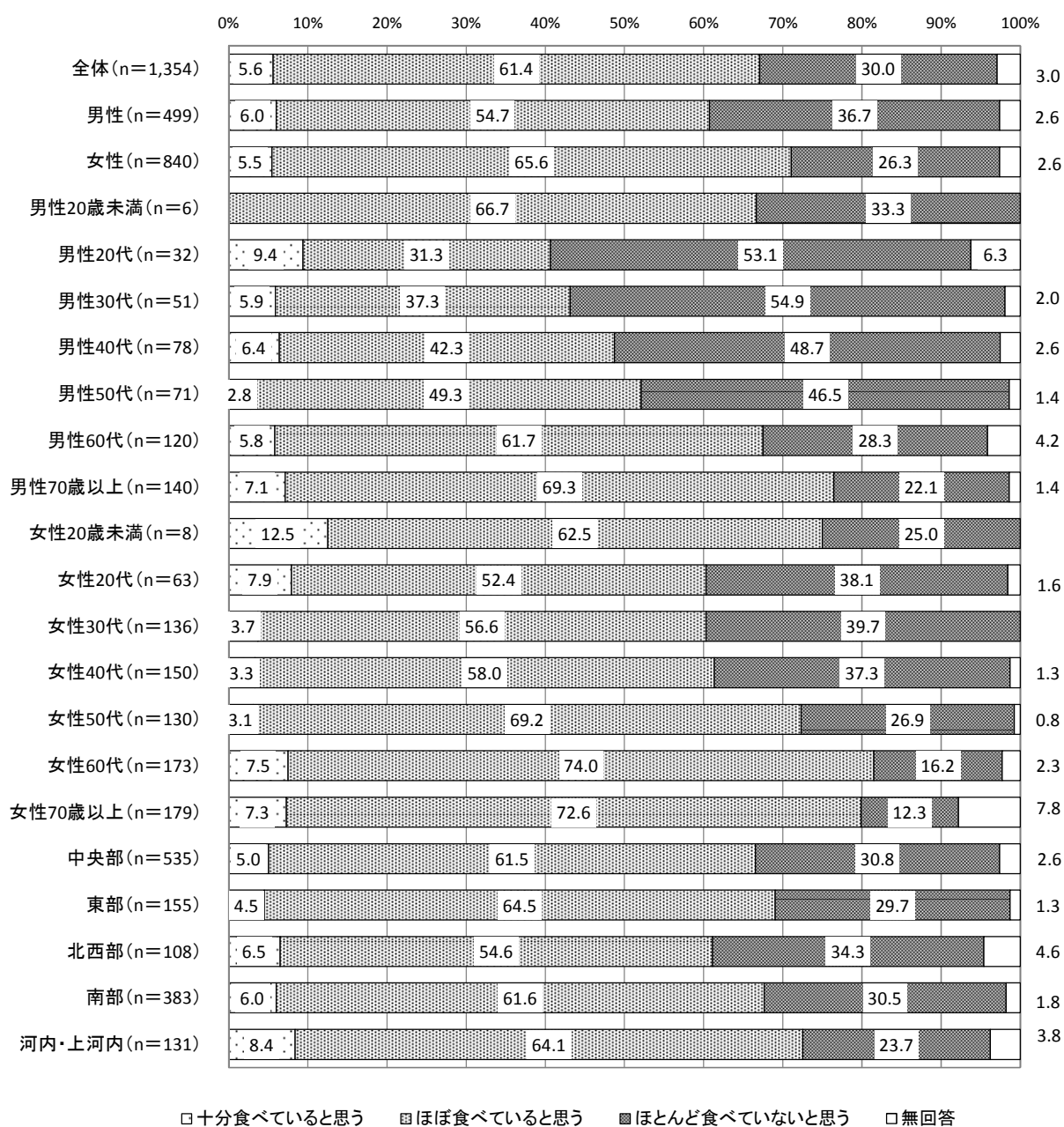
性別では、女性の「ほぼ食べていると思う」(65.6%)が男性より約11%高くなっている。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性50代」で「ほとんど食べていないと思う」の割合が5割前後と、他年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、全地区において「ほぼ食べていると思う」の割合が最も多くなっているが、「北西部」では、他地区に比べ若干低くなっている。(図表I-3-17)

図表 I - 3 - 17

問19 1日に必要な野菜摂取量350gを食べていると思いますか。(○は1つだけ)



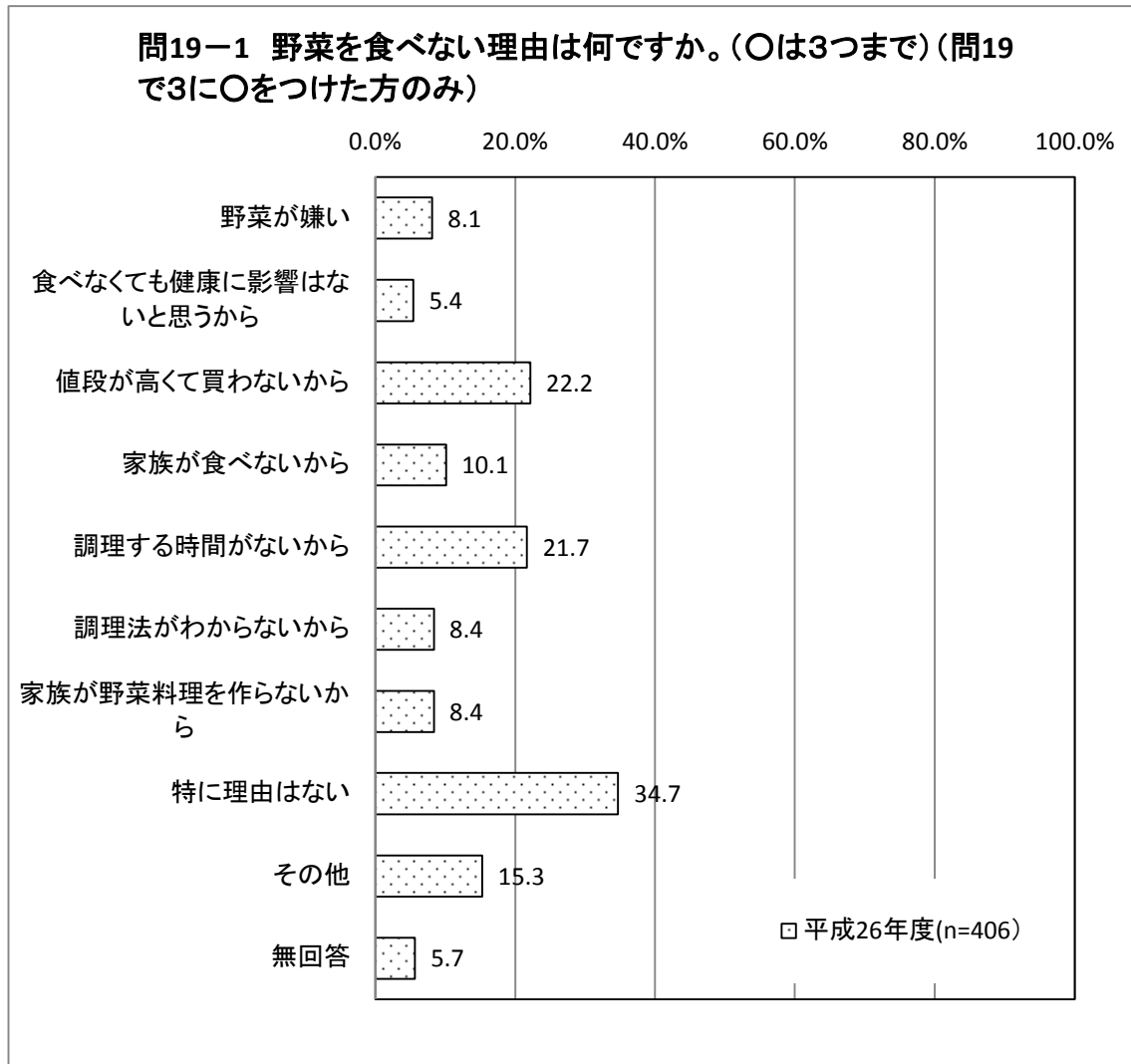
(19-1) 野菜を摂取しない理由

19-1 野菜を食べない理由は何ですか。

◆「値段が高くて買わないから」、「調理する時間がないから」が2割超

前問で「ほとんど食べていないと思う」と回答した人に野菜を食べない理由を聞いたところ、「特に理由はない」(34.7%)が最も多く、次いで、「値段が高くて買わないから」(22.2%)、「調理する時間がないから」(21.7%)の順となっている。(図表I-3-18)

図表 I - 3 - 18



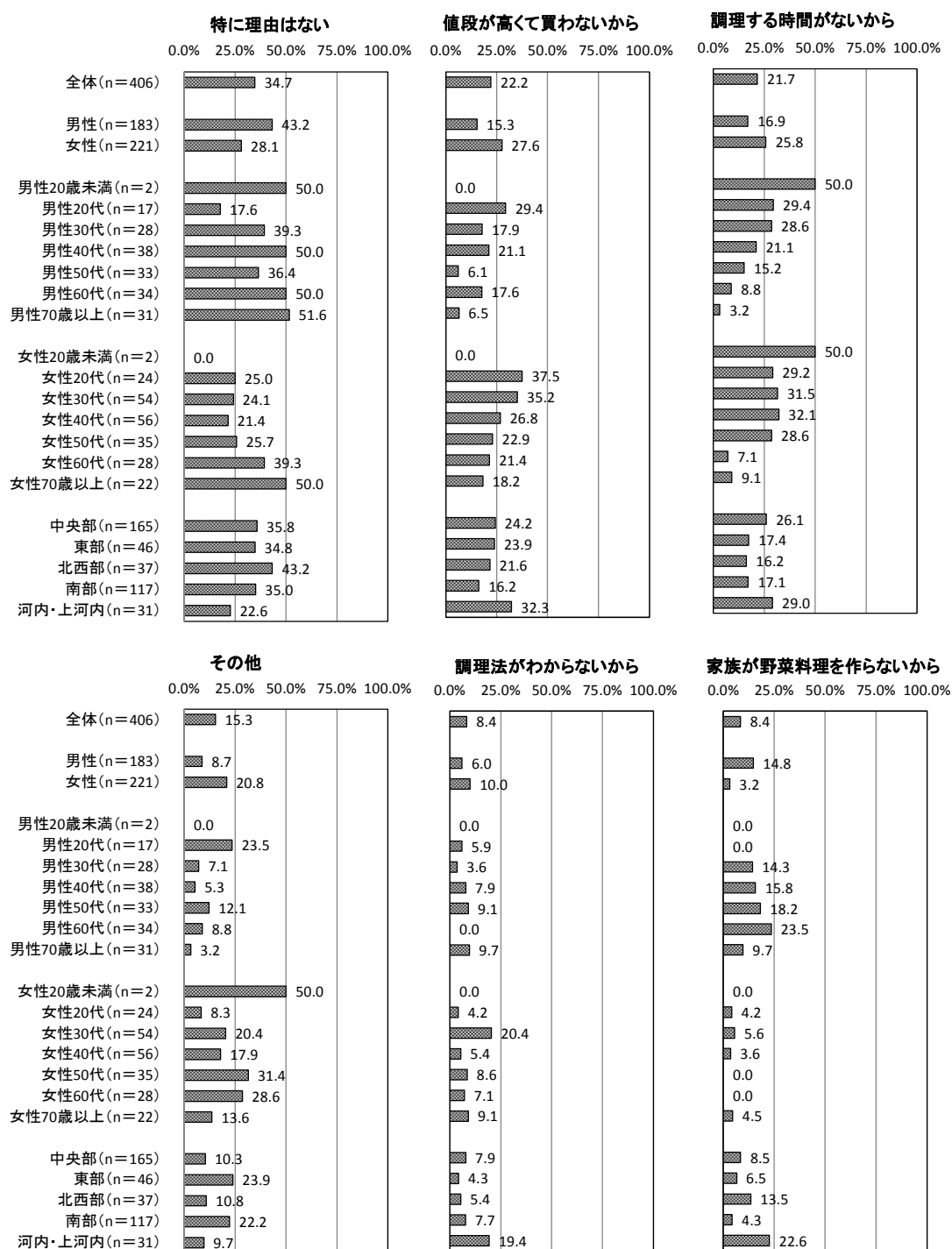
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性の「特に理由はない」(43.2%)が突出しており、女性では「特に理由はない」(28.1%)が最も多く、次いで「値段が高くて買わないから」(27.6%)となっている。

性・年齢別では、男性ではどの年代においても「特に理由はない」が多くなっているが、女性では、「女性20代」と「女性30代」では「値段が高くて買わないから」、「女性20代～50代」では「調理する時間がないから」が3割程度だった。

居住地区別では、「河内・上河内」以外で「特に理由はない」が最も多くなっているが、「河内・上河内」では「値段が高くて買わないから」(32.3%)が最も高くなっている。(図表I-3-19)

図表 I - 3 - 19



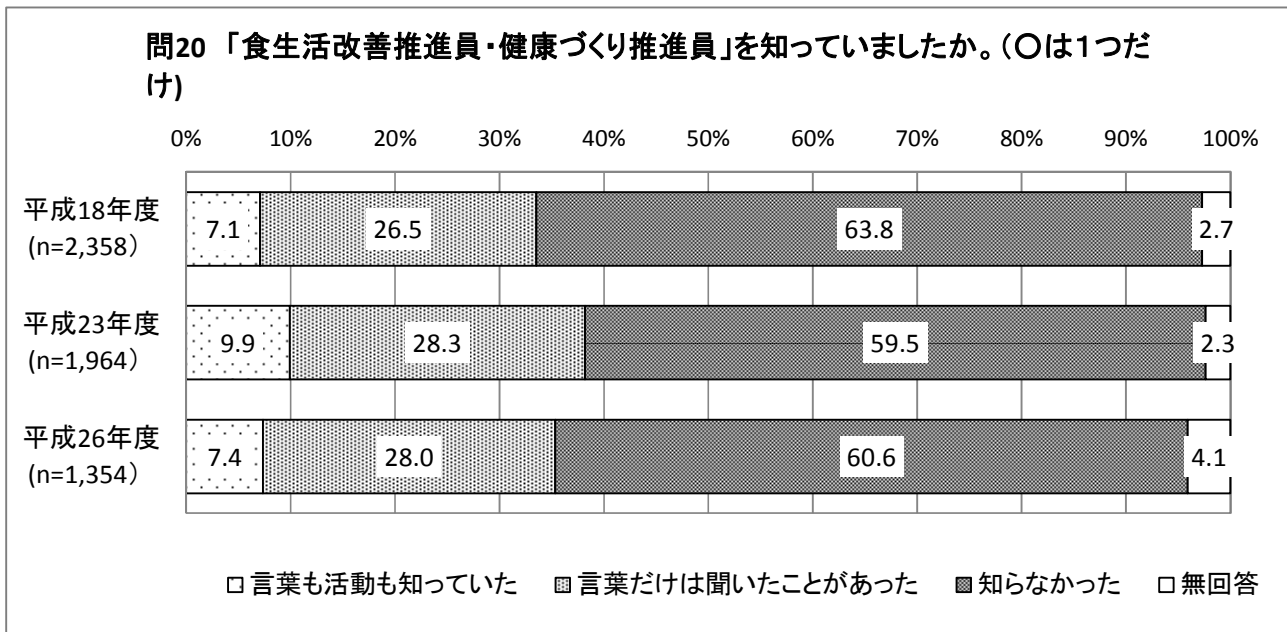
(20) 食生活改善推進員・健康づくり推進員の認知度

20 「食生活改善推進員・健康づくり推進員」を知っていましたか。

◆「知らなかった」が約6割

「食生活改善推進員・健康づくり推進員」の認知度は、「言葉も活動も知っていた」(7.4%)、「言葉だけは聞いたことがあった」(28.0%)となっており、平成23年度の水準を維持している。(図表I-4-1)

図表 I - 4 - 1



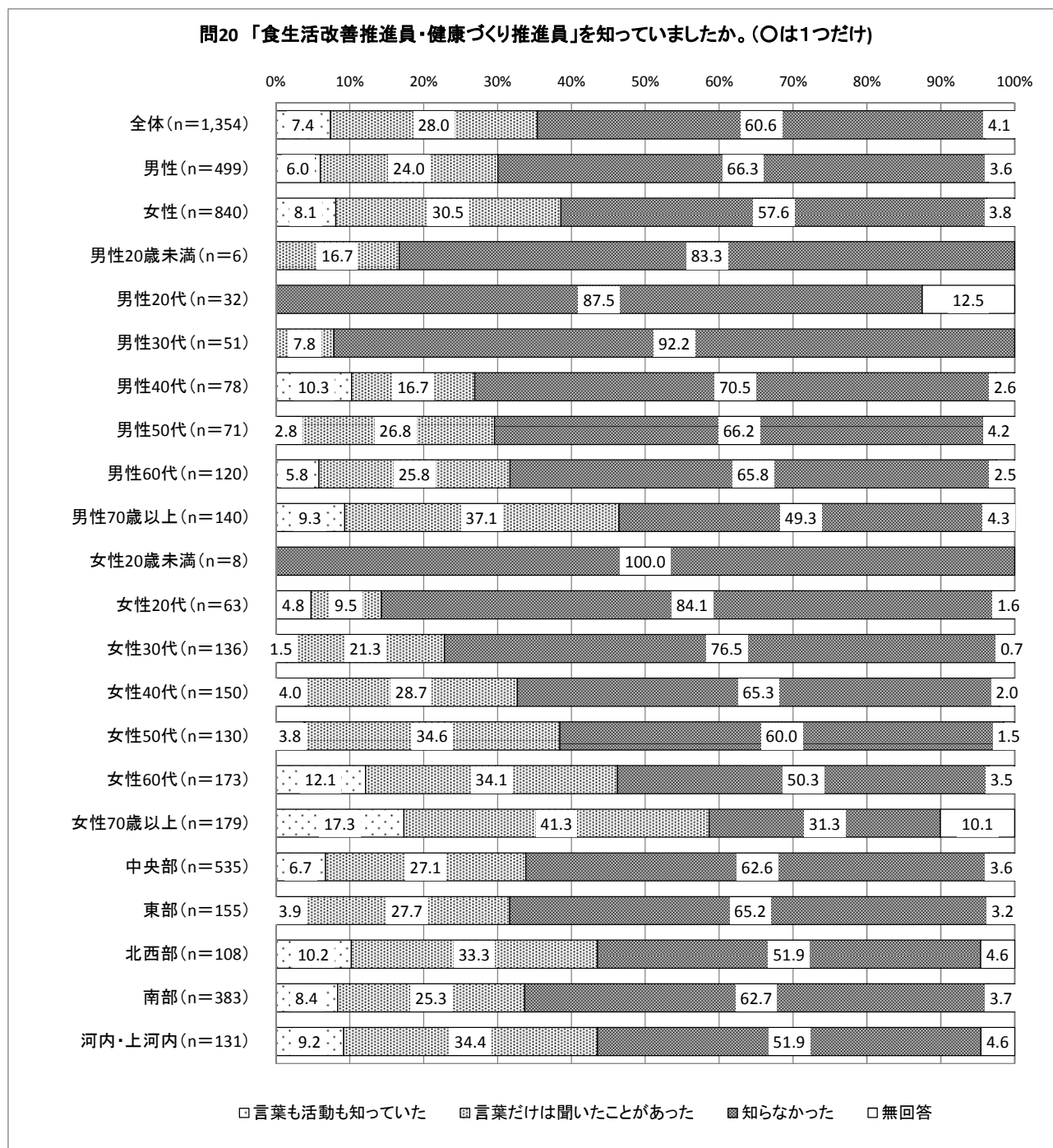
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「知らなかった」の割合が高いが、男性は66.3%と、女性の57.6%より約9%高くなっている。

性・年齢別では、女性は、年齢が低くなるほど「知らなかった」の割合が高くなり、「20歳代」では8割台となっている。また、「男性30代」で「知らなかった」の割合が9割を超えている。

居住地区別では、「東部」と「北西部」で「言葉も活動も知っていた」の割合に約6%の差があった。(図表I-4-2)

図表 I - 4 - 2



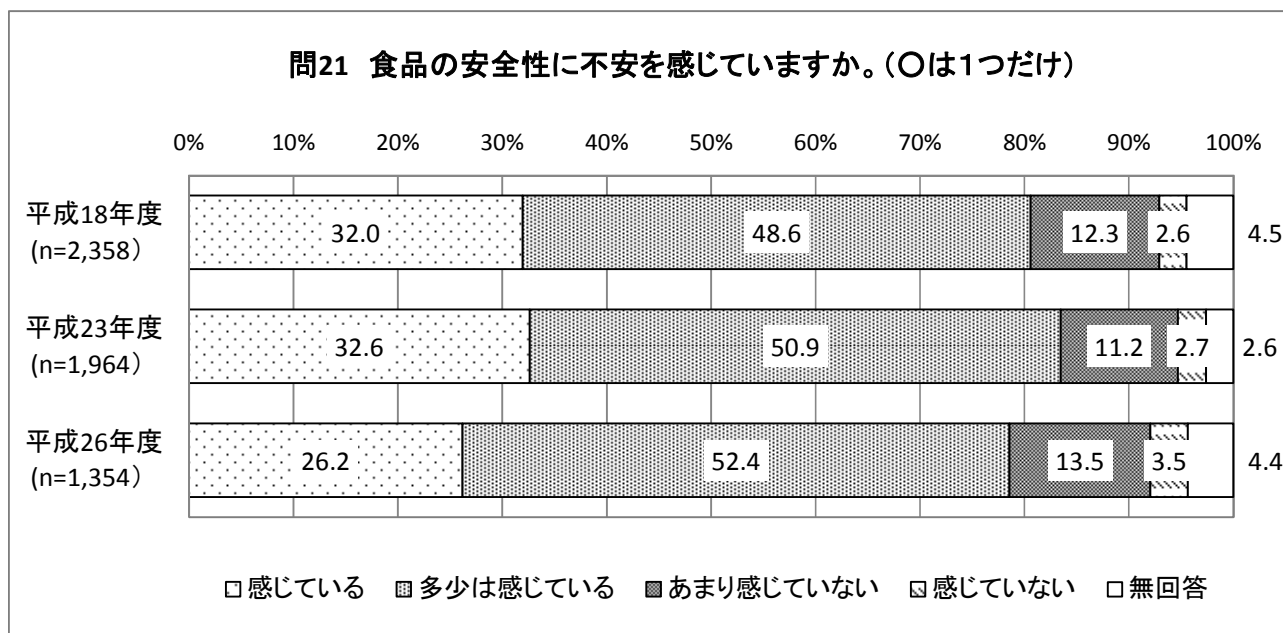
(21) 食品の安全性への不安

21 食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が約8割

食品の安全性に不安を感じるかは、「感じている」が26.2%と、平成23年度調査（32.6%）から減少している。「多少は感じている」（52.4%）、「あまり感じていない」（13.5%）、「感じていない」（3.5%）は、微増となっている。（図表I-5-1）

図表 I - 5 - 1



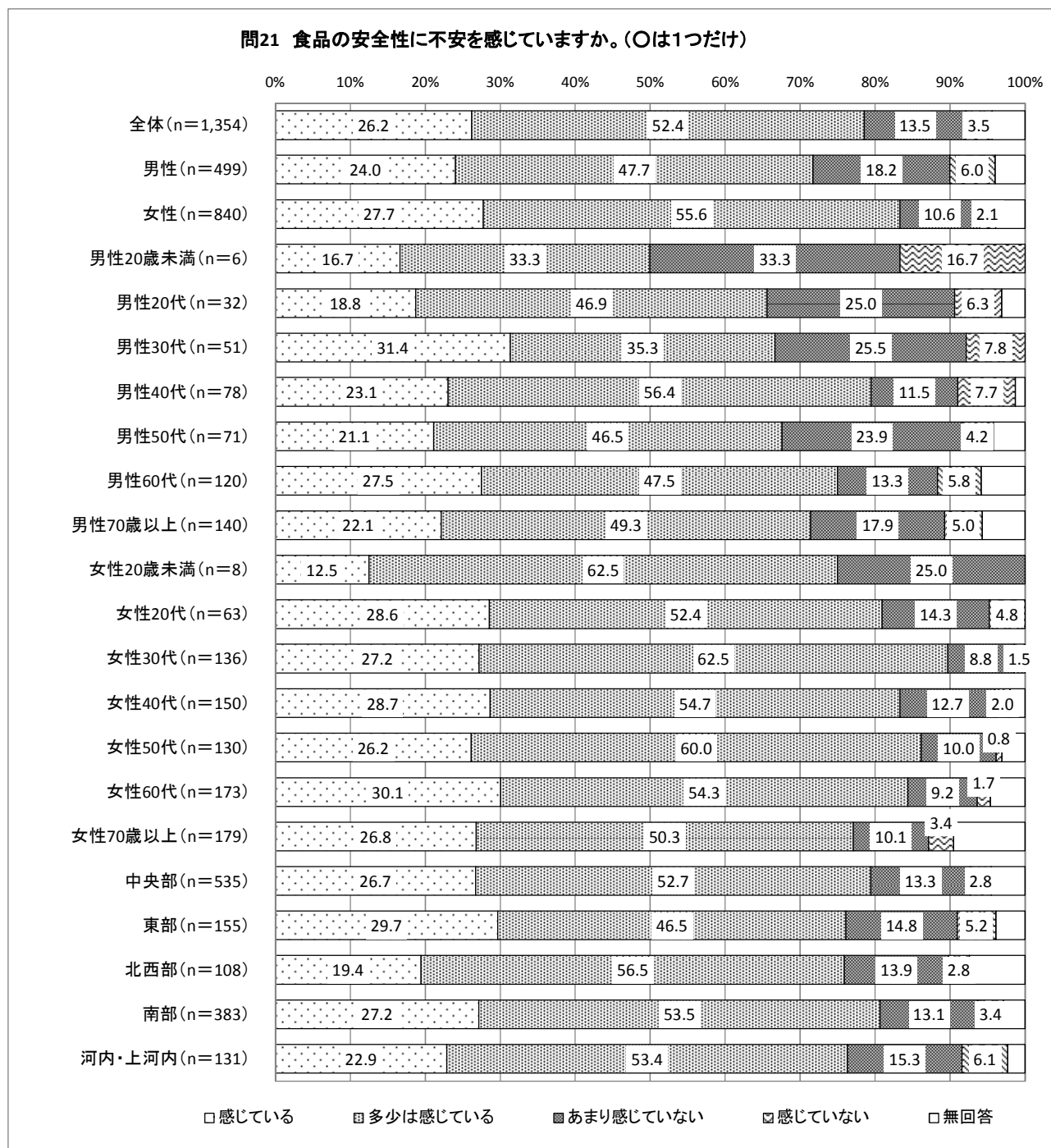
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、男性71.7%、女性83.3%となっており、女性の方が約12%高くなっている。

性・年齢別では、全体的に女性の方が「感じている」割合が高くなっており、「女性30代」が89.7%で最も高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」と「東部」で「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）（21.4%）が2割を超えている。（図表I-5-2）

図表 I - 5 - 2



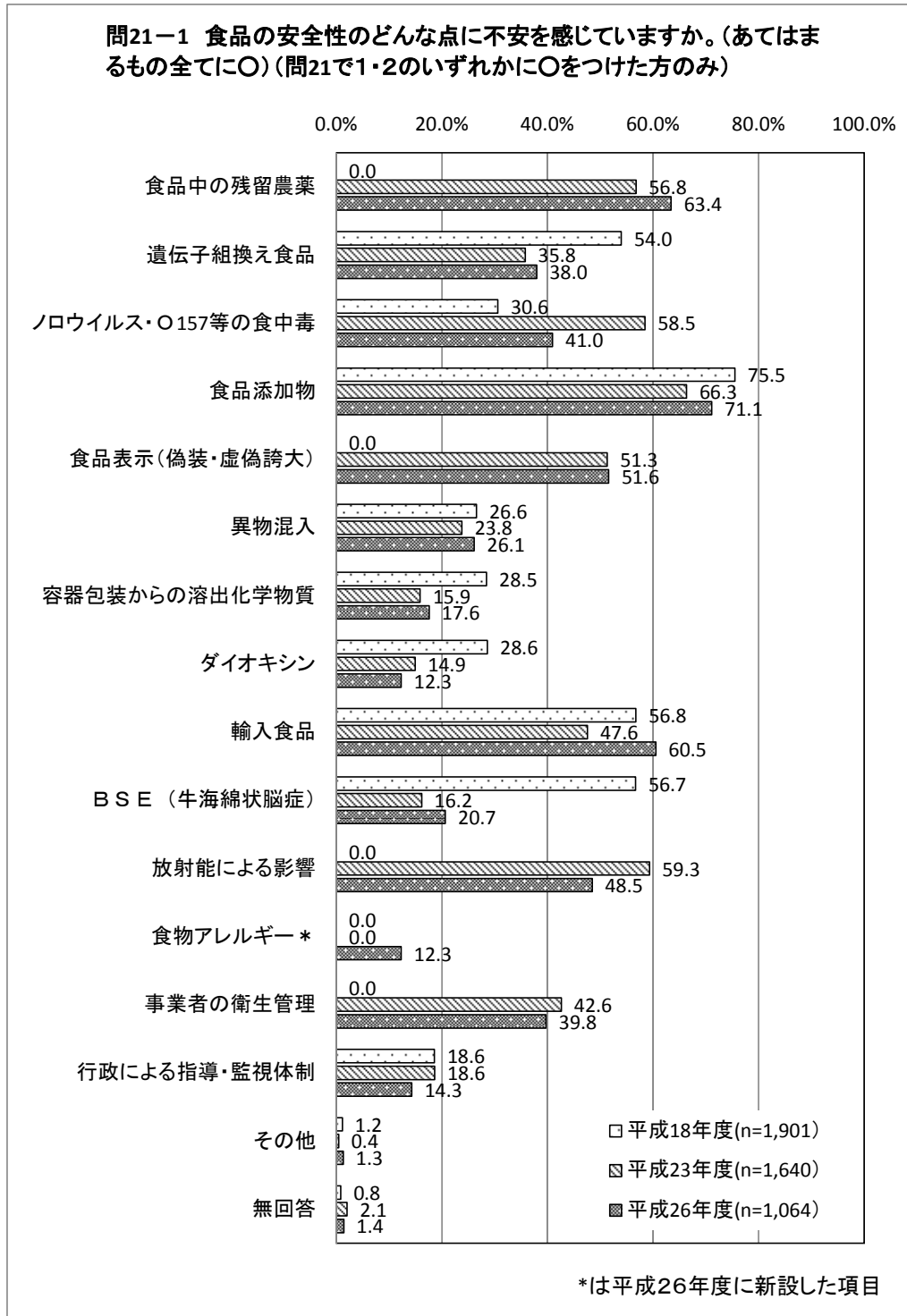
(21-1) 不安の内容

21-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「ノロウイルス・O157等の食中毒」,「放射能による影響」が減少

不安の内容は、「食品添加物」が71.1%と最も多くなっている。また、「食品中の残留農薬」(63.4%),「輸入食品」(60.5%),「食品表示(偽造・虚偽誇大)」(51.6%), も高い割合となっている。(図表I-5-3)

図表 I - 5 - 3



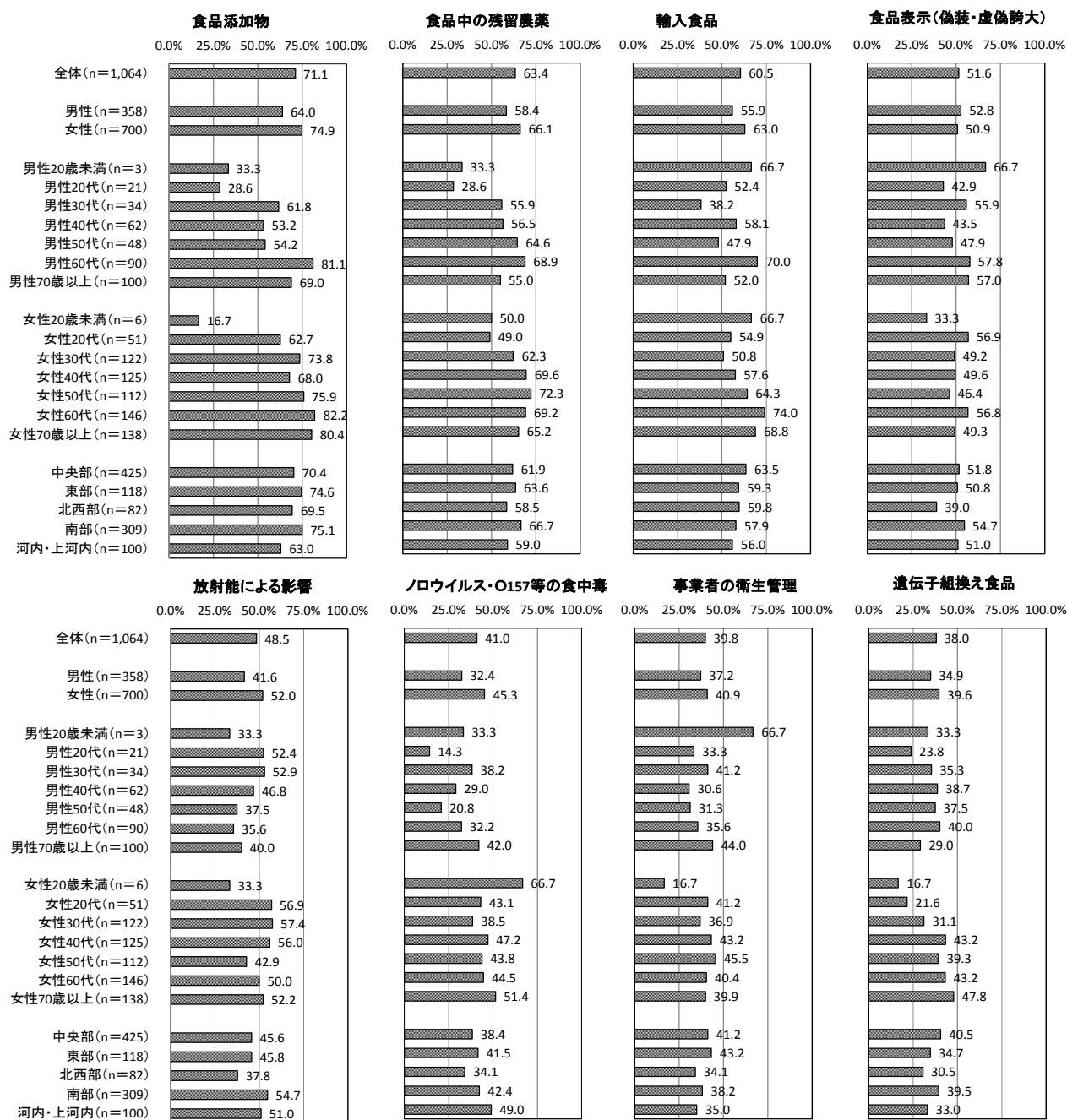
【性別／性・年齢別／地区別】

上位8項目を性別で見ると、ほぼ全ての項目で女性の方が男性よりも高くなっている。特に「ノロウイルス・O157等の食中毒」では男女差が約13%と大きくなっている。

性・年齢別では、「食品添加物」は「男性60代」「女性50代」～「女性70歳以上」で高くなっている。また、男女ともに「20代」で「食品表示(偽装・虚偽誇大)」の割合が高くなっている。

居住地区別では、特に大きな開きは見られないが、「食品表示(偽装・虚偽誇大)」,「放射能による影響」などで、他地区に比べ「北西部」で低くなっている。(図表I-5-4)

図表 I - 5 - 4 (上位8項目)



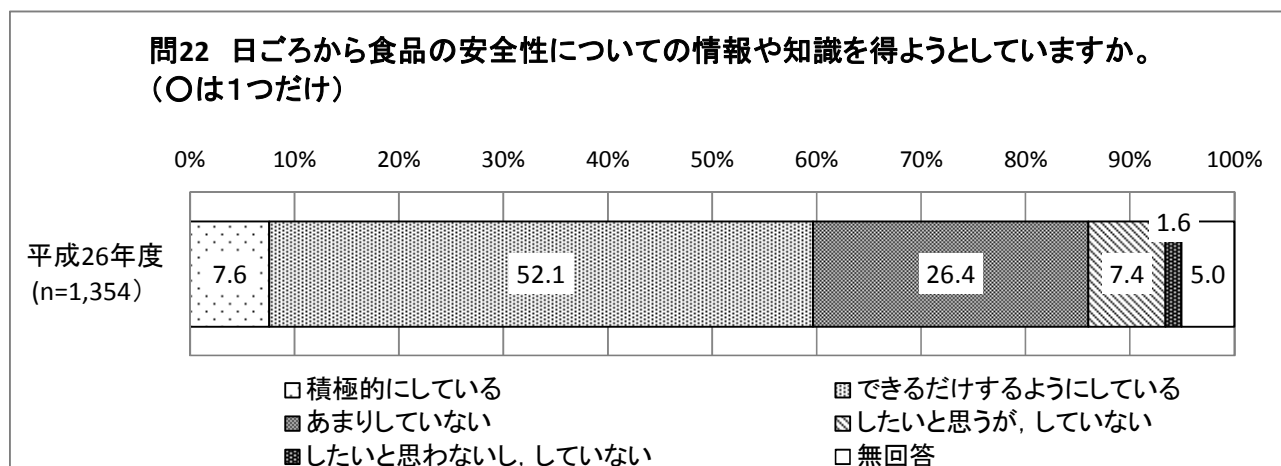
(22) 食品の安全性についての情報や知識の習得

22 日ごろから食品の安全性についての情報や知識を得ようとしていますか。

◆「している」が約6割

食品の安全性についての情報や知識の習得は、「できるだけするようにしている」が52.1%と半数を超え、「積極的にしている」と合わせると、59.7%となっている。(図表I-5-5)

図表 I - 5 - 5



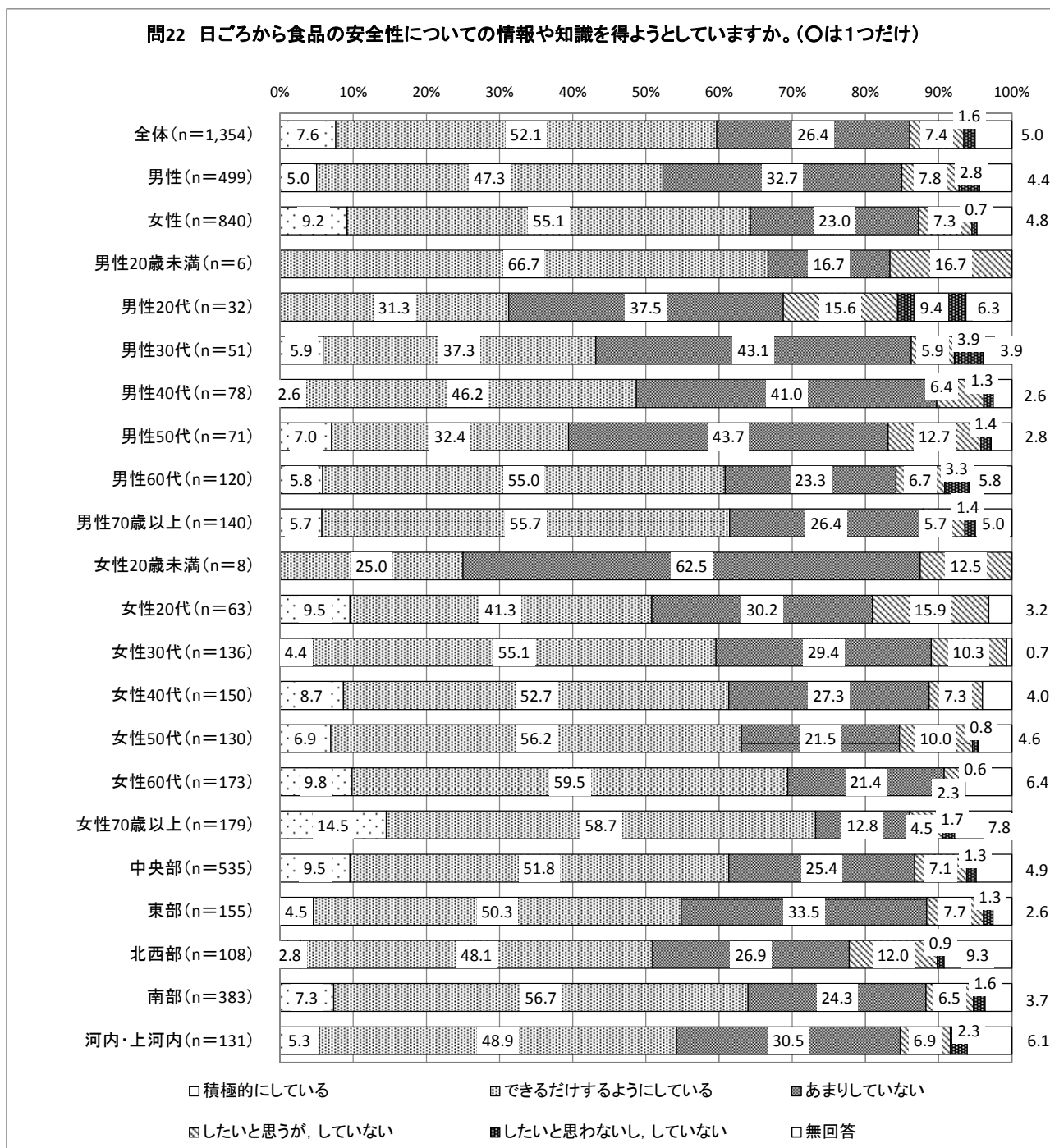
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）は、男性 52.3%、女性 64.3%となっており、女性の方が約 12%高くなっている。

性・年齢別では、「男性 20 代」、「男性 30 代」、「男性 50 代」で「していない」（「あまりしていない」と「したいと思うが、していない」の合計）が「している」の割合を上回っている。

居住地区別では、「中央部」で「積極的にしている」（9.5%）の割合が他地区に比べ高くなっており、「北西部」（2.8%）は他地区に比べ低い。（図表 I - 5 - 6）

図表 I - 5 - 6



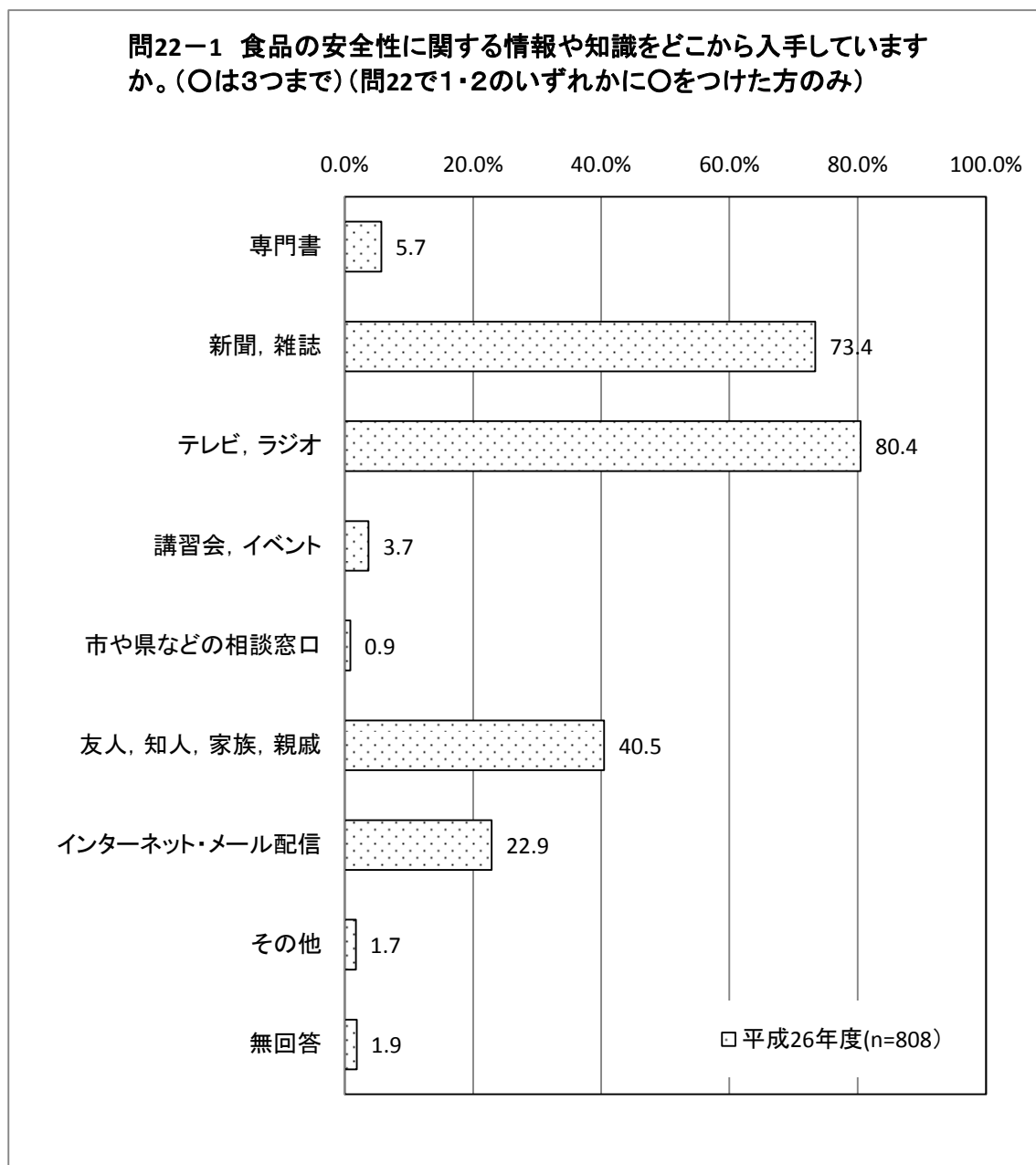
(22-1) 食品の安全性についての情報や知識の習得方法

22-1 食品の安全性に関する情報や知識をどこから入手していますか。

◆「テレビ，ラジオ」が約8割

食品の安全性に関する情報や知識の入手先は、「テレビ，ラジオ」が80.4%と最も多くなっている。次いで「新聞，雑誌」(73.4%)，「友人，知人，家族，親戚」(40.5%)となっている。(図表I-5-7)

図表 I - 5 - 7



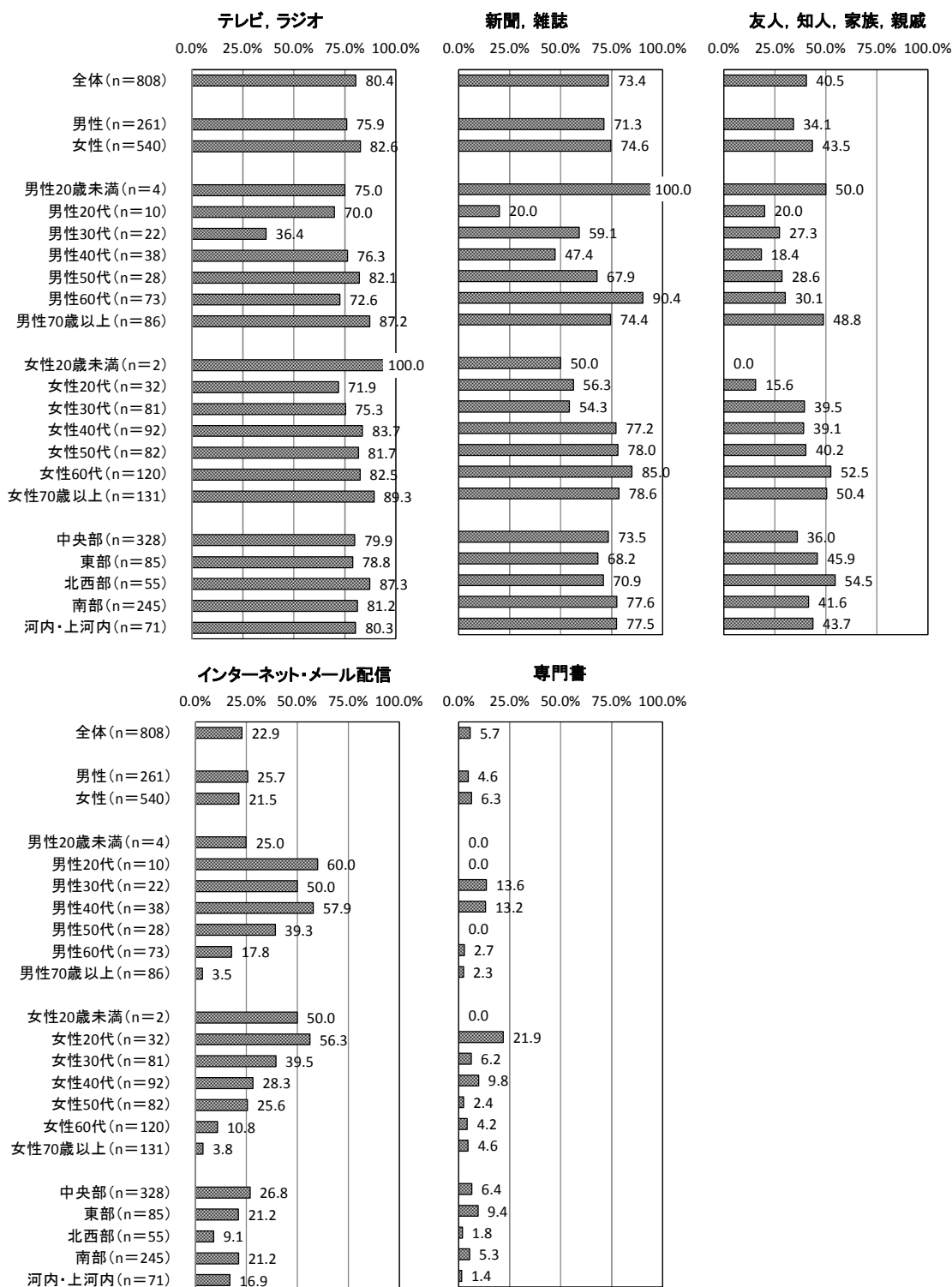
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも「テレビ、ラジオ」と「新聞、雑誌」の割合が7割を超えている。

性・年齢別では、男女とも年齢が低くなるほど、「インターネット・メール配信」の割合が高くなる傾向にある。また、年齢が高くなるほど、「テレビ、ラジオ」や「新聞、雑誌」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「北西部」で「インターネット・メール配信」の割合が他地区に比べ低くなっている。(図表 I - 5 - 8)

図表 I - 5 - 8



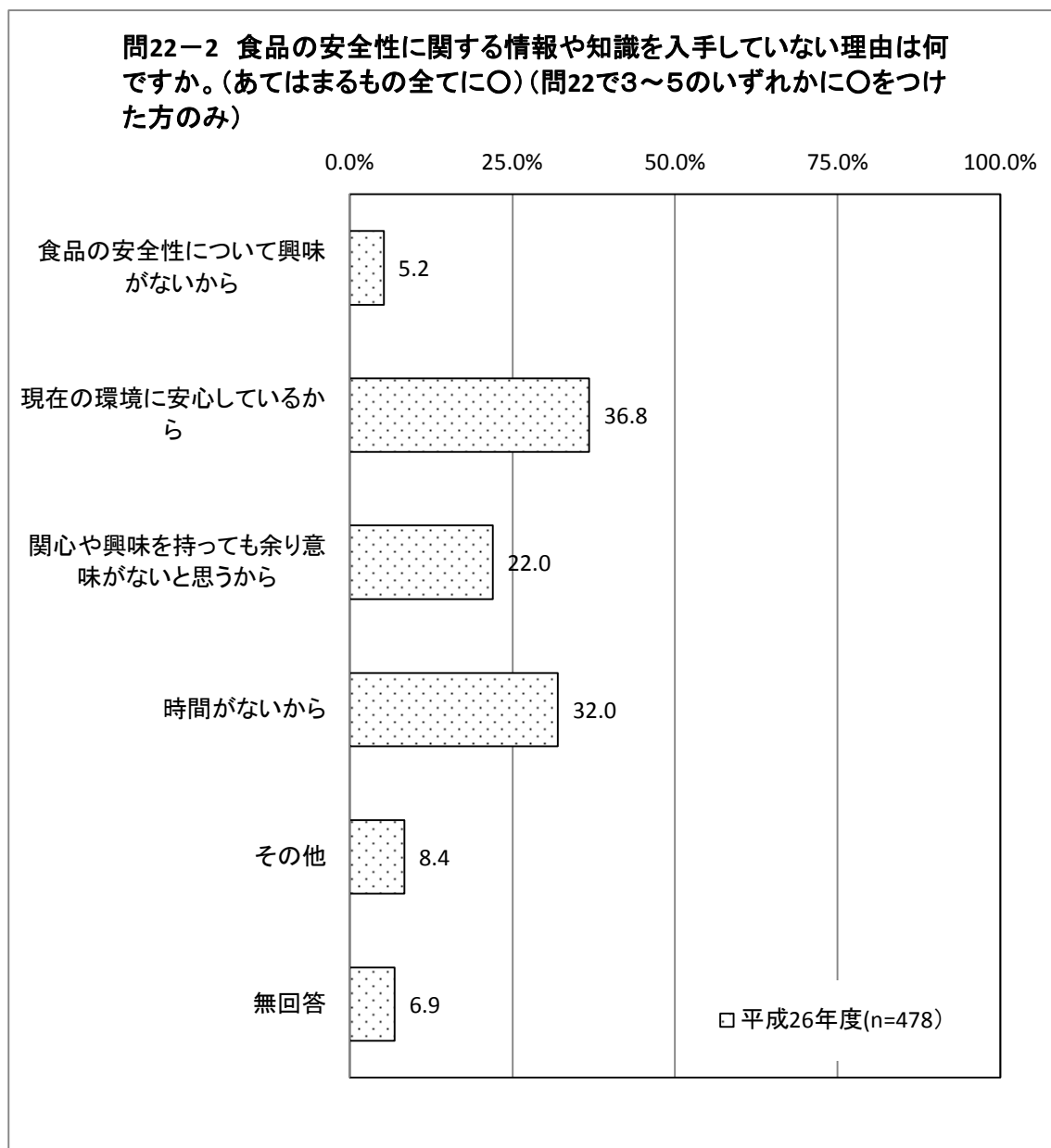
(22-2) 食品の安全性についての情報や知識を習得しない理由

22-2 食品の安全性に関する情報や知識を入手していない理由は何ですか。

◆「現在の環境に安心しているから」が約4割

前問で「あまりしていない」「したいと思うが、していない」「したいと思わないし、していない」と回答した人に食品の安全性に関する情報や知識を入手していない理由を聞いたところ、「現在の環境に安心しているから」が36.8%と最も多く、次いで「時間がないから」(32.0%)、「関心や興味を持ってあまり意味がないと思うから」(22.0%)となっている。(図表I-5-9)

図表 I - 5 - 9



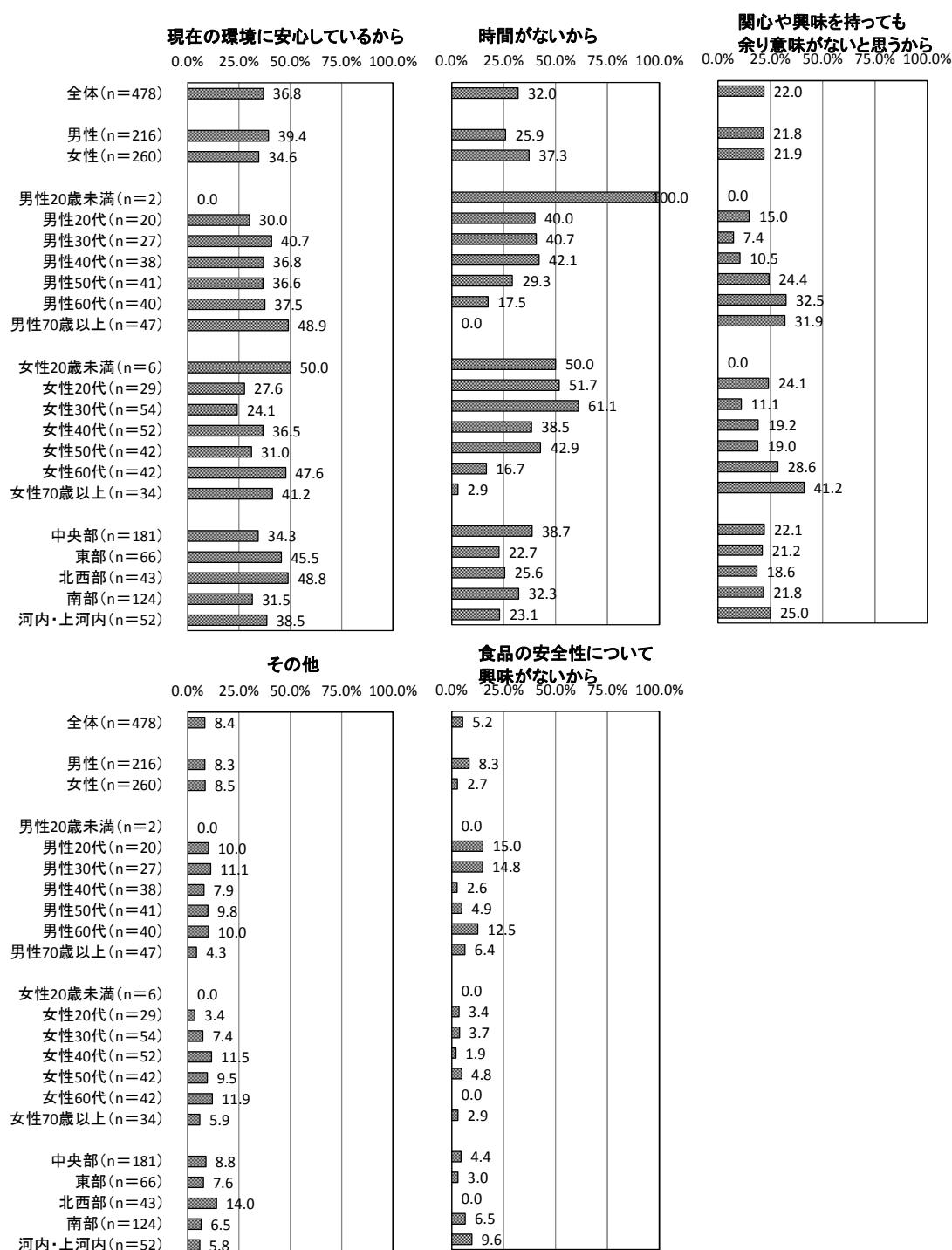
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男性では「現在の環境に安心しているから」、女性では「時間がないから」の割合が最も高くなっている。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性40代」と「女性20代」～「女性50代」で「時間がないから」、「男性50代」～「男性70歳以上」、「女性60代」～「女性70歳以上」で「現在の環境に安心しているから」の割合が高くなっている。また、「女性70歳以上」では「関心や興味を持ってあまり意味がないと思うから」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「東部」、「北西部」、「河内・上河内」で「現在の環境に安心しているから」、「中央部」、「南部」で「時間がないから」の割合が高くなっている。(図表 I-5-10)

図表 I-5-10



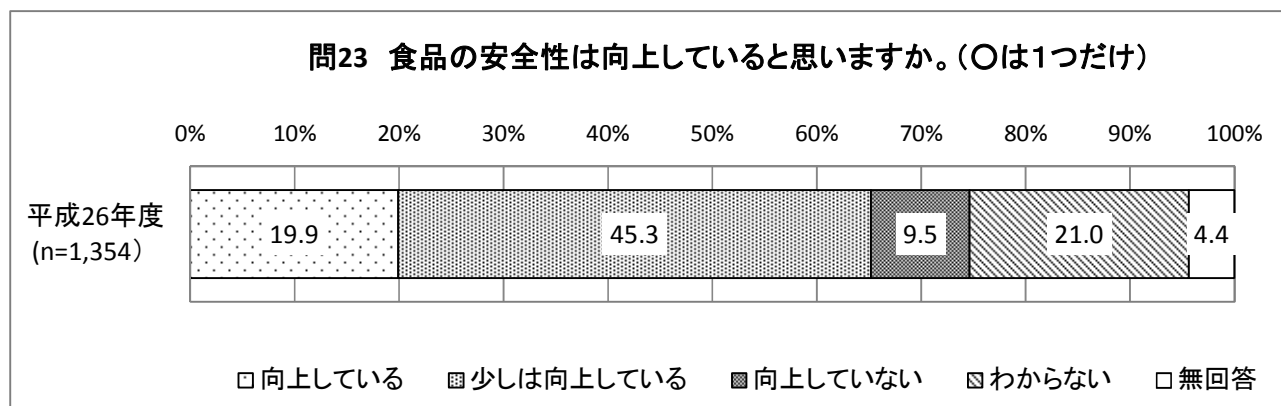
(23) 食品の安全性の向上

23 食品の安全性は向上していると思いますか。

◆「向上している」が6割超

食品の安全性は向上していると思うか聞いたところ、「少しは向上している」(45.3%)と「向上している」(19.9%)を合わせた「向上している」が65.2%と6割を超え、「向上していない」(9.5%)は約1割となっている。(図表I-5-11)

図表 I - 5 - 11



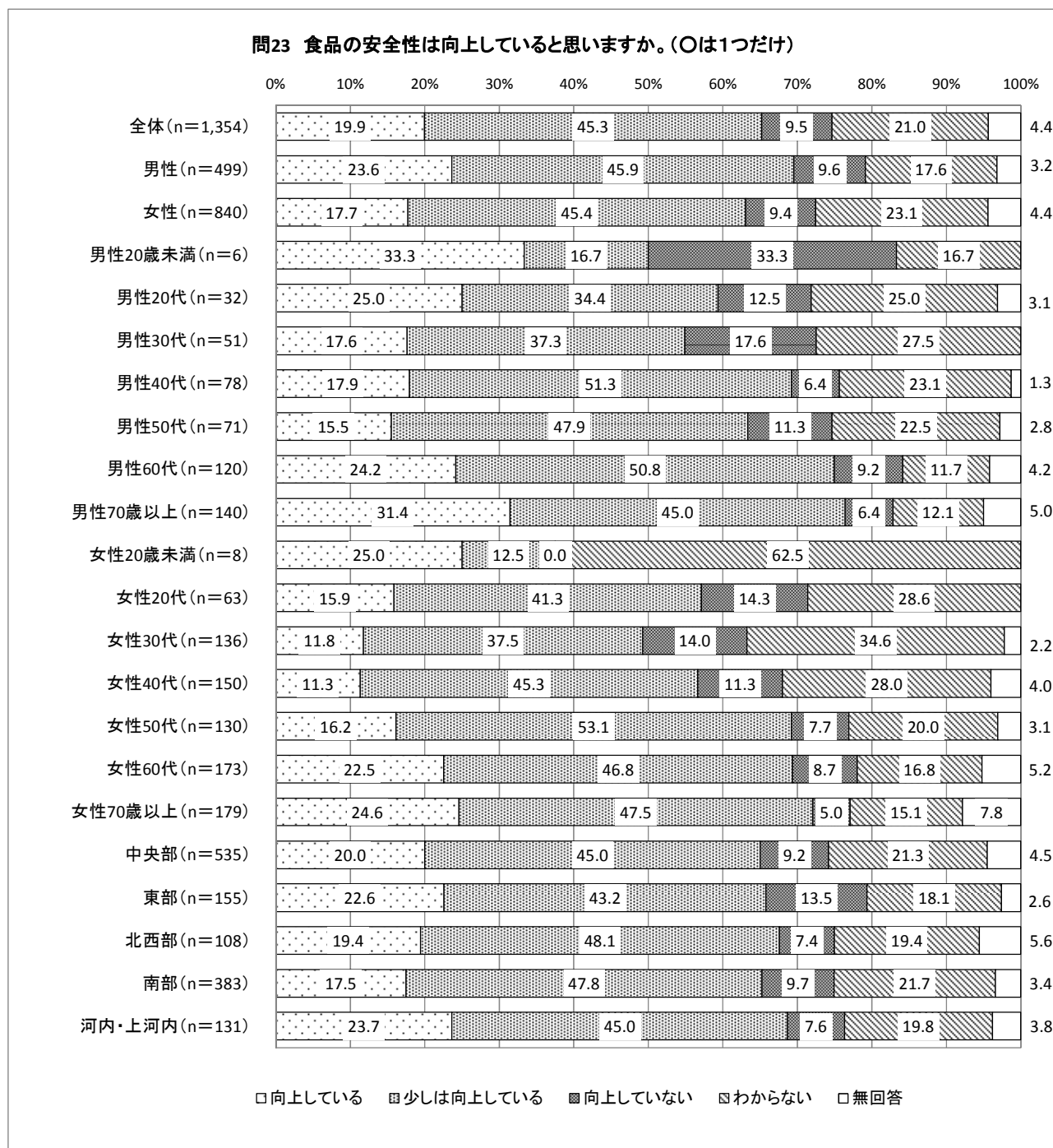
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「向上している」（「向上している」と「少しは向上している」の合計）は、男性 69.5%、女性 63.1%となっており、男性の方が約6%高くなっている。

性・年齢別では、男女ともに年齢が高くなるほど、「向上している」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、全地区で「向上している」の割合が6割を超えているが、「東部」の「向上していない」の割合が他地区に比べて高くなっている。（図表 I - 5 - 12）

図表 I - 5 - 12



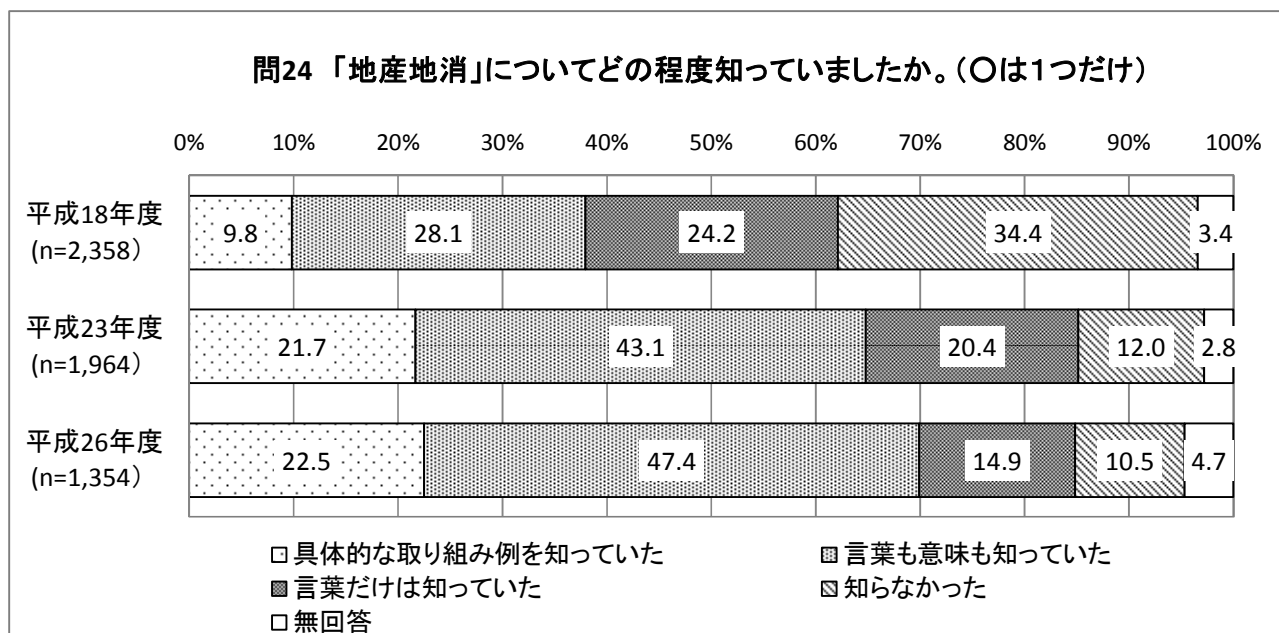
(24) 地産地消の認知度

24 「地産地消」についてどの程度知っていましたか。

◆「言葉も意味も知っていた」が4割超

「地産地消」については、「言葉も意味も知っていた」(47.4%)が最も多く、次いで「具体的な取り組み例を知っていた」(22.5%)と、平成18年度調査、平成23年度調査に比べ、増加傾向となっている。(図表I-6-1)

図表 I - 6 - 1



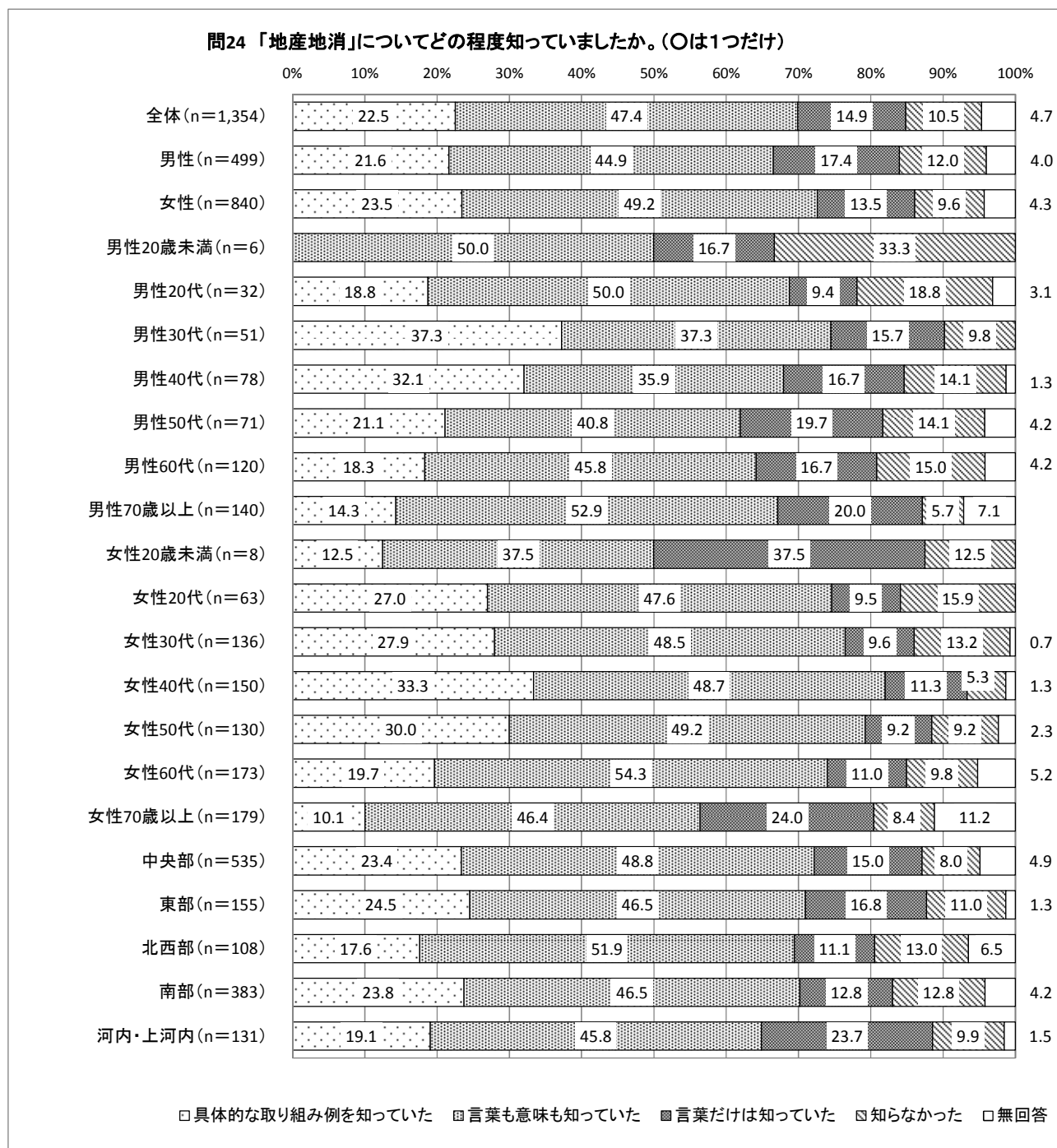
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」の合計）で、女性（72.7%）が男性（66.5%）より約6%高くなっている。

性・年齢別では、「女性30代」～「女性50代」で、「知っていた」の割合の合計が75%を超えている。「女性40代」においては、82%と最も高い割合となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「知っていた」の割合が他地区に比べ低くなっている。（図表I-6-2）

図表 I - 6 - 2



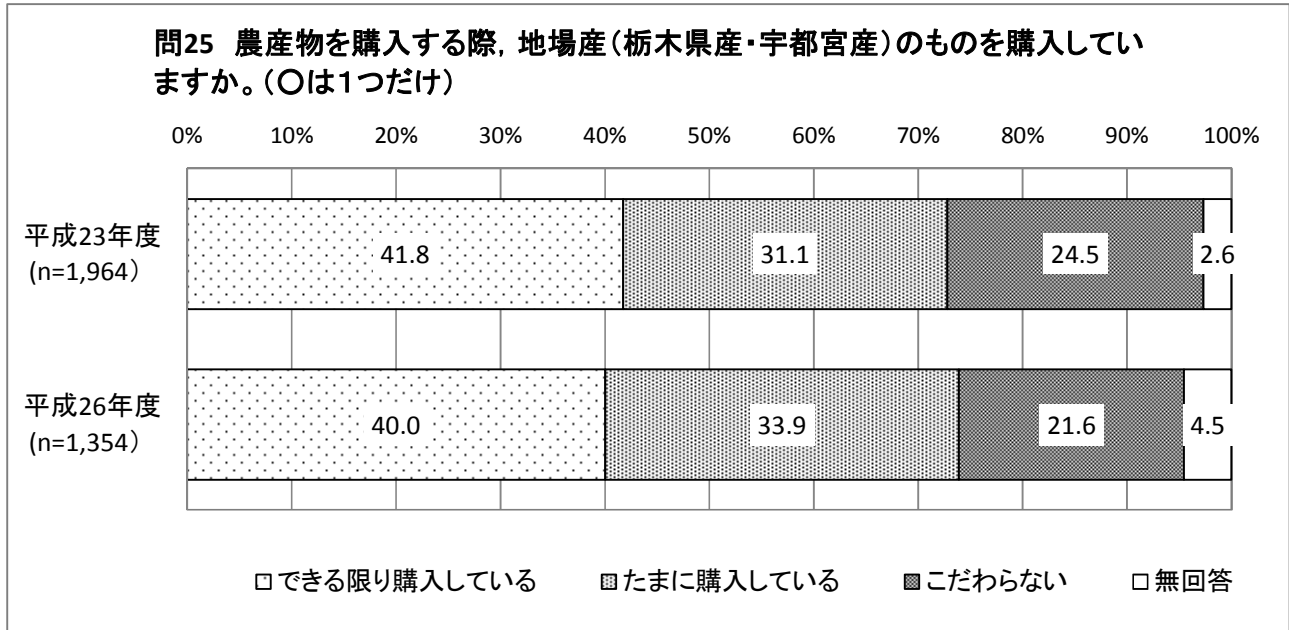
(25) 地場農産物の購入

25 農産物を購入する際、地場産（栃木県産・宇都宮産）のものを購入していますか。

◆約4割が地場産品を購入

地場産品の購入は、「できる限りそうしている」が40.0%、次いで「たまに購入している」(33.9%)、「こだわらない」(21.6%)の順となっている。(図表I-6-3)

図表 I - 6 - 3



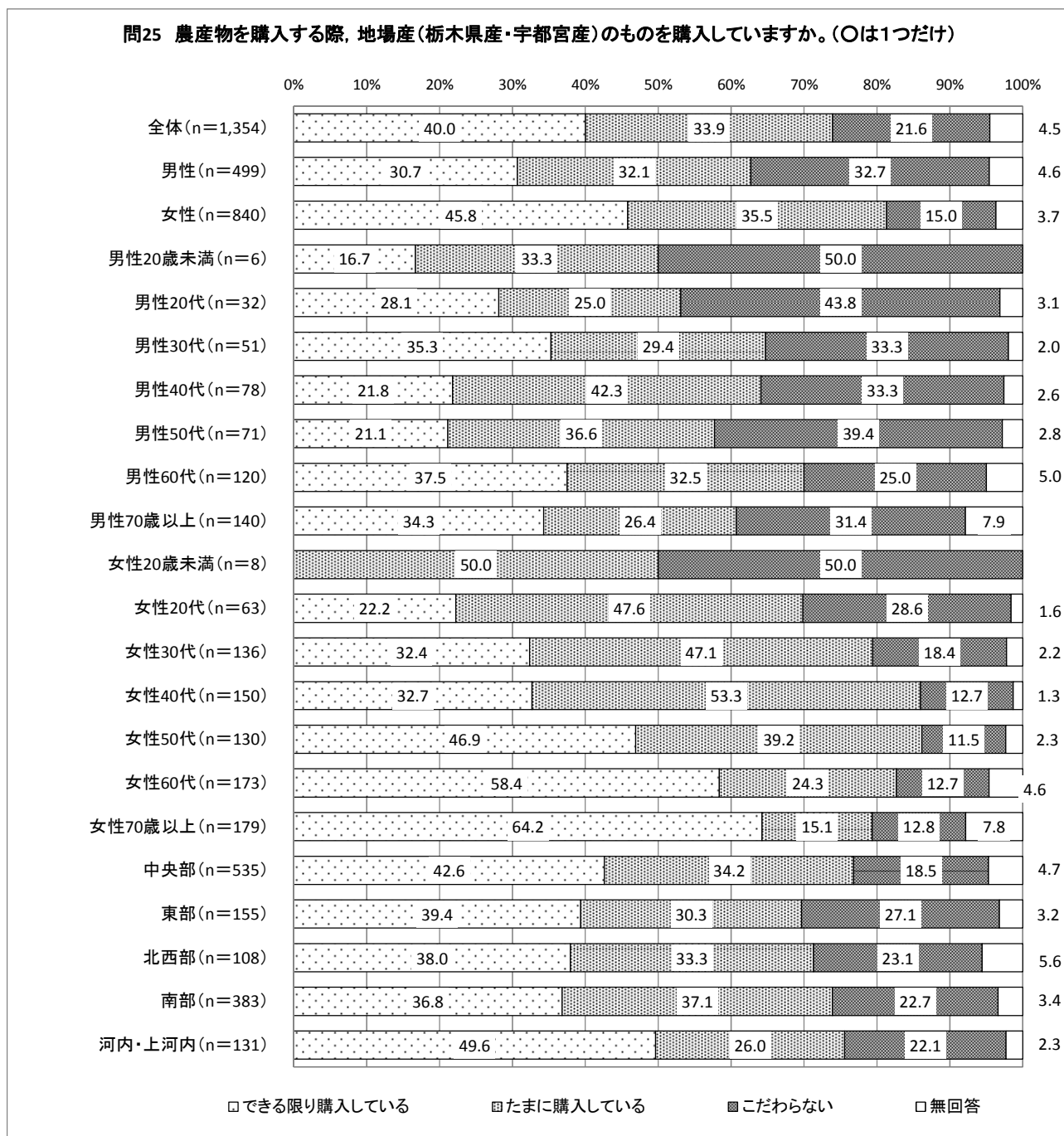
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性で「こだわらない」、女性で「できる限り購入している」の割合が最も高くなっている。

性・年齢別では、「女性 70 歳以上」で「できる限りそうしている」の割合が 64.2%と最も高くなっている。また、男性では全ての年代で「こだわらない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「できる限りそうしている」の割合が半数を占め、他地区に比べて高くなっている。(図表 I - 6 - 4)

図表 I - 6 - 4



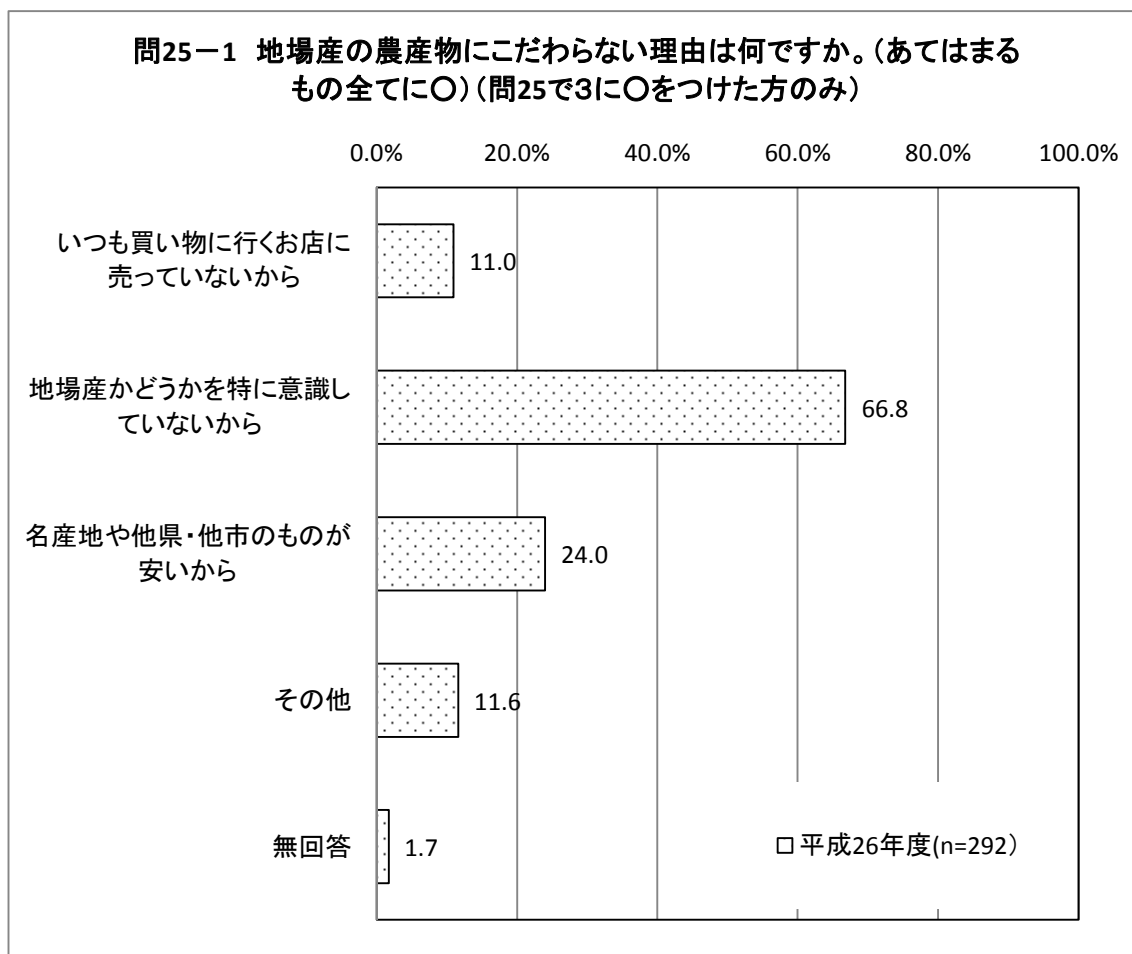
(25-1) 地場農産物にこだわらない理由

25-1 地場産の農産物にこだわらない理由は何ですか。

◆「地場産かどうかを特に意識していないから」が約7割

前問で「こだわらない」と回答した人に地場産物にこだわらない理由を聞いたところ、「地場産かどうかを特に意識していないから」の66.8%が最も多く、次いで、「名産地や他県・他市のものが安いから」(24.0%)となっている。(図表I-6-5)

図表 I - 6 - 5



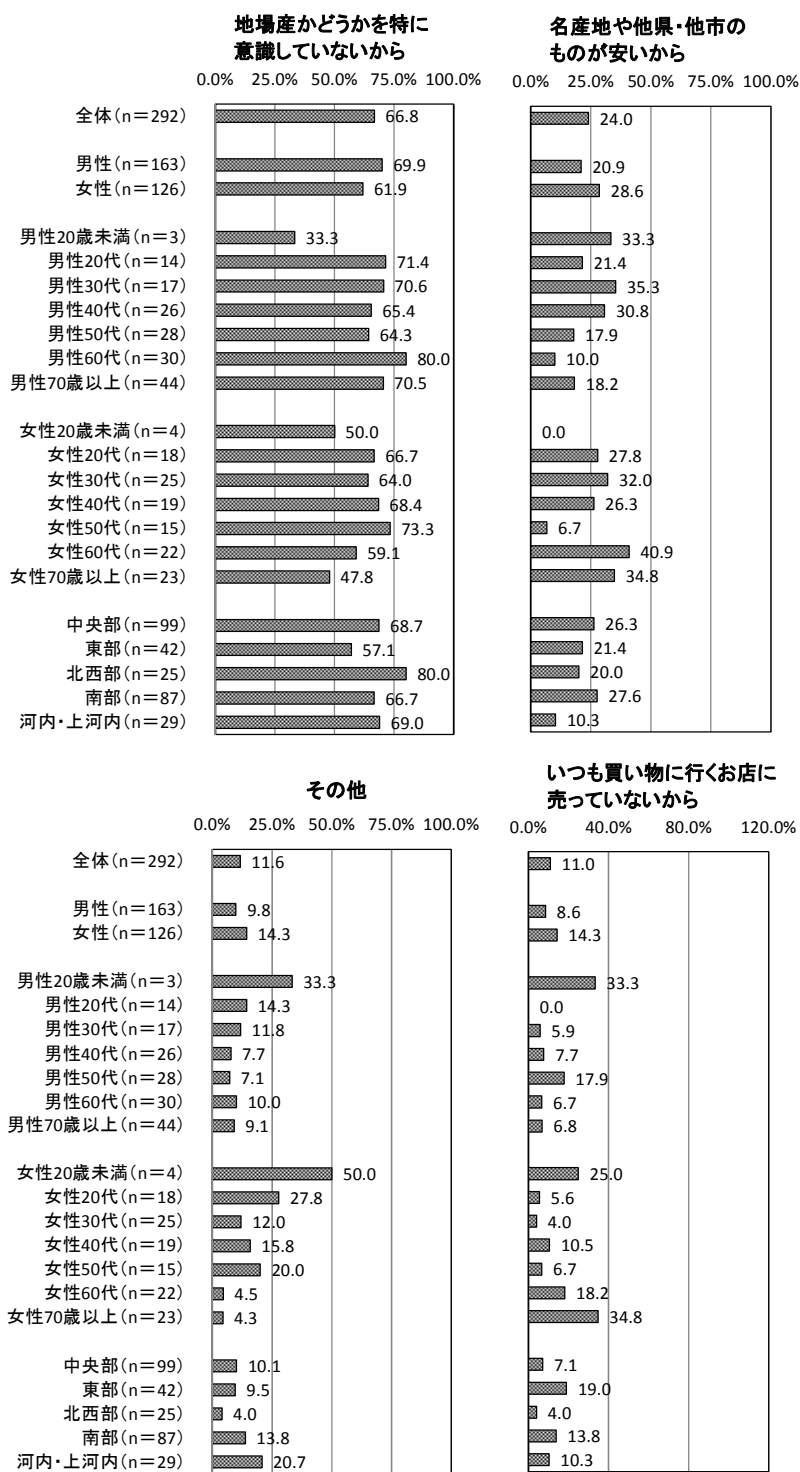
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「地場産かどうかを特に意識していないから」では男性（69.9%）、女性（61.9%）ともに6割を超えている。

性・年齢別では、全年齢で「地場産かどうかを特に意識していないから」の割合が高くなっている。また「女性60代」においては「名産地や他県・他市のものが安いから」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「北西部」の「地場産かどうかを特に意識していないから」の割合が8割と高くなっている。（図表I-6-6）

図表 I - 6 - 6



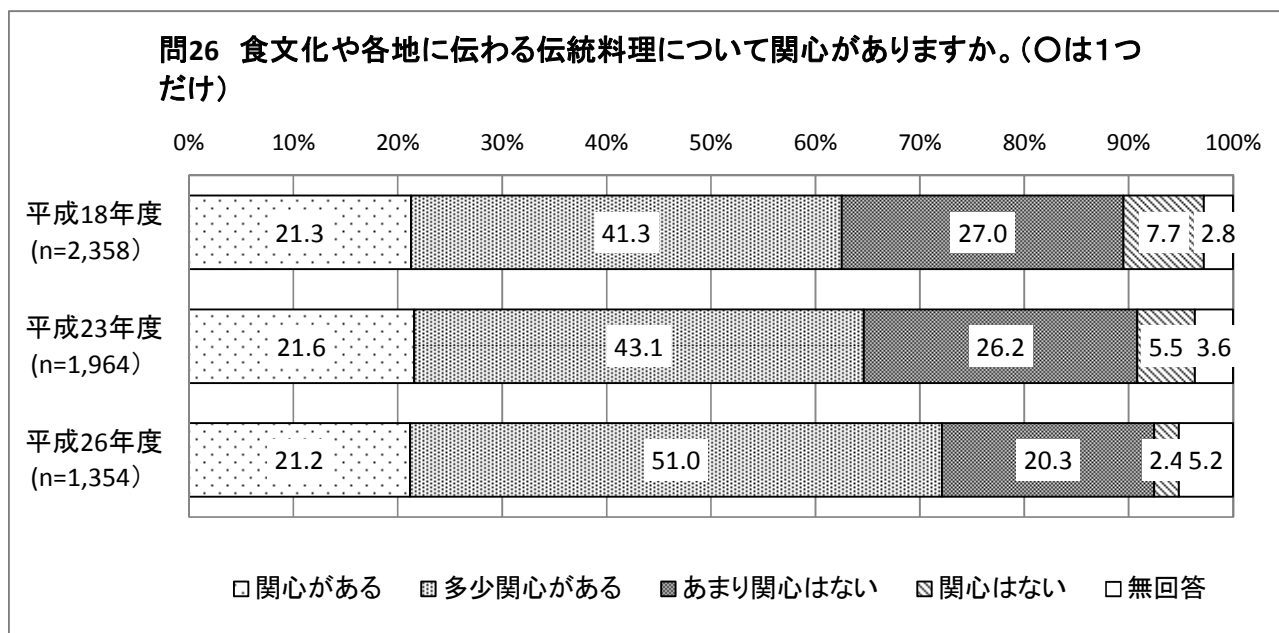
(26) 食文化や伝統料理への関心度

26 食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆「関心がある」が7割超

食文化や伝統料理についての関心は、「多少関心がある」(51.0%)が半数を占め、これに「関心がある」(21.2%)を合わせ、「関心がある」(72.2%)の回答が約7割を占めている。これは平成23年度と比較して増加傾向にある。(図表I-7-1)

図表 I - 7 - 1



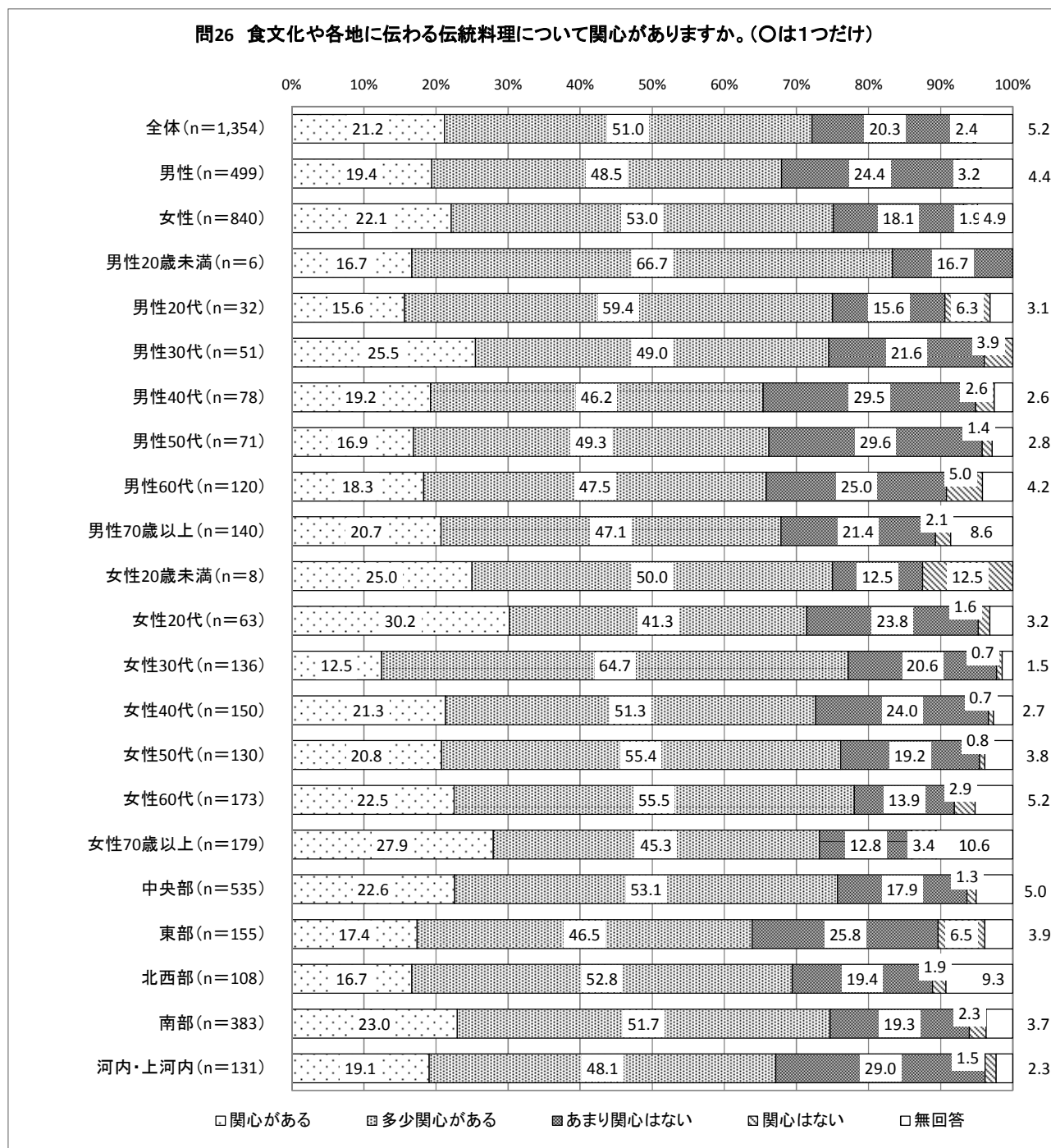
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）は、女性（75.1%）が男性（67.9%）よりも約7%高くなっている。

性・年齢別では、男性の「40代」「50代」で「あまり関心がない」の割合が、他年代より高くなっており、約3割を占める。

居住地区別では、「中央部」と「南部」において、「関心がある」の割合が7割を超えており、他地区に比べて高くなっている。（図表 I-7-2）

図表 I-7-2



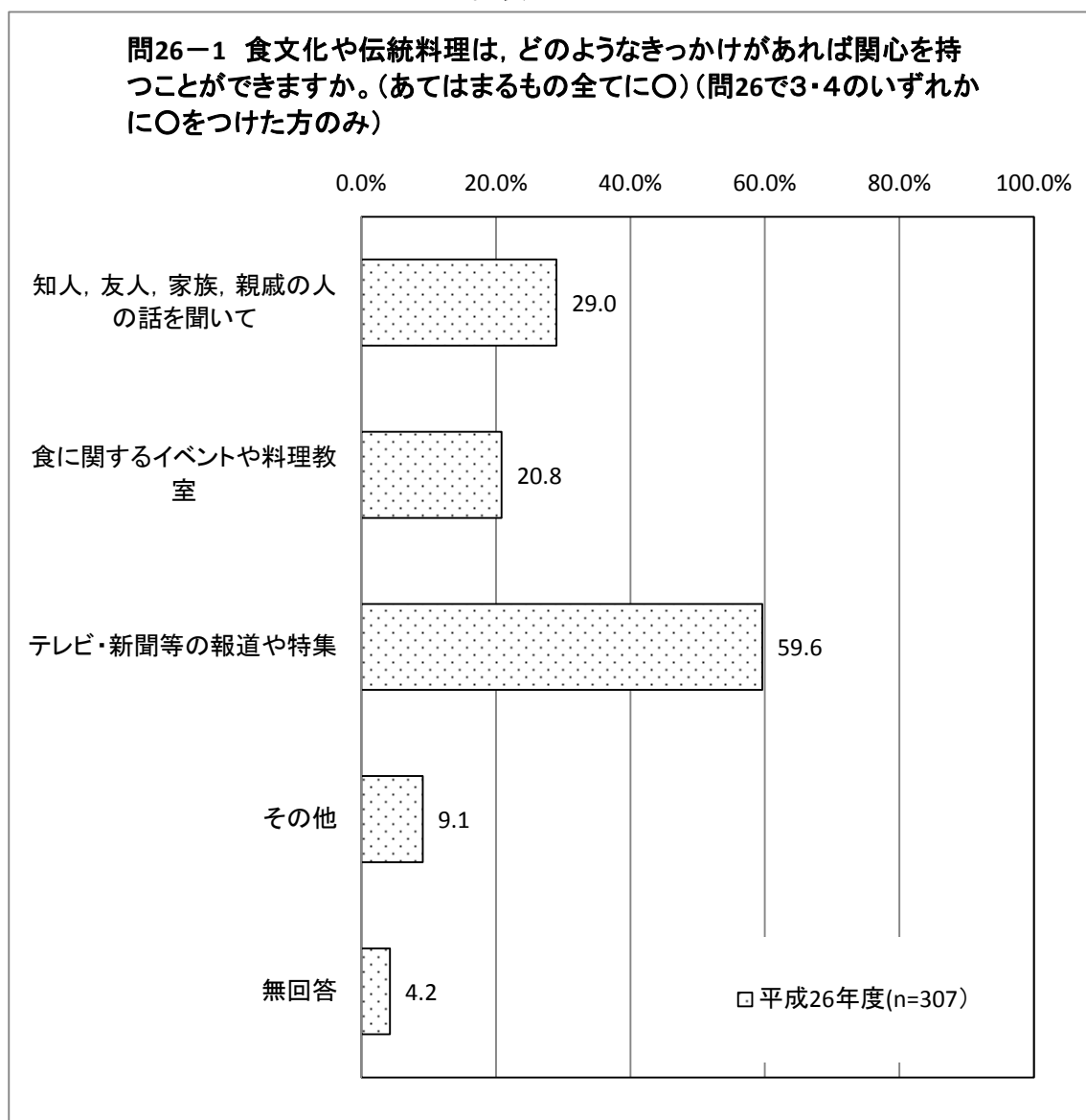
(26-1) 食文化や伝統料理への関心を持つためのきっかけ

26-1 食文化や伝統料理は、どのようなきっかけがあれば関心を持つことができますか。

◆「テレビ・新聞等の報道や特集」が約6割

前問で「あまり関心はない」「関心はない」と回答した人に食文化や伝統料理に興味を持つきっかけを聞いたところ、「テレビ・新聞等の報道や特集」(59.6%)が最も多く、次いで「知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて」(29.0%)、「食に関するイベントや料理教室」(20.8%)となっている。(図表I-7-3)

図表 I-7-3



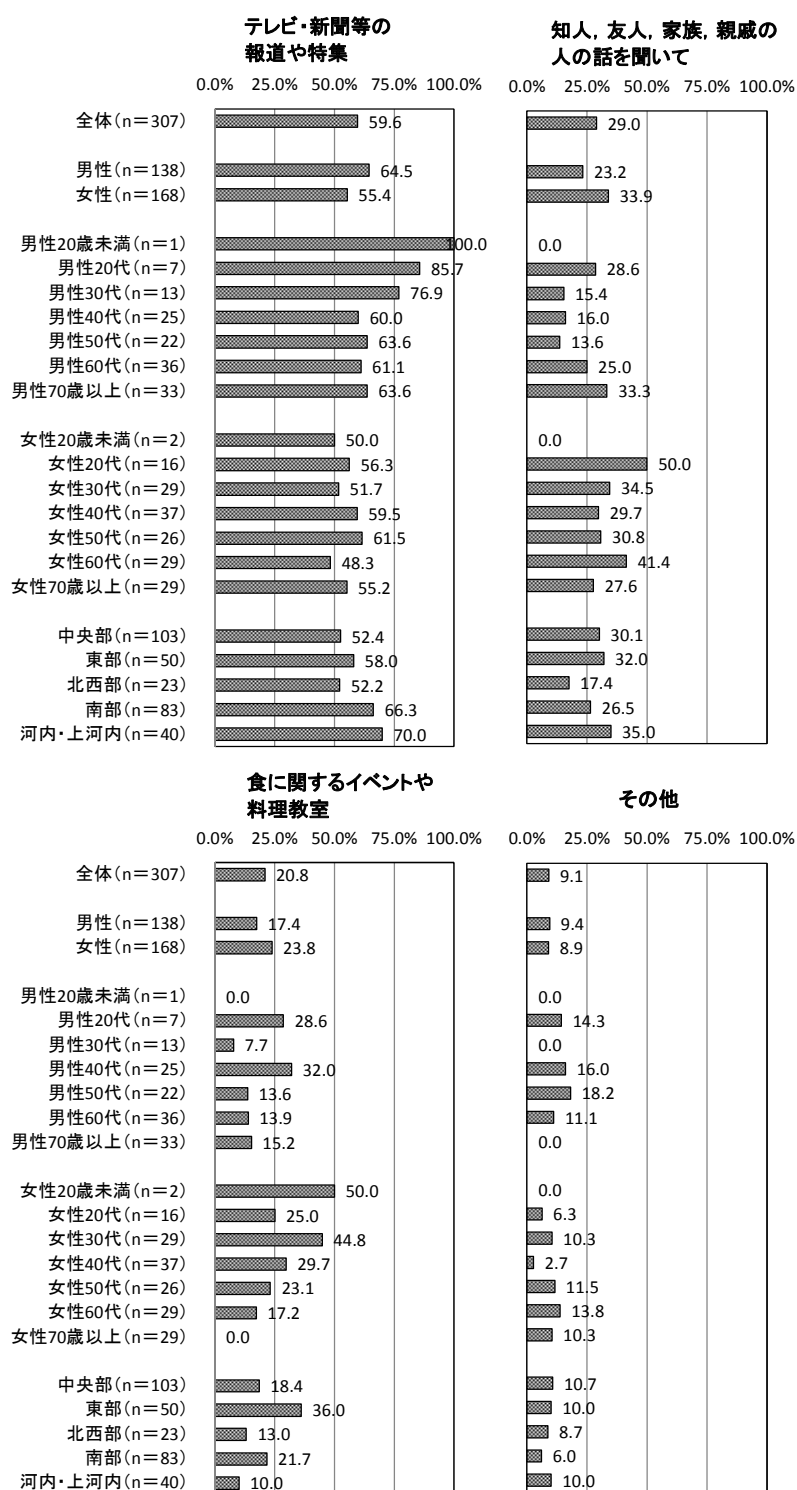
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「テレビ・新聞等の報道や特集」では男性（64.5%）、女性（55.4%）ともに最も高い割合となっている。

性・年齢別では、全年齢で「テレビ・新聞等の報道や特集」の割合が高くなっている。また「女性20代」では「知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて」、「女性30代」では「食に関するイベントや料理教室」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「東部」の「食に関するイベントや料理教室」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表 I - 7 - 4）

図表 I - 7 - 4



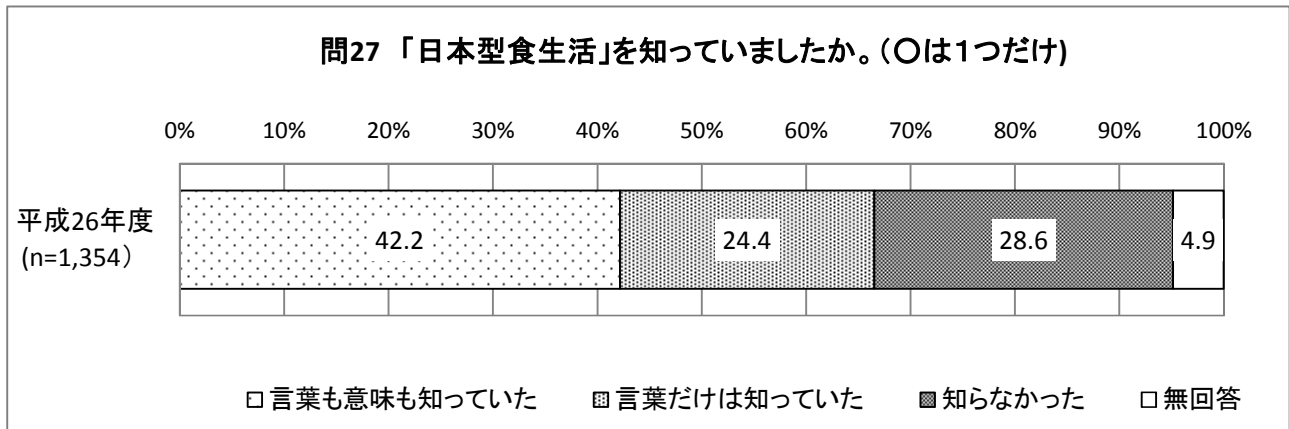
(27) 日本型食生活の認知度

27 「日本型食生活」を知っていましたか。

◆「言葉も意味も知っていた」が約4割

「日本型食生活」について、「言葉も意味も知っていた」(42.2%)、「言葉だけは知っていた」(24.4%)の「知っていた」が66.6%と6割強となっている(図表I-7-5)

図表 I - 7 - 5



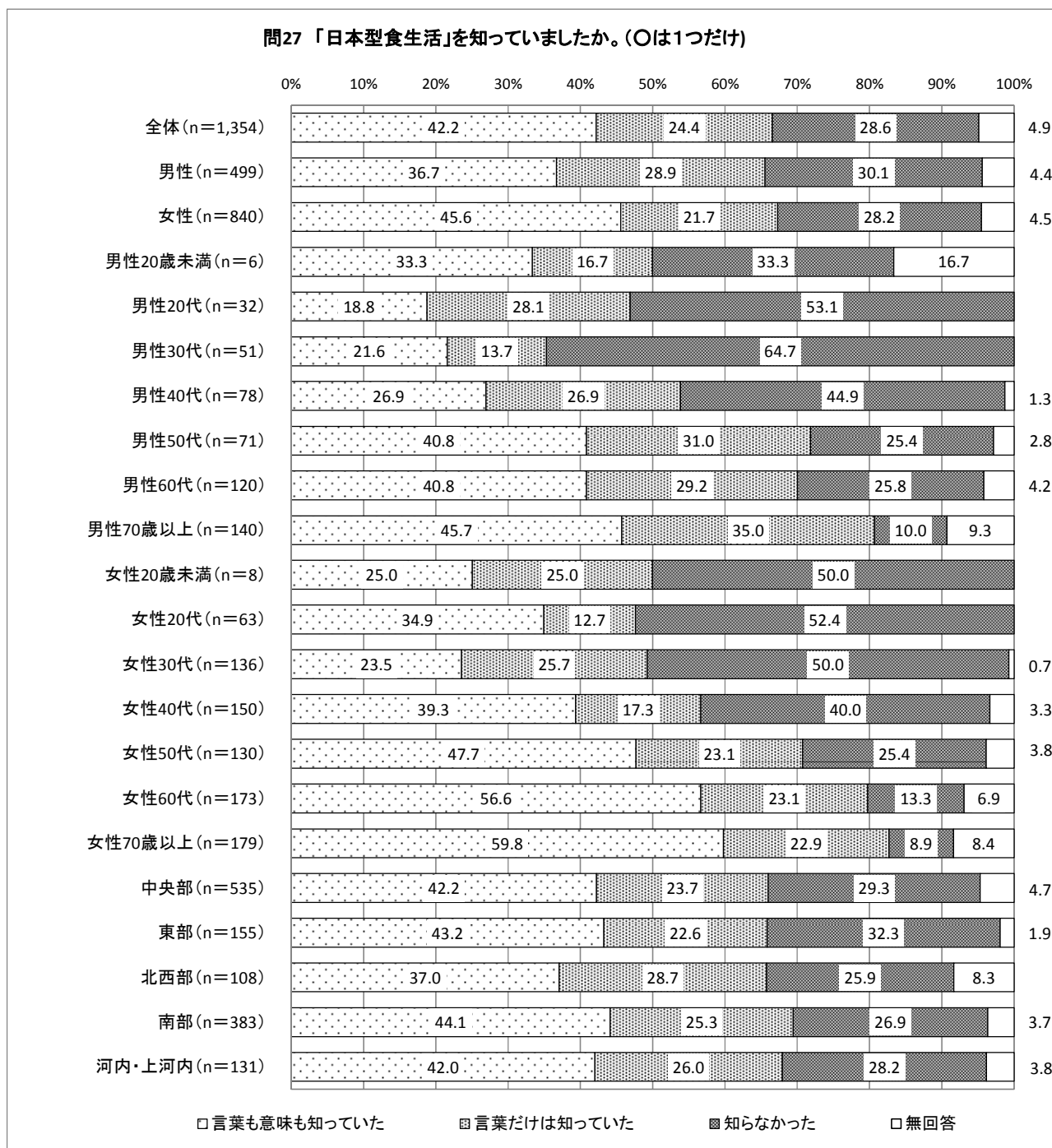
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）は、女性（67.3%）が男性（65.5%）よりも約2%高くなっている。

性・年齢別では、「知っていた」の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、男女ともに70歳以上では8割を超えている。

居住地区別での大きな差は見られない。（図表 I - 7 - 6）

図表 I - 7 - 6



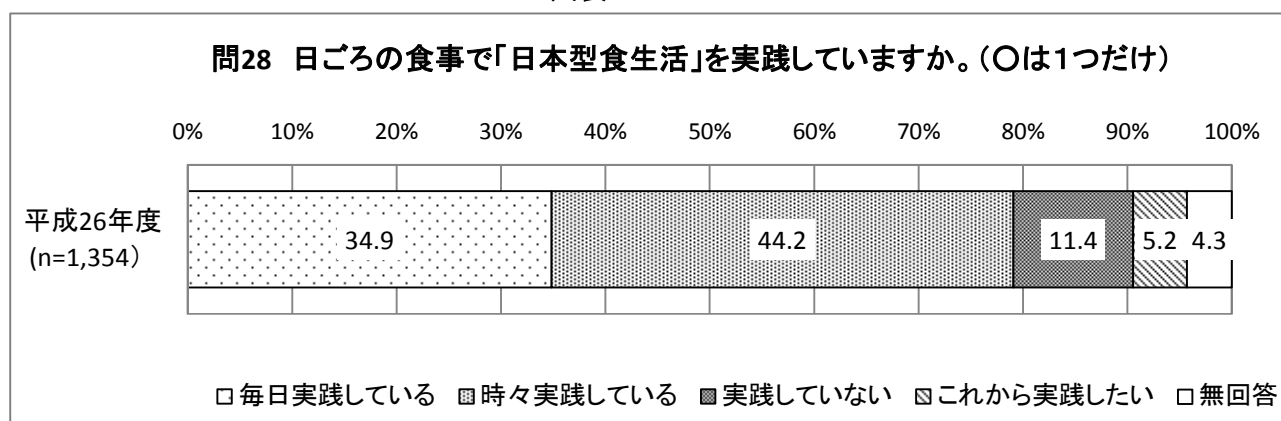
(28) 日本型食生活の実践度

28 日ごろの食事で「日本型食生活」を実践していますか。

◆「実践している」約8割

「日本型食生活」の実践は、「毎日実践している」(34.9%)、「時々実践している」(44.2%)の「実践している」が79.1%と約8割と高い割合となっている。(図表I-7-7)

図表 I-7-7



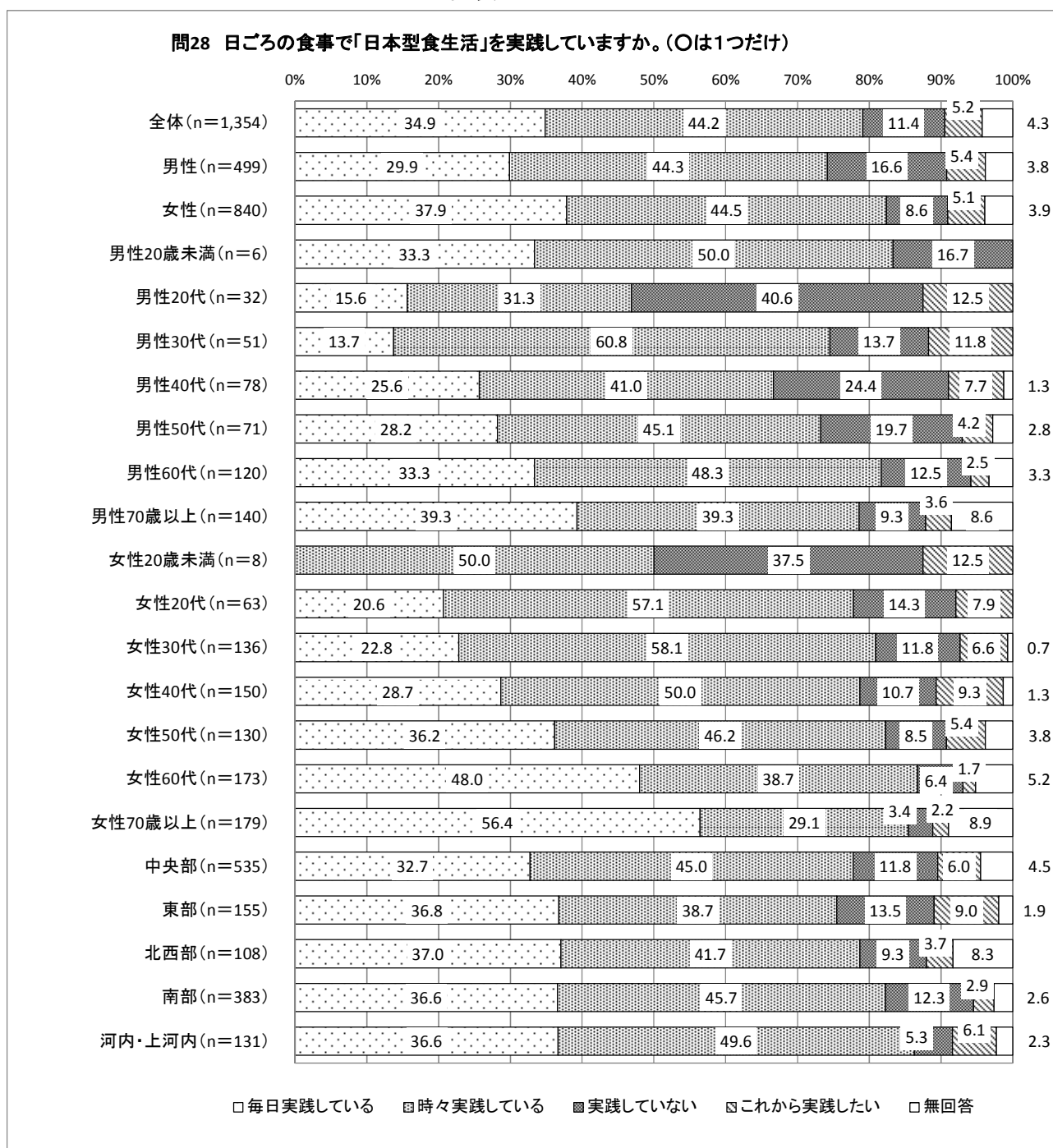
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「実践している」（「毎日実践している」と「時々実践している」の合計）は、女性（82.4%）が男性（74.2%）よりも約8%高くなっている。

性・年齢別では、「実践している」の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、「男性60代」、「女性30代」、「女性50代」、「女性60代」、「女性70歳以上」では8割を超えている。一方で、「男性20代」、「男性40代」、「男性50代」では他年代に比べ「実践していない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「南部」と「河内・上河内」で「実践している」が8割を超えており、他地区に比べて高くなっている。（図表I-7-8）

図表 I - 7 - 8



IV 調査結果の詳細

一 中学生・高校生 一

(1) 食育の認知度

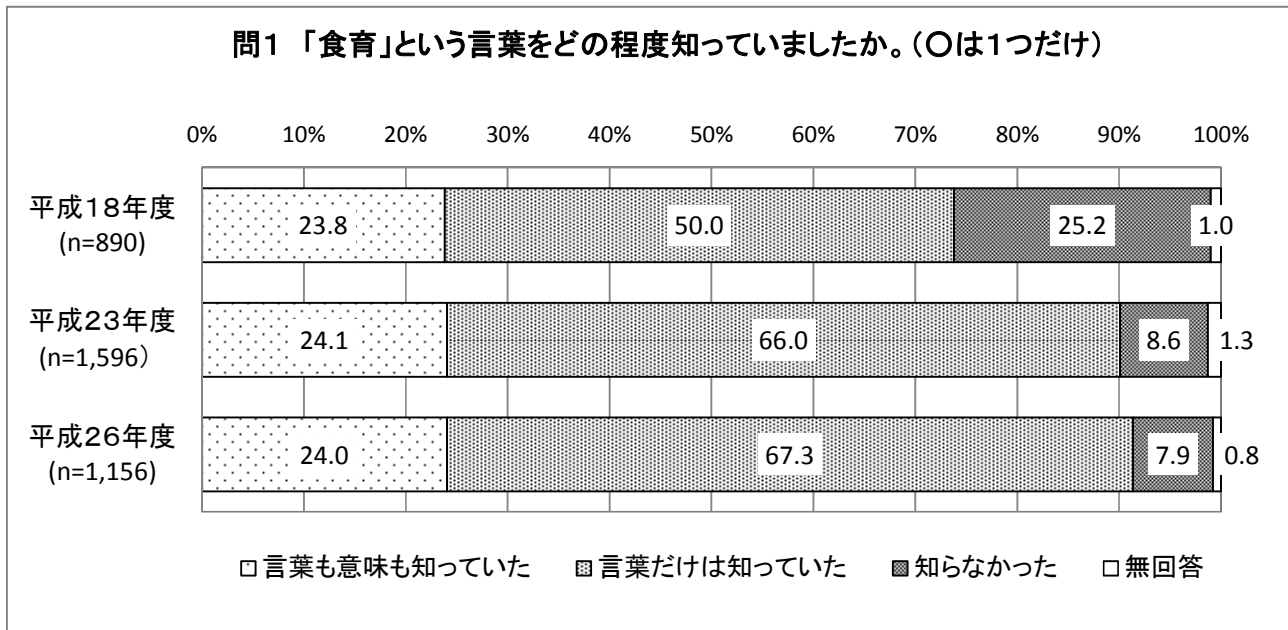
1 「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」が9割

食育という言葉をもの程度知っていたか聞いたところ、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていた」の合計）が91.3%を占め、平成23年度調査の水準を維持している。

(図表Ⅱ-1-1)

図表Ⅱ-1-1



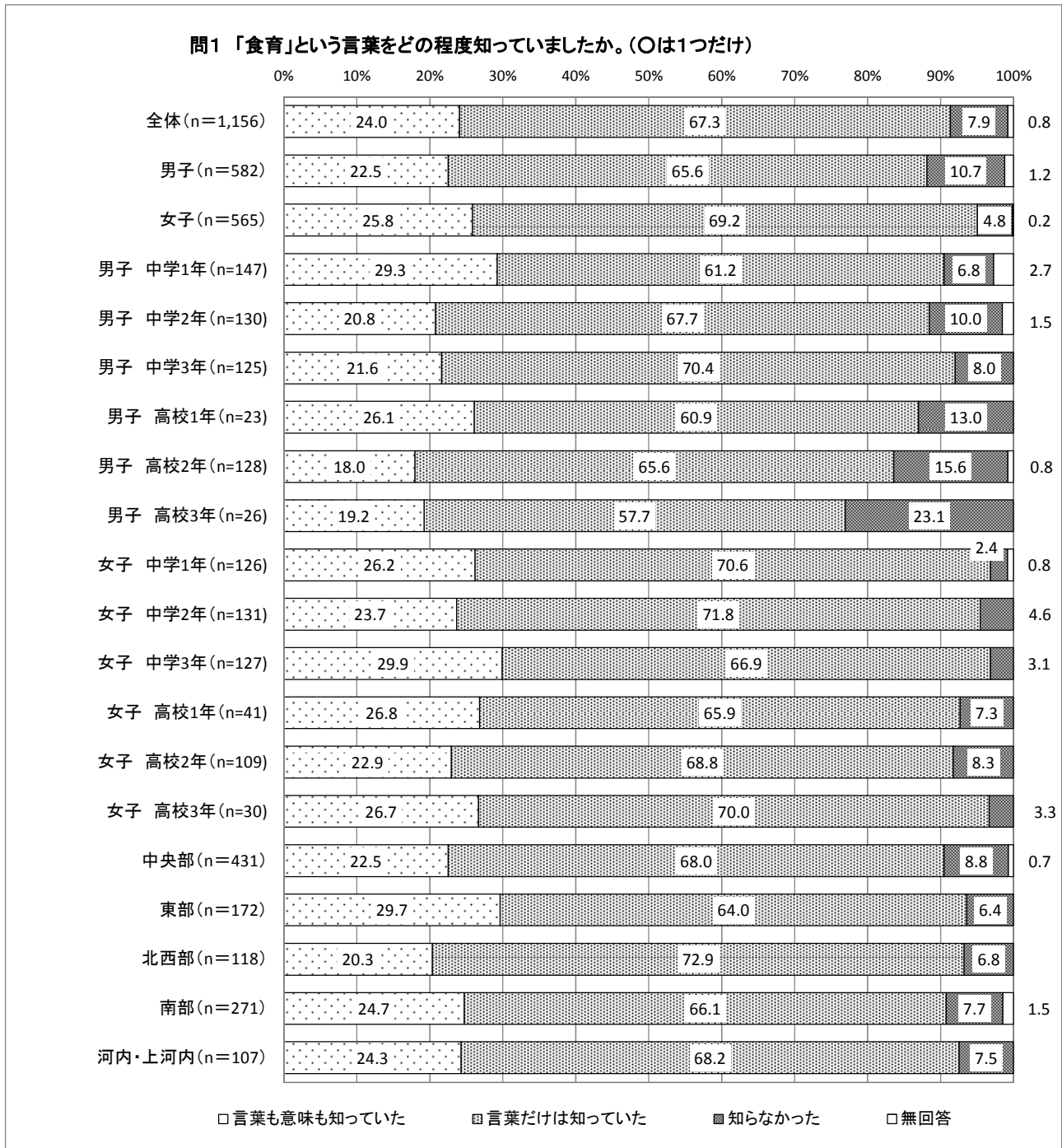
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）の割合は、女子（95.0％）が男子（88.1％）よりも約7％高くなっている。

性・学年別では、女子は全学年において、「知っていた」の割合が9割を超えており、「中学1年女子」と「中学3年女子」では96.8％に上っているが、高校生の男子については、女子や中学生の男子に比べると低くなっている。

居住地区別では、特に大きな差は見られない。（図表Ⅱ－1－2）

図表Ⅱ－1－2



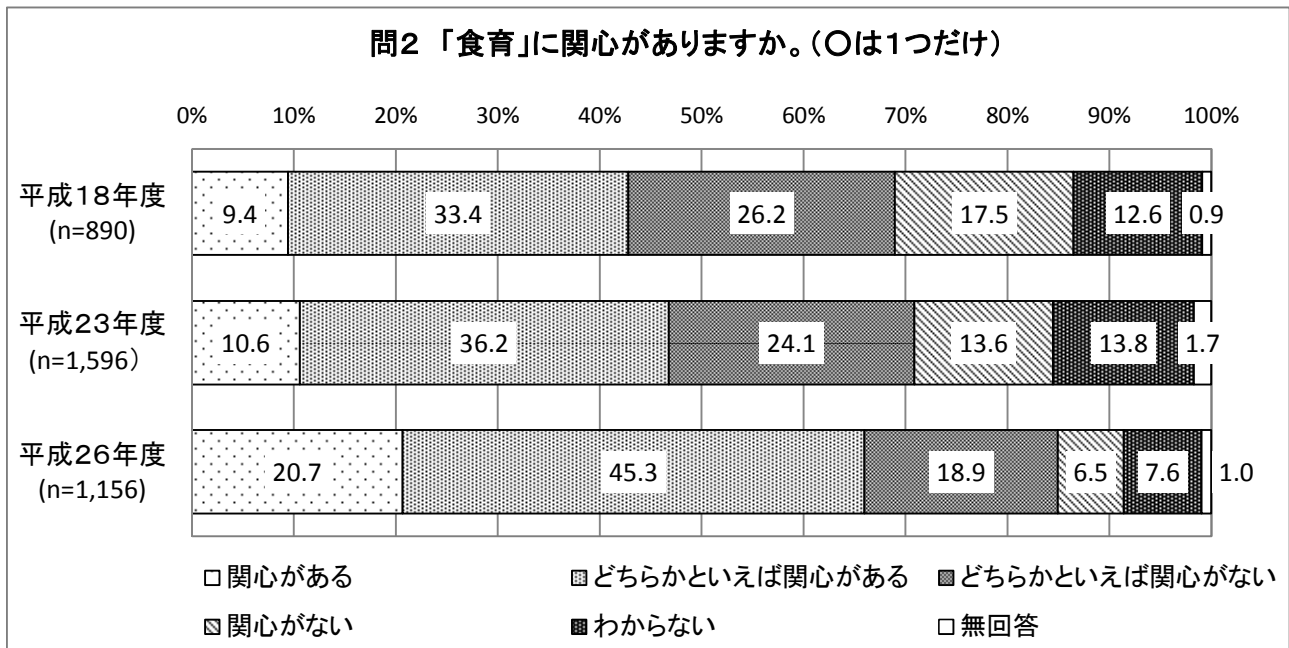
(2) 食育の関心度

2 「食育」に関心がありますか。

◆「どちらかといえば関心がある」がほぼ半数

食育に関心があるか聞いたところ、「どちらかといえば関心がある」(45.3%)がほぼ半数を占めており、平成23年度調査から約9%増加している。また、「関心がある」(20.7%)の割合も平成23年度調査(10.6%)から増加している。(図表Ⅱ-1-3)

図表Ⅱ-1-3



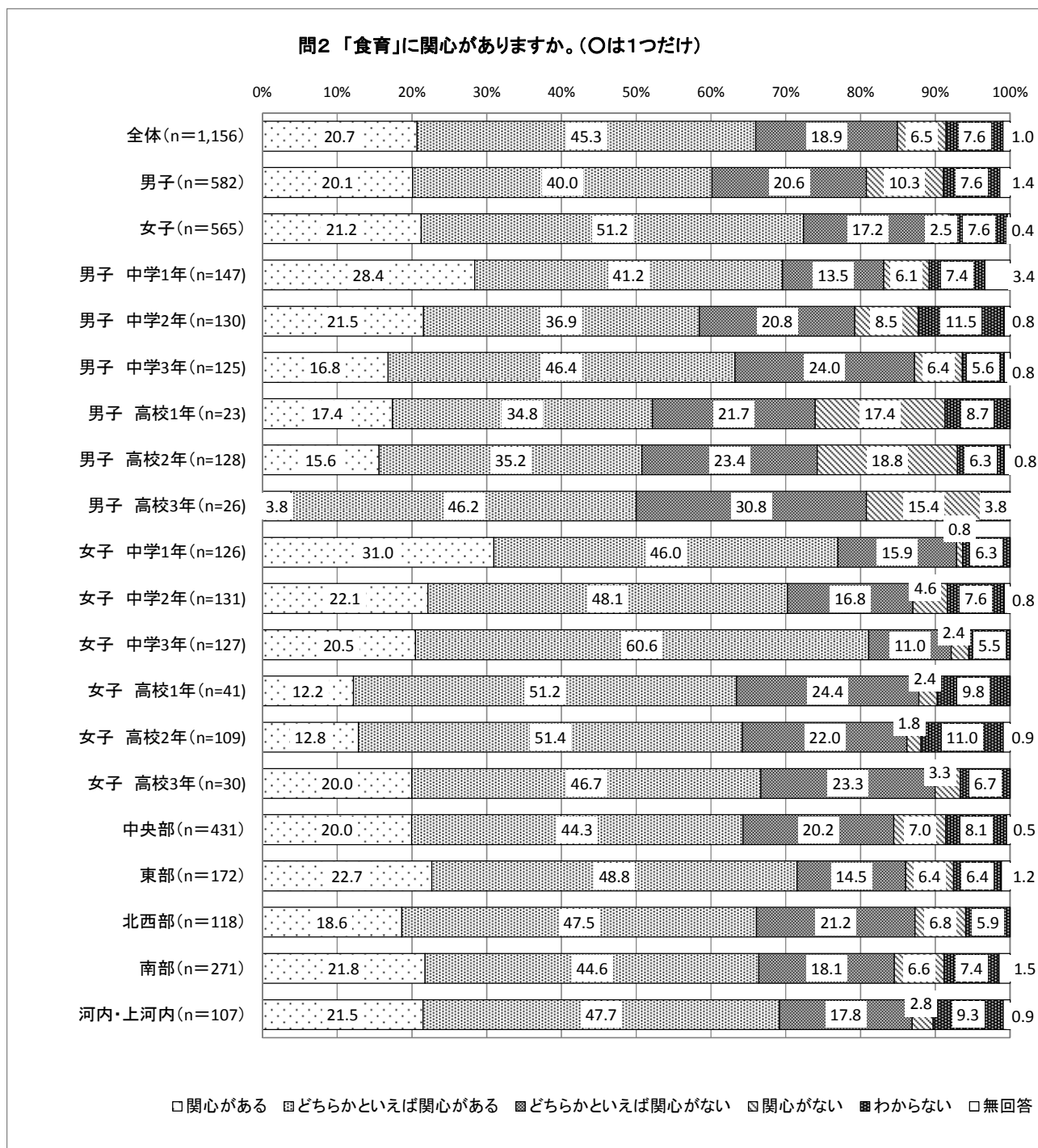
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）の割合は、女子（72.4%）が男子（60.1%）よりも約12%高くなっている。

性・学年別では、男女とも中学生に比べ、高校生の「関心がある」の割合が低く、特に「高校3年男子」（50.0%）では半数となっている。

居住地区別では、他地区に比べ「東部」で、「関心がある」の割合が若干、高くなっている。（図表Ⅱ－1－4）

図表Ⅱ－1－4



(3) 食生活の問題点の有無

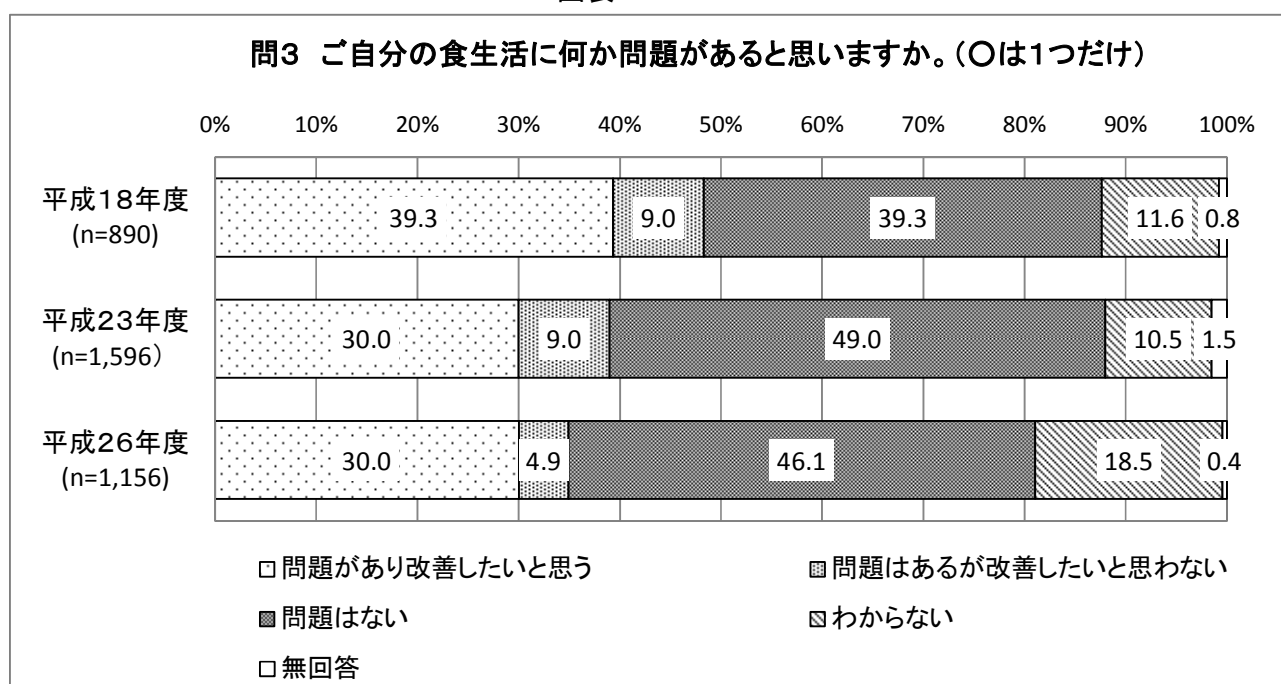
3 自分の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題はない」が約4割

自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「問題はない」(46.1%)が4割強を占めており、平成18年度調査(39.3%)から増加している。逆に、「問題があり改善したいと思う」(30.0%)は3割に留まり、「問題はあるが改善したいと思わない」(4.9%)を合わせた「問題あり」は34.9%となり、平成18年度調査から約13%減少している。

一方、「わからない」(18.5%)が平成23年度調査(10.5%)からは8%増加している。(図表Ⅱ-2-1)

図表Ⅱ-2-1



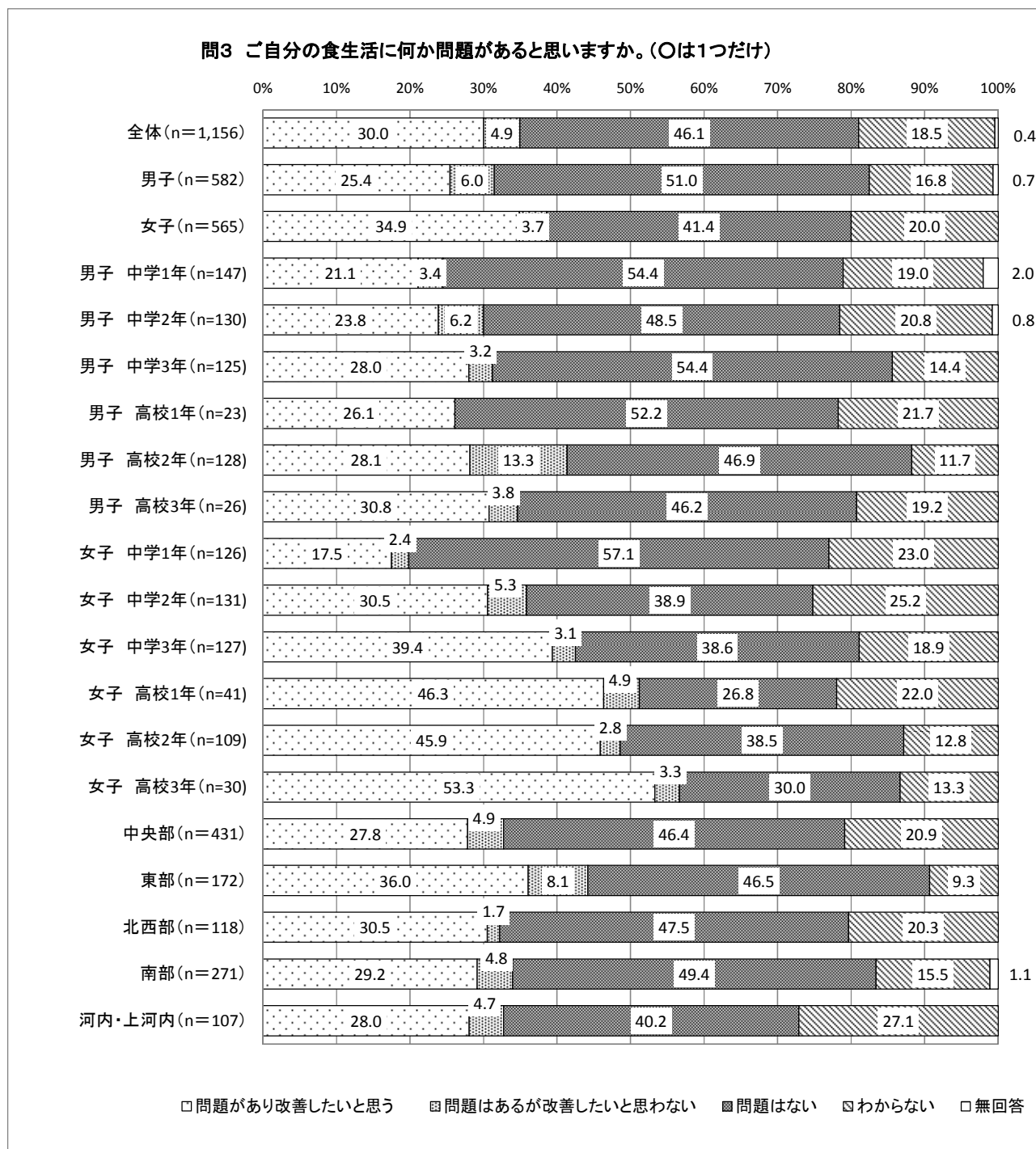
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「問題あり」（「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」の合計）の割合は、女子（38.6％）が男子（31.4％）よりも約7％高くなっている。

性・学年別では、女子では「高校3年」（56.6％）、男子では「高校2年」（41.4％）が「問題あり」と回答している割合が、他学年と比べて高い。一方、「中学1年女子」で「問題はない」の割合が高く、57.1％で最も高くなっている。

居住地区別では、「東部」が他地区に比べ「問題あり」の割合が高くなっている。（図表Ⅱ－2－2）

図表Ⅱ－2－2



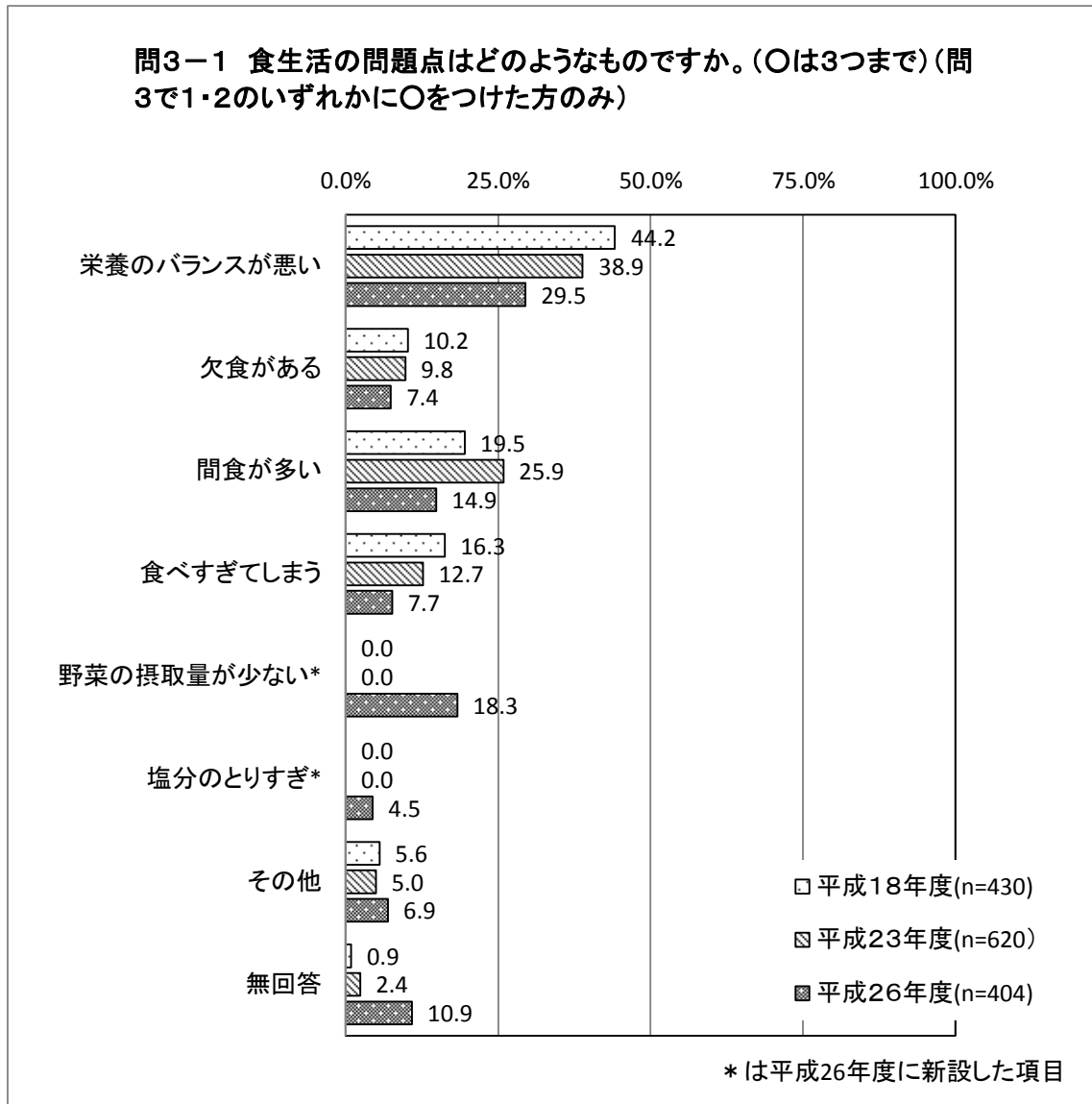
(3-1) 食生活の問題点の有無

3-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「栄養のバランスが悪い」が減少

前問で、食生活に「問題あり」と答えた人に問題点を聞いたところ、「栄養のバランスが悪い」(29.5%)が約3割を占め、最も高くなっているが、平成23年度調査からは減少している。次いで「野菜の摂取量が少ない」(18.3%)、「間食が多い」(14.9%)となっている。(図表Ⅱ-2-3)

図表Ⅱ-2-3



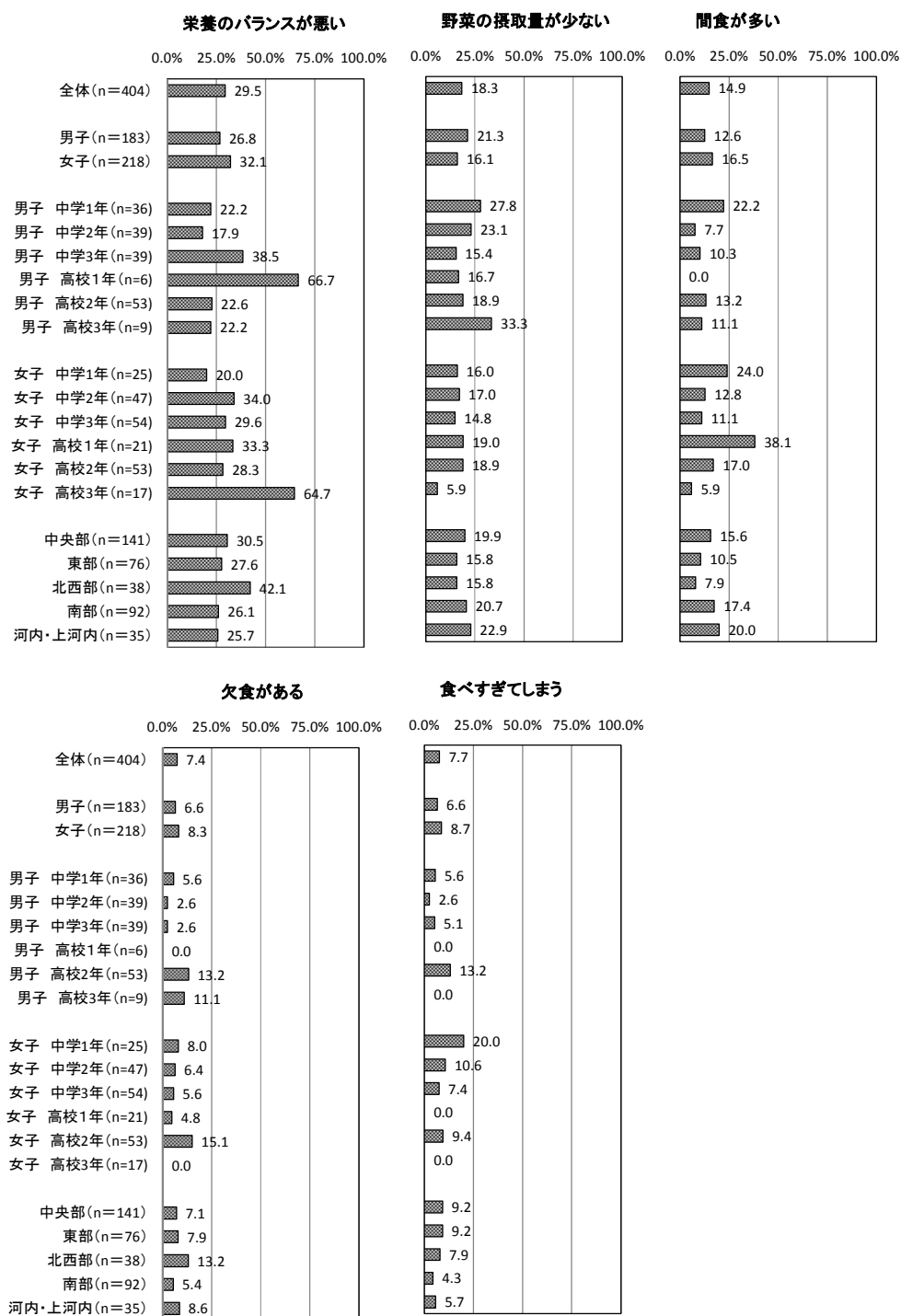
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女とも「栄養のバランスが悪い」が多くなっており、女子(32.1%)は、男子(26.8%)より約5%高くなっている。また、男子では、「野菜の摂取量が少ない」(21.3%)で、女子(16.1%)よりも高くなっている。

性・学年別では、「栄養のバランスが悪い」の割合で「高校3年女子」(64.7%)が最も高くなっている。また、男女ともに「高校2年」で「欠食がある」の割合が高くなっている。

居住地区別に見ると、「北西部」では、他地区に比べ「栄養バランスが悪い」、「欠食がある」の割合が高くなっている。(図表Ⅱ-2-4)

図表Ⅱ-2-4



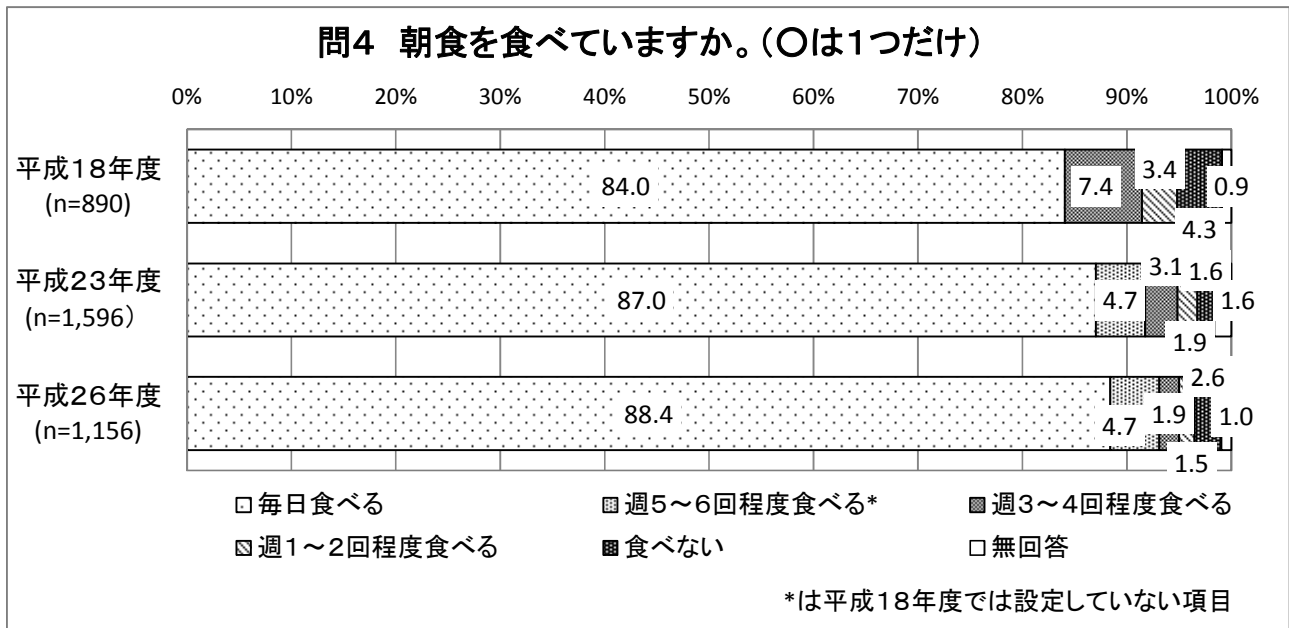
(4) 朝食摂取度

4 朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割超

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が88.4%と最も高く、平成23年度調査の水準と変わらないが、平成18年度調査から経年的に比較すると増加傾向である。また、「週3～4回食べる」(1.9%)、「週1～2回食べる」(1.5%)は微減傾向にあるが、「食べない」の割合は微増している。(図表Ⅱ-2-5)

図表Ⅱ-2-5



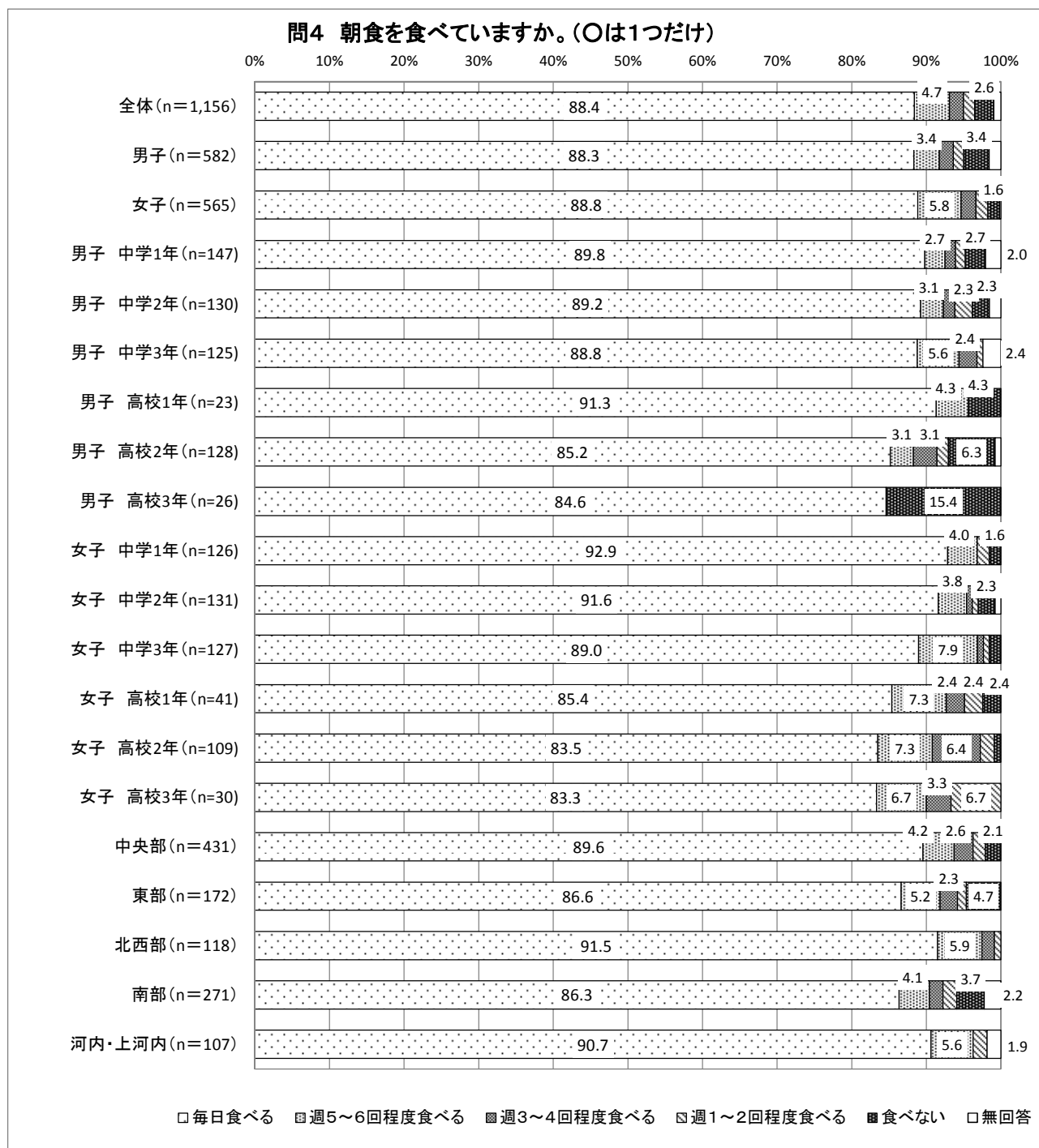
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、大きな差は見られない。

性・学年別では、「高校3年男子」の「食べない」の割合が15.4%と他学年に比べ高くなっている。一方、「中学3年男子」と「高校3年女子」では「食べない」と回答した人はいなかった。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。また「北西部」,「河内・上河内」では、「食べない」と回答した人はいなかった。(図表Ⅱ-2-6)

図表Ⅱ-2-6



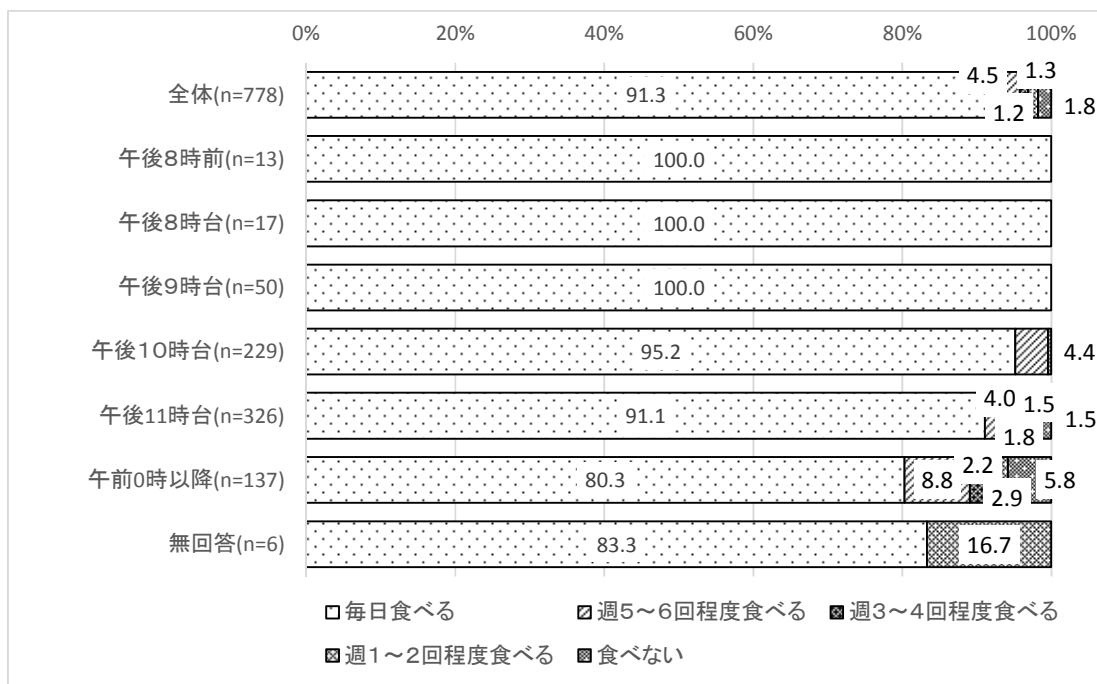
【朝食の摂取状況と就寝時刻の関係】

◆就寝時刻が遅い方が、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

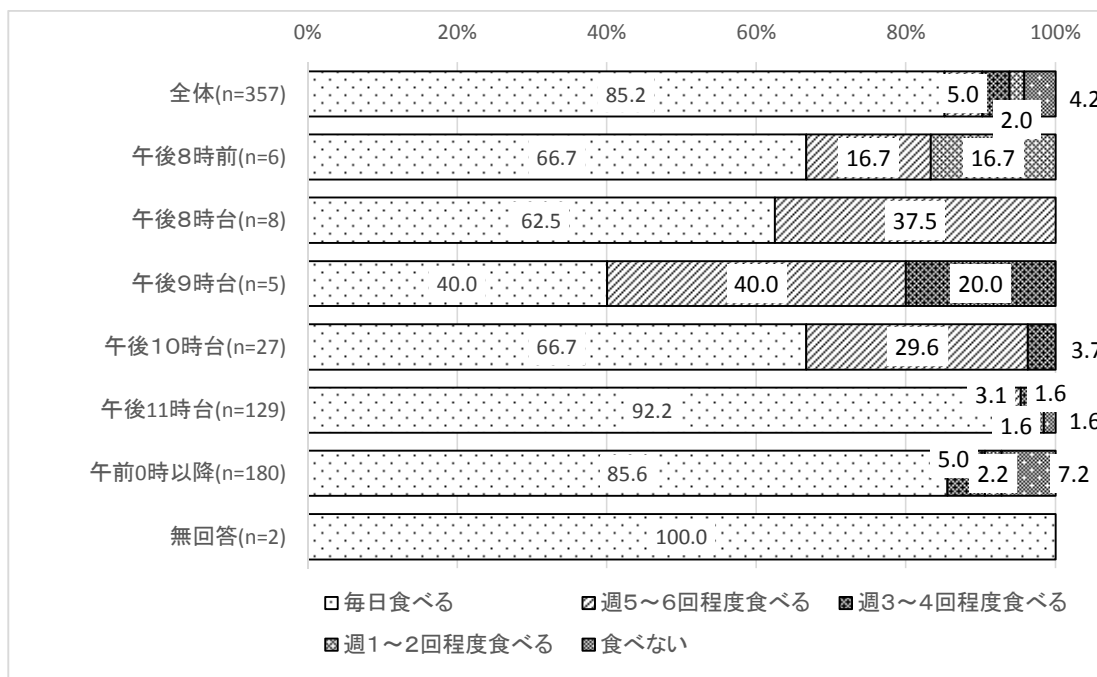
朝食の摂取状況と就寝時刻*の関連性を分析したところ、中学生の就寝時刻「午前0時以降」では、朝食を「毎日食べる」が80.3%と、就寝時間が早い人と比べて低い傾向となっている。(図表Ⅱ-2-7)

また、高校生でも中学生同様に、「午前0時以降」では、朝食を「毎日食べる」が85.6%と、就寝時間が早い人と比べて低い傾向となっている。(図表Ⅱ-2-8)

図表Ⅱ-2-7



図表Ⅱ-2-8



*就寝時刻については144ページを参照のこと

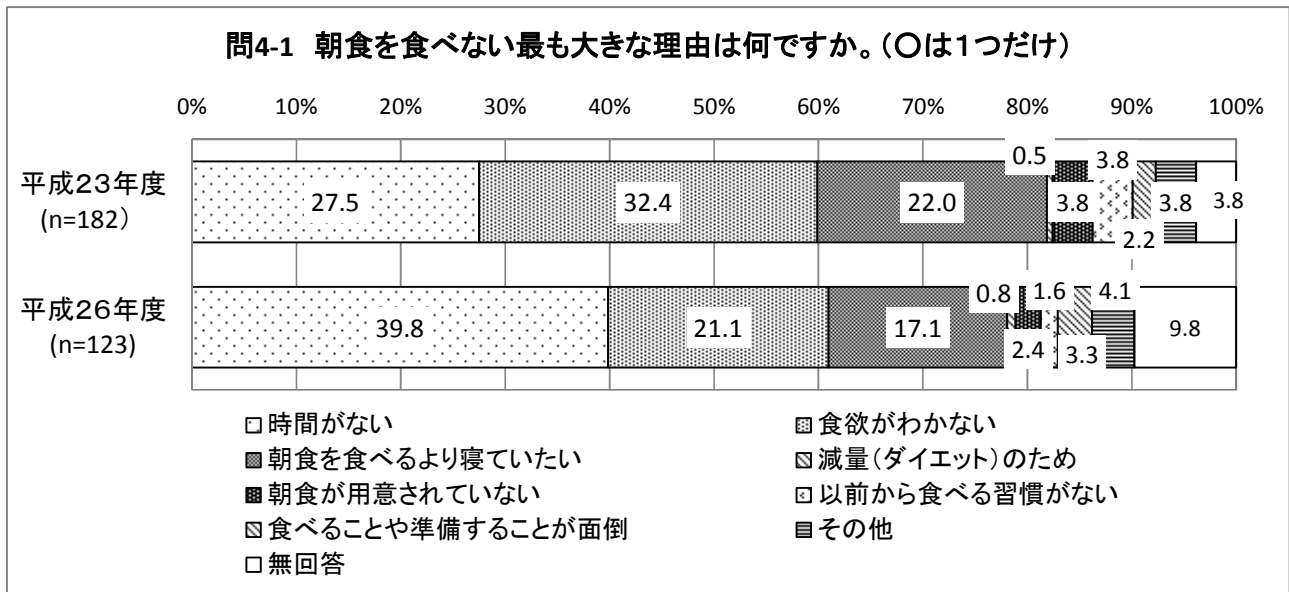
(4-1) 食べない理由

4-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「時間がない」が4割

前問で朝食を毎日食べない、もしくは食べない日もあると答えた人に、朝食を食べない理由を聞いたところ、「時間がない」(39.8%)が約4割を占め、平成23年度調査より約12%増加している。次いで、「食欲がわからない」(21.1%)、「朝食を食べるより寝ていたい」(17.1%)となっている。(図表Ⅱ-2-9)

図表Ⅱ-2-9



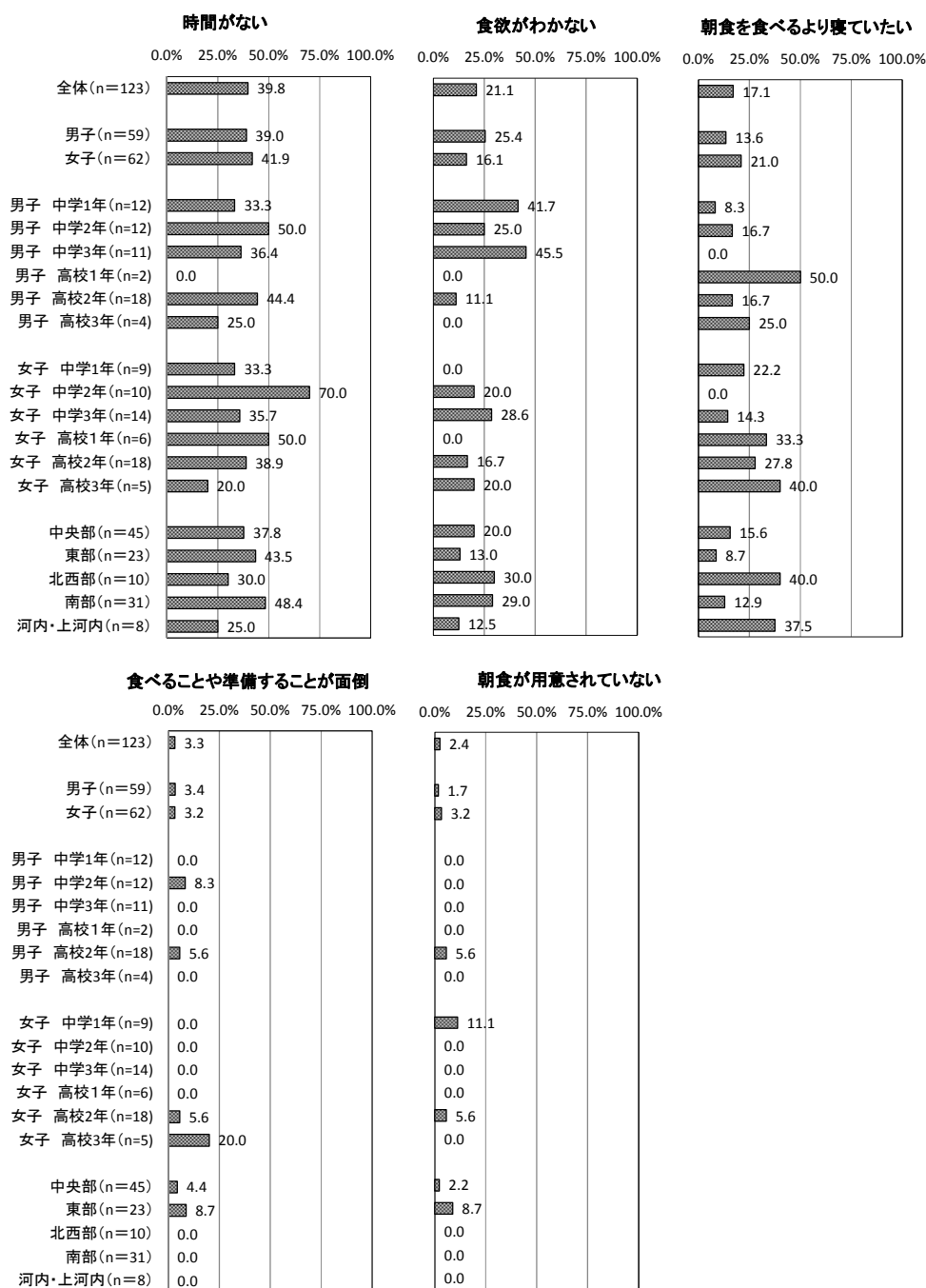
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女ともに「時間がない」の割合が最も高くなっており、次いで、男子では「食欲がわからない」、「朝食を食べるより寝ていたい」、女子では「朝食を食べるより寝ていたい」、「食欲がわからない」と続く。

性・学年別では、「中学2年女子」で「時間がない」(70.0%)が7割を占め、「中学3年男子」では「食欲がわからない」(45.5%)が4割強となっている。

居住地区別では、「南部」の「時間がない」(48.4%)と「北西部」の「朝食を食べるより寝ていたい」(40.0%)の割合が他地区に比べ高くなってきている。(図表Ⅱ-2-10)

図表Ⅱ-2-10



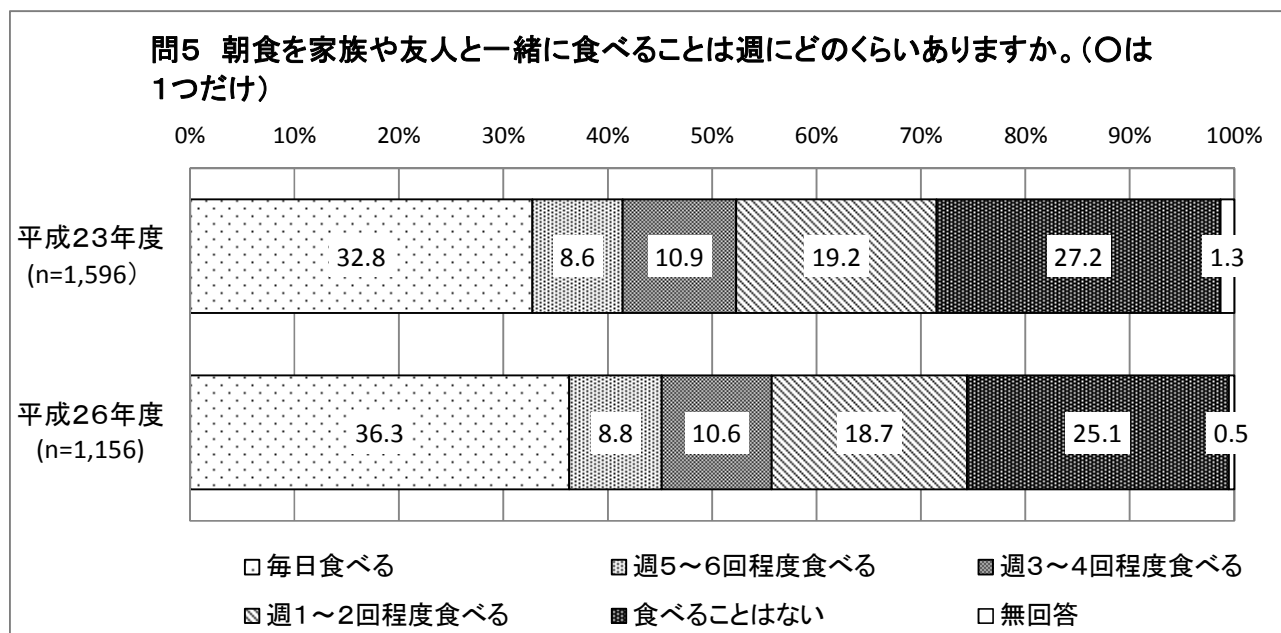
(5) 家族との朝食（共食）

5 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が4割弱

朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」（36.3%）が4割弱を占め、平成23年度調査より3.5%増加している。一方、「食べることはない」と回答している人が25.1%となっており、4人に1人が朝食を1人で食べている状況である。（図表Ⅱ-2-11）

図表Ⅱ-2-11



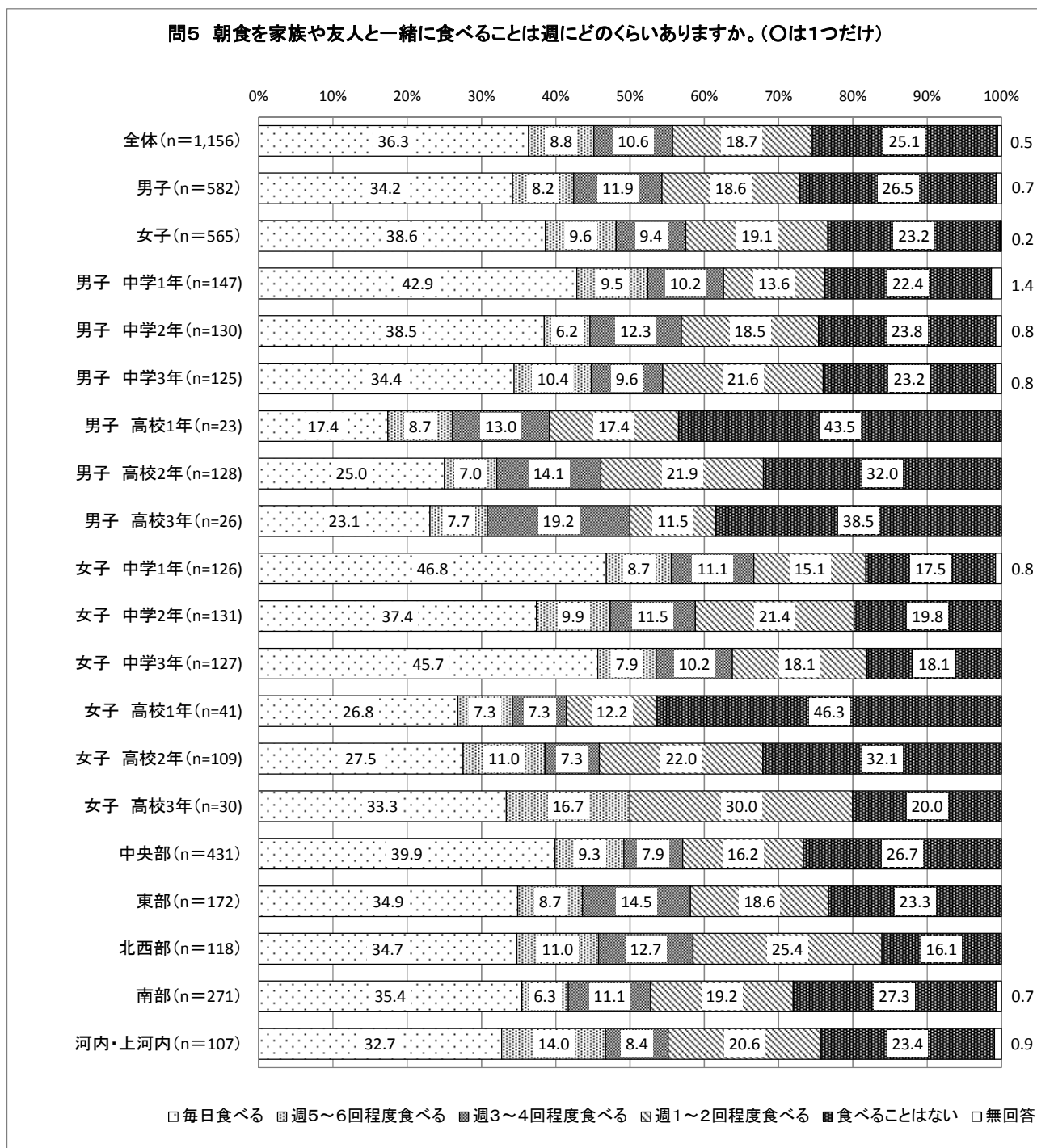
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「食べることはない」の割合で、男子（26.5%）が女子（23.2%）よりも若干高くなっている。

性・学年別では、男女ともに「高校1年」で「毎日食べる」の割合が最も低くなっている。

居住地区別で見ると、「河内・上河内」（32.7%）で「毎日食べる」の割合が、他地区に比べ低く、「食べることはない」の割合は、「北西部」（16.1%）で他地区に比べて低くなっている。（図表Ⅱ-2-12）

図表Ⅱ-2-12



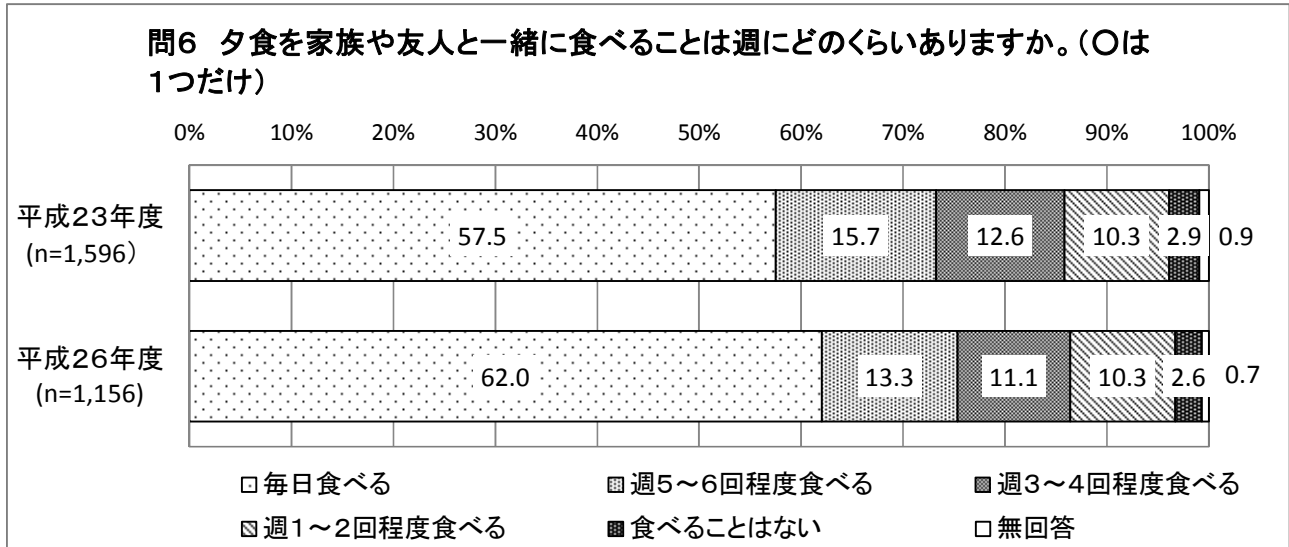
(6) 家族との夕食（共食）

6 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」（62.0%）が約6割で平成23年度調査より4.5%増加しており、「食べることはない」と答えた人は2.6%に留まっている。（図表Ⅱ－2－13）

図表Ⅱ－2－13



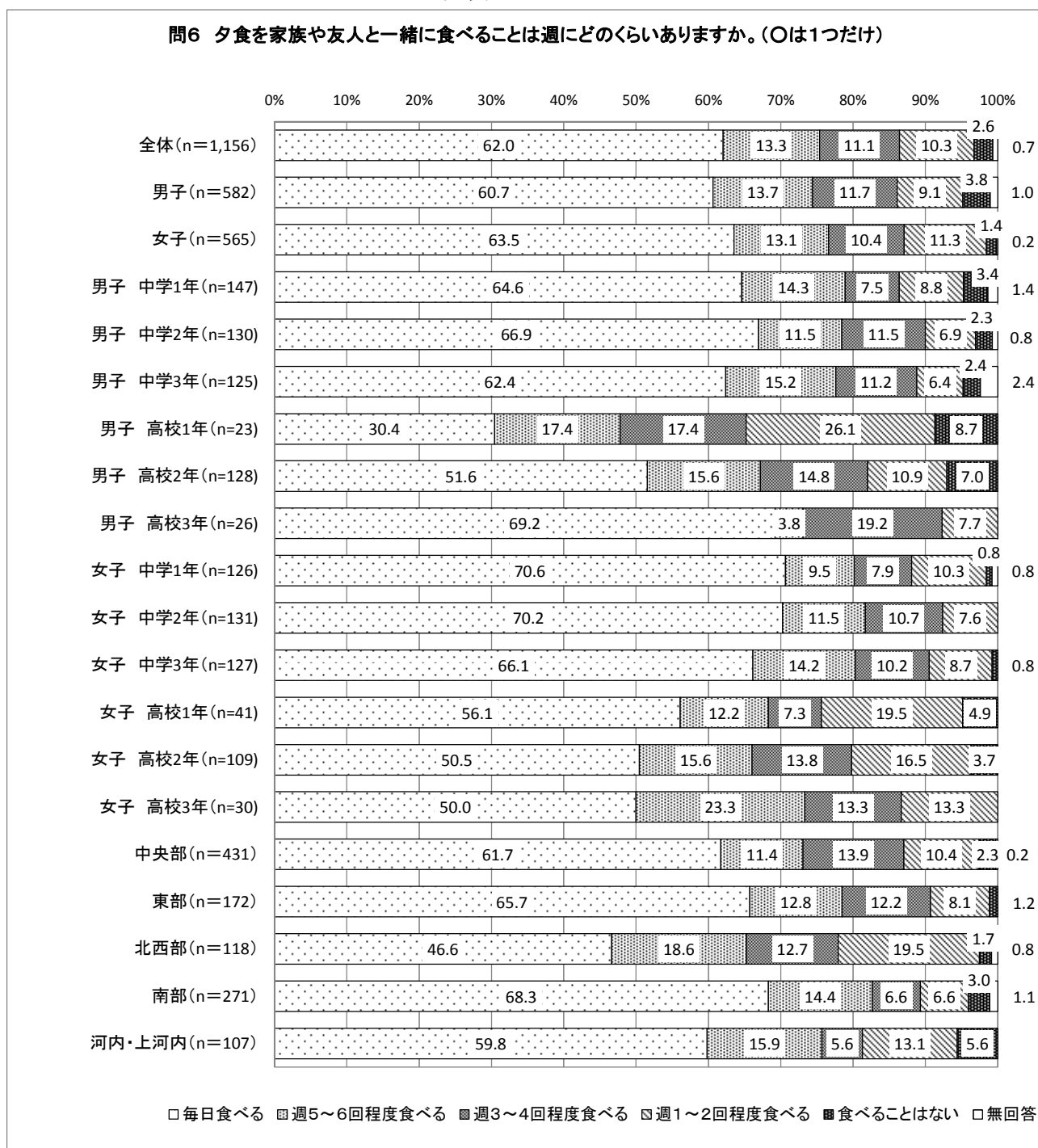
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「毎日食べる」の割合では、女子（63.5%）と男子（60.7%）で大きな差は見られない。

性・学年別では、女子は学年が低いほど「毎日食べる」の割合が高い傾向にある。また、「食べることはない」の割合は、「高校1年男子」（8.7%）「高校2年男子」（7.0%）で他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「毎日食べる」の割合が約6割、または6割以上となっているが、「北西部」では46.6%と、他地区に比べ低くなっている。（図表Ⅱ－2－14）

図表Ⅱ－2－14



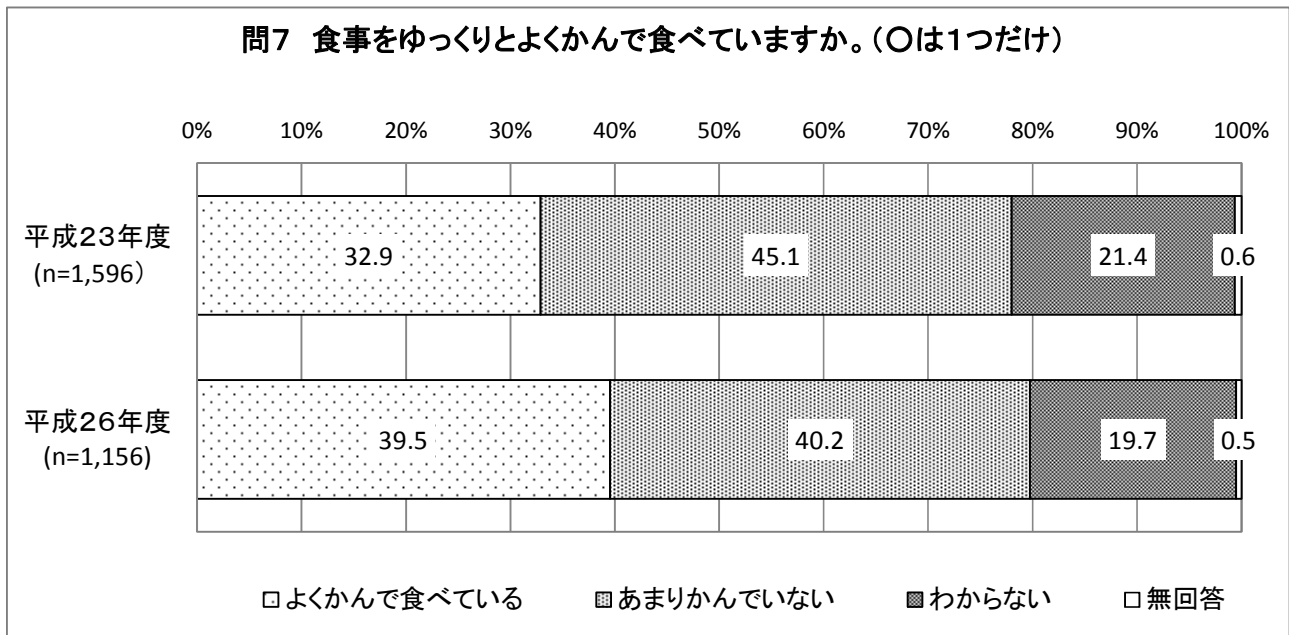
(7) 咀嚼

7 食事をゆっくりとよくかんで食べていますか。

◆「あまりかんでいない」が約4割

食事の時にゆっくりよくかんでいるか聞いたところ、「あまりかんでいない」(40.2%)が最も多くなっているが、平成23年度調査からは約5%減少している。また、「よくかんで食べている」が39.5%となっており、平成23年度調査からは約7%増加している。(図表Ⅱ-2-15)

図表Ⅱ-2-15



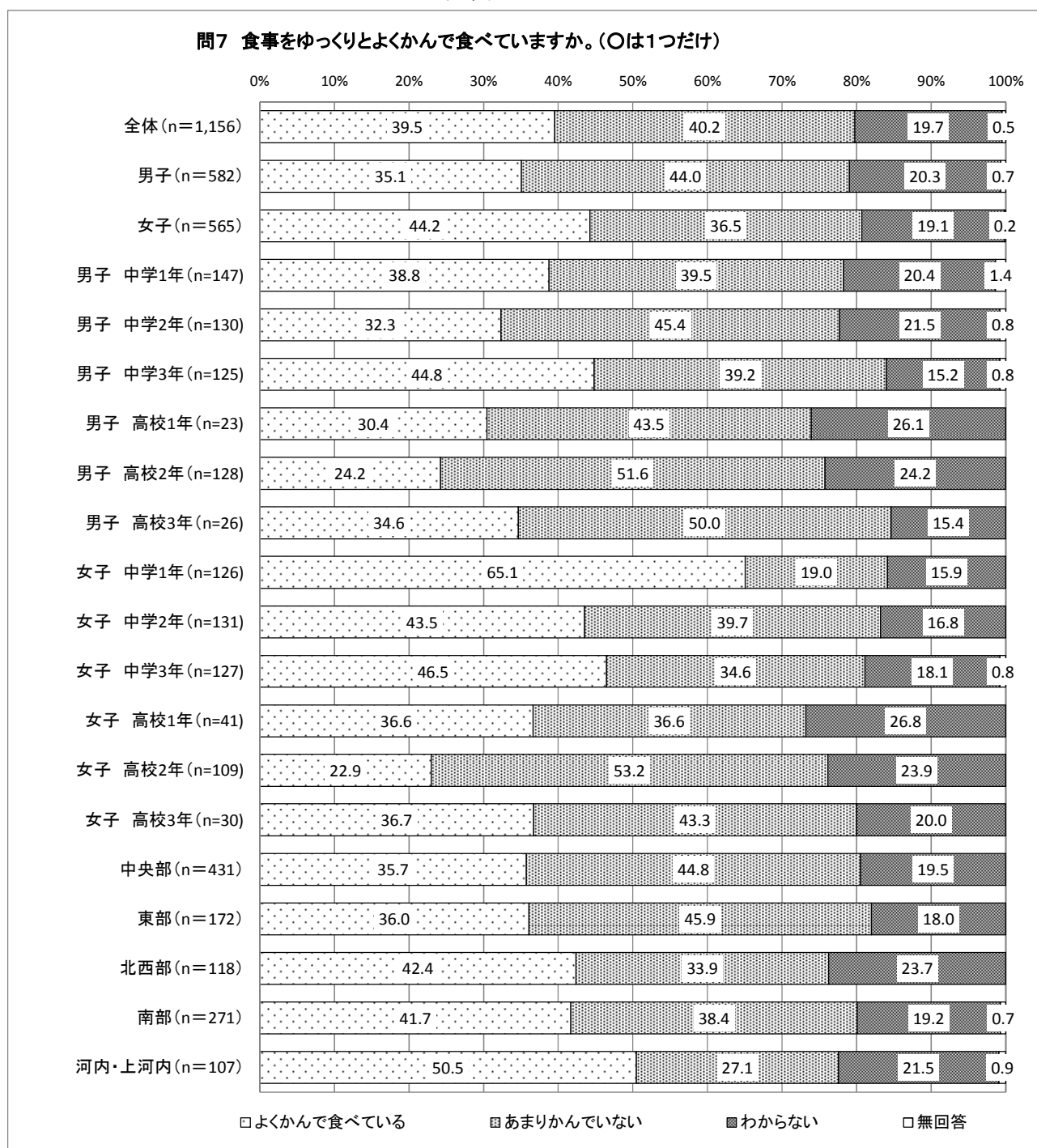
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「よくかんで食べている」の割合は、女子（44.2%）が男子（35.1%）より約9%高くなっている。男子は、「あまりかんでいない」（44.0%）が「よくかんで食べている」（35.1%）を上回っている。

性・学年別では、「高校3年男子」で「あまりかんでいない」（50.0%）が半数を占める。一方、中学生の女子は、全学年で「よくかんで食べている」が「あまりかんでいない」を上回っており、「中学1年女子」では65.1%と他の学年に比べ高い割合になっている。

居住地区別では、「中央部」と「東部」では「あまりかんでいない」の割合が高く、「北西部」,「南部」,「河内・上河内」では「よくかんで食べている」の割合が高くなっている。（図表Ⅱ－2－16）

図表Ⅱ－2－16



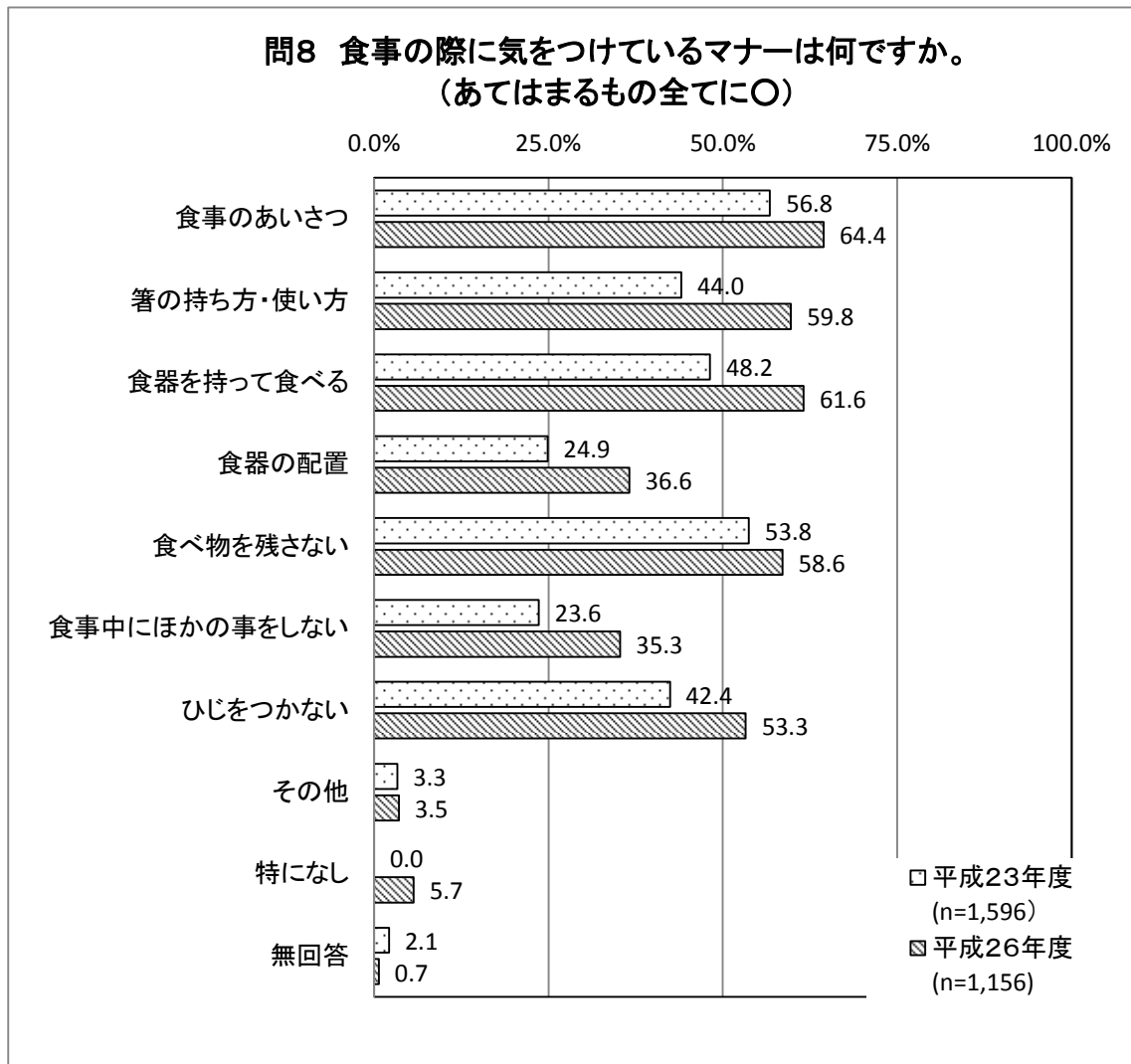
(8) 食事の際のマナー

8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食事のあいさつ」が6割超

食事の際に気をつけているマナーは、「食事のあいさつ」(64.4%)の割合が最も多く、次いで「食器を持って食べる」(61.6%)、「箸の持ち方・使い方」(59.8%)、「食べ物を残さない」(58.6%)となっている。(図表Ⅱ-2-17)

図表Ⅱ-2-17



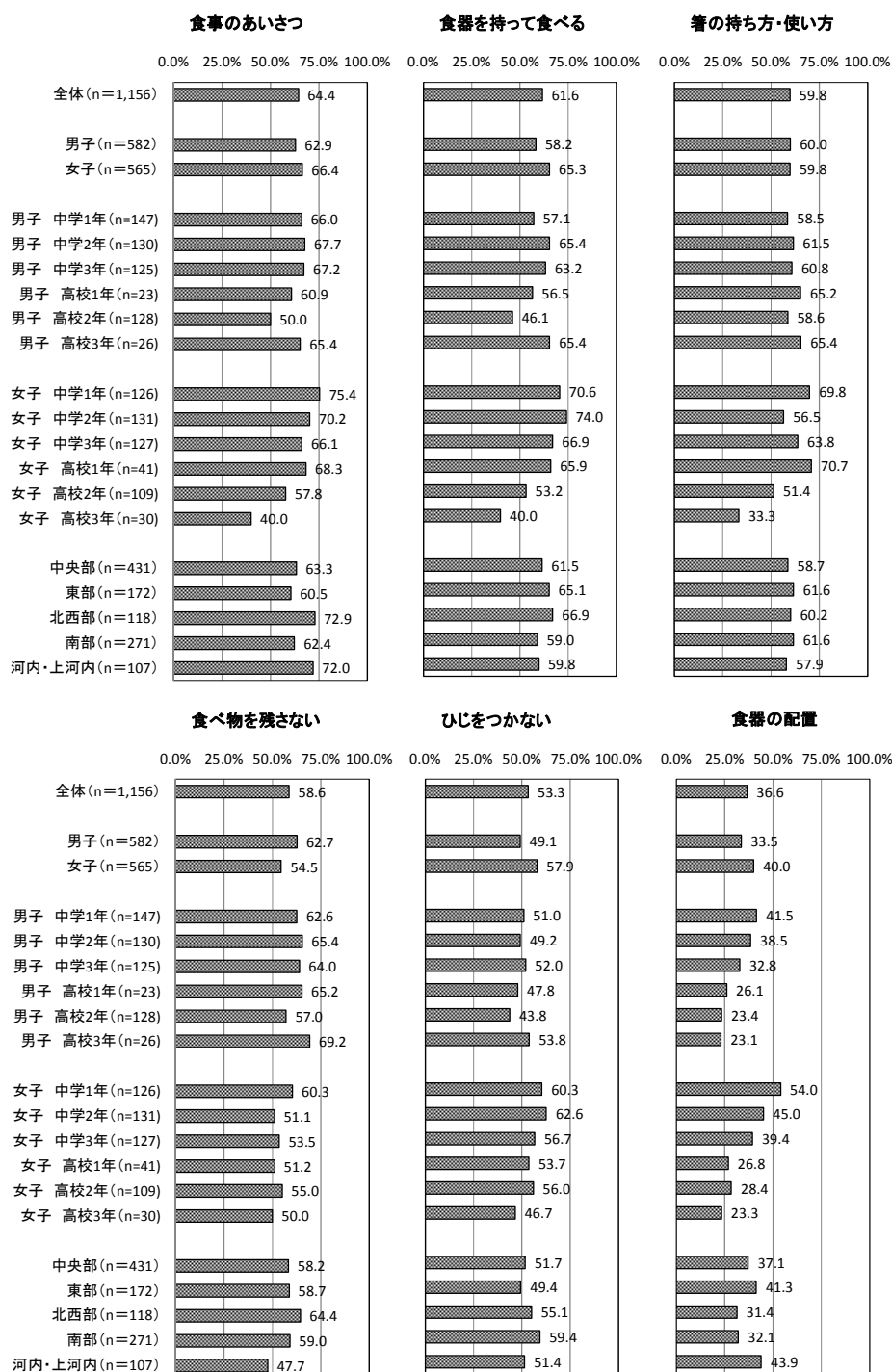
【性別／性・学年別／地区別】

上位6項目を性別で見ると、「食べ物を残さない」で男子（62.7%）の方が高くなっており、「食事のあいさつ」（66.4%）,「食器を持って食べる」（65.3%）,「ひじをつかない」（57.9%）では女子の方が高くなっている。

性・学年別では、男女とも「食事のあいさつ」,「食器の配置」は高学年になるほど低くなっている。「食器を持って食べる」は、男女とも「中学2年」が高くなっており、「中学2年女子」（74.0%）は7割を超えている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－2－18）

図表Ⅱ－2－18



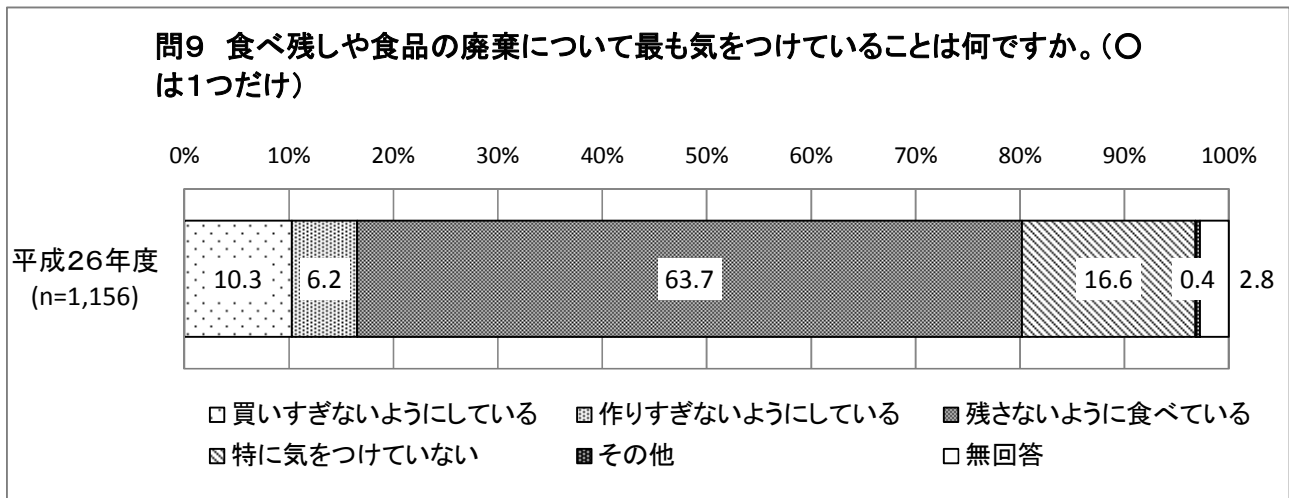
(9) 食べ残しや廃棄への関心

9 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。

◆「食べ物を残さない」が6割超

食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることについて聞いたところ、「残さないように食べている」(63.7%)の割合が最も高く、次いで「特に気をつけていない」(16.6%),「買いすぎないようにしている」(10.3%)となっている。(図表Ⅱ-2-19)

図表Ⅱ-2-19



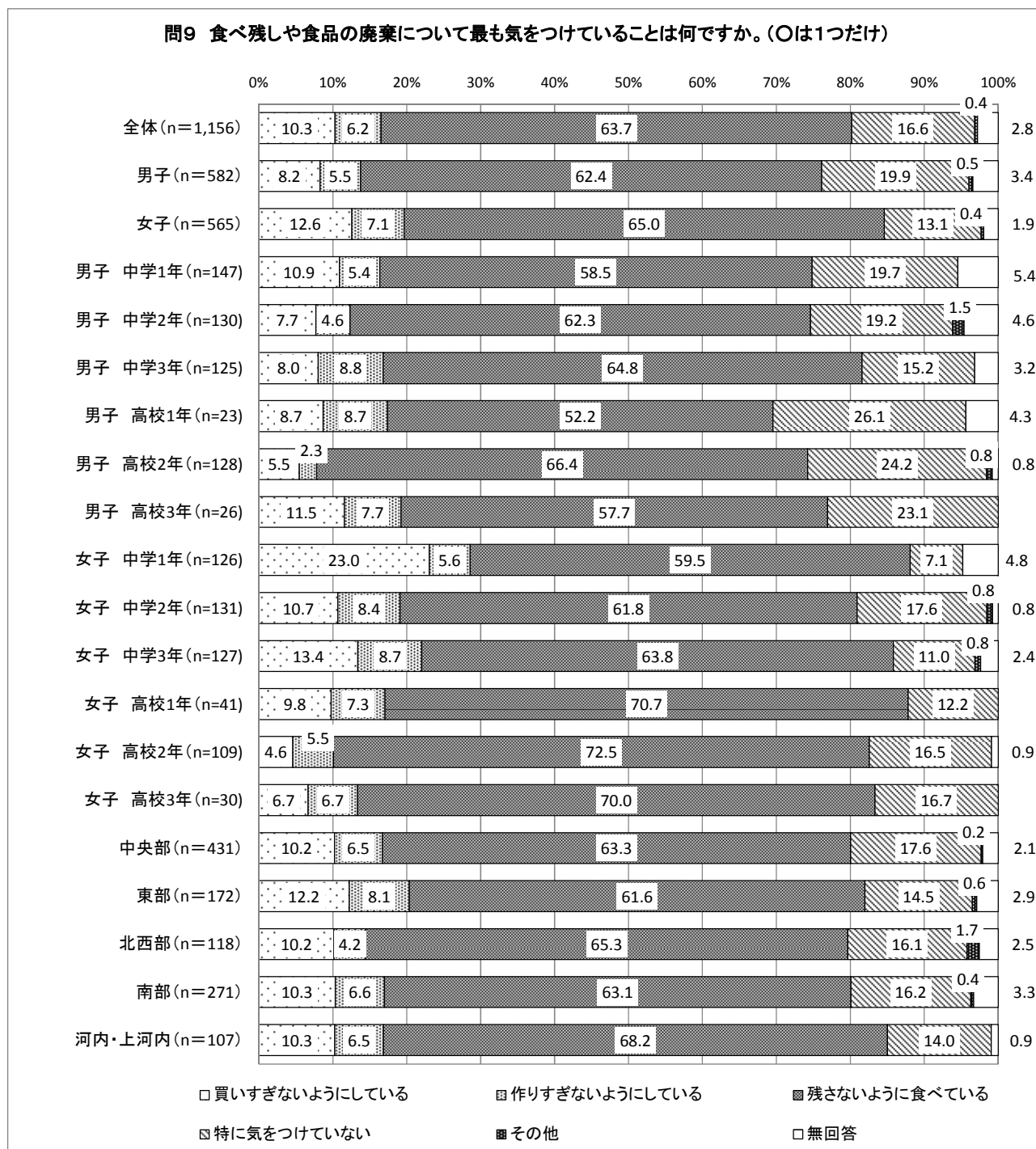
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女ともに「残さないように食べている」の割合が最も高くなっている。

性・学年別では、「中学1年女子」の「買いすぎないようにしている」(23.0%)の割合が他学年に比べ高くなっている。また、全学年において、「残さないように食べている」の割合が最も高くなっており、高校生の女子では、全学年で7割を超えている。一方、「特に気をつけていない」の割合は、高校生の男子で、全学年が2割を超え、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表Ⅱ-2-20)

図表Ⅱ-2-20



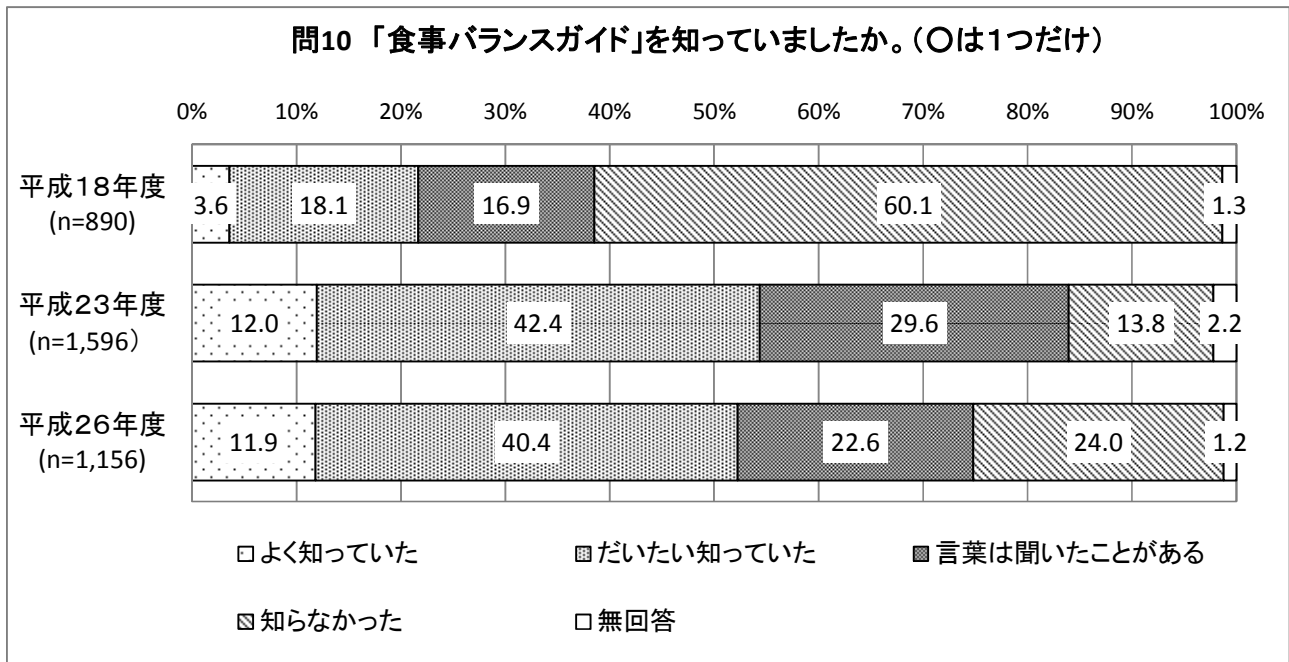
(10) 食事バランスガイドの認知度

10 「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「だいたい知っていた」が約4割

「食事バランスガイド」の認知度は、平成18年度調査では「知らなかった」(60.1%)が6割を占めていたのに対し、本調査では24.0%まで減少したが、平成23年度調査(13.8%)と比較すると約10%の増加となっている。また、「知っていた」(「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計)は平成23年度調査と同じ水準で推移している。(図表Ⅱ-2-21)

図表Ⅱ-2-21



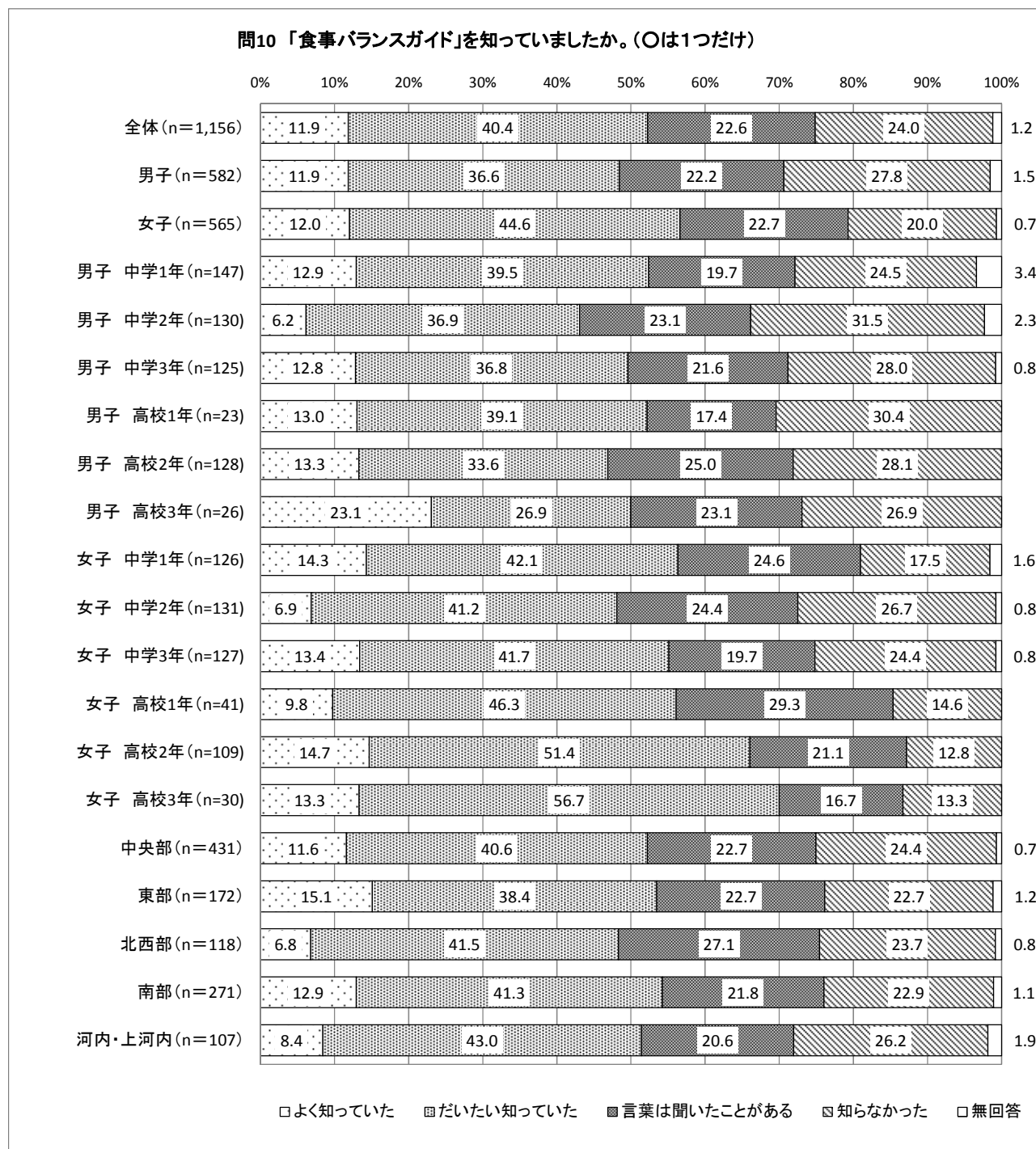
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）の割合は、女子（56.6％）が男子（48.5％）より約8％高くなっている。

性・学年別で見ると、「高校3年女子」の「知っていた」（70.0％）の割合が、最も高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「知らなかった」の割合が他地区に比べ若干、高くなっている。（図表Ⅱ－2－22）

図表Ⅱ－2－22



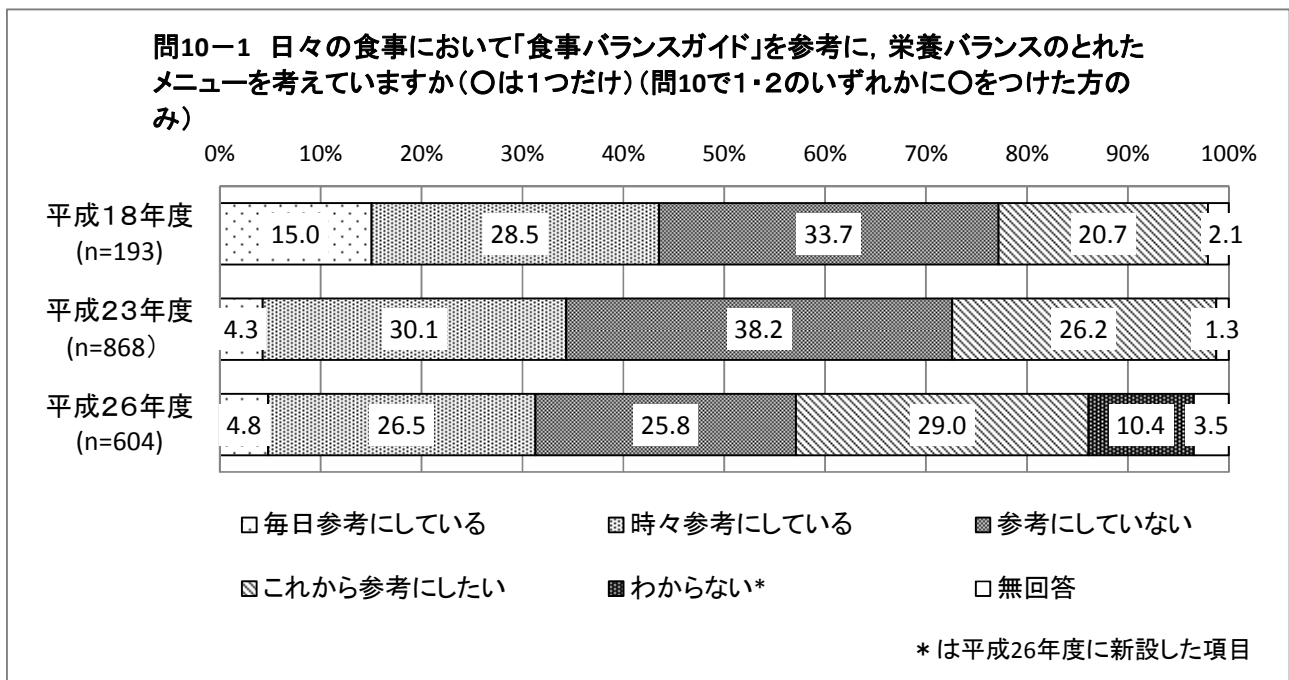
(10-1) 食事バランスガイドの利用度

10-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「参考にしていない」が約3割

前問で、「食事バランスガイド」を「知っていた」と答えた人に、ガイドの利用度を聞いたところ、「参考にしていない」(25.8%)が約3割を占め、平成23年度調査(38.2%)からは減少している。また、「毎日参考にしている」(4.8%)は、平成18年度調査からは減少しているものの、平成23年度調査と比べると大きな変化はない。(図表Ⅱ-2-23)

図表Ⅱ-2-23



【性別／性・学年別／地区別】

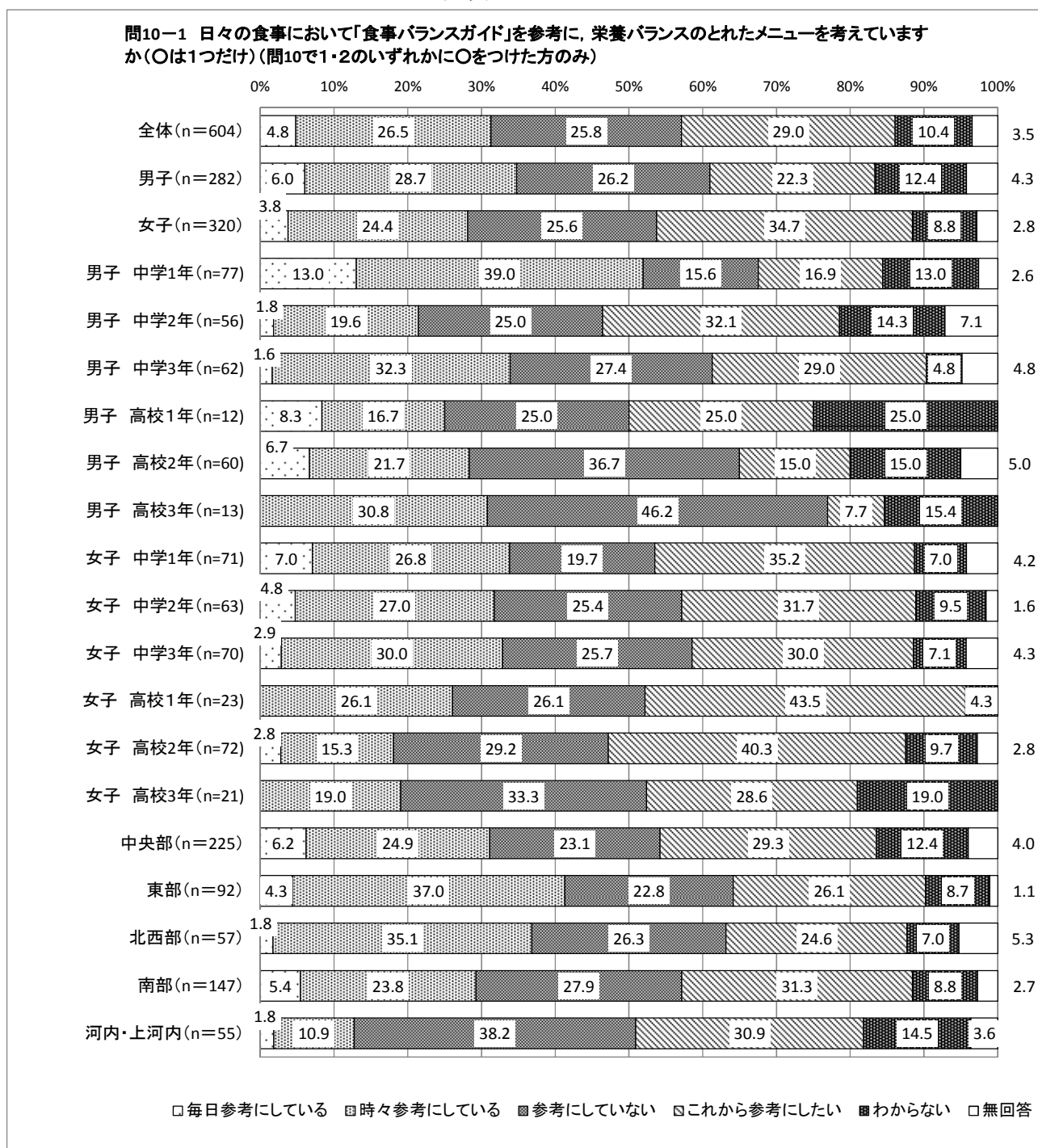
性別では、「参考にしている」（「毎日参考にしている」と「時々参考にしている」の合計）の割合で、男子（34.7%）が女子（28.2%）より約7%高くなっている。一方、「これから参考にしたい」の割合で、女子（34.7%）が男子（22.3%）より約12%高くなっている。

性・学年別では、「参考にしている」の割合で、「中学1年男子」（52.0%）が最も高く、「高校2年女子」（18.1%）が最も低く、その差は約34%となっている。

居住地区では、「河内・上河内」で「参考にしていない」の割合が、他地区に比べ高くなっている。

（図表Ⅱ－2－24）

図表Ⅱ－2－24



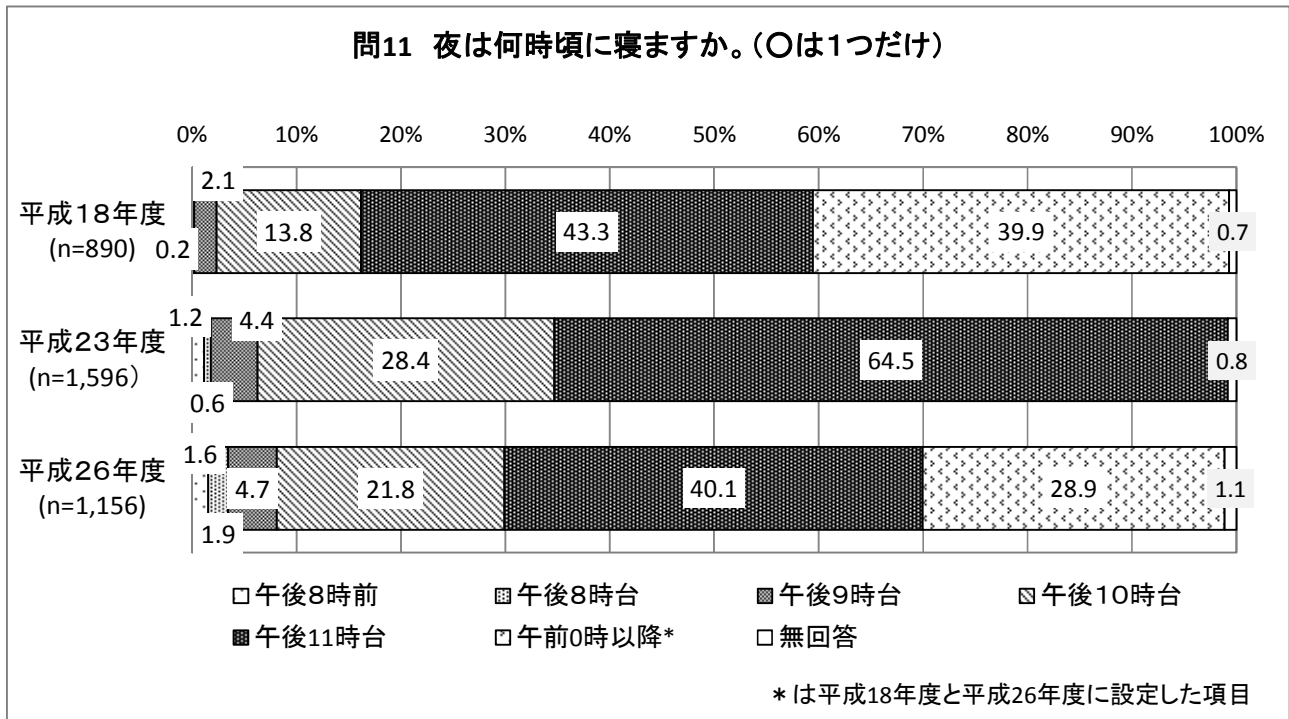
(11) 就寝時刻

11 夜は何時頃に寝ますか。

◆「午後11時台」、「午前0時以降」が減少

就寝時刻について、平成18年度調査では「午後11時台」、「午前0時以降」が83.2%と8割を超えていたのに対し、本調査では69.0%と減少している。(図表Ⅱ-3-1)

図表Ⅱ-3-1



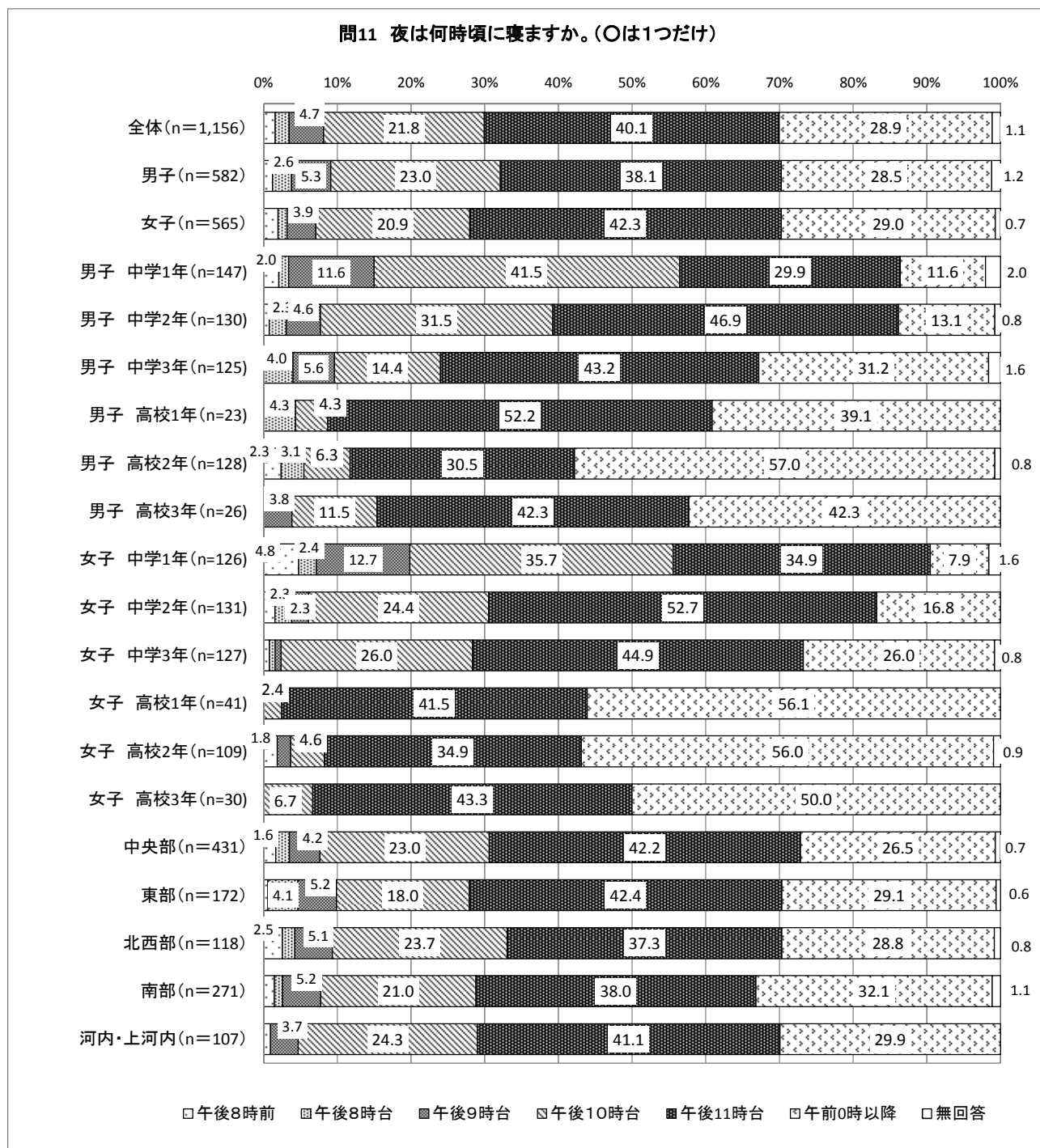
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「午後11時台」は、女子（42.3%）が男子（38.1%）より約4%高くなっている。

性・学年別では、男女とも学年が上がるに従い、「午後11時以降」（「午後11時台」と「午前0時以降」の合計）の割合が増加する傾向があり、高校生では、男女とも「午後11時以降」が約8割から9割を占めている。

居住地区別では、「東部」（71.5%）と「南部」（70.1%）、「河内・上河内」（71.0%）で、「午後11時以降」が約7割を占めている。（図表Ⅱ－3－2）

図表Ⅱ－3－2



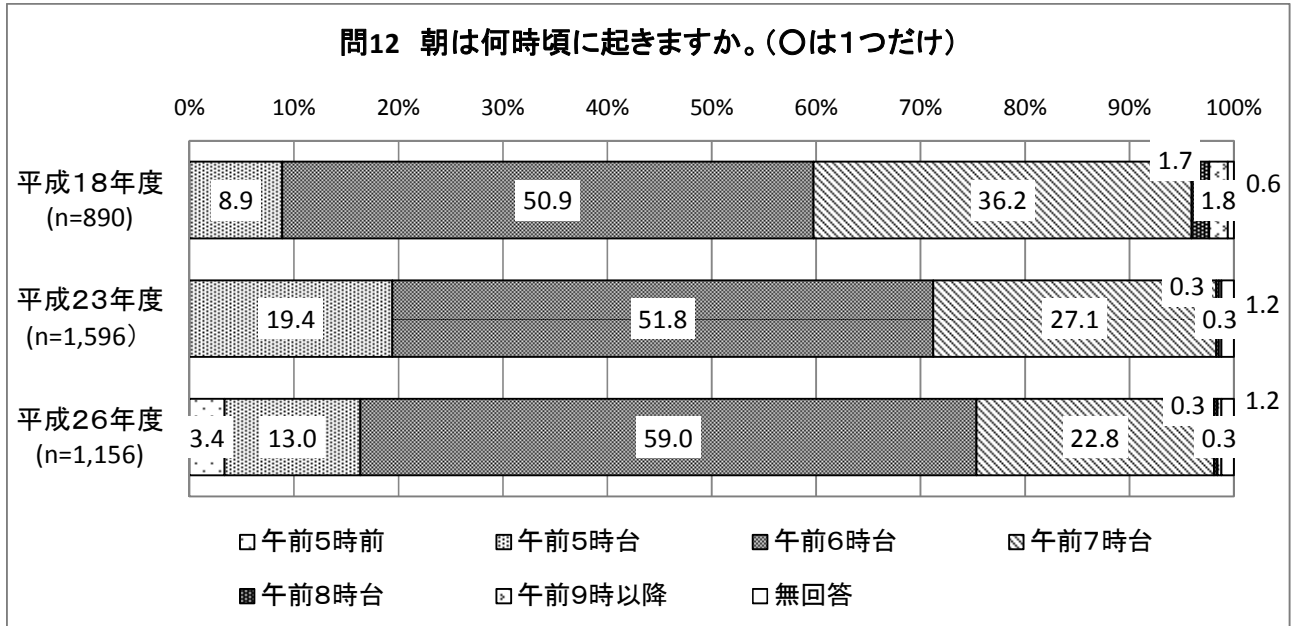
(12) 起床時刻

12 朝は何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が約6割

起床時刻は、「午前6時台」(59.0%)が約6割を占めている。また、「午前7時台」(22.8%)が、平成18年度調査(36.2%)から13%減少している。(図表Ⅱ-3-3)

図表Ⅱ-3-3

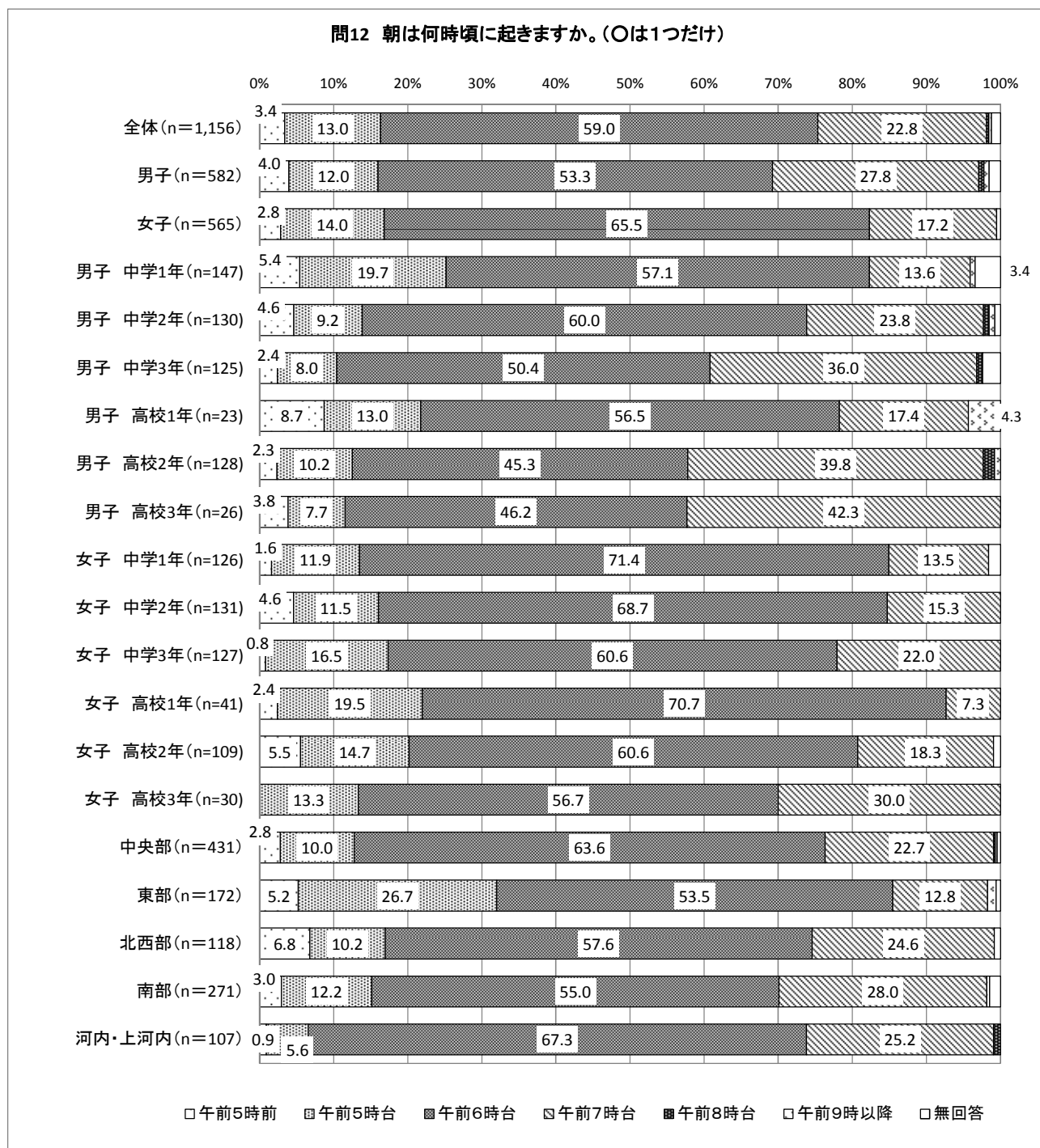


【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「午前6時台」は、女子（65.5%）が男子（53.3%）より約12%高くなっている。
 性・学年別では、男女ともに「午前6時台」の割合が高く、「中学1年女子」（71.4%）で最も高い割合となっている。

居住地区別では、「東部」で「午前5時台」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅱ－3－4）

図表Ⅱ－3－4



(13) メタボリックシンドロームの認知度

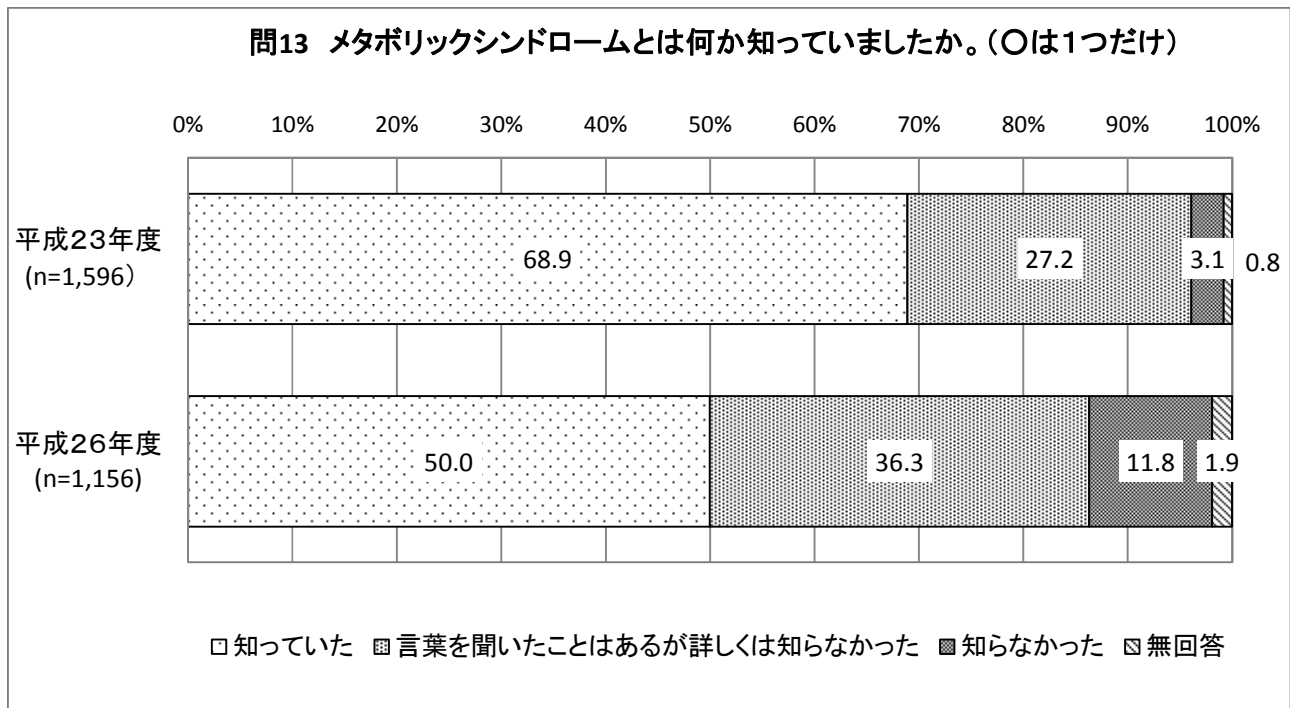
13 メタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が半数

メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」(50.0%)が半数を占めたが、平成23年度調査からは約20%の減少となった。また、「知らなかった」については約9%の増加となった。

(図表Ⅱ-4-1)

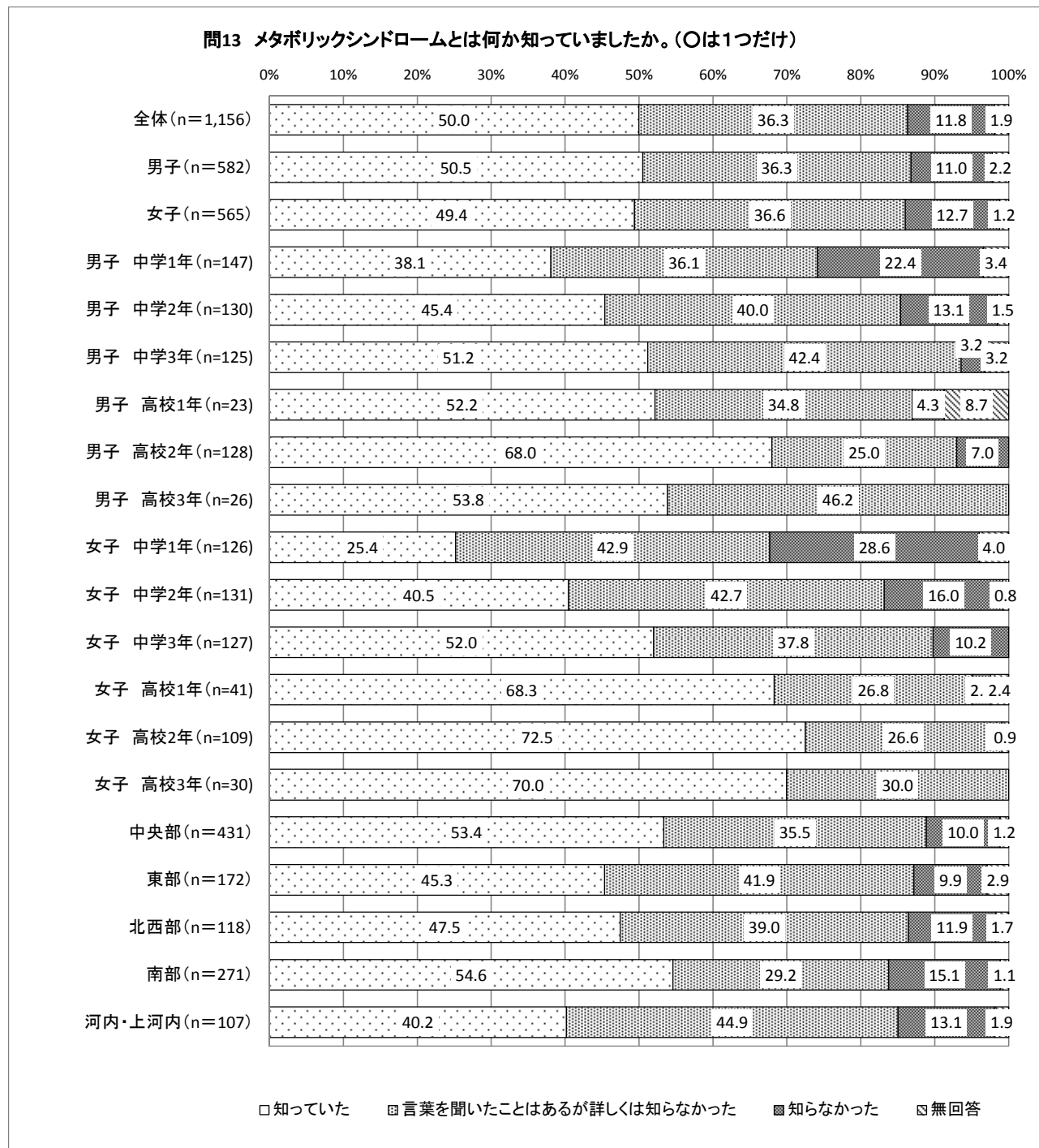
図表Ⅱ-4-1



【性別／性・学年別／地区別】

性・学年別では、男女とも学年が上がるほど、「知っていた」の割合が高くなる傾向にある。居住地区別では、「中央部」、「南部」で「知っていた」が半数を占める。(図表Ⅱ－４－２)

図表Ⅱ－４－２



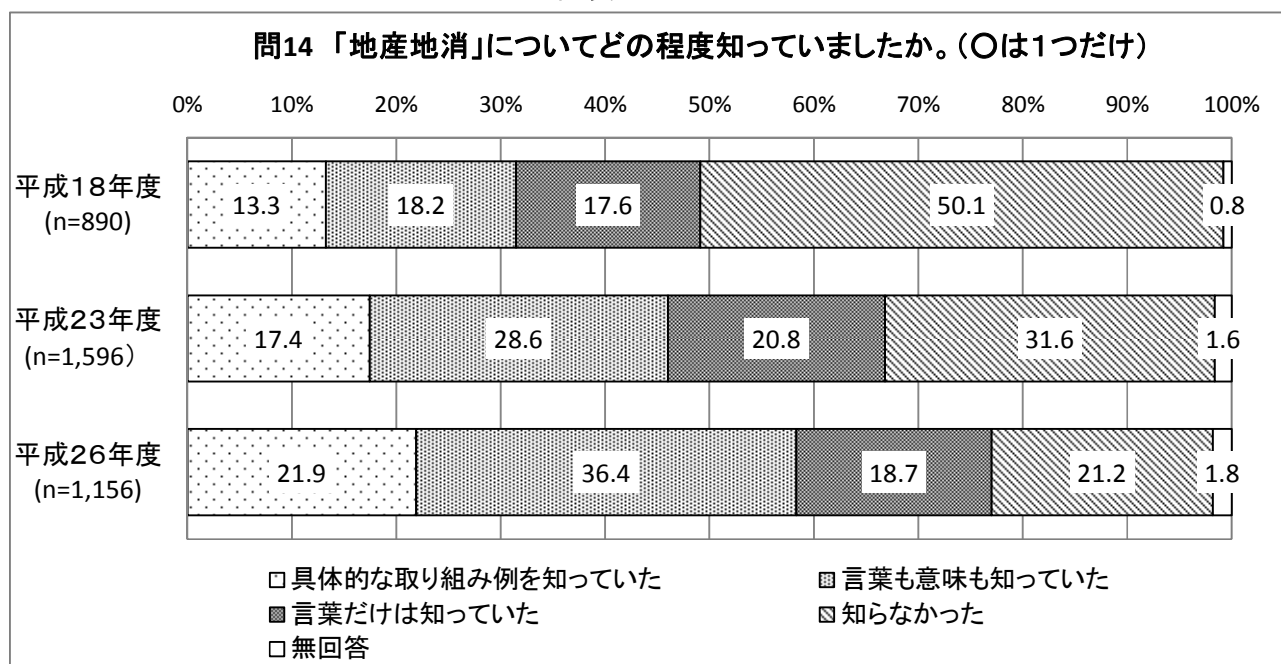
(14) 地産地消の認知度

14 「地産地消」についてどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」割合が増加

「地産地消」については、「知らなかった」が、平成18年度調査では50.1%に上っていたのに対し、本調査では21.1%と約29%の大幅な減少となった。「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）については、平成18年度調査では49.1%，平成23年度調査では66.8%，平成26年度調査では77.0%と経年的に見て増加傾向にある。（図表Ⅱ－5－1）

図表Ⅱ－5－1



【性別／年齢別／地区別】

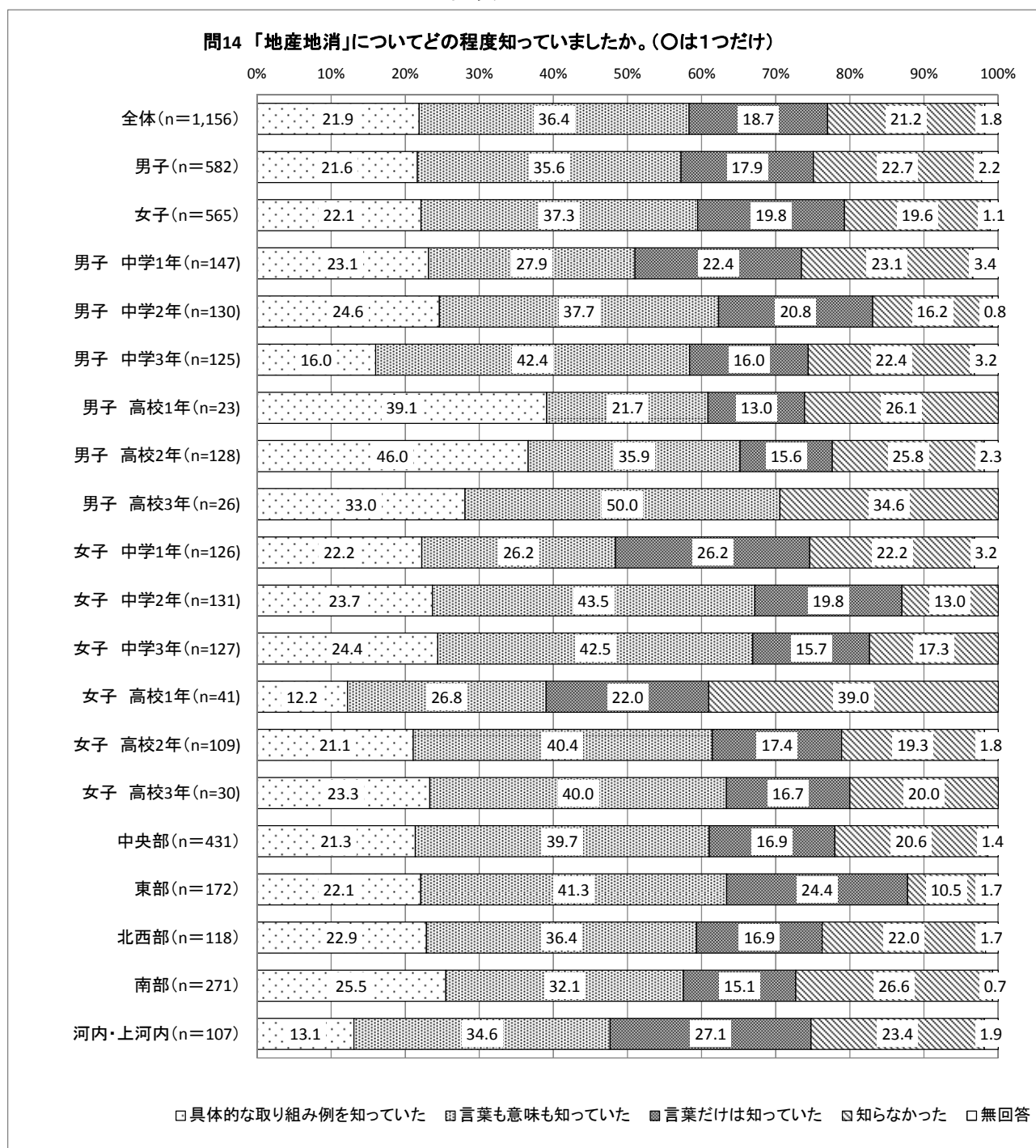
性別では、「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）の割合は、女子（79.2%）が男子（75.1%）よりも約4%高くなっている。

性・学年別で見ると、「知らなかった」の割合が、「高校3年男子」、「高校1年女子」で3割を超えており、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「知っていた」（47.7%）が他地区に比べ低くなっている。

（図表Ⅱ－5－2）

図表Ⅱ－5－2



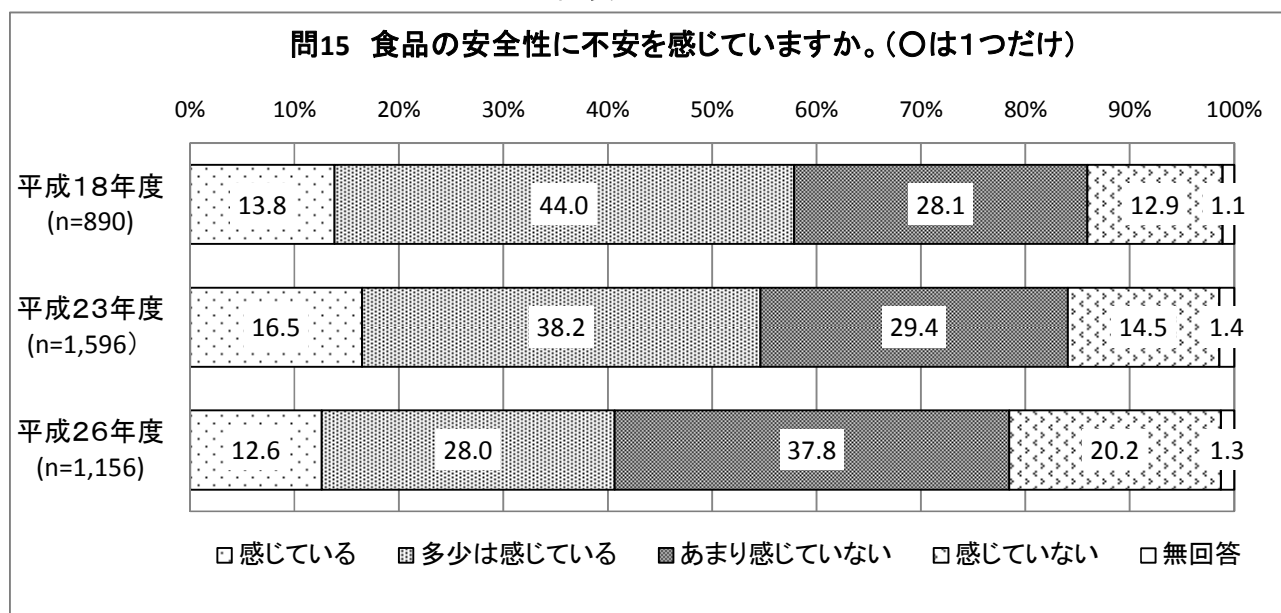
(15) 食品の安全性への不安

15 食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が減少

食品の安全性への不安は、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は40.6%と、平成18年度調査、平成23年度調査からは約14%減少している。一方、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は58.0%と約6割を占める。（図表Ⅱ-6-1）

図表Ⅱ-6-1



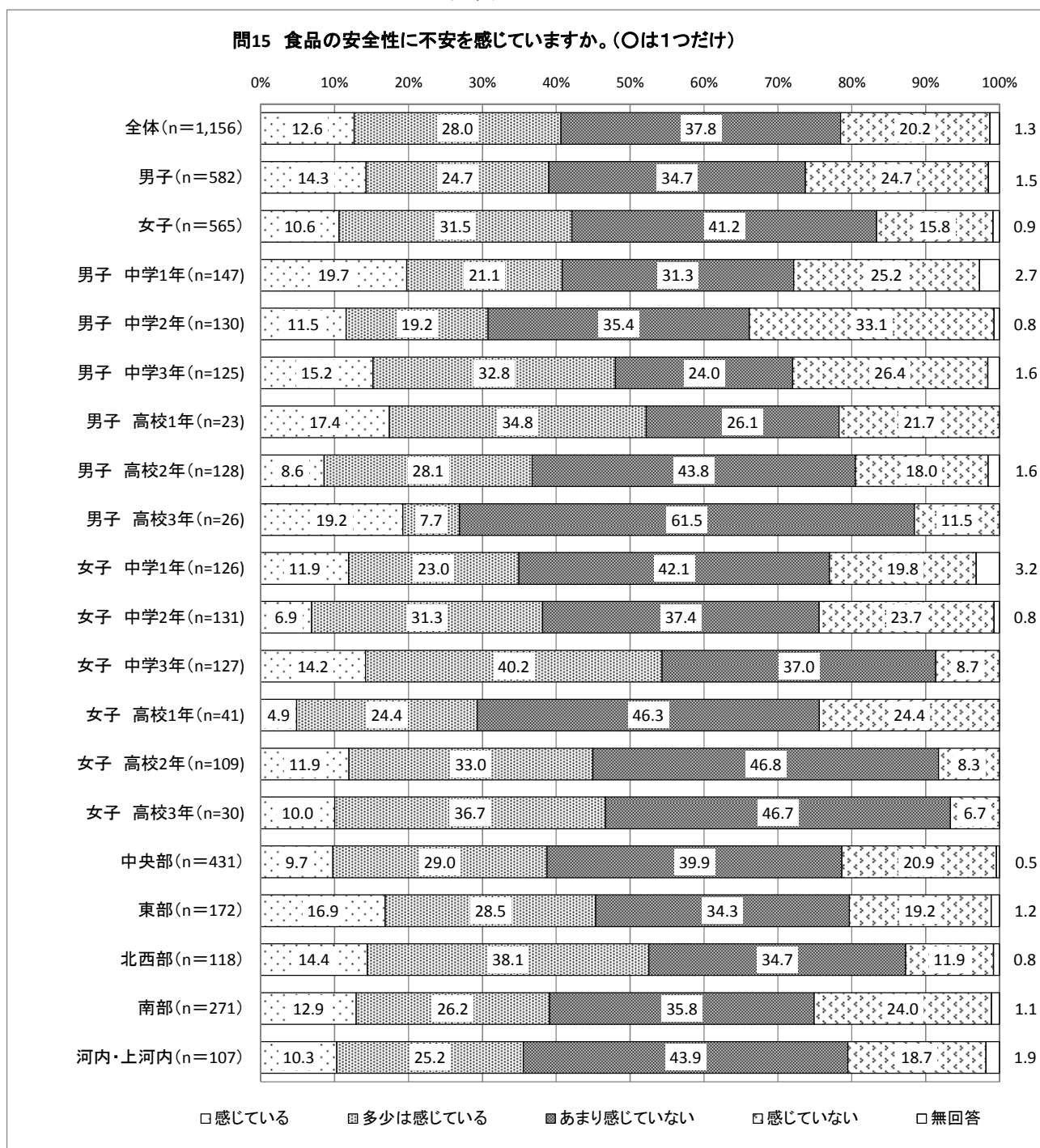
【性別／年齢別／地区別】

性別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、女子（42.1%）が男子（39.0%）より約3%高くなっている。

性・学年別では、「中学3年女子」、「高校1年男子」で「感じている」の割合が5割を占め、その他の学年では「感じていない」（「あまり感じていない」、「感じていない」の合計）の割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「感じている」の割合が52.5%と他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅱ－6－2）

図表Ⅱ－6－2



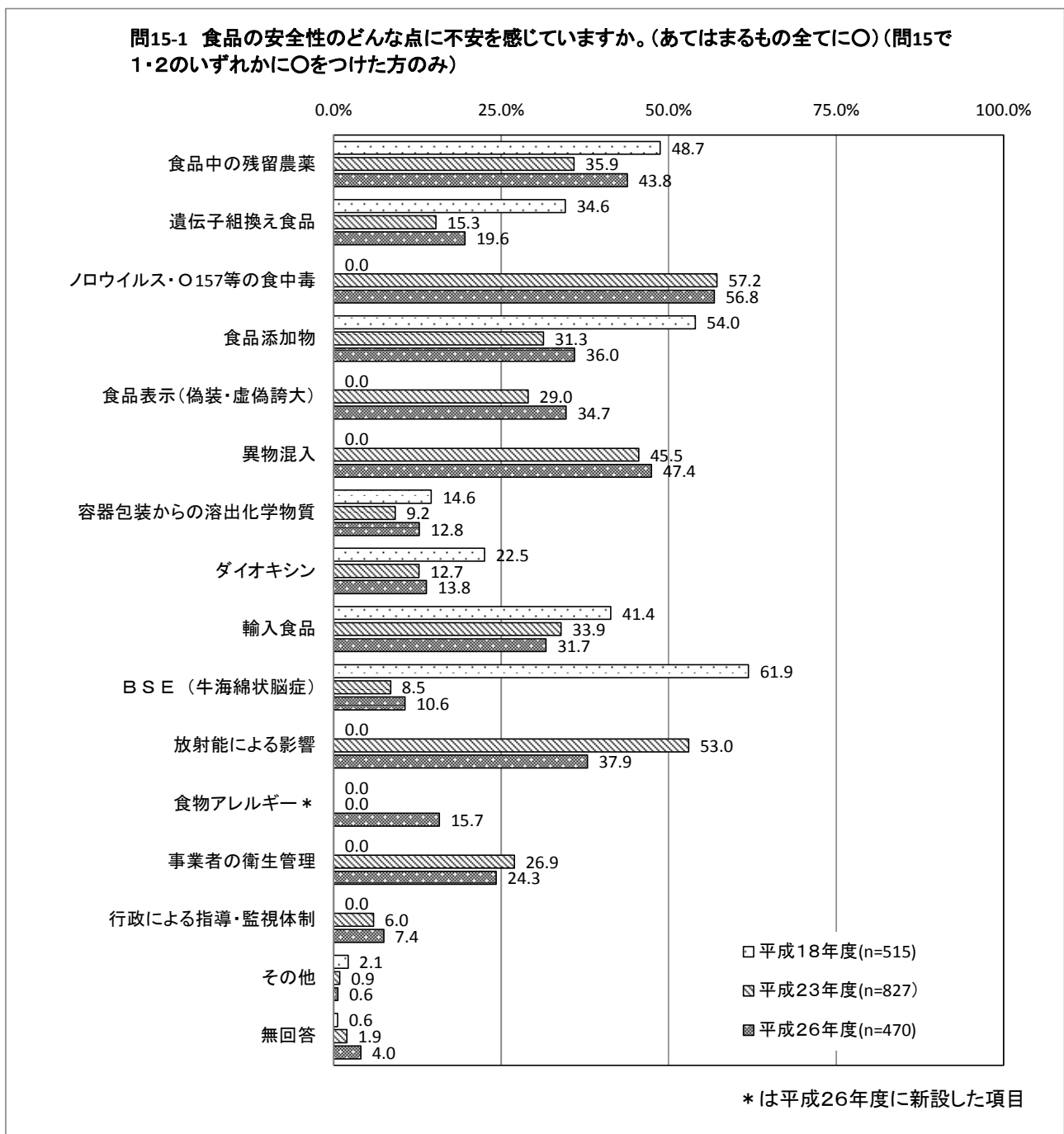
(15-1) 不安の内容

15-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「ノロウイルス・O157等の食中毒」が5割超

前問で食品の安全性に不安を「感じている」と答えた人に、不安な点を聞いたところ、「ノロウイルス・O157等の食中毒」が56.8%と最も高い割合となっている。次いで「異物混入」(47.4%)、「食品中の残留農薬」(43.8%)、「放射能による影響」(37.9%)と続く。平成18年度調査で最も多かった「BSE(牛海綿状脳症)」は10.6%まで減少し、また、平成23年度調査で5割を超えていた「放射能による影響」(52.8%)は37.9%に減少している。(図表Ⅱ-6-3)

図表Ⅱ-6-3



【性別／年齢別／地区別】

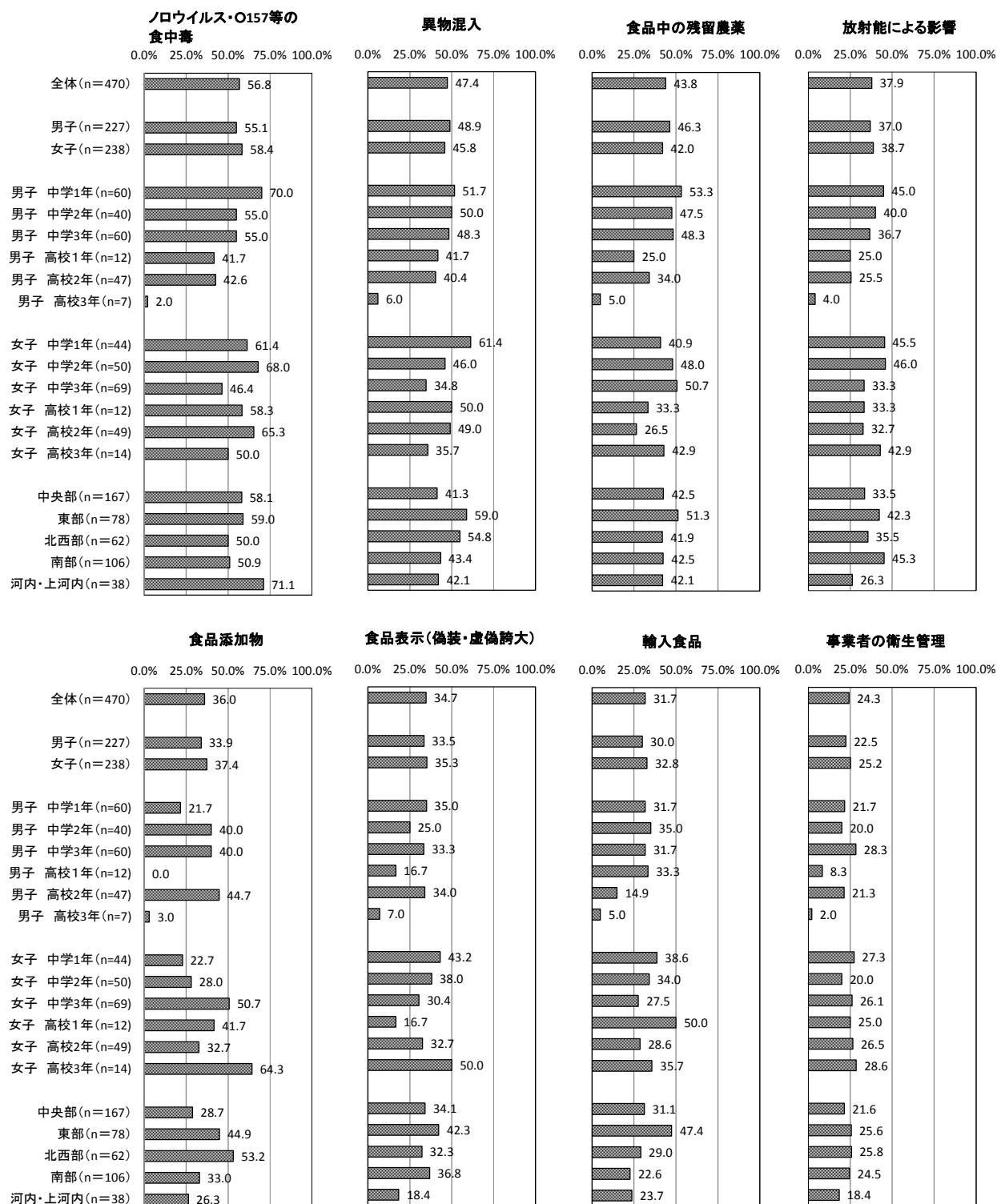
上位8項目を性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別では、どの学年においても「ノロウイルス・O157等の食中毒」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「ノロウイルス・O157等の食中毒」が7割を超えている。

(図表Ⅱ－6－4)

図表Ⅱ－6－4（上位8項目）



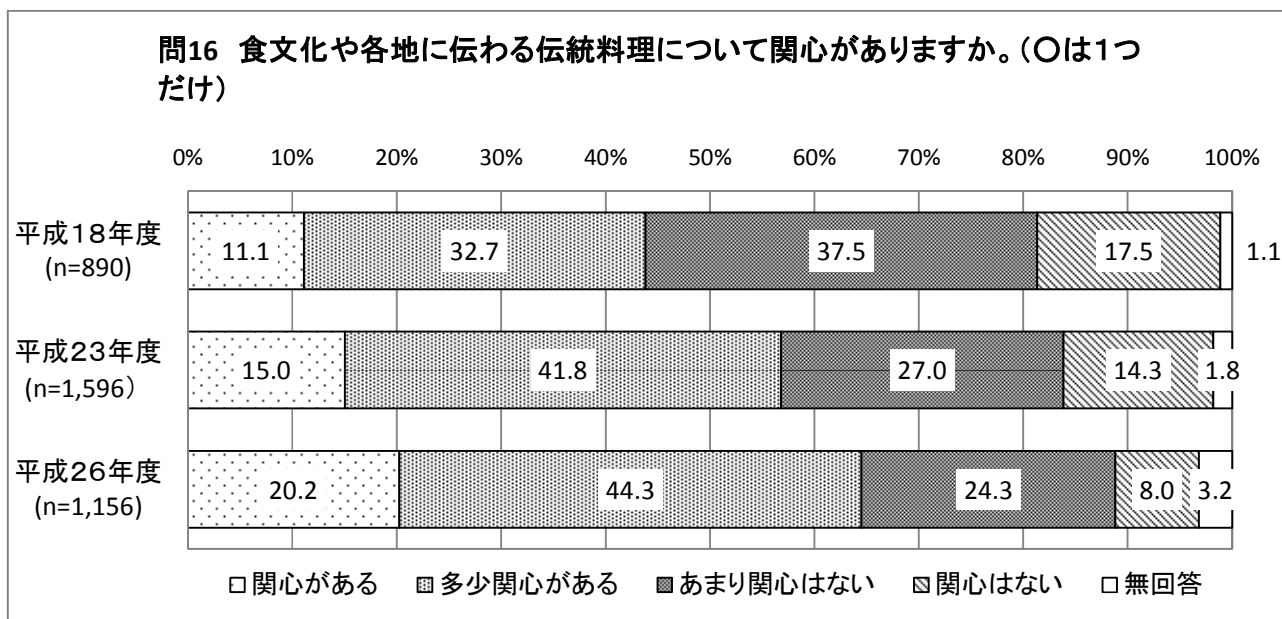
(16) 食文化や伝統料理への関心度

16 あなたは食文化や古くから各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆「関心がある」が6割超

食文化や伝統料理への関心度は、平成18年度調査では「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）が43.8%と半数以下であったが、平成23年度調査では56.8%、平成26年度調査では64.5%と経年的に見て増加傾向にある。（図表Ⅱ－7－1）

図表Ⅱ－7－1



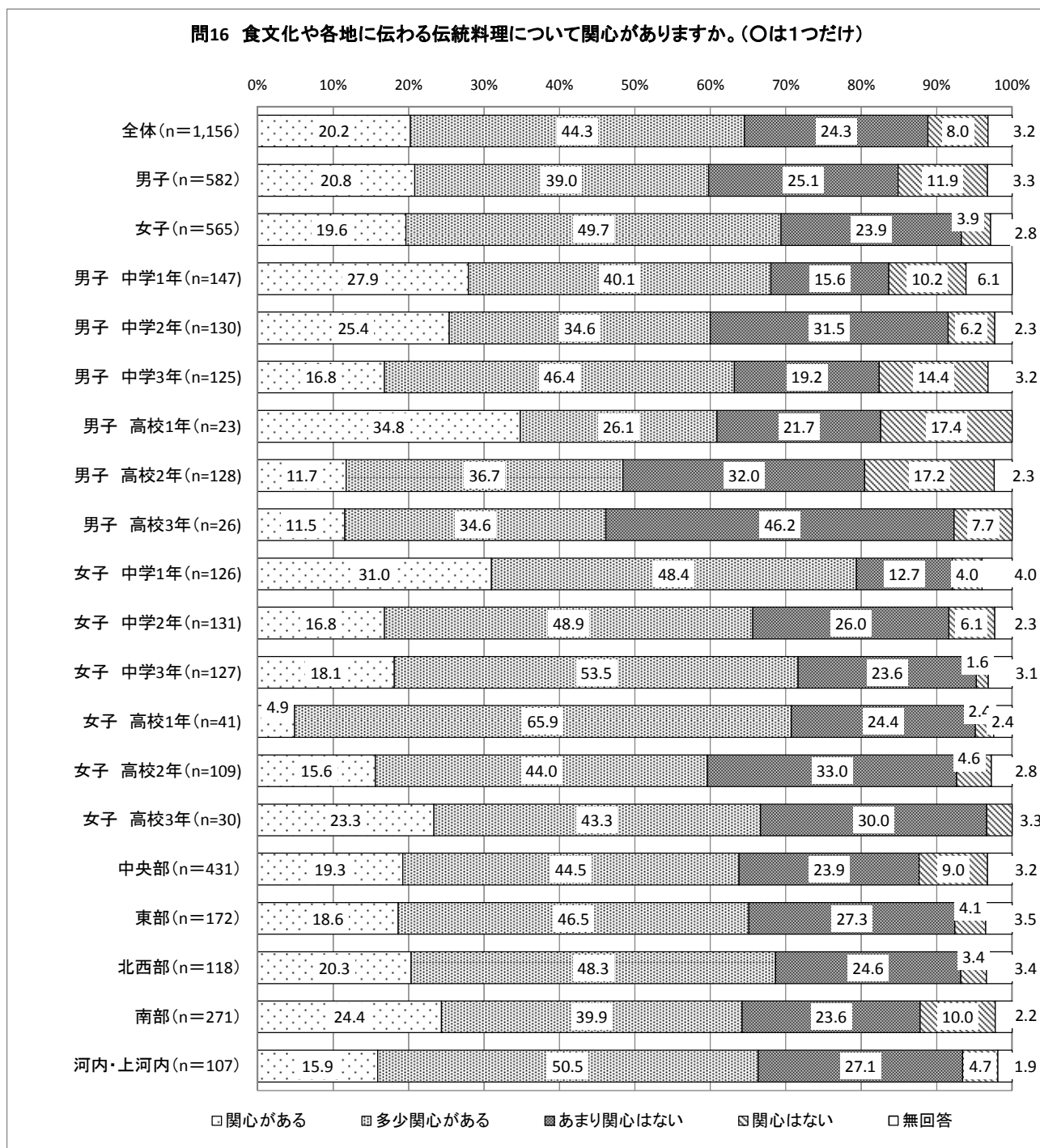
【性別／年齢別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）は、女子（69.3％）が男子（59.8％）を約10％上回っている。

性・学年別では、学年が上がるほど「関心がある」の割合が低くなる傾向にあり、「高校3年男子」では「関心はない」（「あまり関心はない」と「関心はない」の合計）の割合が半数を占める。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－7－2）

図表Ⅱ－7－2



V 調査結果の詳細

— 幼児・小学生（保護者） —

I 子どものことについて

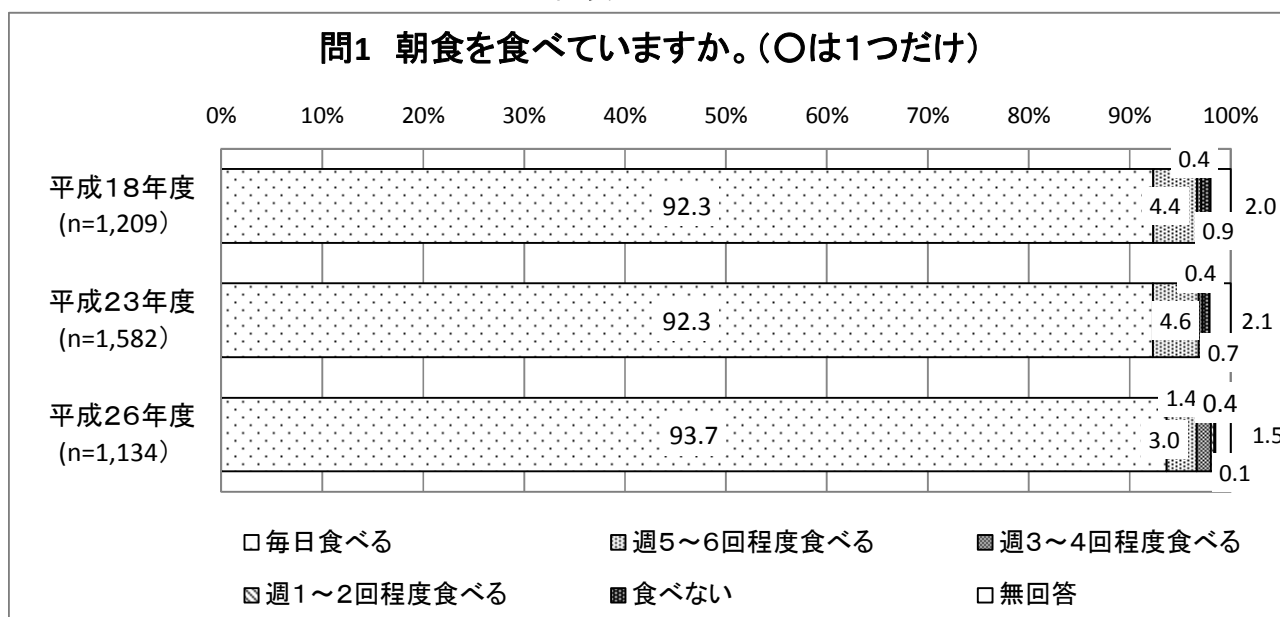
(1) 朝食摂取度

1 お子さまは朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が9割以上

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」(93.7%)が9割を超え、平成23年度調査の水準を維持している。また、「食べない」については減少傾向にあり、本調査では0.1%となった。(図表Ⅲ-1-1)

図表Ⅲ-1-1



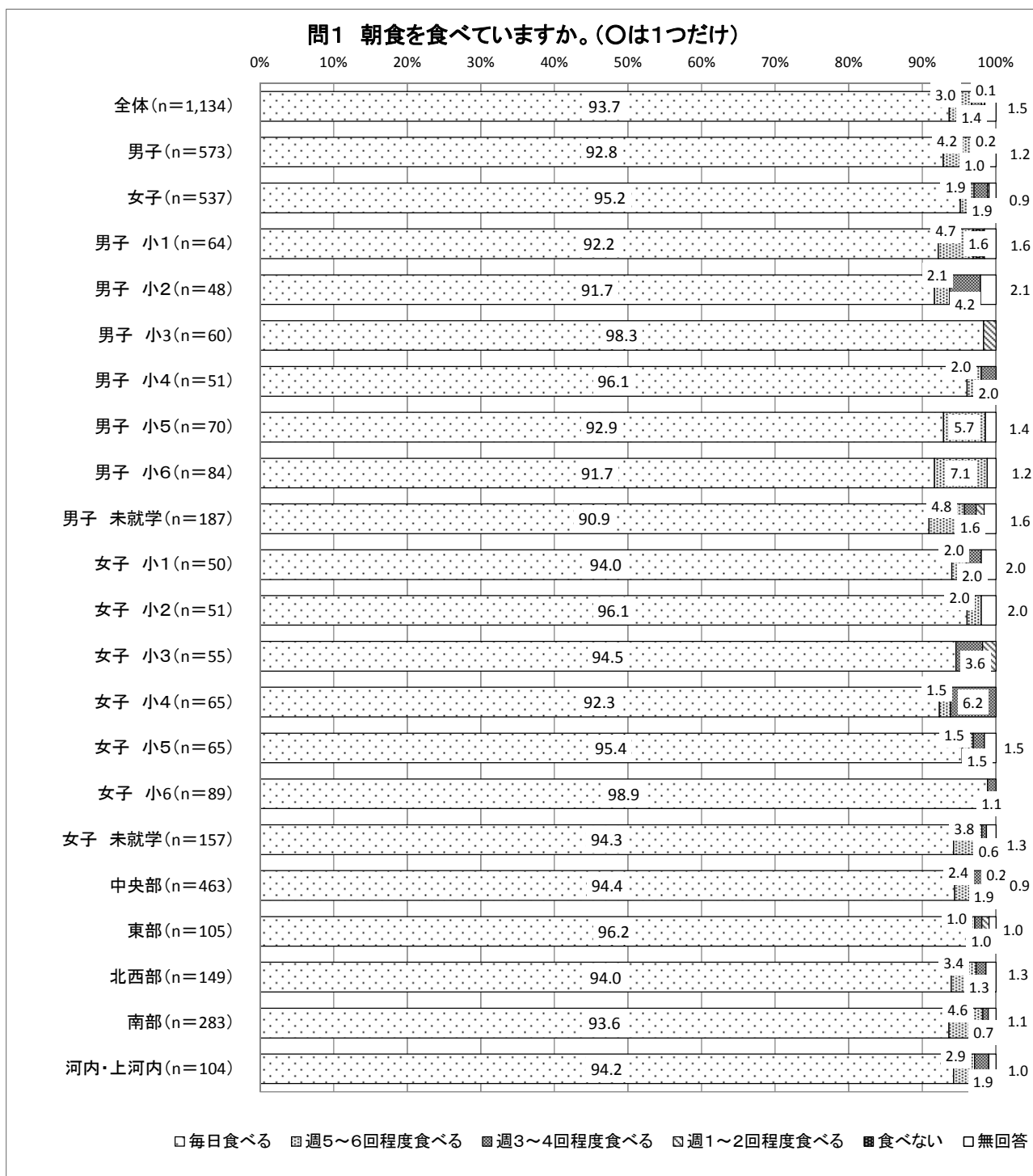
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「週5～6回程度食べる」の割合で男子（4.2%）が女子（1.9%）に比べ若干高くなっている。

子どもの性・学年別では、大きな差は見られないが、「男子小1」の「食べない」の割合が1.6%と、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－2）

図表Ⅲ－1－2



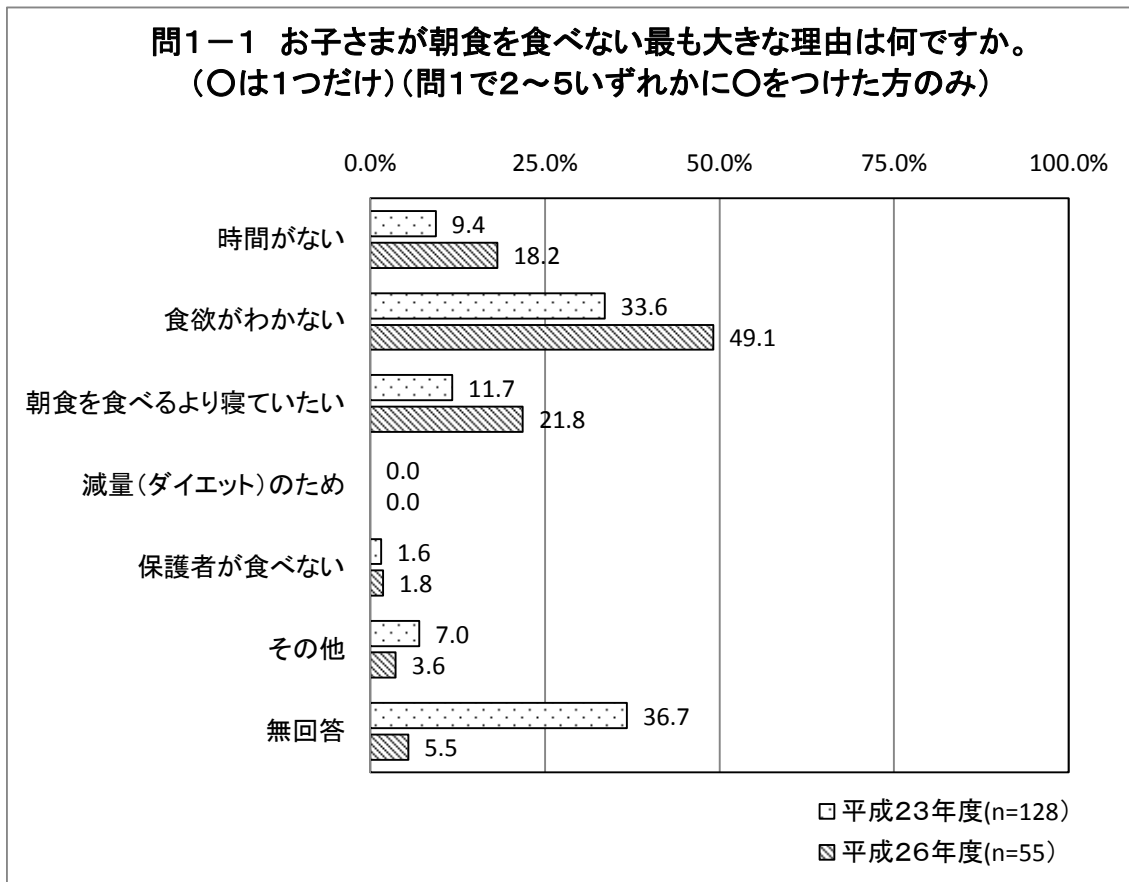
(1-1) 朝食を食べない理由

1-1 お子さまが朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「食欲がわからない」が約半数

前問で子どもが朝食を毎日食べないと答えた人にその理由を聞いたところ、「食欲がわからない」が49.1%と最も多くなっている。次いで、「朝食を食べるより寝ていたい」(21.8%)、「時間がない」(18.2%)となっている。(図表Ⅲ-1-3)

図表Ⅲ-1-3

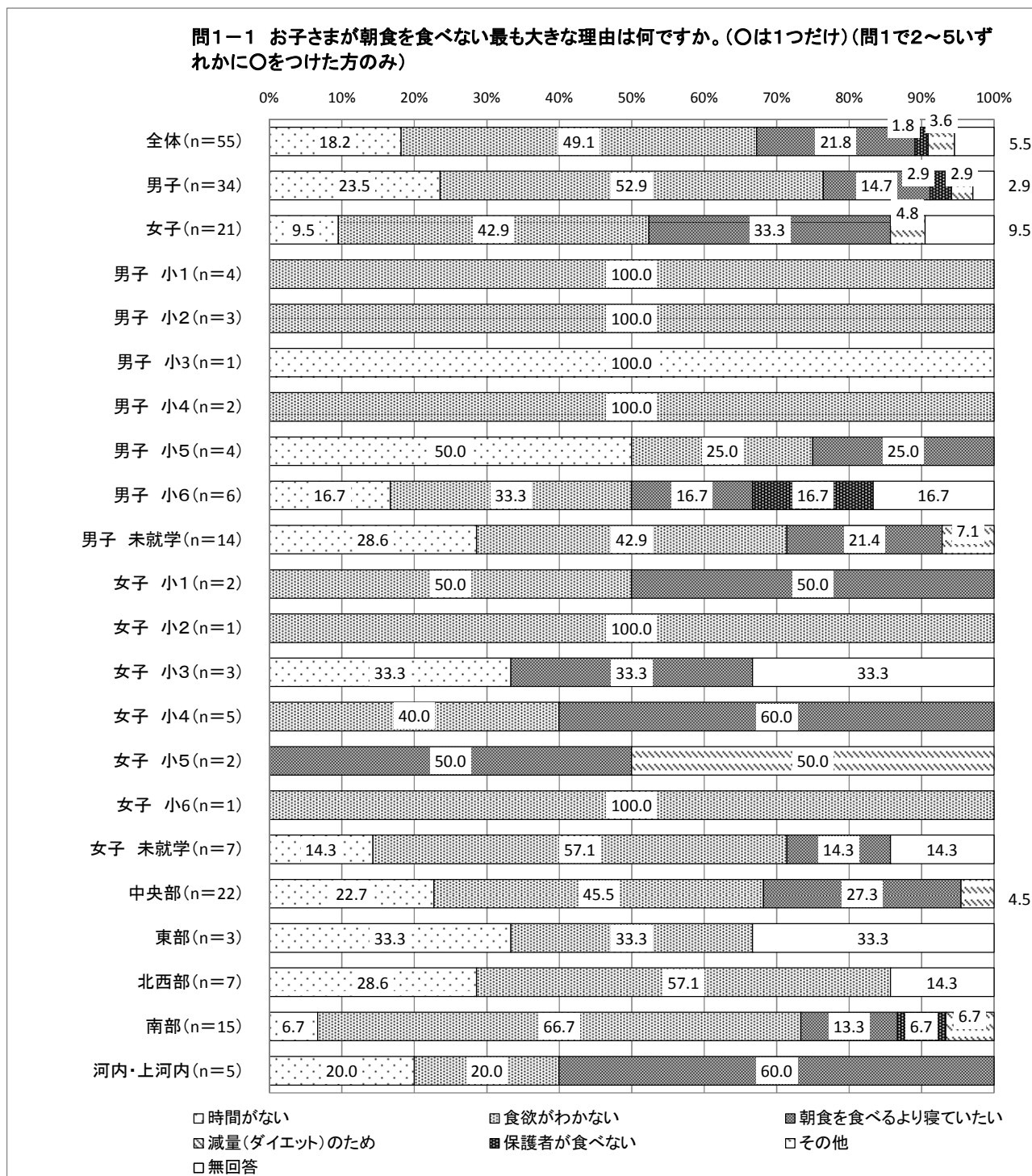


【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「時間がない」、「食欲がわからない」、「保護者が食べない」で男子の方が高く、女子では「朝食を食べるより寝ていたい」の割合が高くなっている。

居住地区別では、ほとんどの地区で「食欲がわからない」が最も多くなっている。(図表Ⅲ－1－4)

図表Ⅲ－1－4



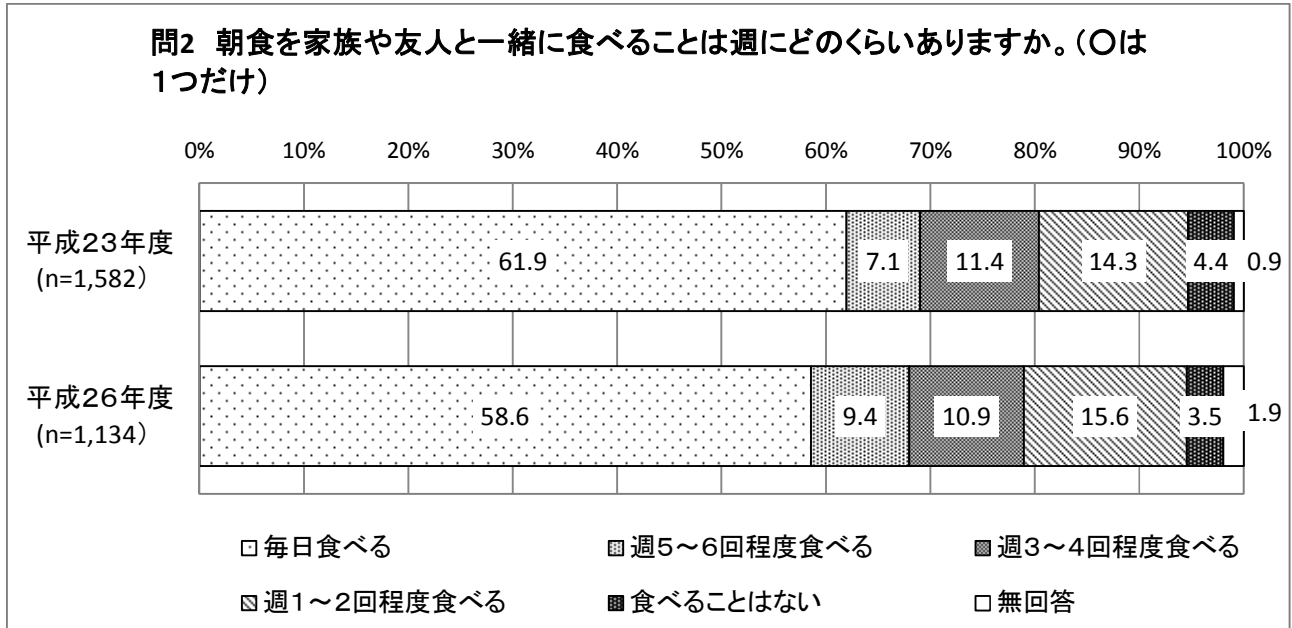
(2) 家族との朝食（共食）

2 お子さまが朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

子どもが朝食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」（58.6%）と約6割を占めており、平成23年度調査からは微減となった。また、「食べることはない」の割合も微減となった。（図表Ⅲ－1－5）

図表Ⅲ－1－5



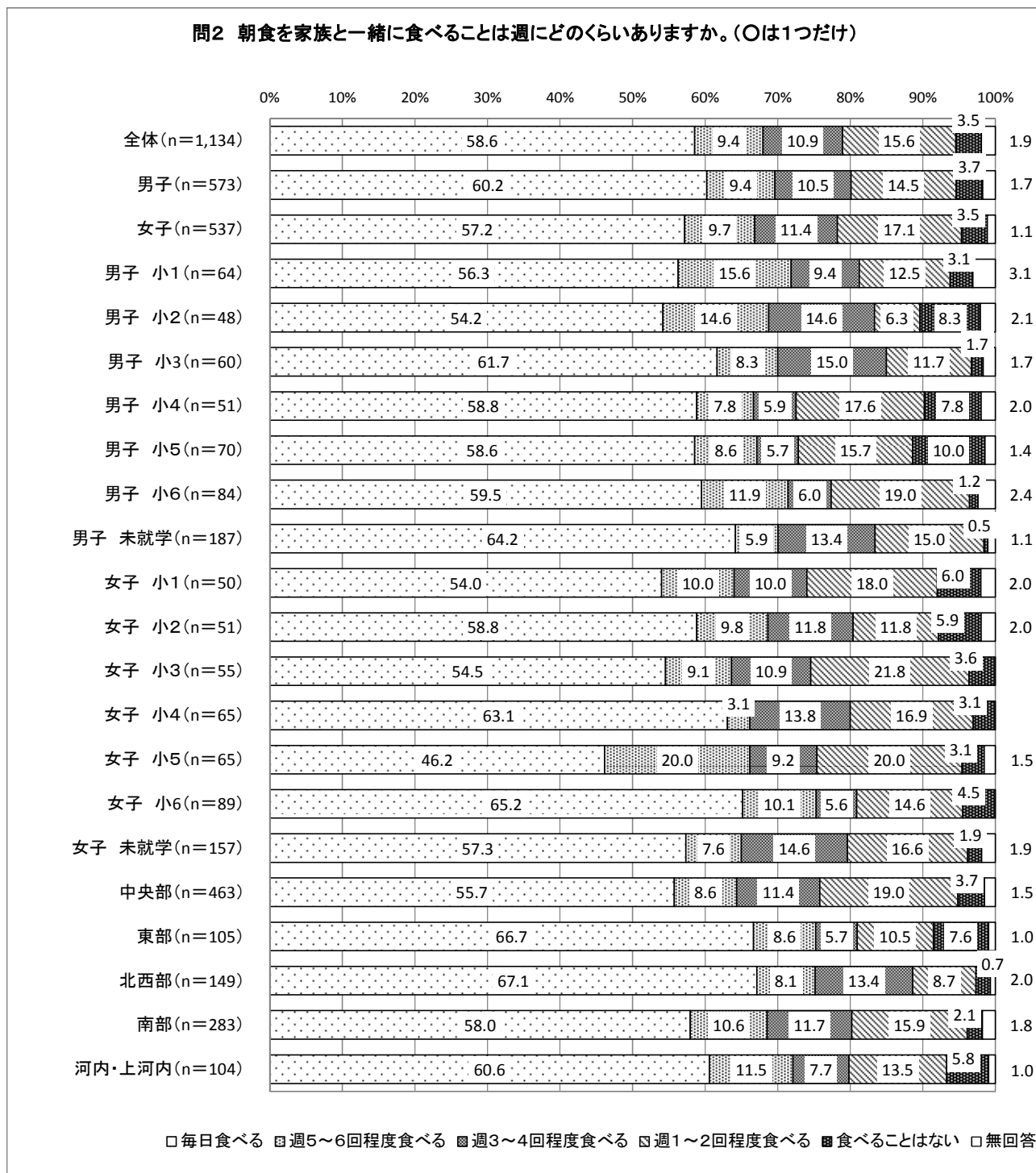
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「毎日食べる」の割合はどの学年でも半数以上となっているが、「女子小5」で半数以下となっている。

居住地区別では、「毎日食べる」は全地区で6割前後となっている。(図表Ⅲ-1-6)

図表Ⅲ-1-6



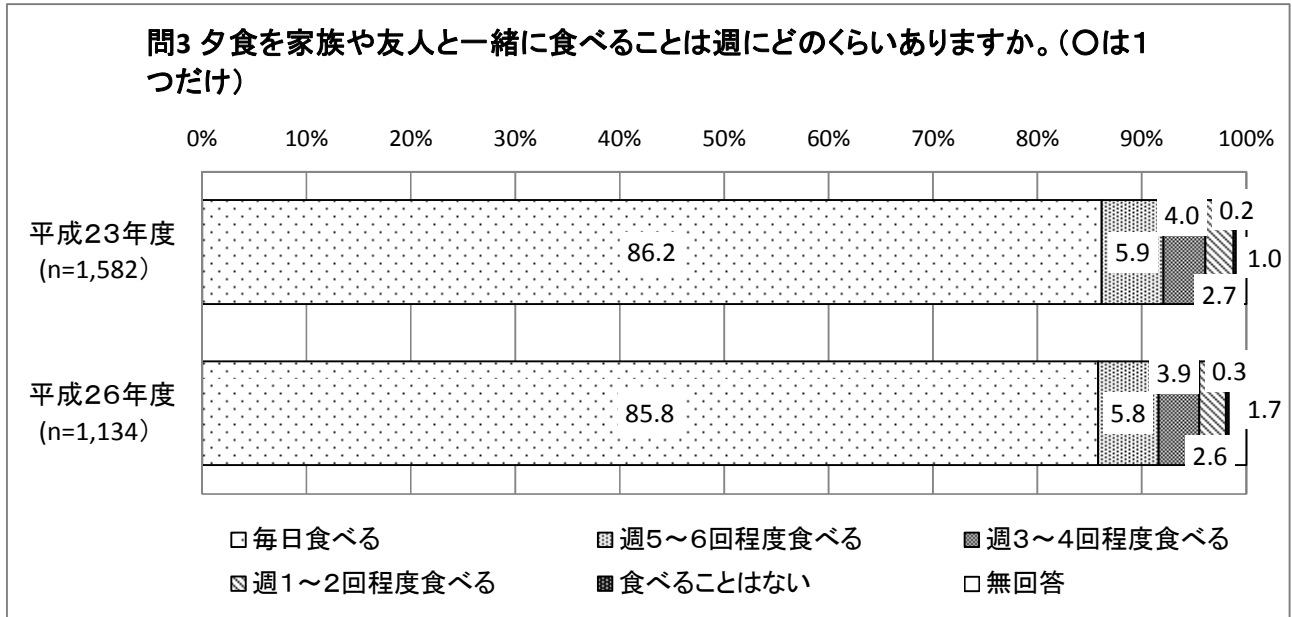
(3) 家族との夕食（共食）

3 お子さまが夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が8割強

子どもが夕食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」（85.8%）が8割を超える高い割合を示し、平成23年度調査とほぼ同様の割合となっている。（図表Ⅲ－1－7）

図表Ⅲ－1－7



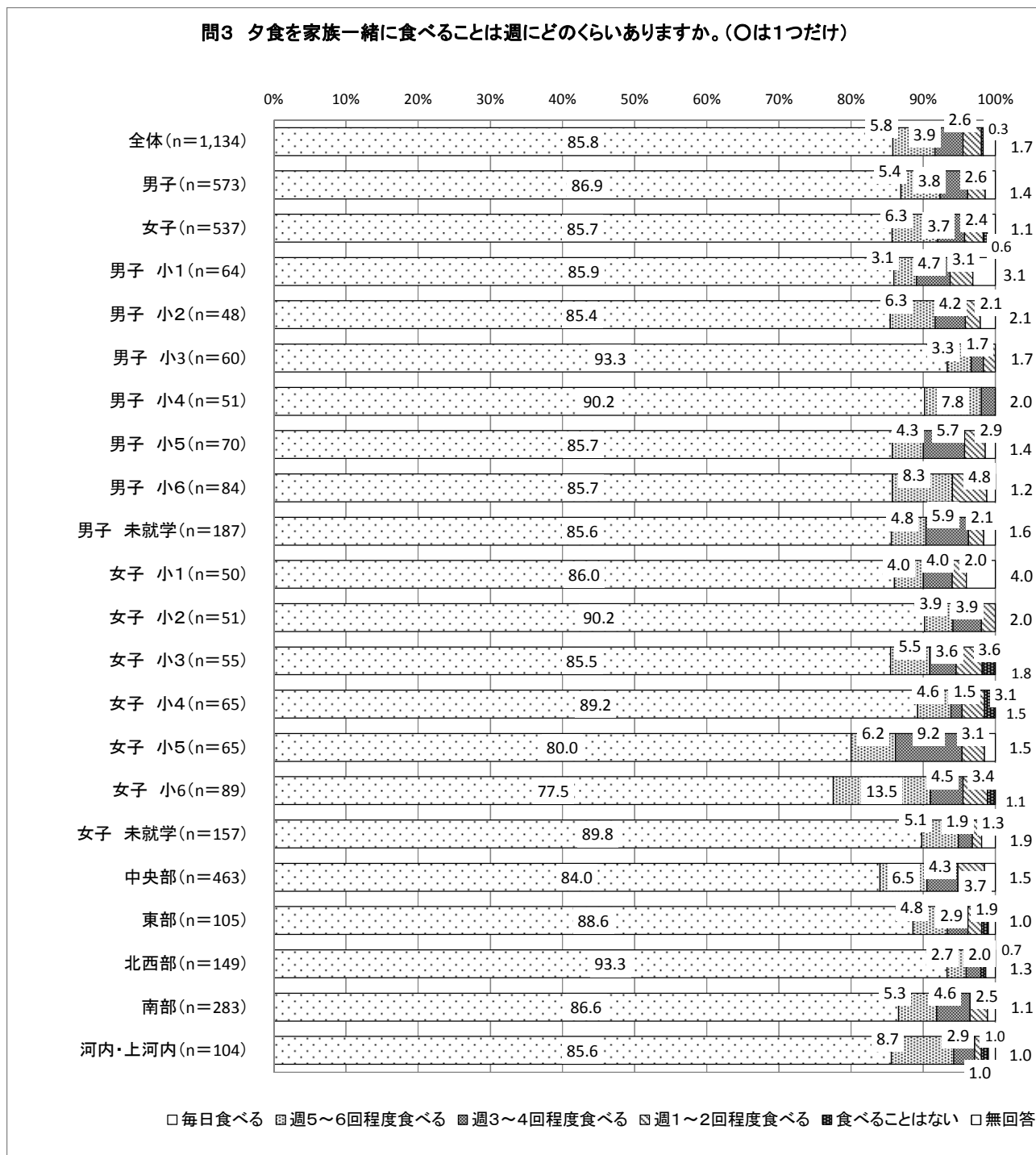
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、どの学年においても「毎日食べる」の割合は8割以上となっているが、「女子小6」で8割以下となっている。

居住地区別では、「北西部」で「毎日食べる」の割合が9割以上となっている。(図表Ⅲ－1－8)

図表Ⅲ－1－8



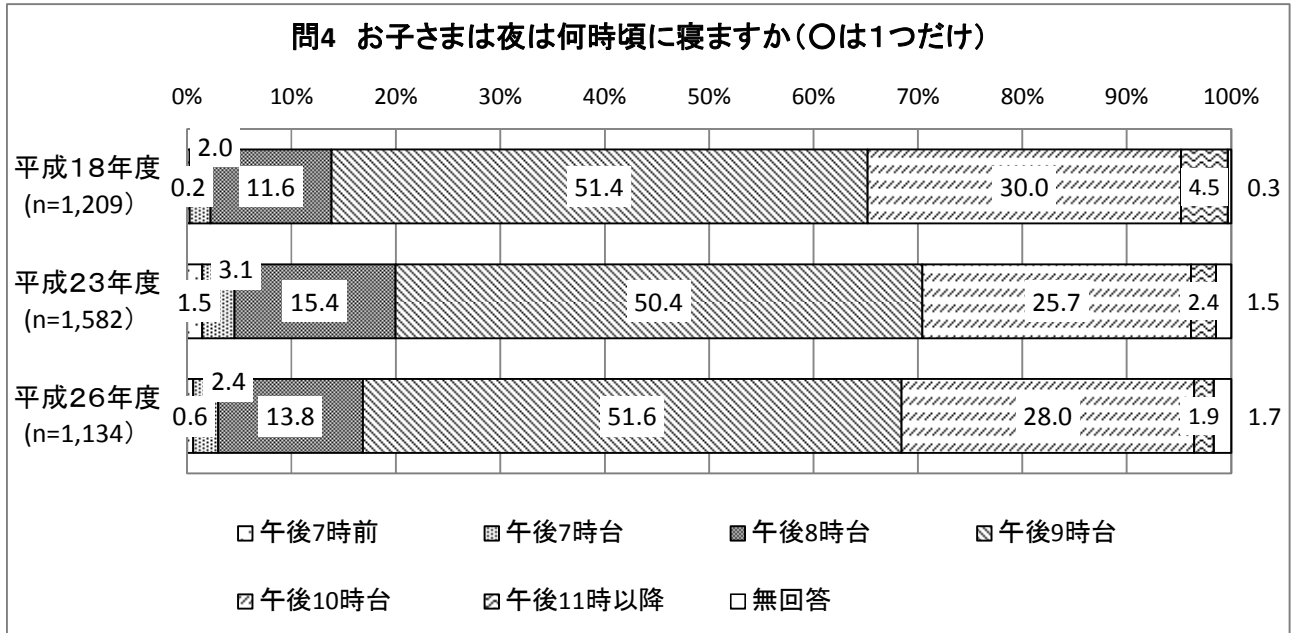
(4) 就寝時刻

4 お子さまは夜の何時頃に寝ますか。

◆「午後9時台」が約半数

就寝時刻は、「午後9時台」(51.6%)が過半数を占めている。平成23年度調査と比べると、「午後10時台」(28.0%)が微増している。(図表Ⅲ-1-9)

図表Ⅲ-1-9



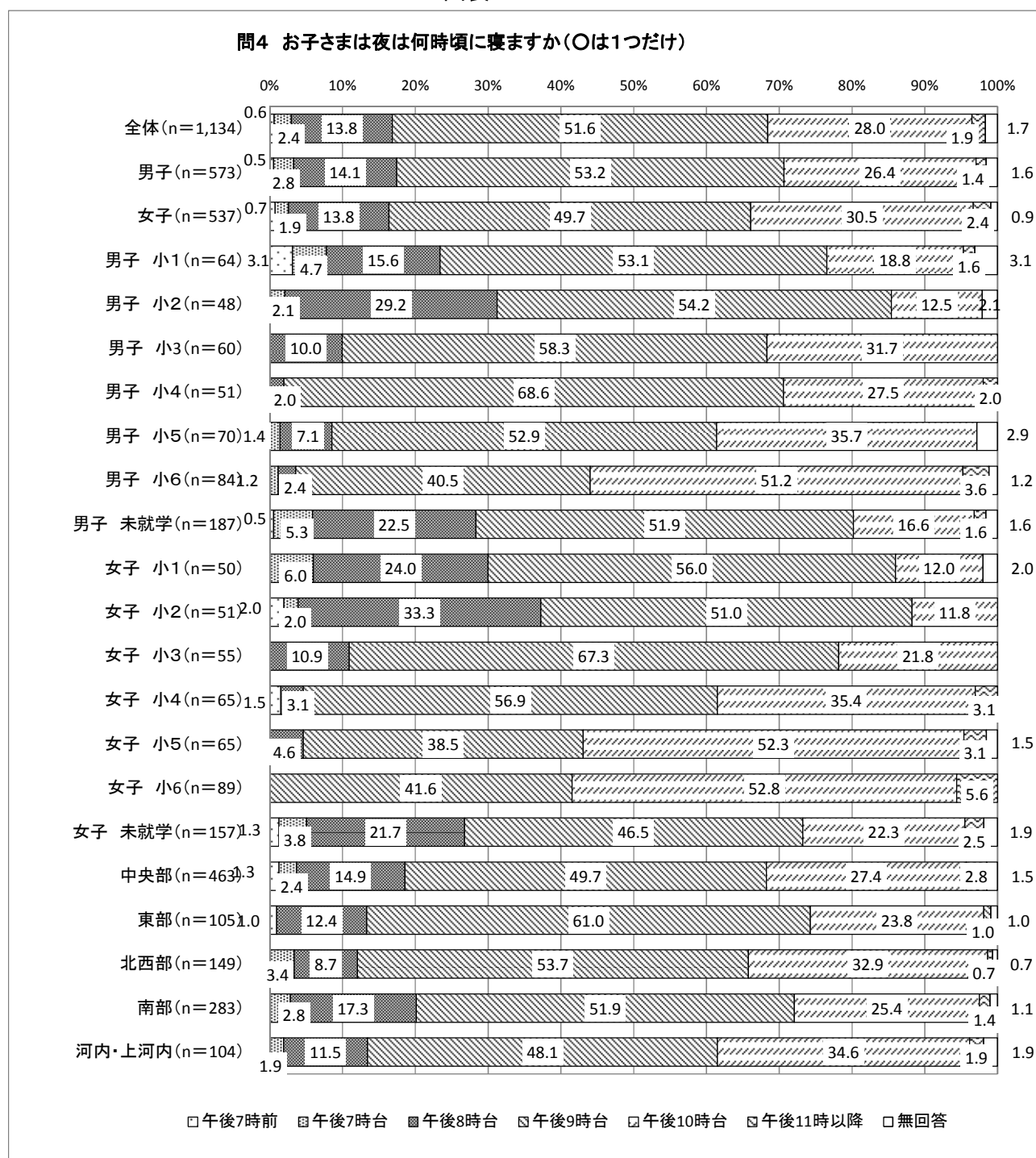
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、男女とも、小学2年以下は「午後8時台」が2～3割台となっており、学年が上がるに従い、「午後10時台」が増加する傾向にある。

居住地区別では、全地区で「午後9時台」が5割前後となっているが、「東部」では6割を超えている。(図表Ⅲ－1－10)

図表Ⅲ－1－10



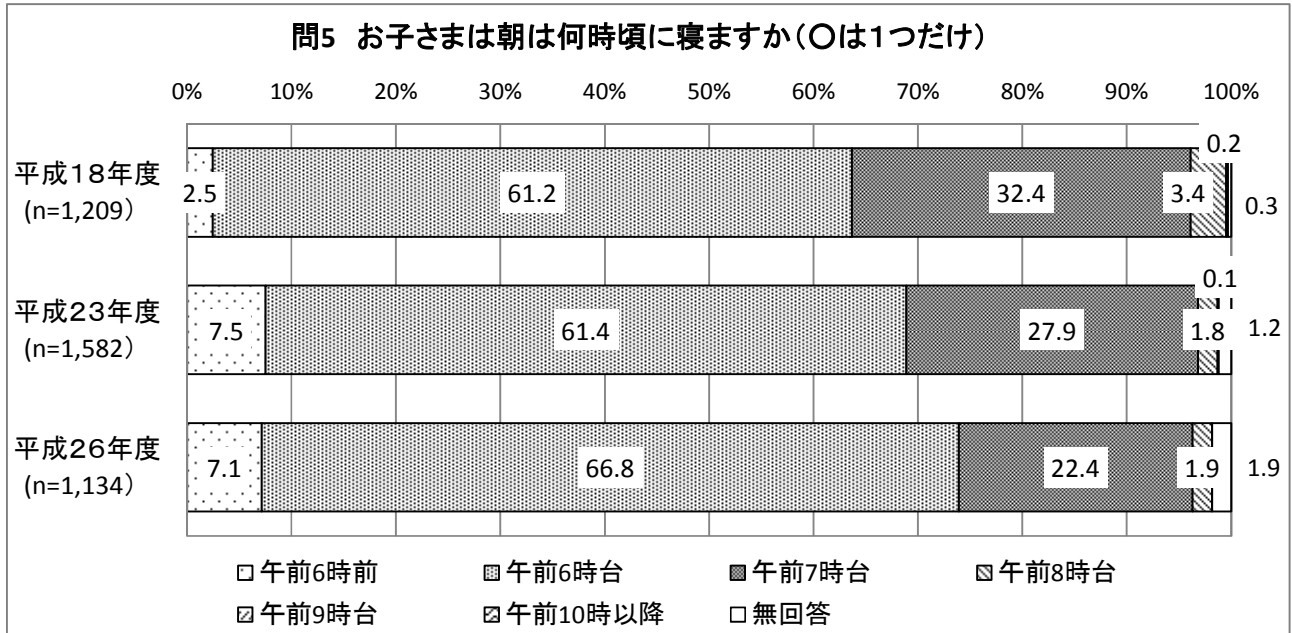
(5) 起床時刻

5 お子さまは朝の何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が6割

起床時刻は、「午前6時台」(66.8%)が6割を占め、次いで「午前7時台」(22.4%)となっている。平成23年度調査と比べると、「午前6時台」は約5%増加している。(図表Ⅲ-1-11)

図表Ⅲ-1-11



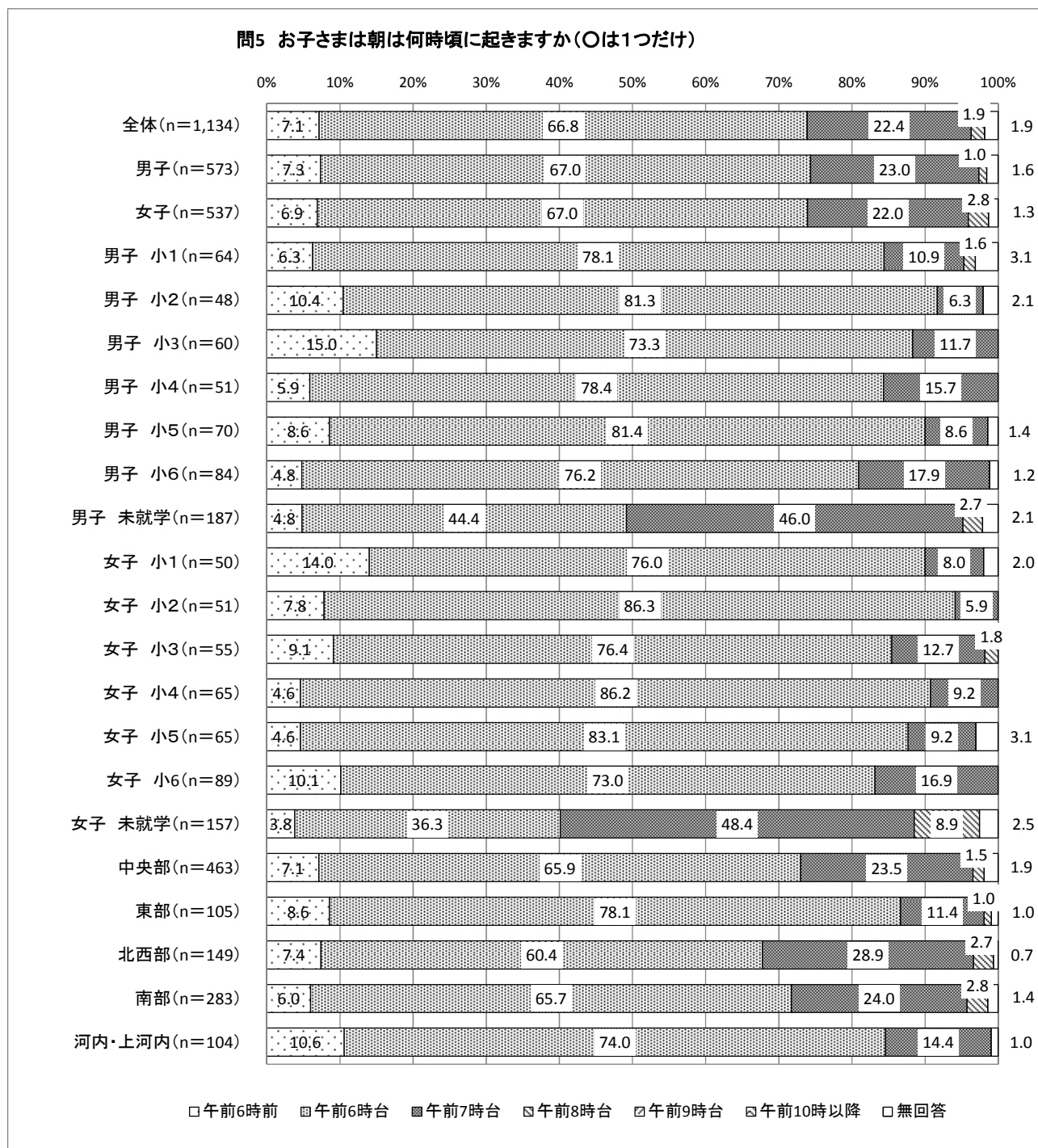
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、男女ともに未就学で「午前7時台」の割合が高く、4割台半ばとなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「午前6時台」が74.0%、「午前6時前」が10.6%、また、「東部」で「午前6時台」が78.1%、「午前6時前」が8.6%と他地区より高い割合となっている。
(図表Ⅲ-1-12)

図表Ⅲ-1-12



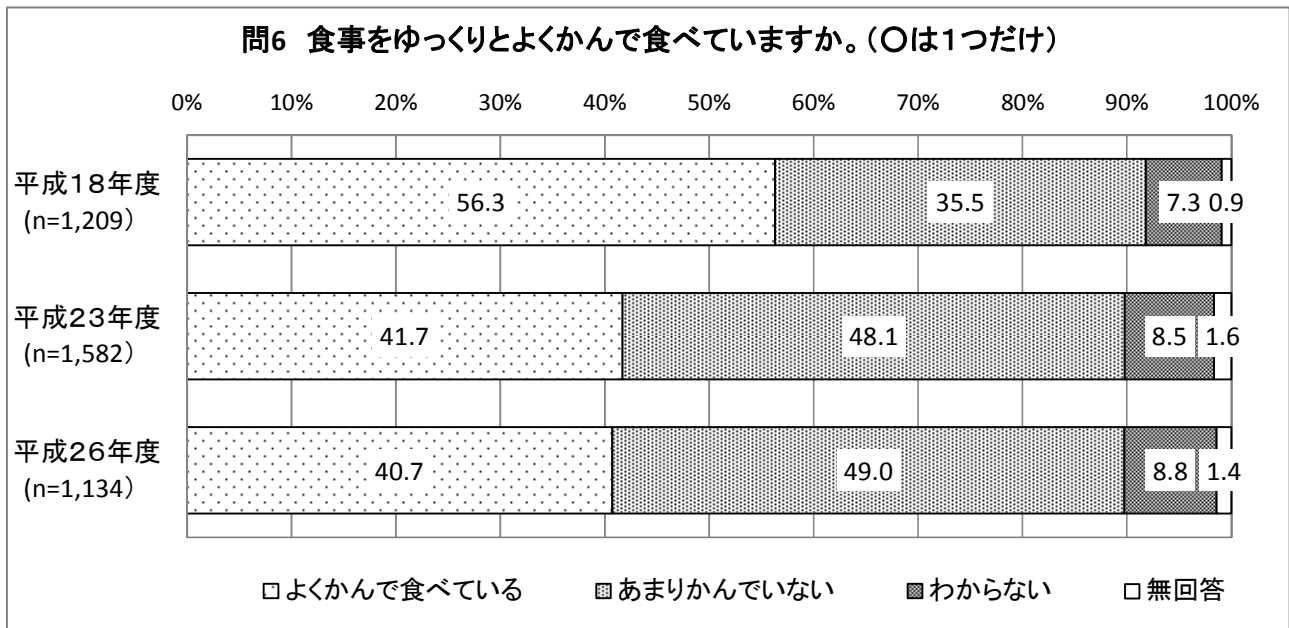
(6) 咀嚼

6 お子さまは食事をゆっくりとよくかんで食べますか。

◆「あまりかんでいない」が約半数

食事の咀嚼に関しては、平成23年度調査と比較するとほぼ同様の結果となったが、平成18年度調査と比較すると、「よくかんで食べている」の割合は56.3%と半数を占めていたのに対し、本調査では、40.7%と、減少の傾向にある。(図表Ⅲ-1-13)

図表Ⅲ-1-13



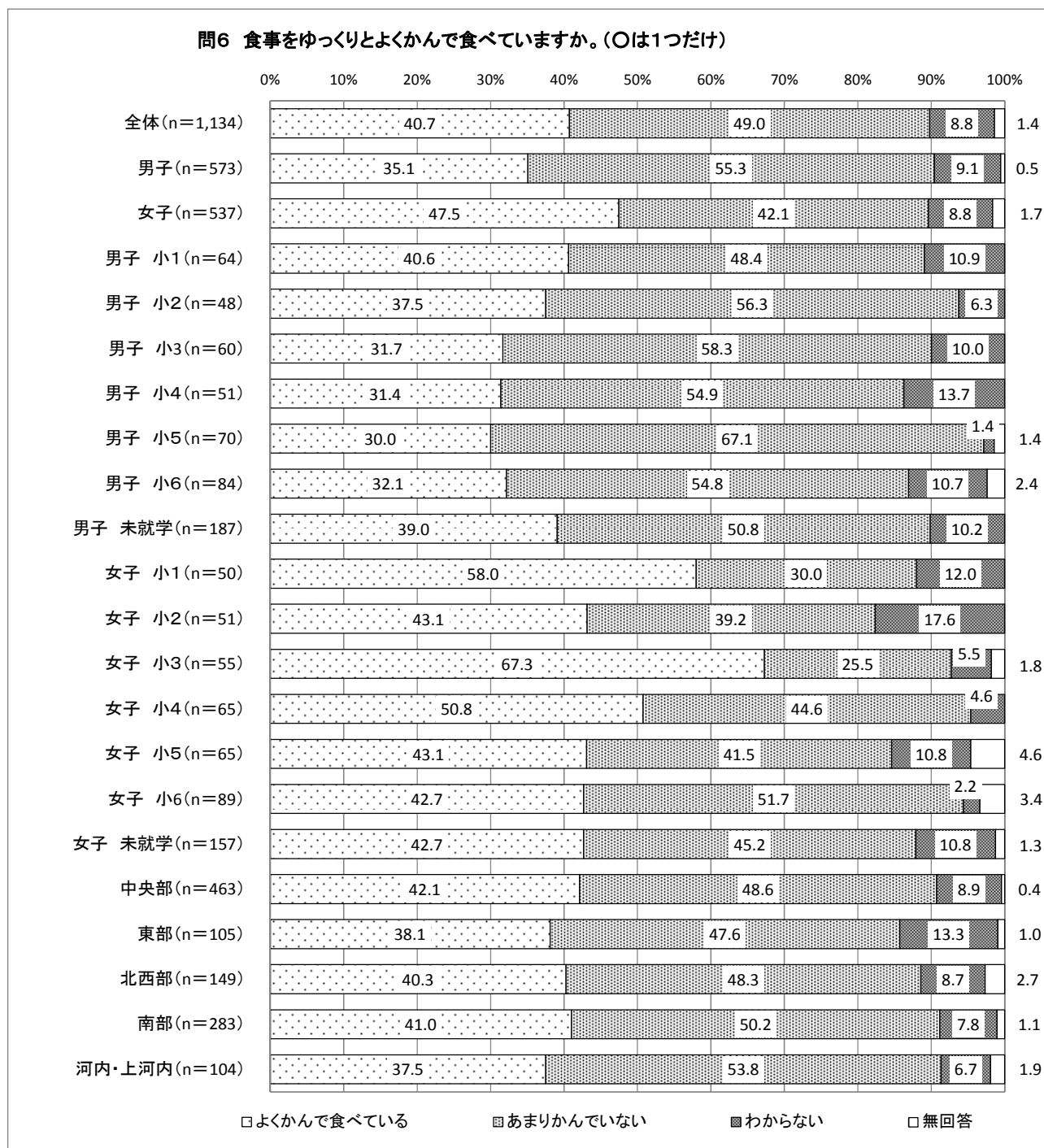
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「よくかんで食べている」割合は、女子（47.5%）が男子（35.1%）より約12%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」から「女子小5」では、「よくかんで食べている」が「あまりかんでいない」を上回っている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－14）

図表Ⅲ－1－14



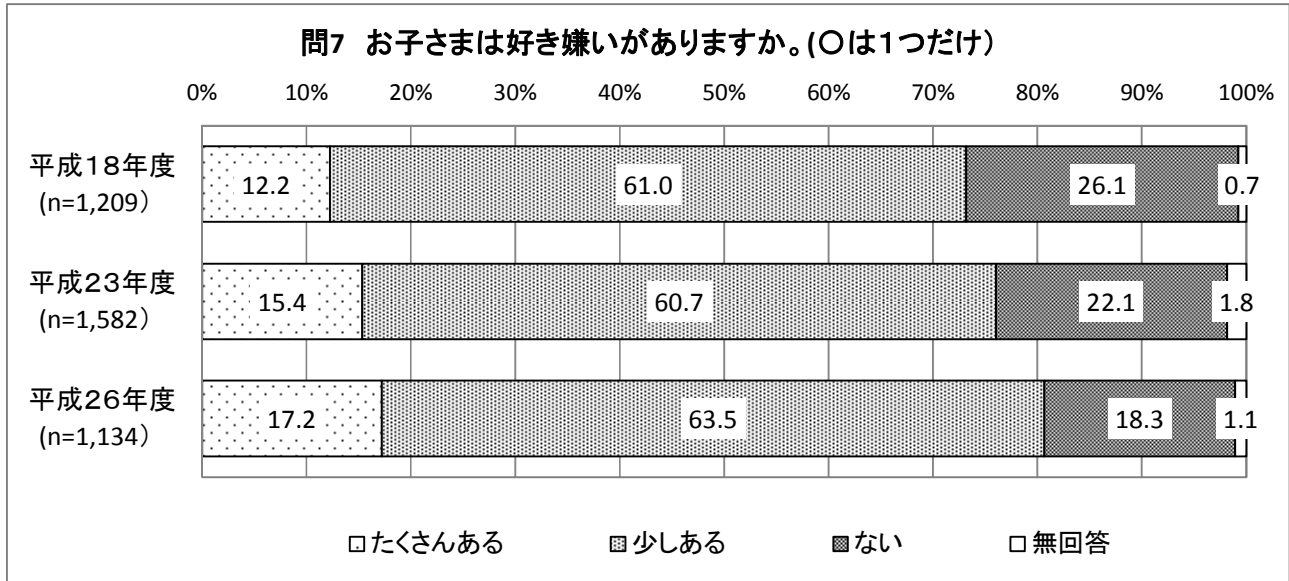
(7) 好き嫌い

7 お子さまは好き嫌いがありますか。

◆「好き嫌いがある」が増加

好き嫌いに関しては、「好き嫌いがある」（「たくさんある」と「少しある」の合計）が80.7%となっており、平成18年度調査、平成23年度調査から増加傾向にある。（図表Ⅲ－1－15）

図表Ⅲ－1－15



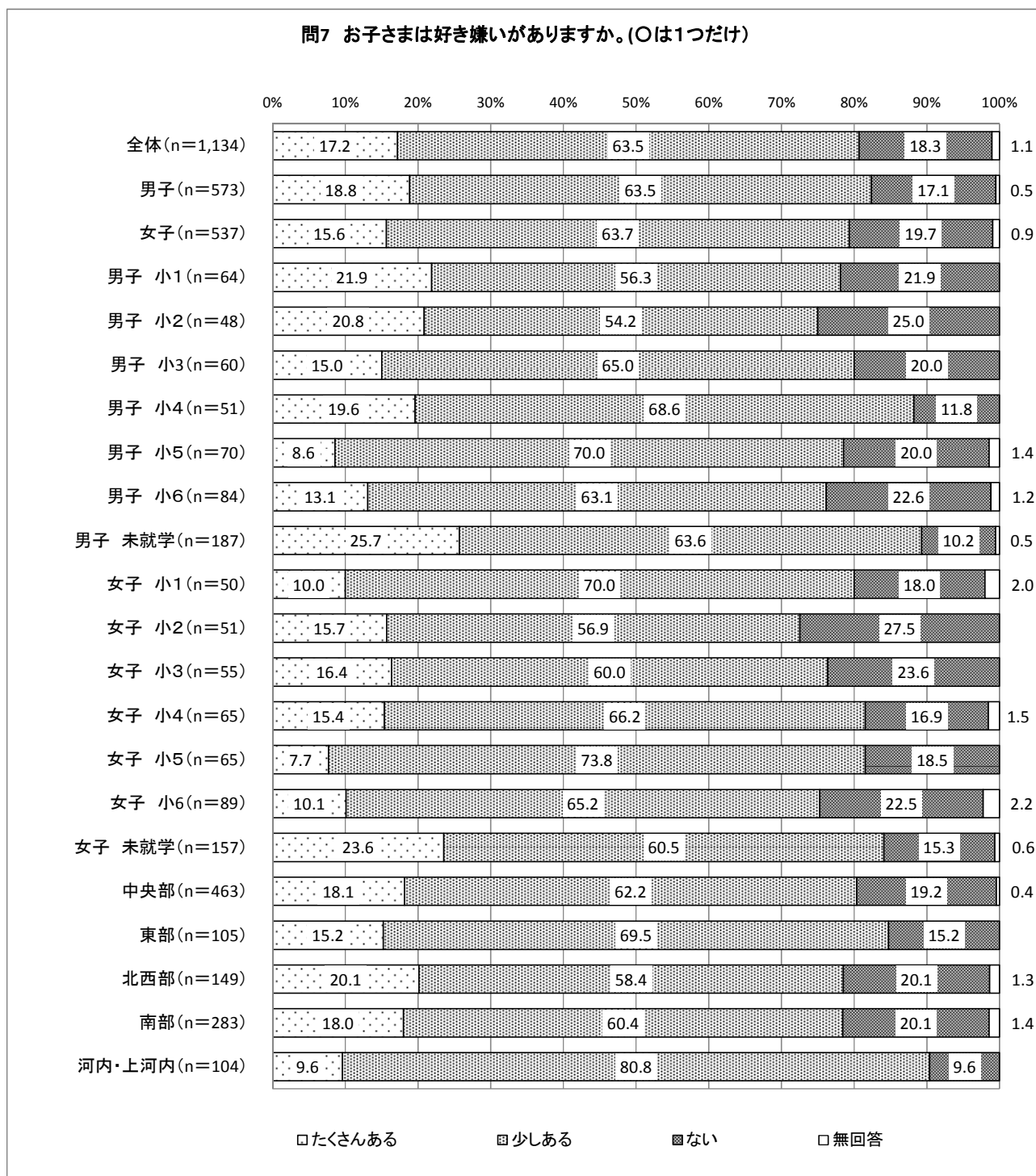
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「好き嫌いがたくさんある」の割合は、「男子未就学」(25.7%)、「女子未就学」(23.6%)、「男子小1」(21.9%)、「男子小2」(20.8%)で2割以上見られる。

居住地区別では、「河内・上河内」では「好き嫌いがたくさんある」は9.6%と他地区に比べ低い割合となっている。(図表Ⅲ-1-16)

図表Ⅲ-1-16



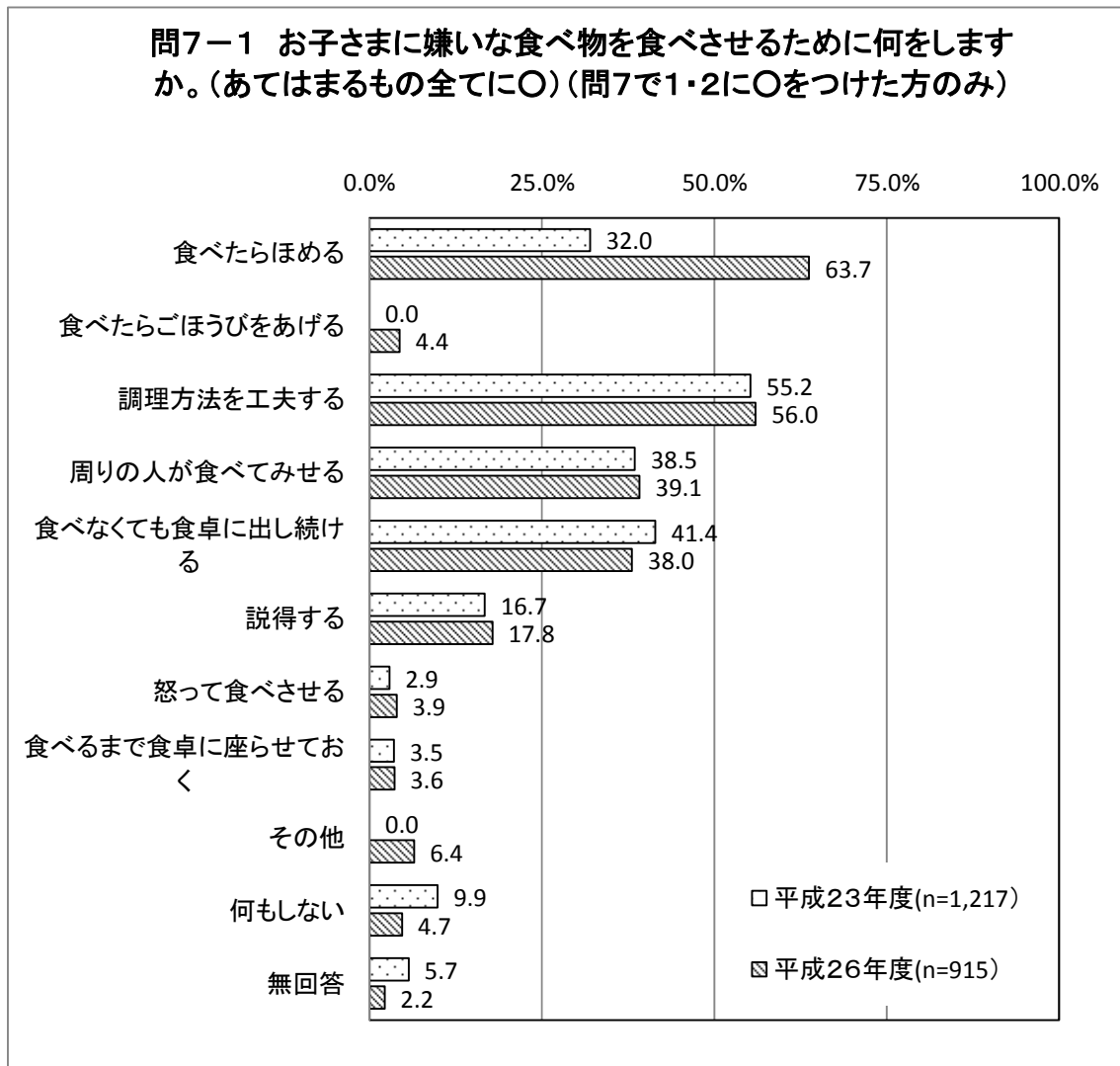
(7-1) 嫌いなものを食べさせる工夫

7-1 お子さまに嫌いな食べ物を食べさせるために何をしますか。

◆「食べたらほめる」が増加

前問で「ある」と答えた人の、嫌いな食べ物を食べさせる工夫に関しては、「食べたらほめる」(63.7%)が最も多く、平成23年度調査から増加している。次いで「調理方法を工夫する」(56.0%)、「周りの人が食べてみせる」(39.1%)となっている。(図表Ⅲ-1-17)

図表Ⅲ-1-17



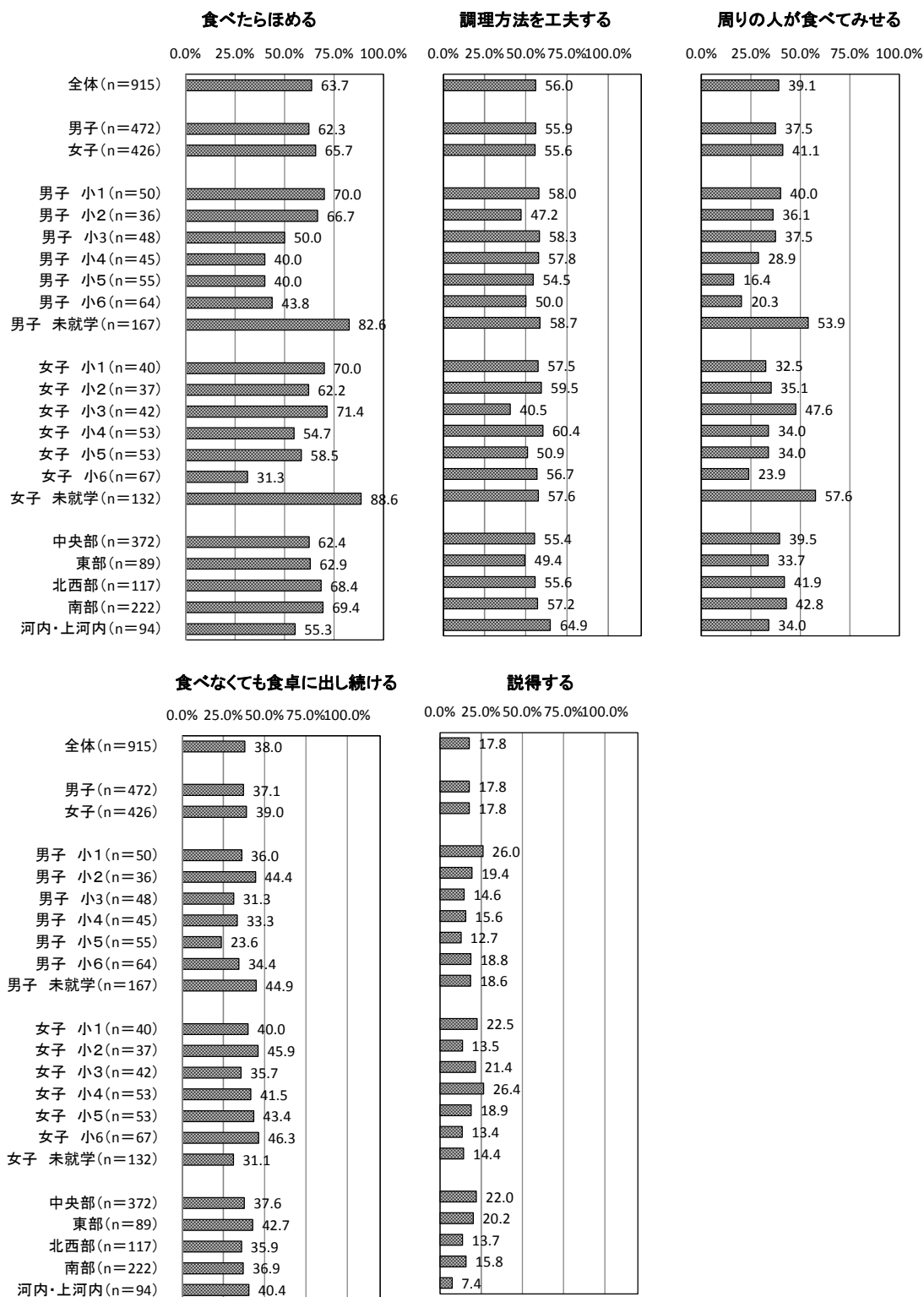
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女ともに「食べたらほめる」が最も多くなっている。

子どもの性・学年別では、男女ともに「食べたらほめる」の割合は、学年が上がるほど、割合が低くなる傾向にある。

居住地区別では、大きな差はないが、「河内・上河内」の「説得する」の割合が他地区に比べ低くなっている。(図表Ⅲ－1－18)

図表Ⅲ－1－18



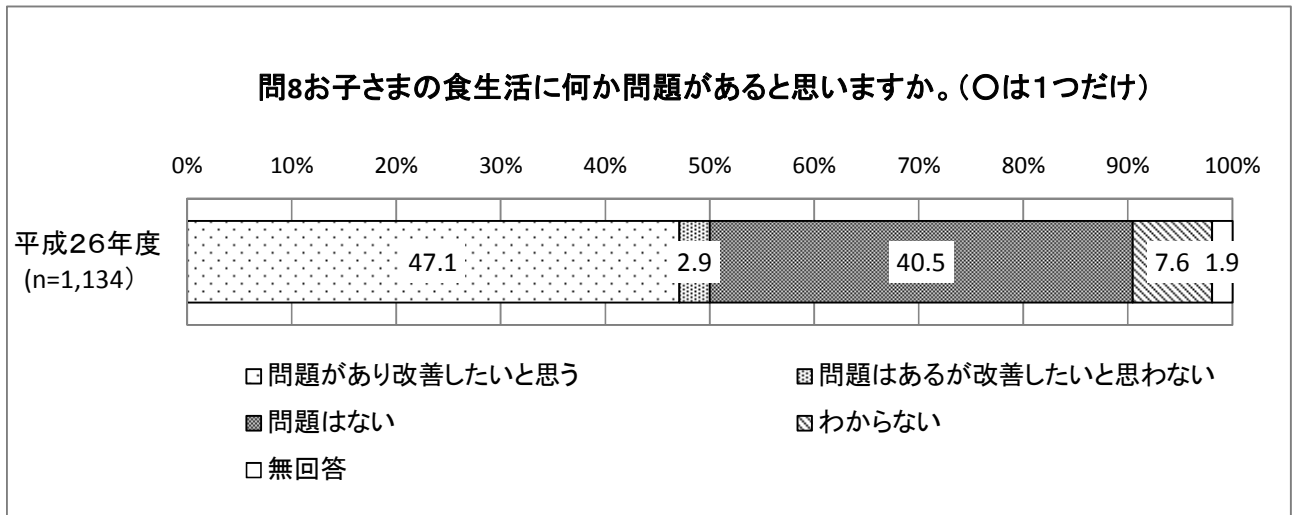
(8) 食生活の問題点の有無

8 お子さまの食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題があり改善したい」が約半数

お子さまの食生活に問題があるか聞いたところ、「問題があり改善したい」(47.1%)が最も多く、次いで「問題はない」(40.5%)となっている。(図表Ⅲ－1－19)

図表Ⅲ－1－19



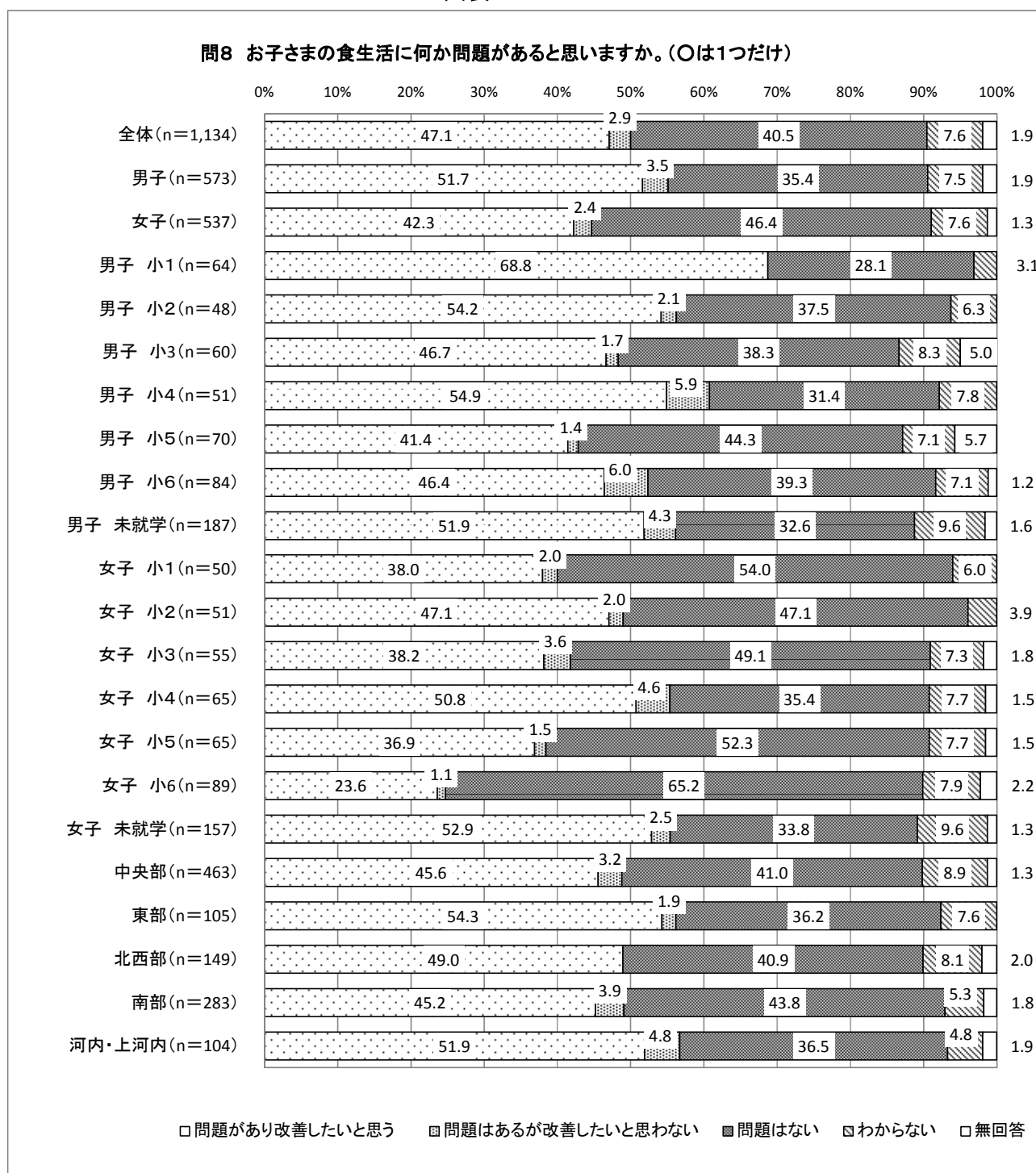
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「問題がある」（「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」の合計）は、男子（55.2%）が女子（44.7%）より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「問題がある」の割合は、「男子小1」で最も高く、68.8%となっている。また、「女子小1」と「女子小5」で「問題はない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、地区間の大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－20）

図表Ⅲ－1－20



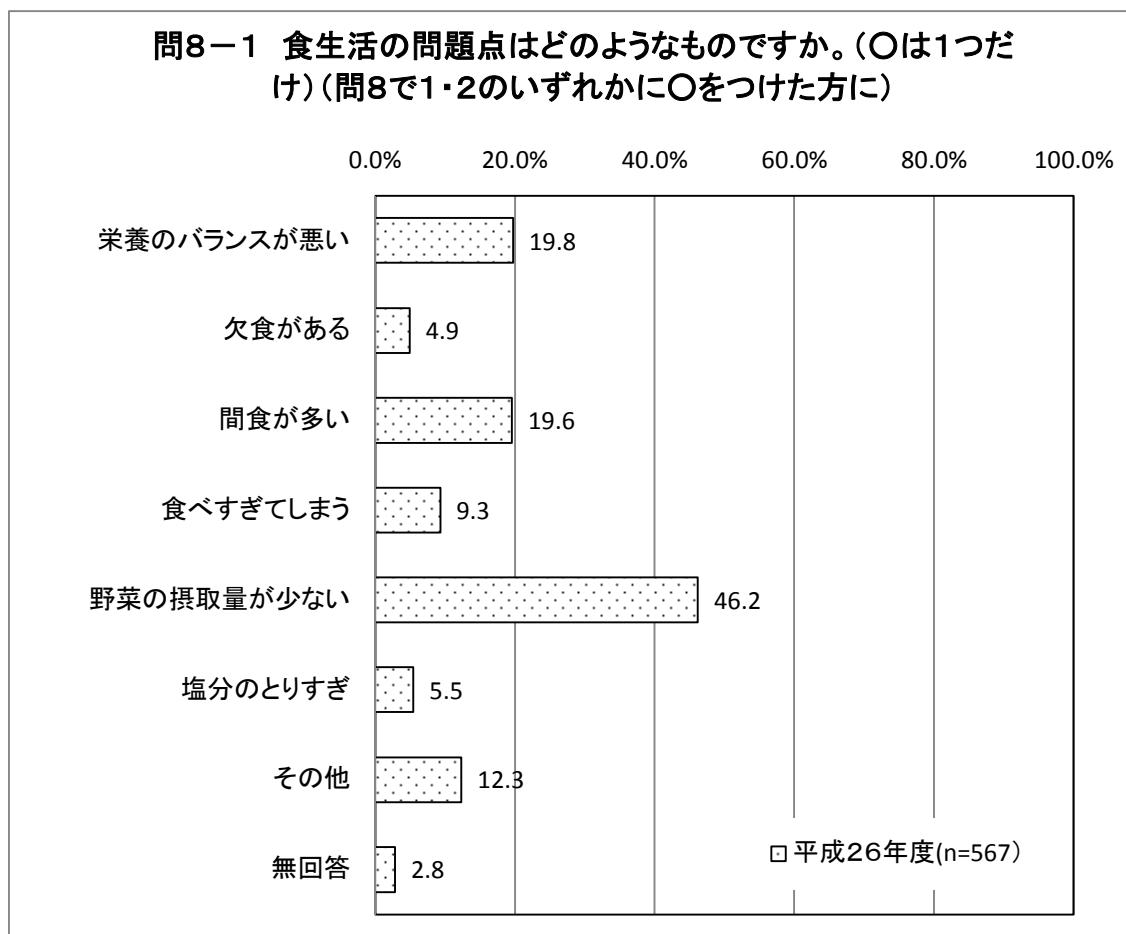
(8-1) 問題点の内容

8-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「野菜の摂取量が少ない」が約半数

前問で「問題がある」と答えた人に問題点を聞いたところ、「野菜の摂取量が少ない」(46.2%)が最も多く、次いで「栄養のバランスが悪い」(19.8%)、「間食が多い」(19.6%)となっている。(図表Ⅲ-1-21)

図表Ⅲ-1-21



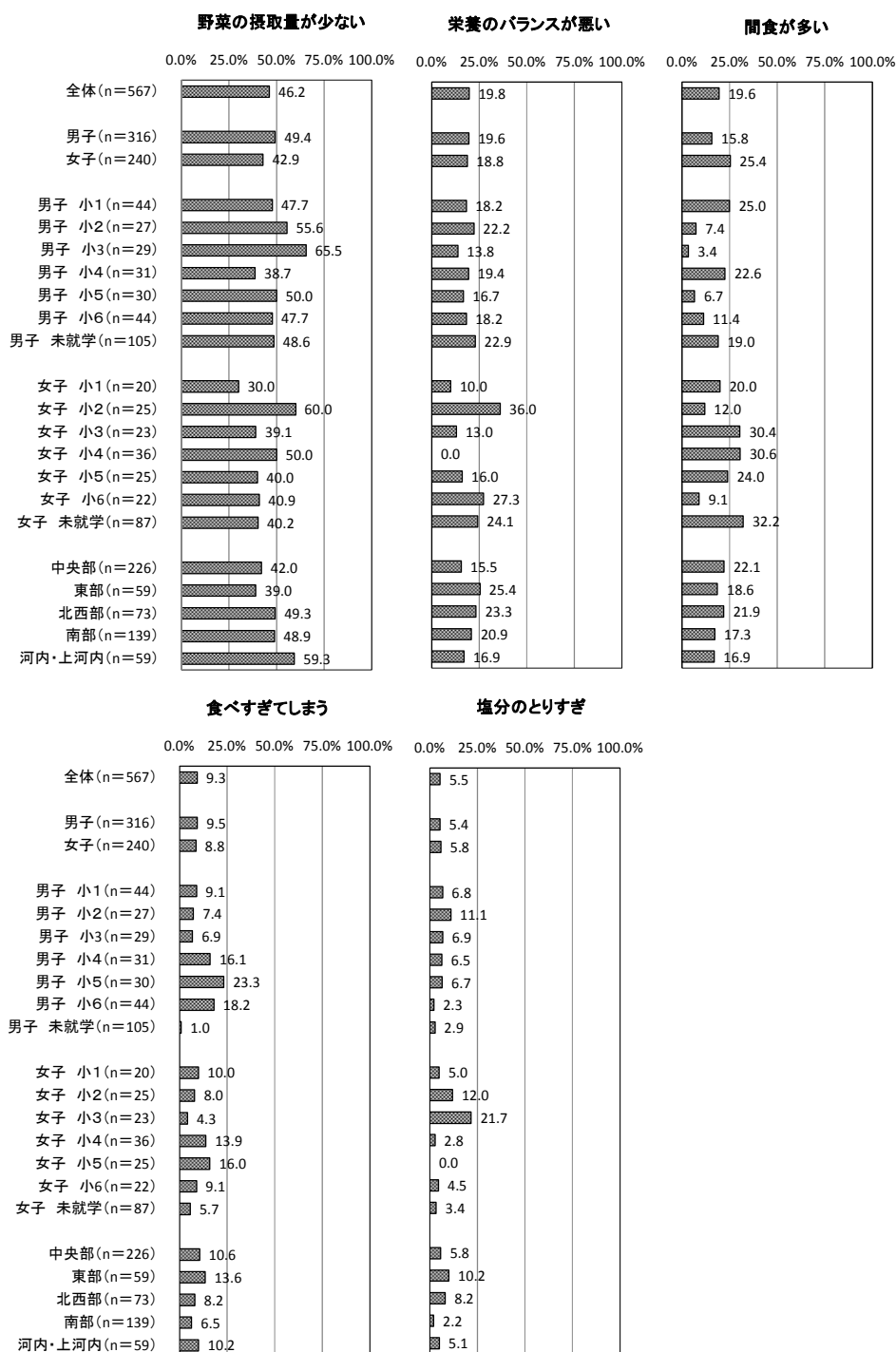
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「間食が多い」の割合で、女子（25.4%）が男子（15.8%）より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男子の「小4」、女子の「小1」と「小3」以外で「野菜の摂取量が少ない」の割合が高くなっている。また、「女子小3」で「塩分のとりすぎ」が他の学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「野菜の摂取量が少ない」、「東部」の「食べすぎてしまう」が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－1－22）

図表Ⅲ－1－22



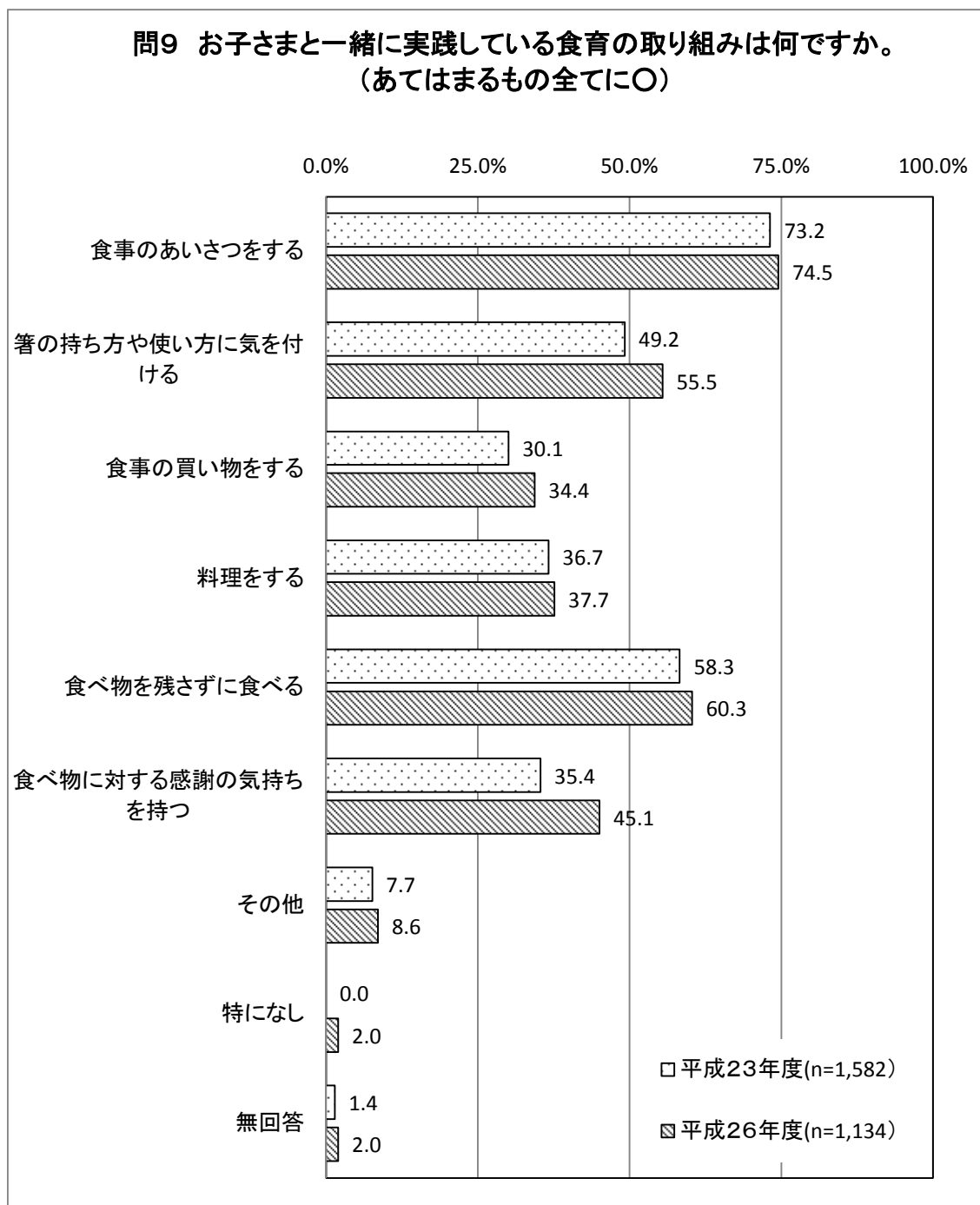
(9) 実践している食育

9 お子さまと一緒に実践している食育の取組は何ですか。

◆「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」が増加

食育の取組に関しては、「食事のあいさつをする」(74.5%)が最も多く、次いで「食べ物を残さずに食べる」(60.3%)、「箸の持ち方や使い方に気を付ける」(55.5%)となっている。また、「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」が平成23年度調査では35.4%だったのに対し、本調査では45.1%と約10%増加している。(図表Ⅲ-1-23)

図表Ⅲ-1-23



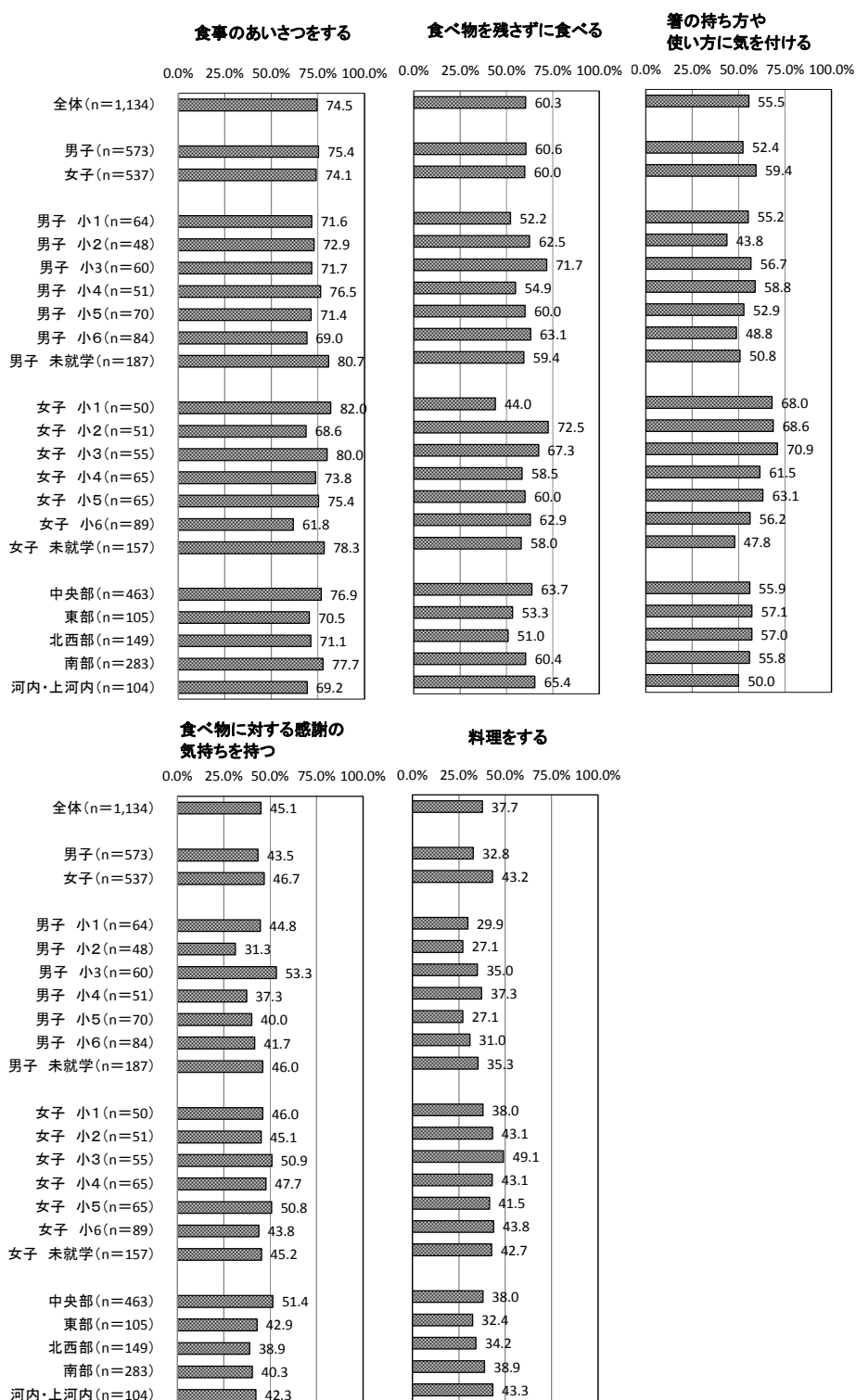
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「料理をする」の割合で、女子(43.2%)が男子(32.8%)より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」で「食べ物を残さずに食べる」(44.0%)が他の学年より低くなっている。

居住地区別では、「中央部」で「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」の割合が、他地区に比べて高くなっている。(図表Ⅲ-1-24)

図表Ⅲ-1-24



II 保護者のことについて

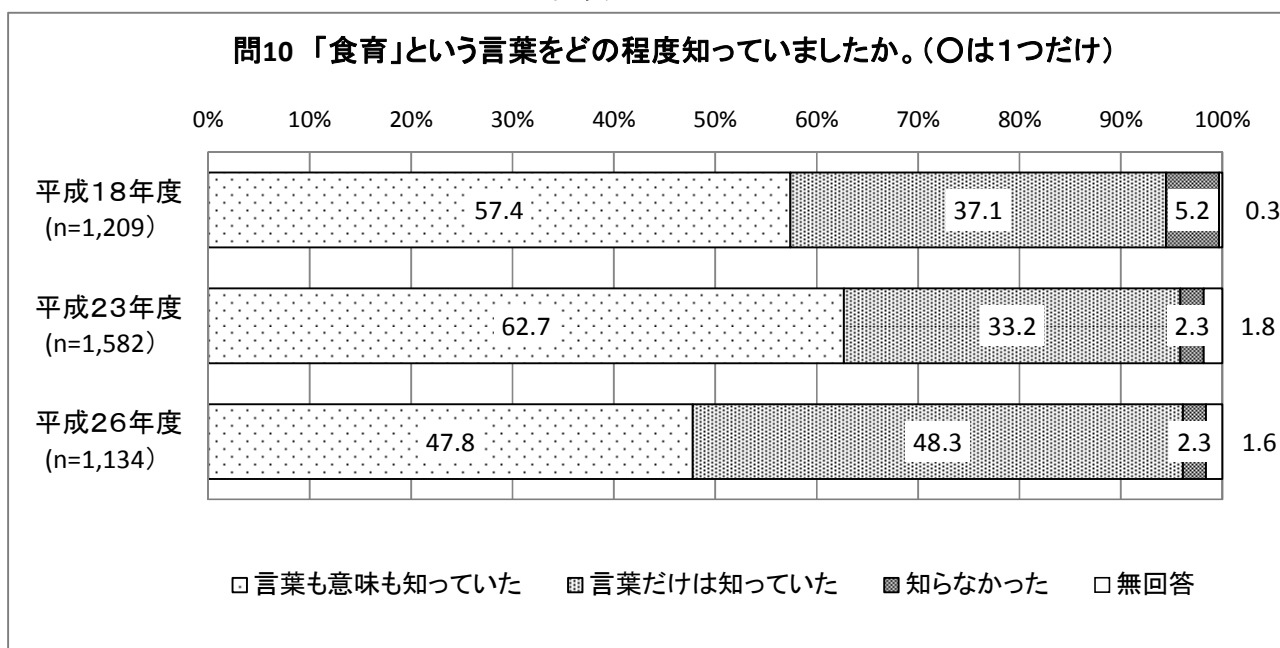
(10) 食育の認知度

10 あなたは「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」が9割強

保護者に、「食育」という言葉をどの程度知っているか聞いたところ、96.1%が「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）と回答しているが、「言葉も意味も知っていた」の割合は47.8%と、平成23年度調査から減少している。（図表Ⅲ-2-1）

図表Ⅲ-2-1



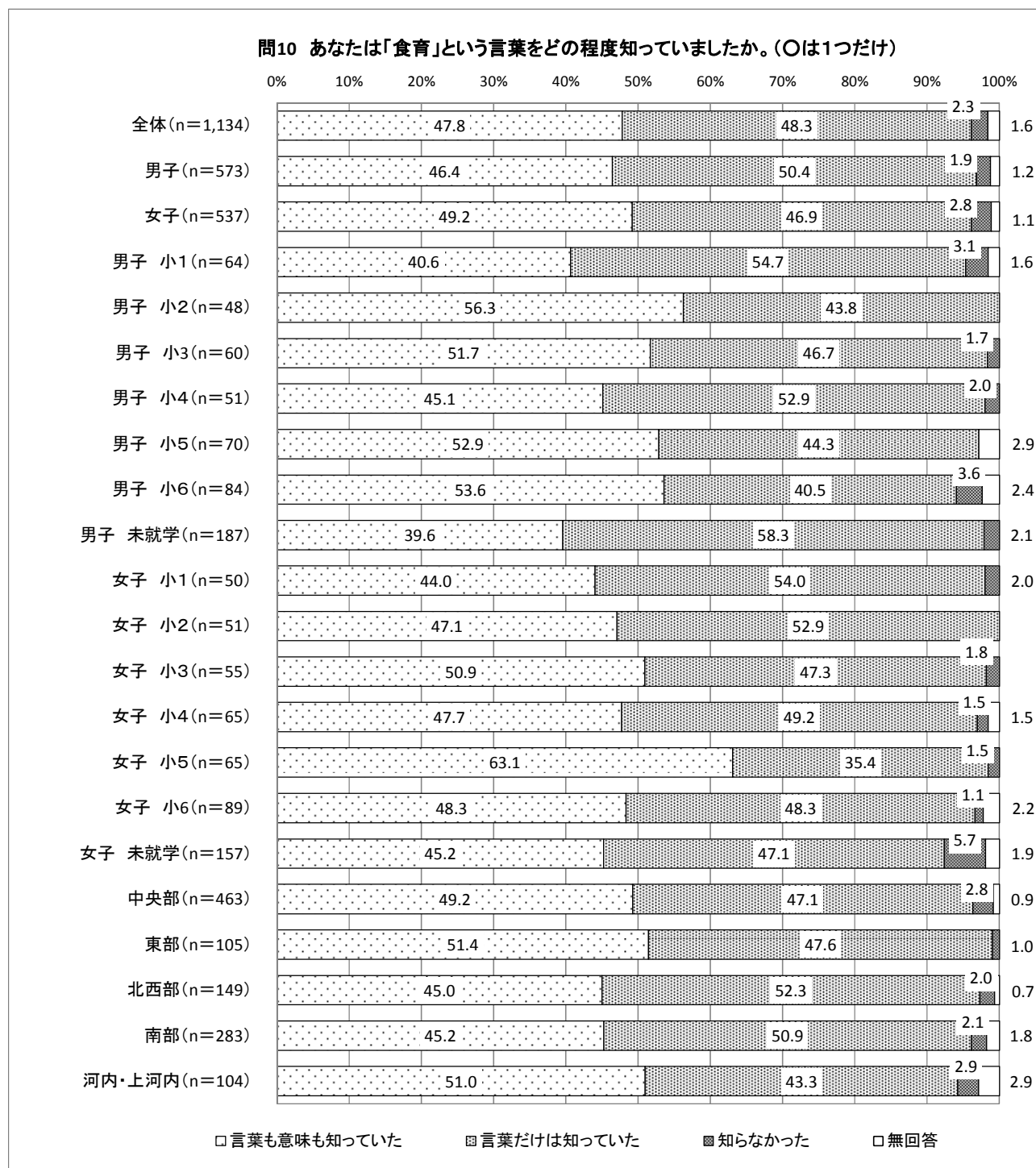
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）で、男女ともに「小2」で100%だった。また、その他の学年でも9割以上の割合となっている。

居住地区別では、全地区において「知っていた」の割合が9割以上となっている。（図表Ⅲ－2－2）

図表Ⅲ－2－2



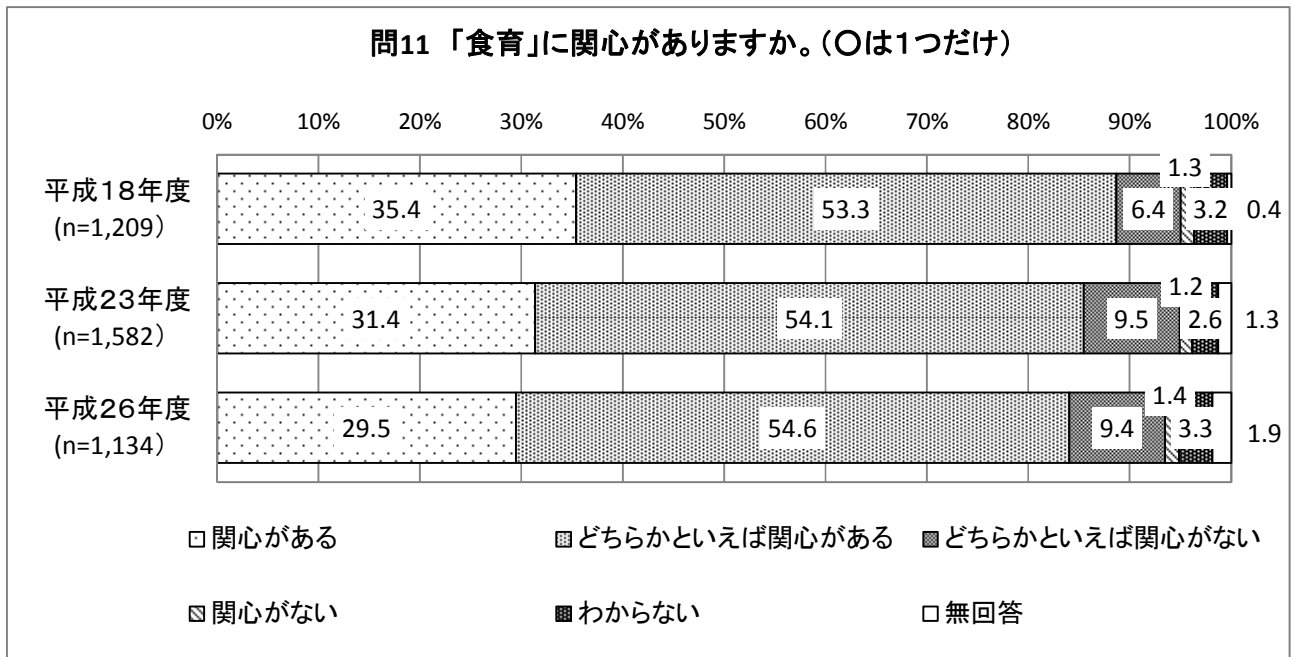
(11) 食育の関心度

11 あなたは「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が8割台半ばで減少

食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」(54.6%)が過半数を占めているが、「関心がある」(29.5%)は、平成18年度調査、平成23年度調査からは減少の傾向にある。一方、「関心がない」(「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」の合計)は微増している。(図表Ⅲ-2-3)

図表Ⅲ-2-3



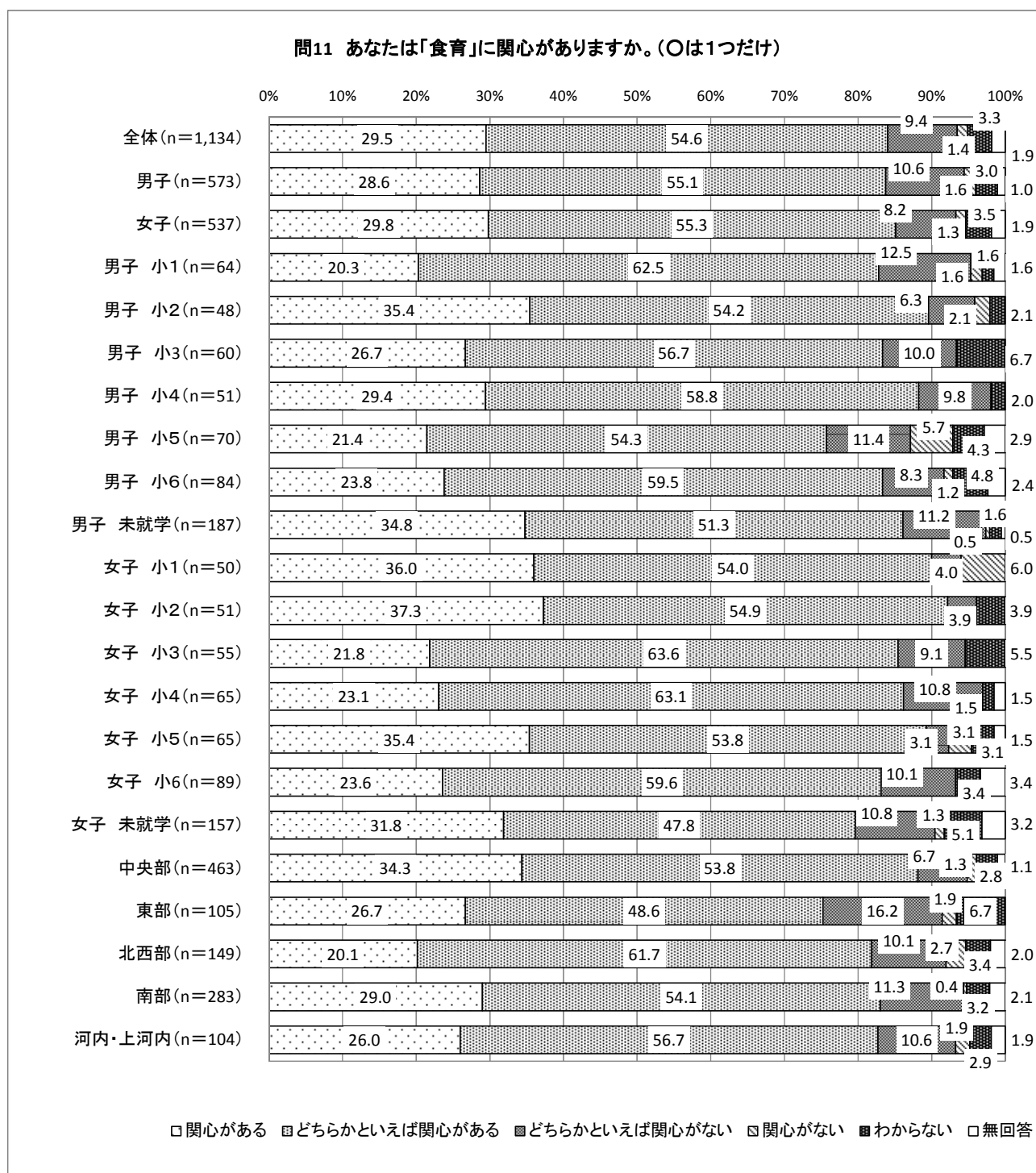
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「関心がある」の割合は、全学年で約8割、または8割以上を占める高い割合になっており、なかでも、「女子小1」と「女子小2」では9割を超えている。

居住地区別では、「東部」の「関心がある」の割合が他地区に比べ若干低くなっている。(図表Ⅲ-2-4)

図表Ⅲ-2-4



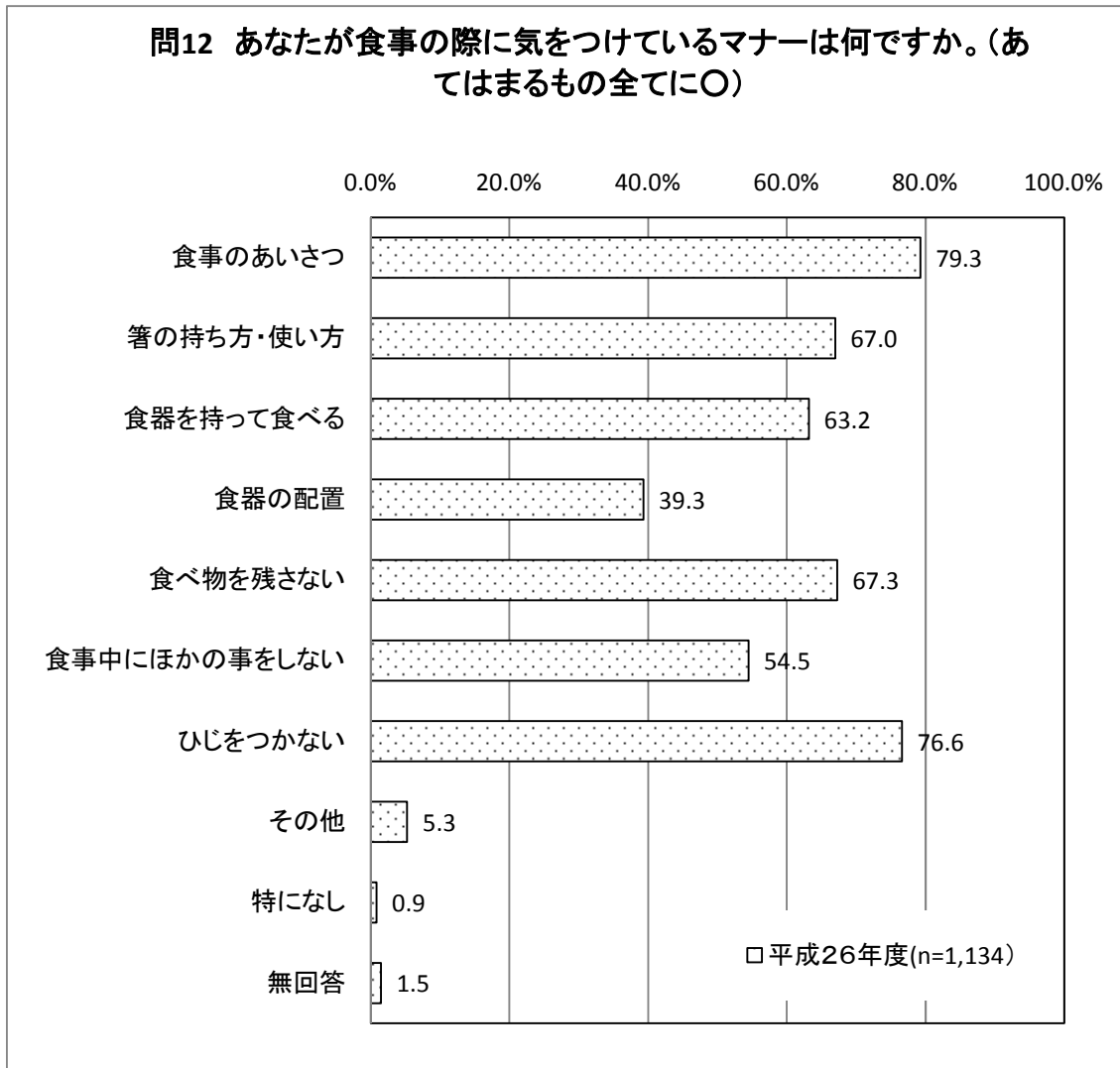
(12) 食事の際のマナー

12 あなたが食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食事のあいさつ」が約8割

食事の際に気をつけているマナーについては、「食事のあいさつ」(79.3%)が最も多く、次いで「ひじをつかない」(76.6%)、「食べ物を残さない」(67.3%)となっている。(図表Ⅲ-2-5)

図表Ⅲ-2-5



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

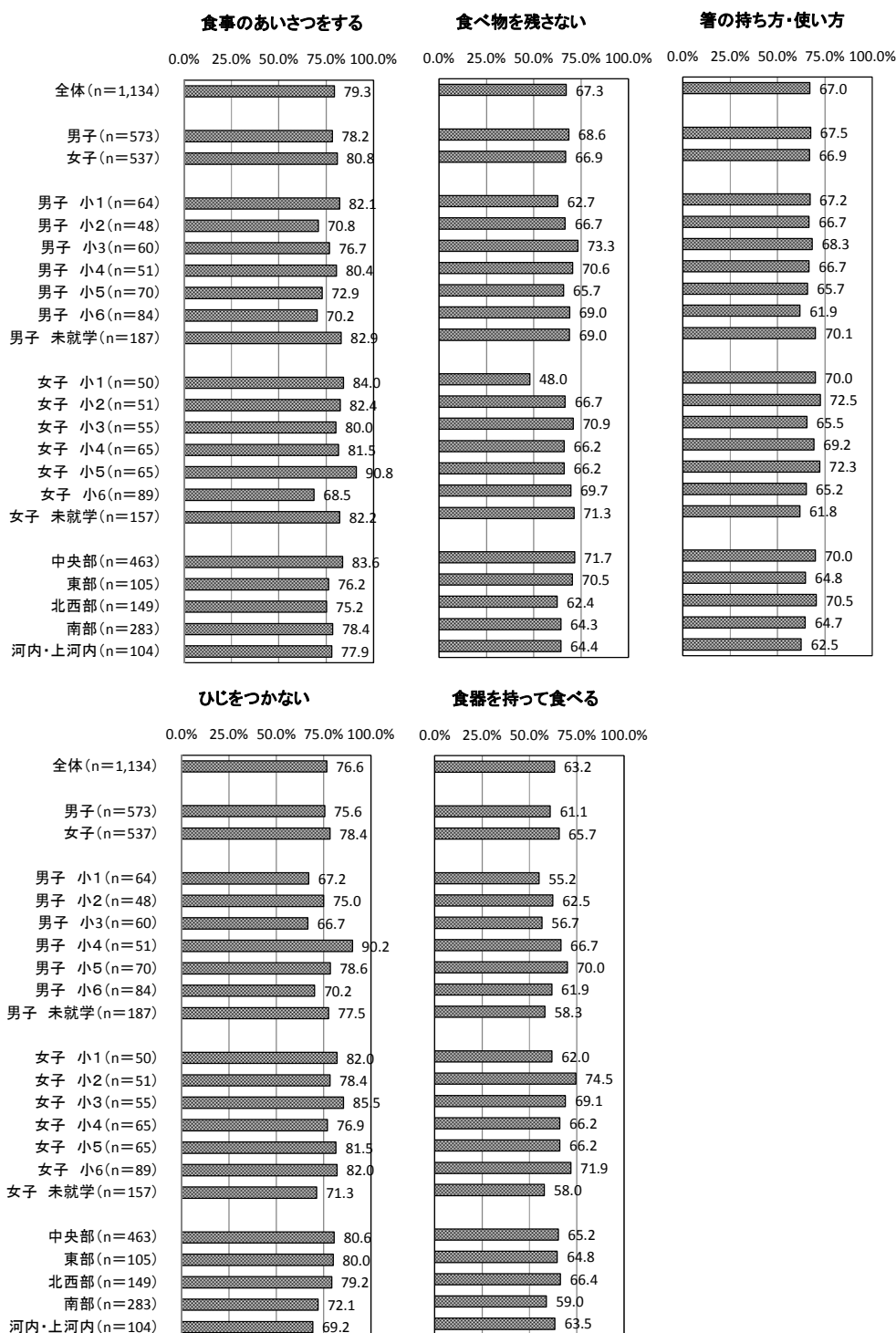
子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、女子は全学年で「食事のあいさつ」の割合が8割を超えているが、「女子小6」では68.5%と低くなっている。また、「男子小4」では「ひじをつかない」の割合が9割を占めており、高い割合となっている。

居住地区別では、「中央部」で「食事のあいさつ」の割合が、他地区に比べて高くなっている。

(図表Ⅲ－2－6)

図表Ⅲ－2－6



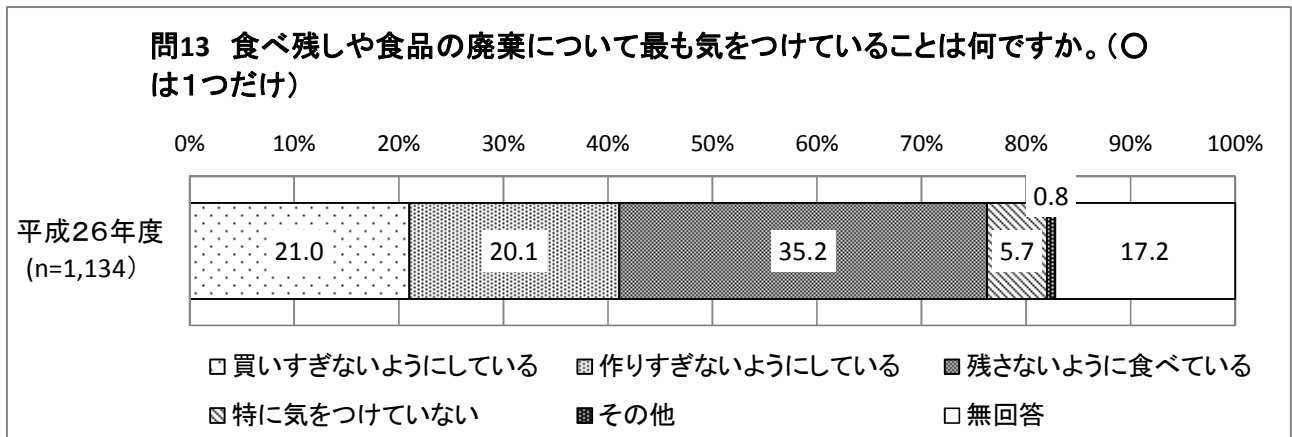
(13) 食べ残しや食品の廃棄への関心

13 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。

◆「残さないように食べている」が3割強

食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは、「残さないように食べている」(35.2%)が最も多く、次いで、「買いすぎないようにしている」(21.0%)、「作りすぎないようにしている」(20.1%)となっている。(図表Ⅲ-2-7)

図表Ⅲ-2-7



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「残さないように食べている」の割合が「男子未就学」(44.9%)、と「女子小5」(52.3%)と他学年に比べ高くなっている。

居住地区別は、「東部」では、「買いすぎないようにしている」(26.7%)が他地区に比べ高くなっている。(図表Ⅲ-2-8)

図表Ⅲ-2-8



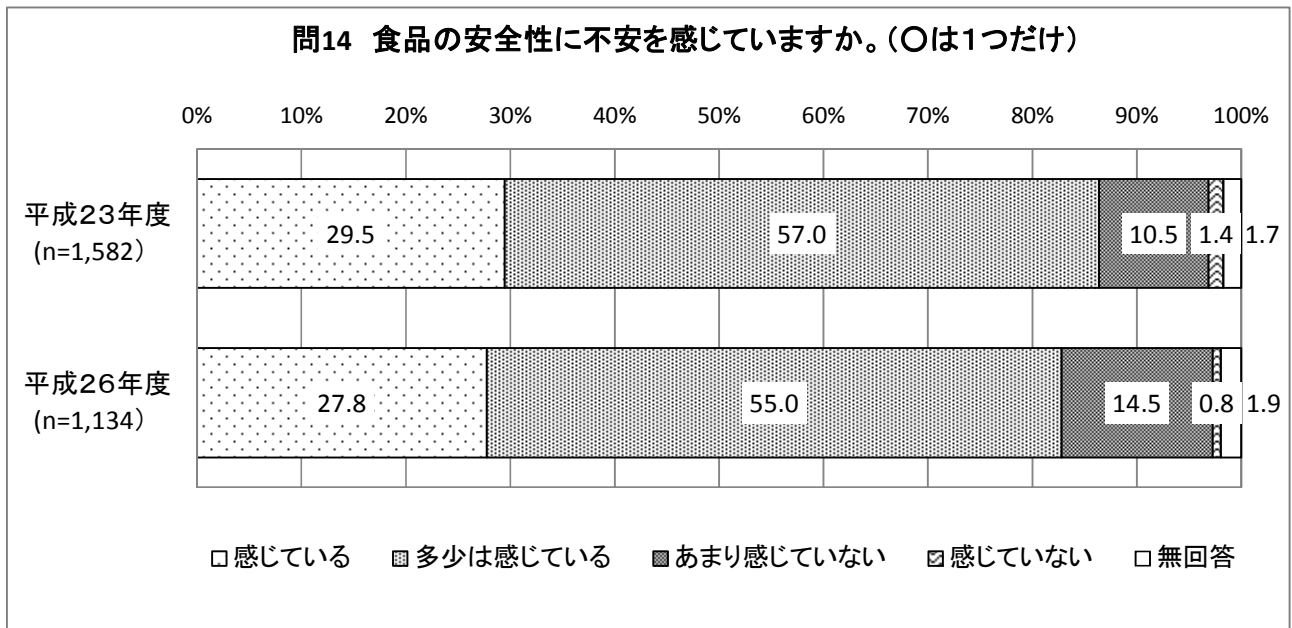
(14) 食品の安全性への不安

14 あなたは食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が減少

食品の安全性に不安を感じているか聞いたところ、「感じている」（「感じている」と「多少感じている」の合計）が82.8%と、平成23年度調査から減少している。一方、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は15.3%と増加している。（図表Ⅲ－2－9）

図表Ⅲ－2－9



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

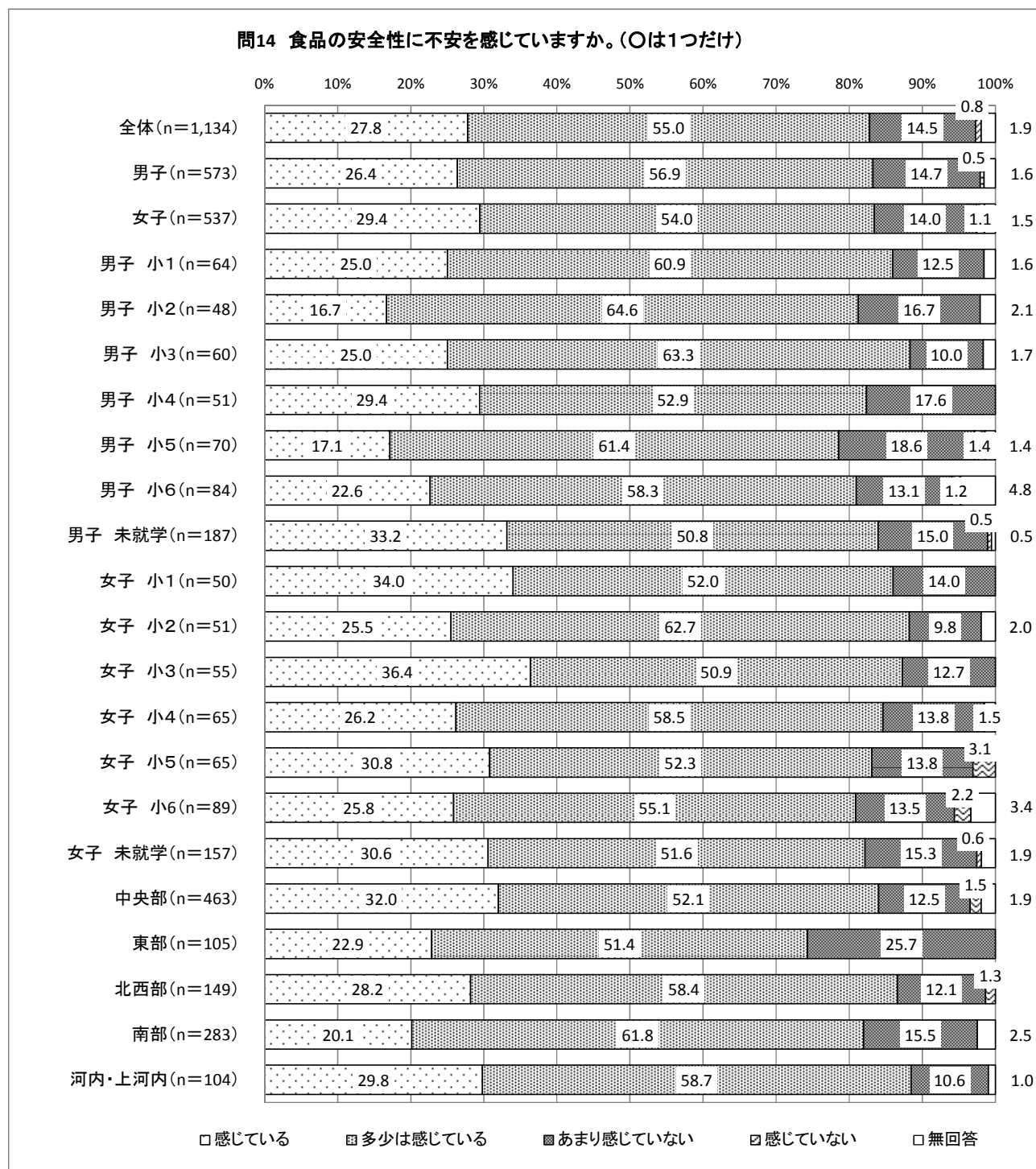
子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、全学年で8割を超えているが、「男子小5」（78.5%）では若干低くなっている。また、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は、「女子小2」で1割未満となった。

居住地区別では、「感じている」の割合が「東部」（74.3%）で、他地区に比べ低くなっている。

（図表Ⅲ－2－10）

図表Ⅲ－2－10



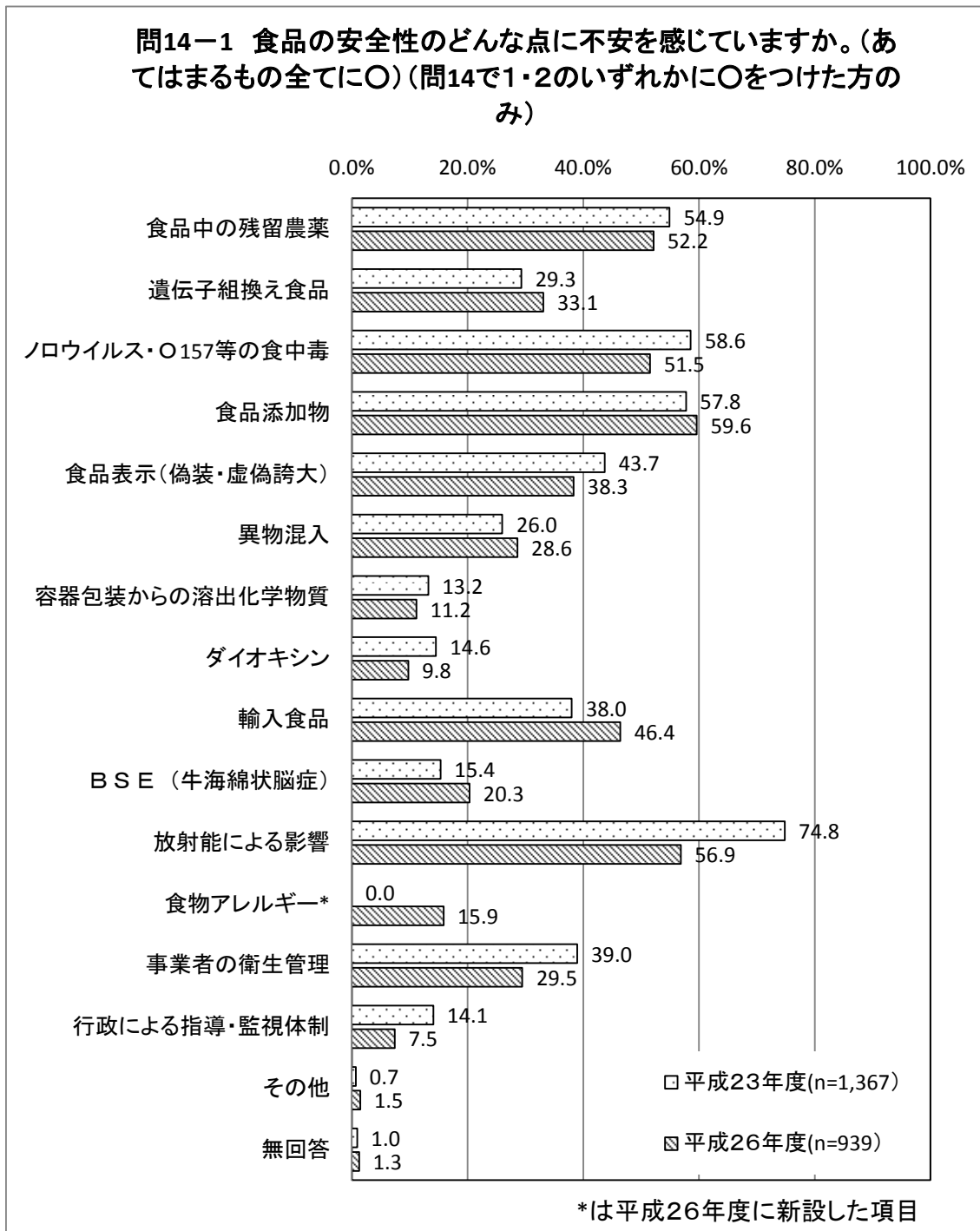
(14-1) 不安の内容

14-1 あなたは食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「食品添加物」が約6割,「放射能による影響」は減少

前問で「感じている」と答えた人に、食品の安全性のどのような点に不安を感じているか聞いたところ、「食品添加物」が59.6%と最も多く、次いで、「放射能による影響」(56.9%)、「食品中の残留農薬」(52.2%)、「ノロウイルス・O157等の食中毒」(51.5%)となっている。「放射能による影響」は、平成23年度調査から比較して減少している。(図表Ⅲ-2-11)

図表Ⅲ-2-11



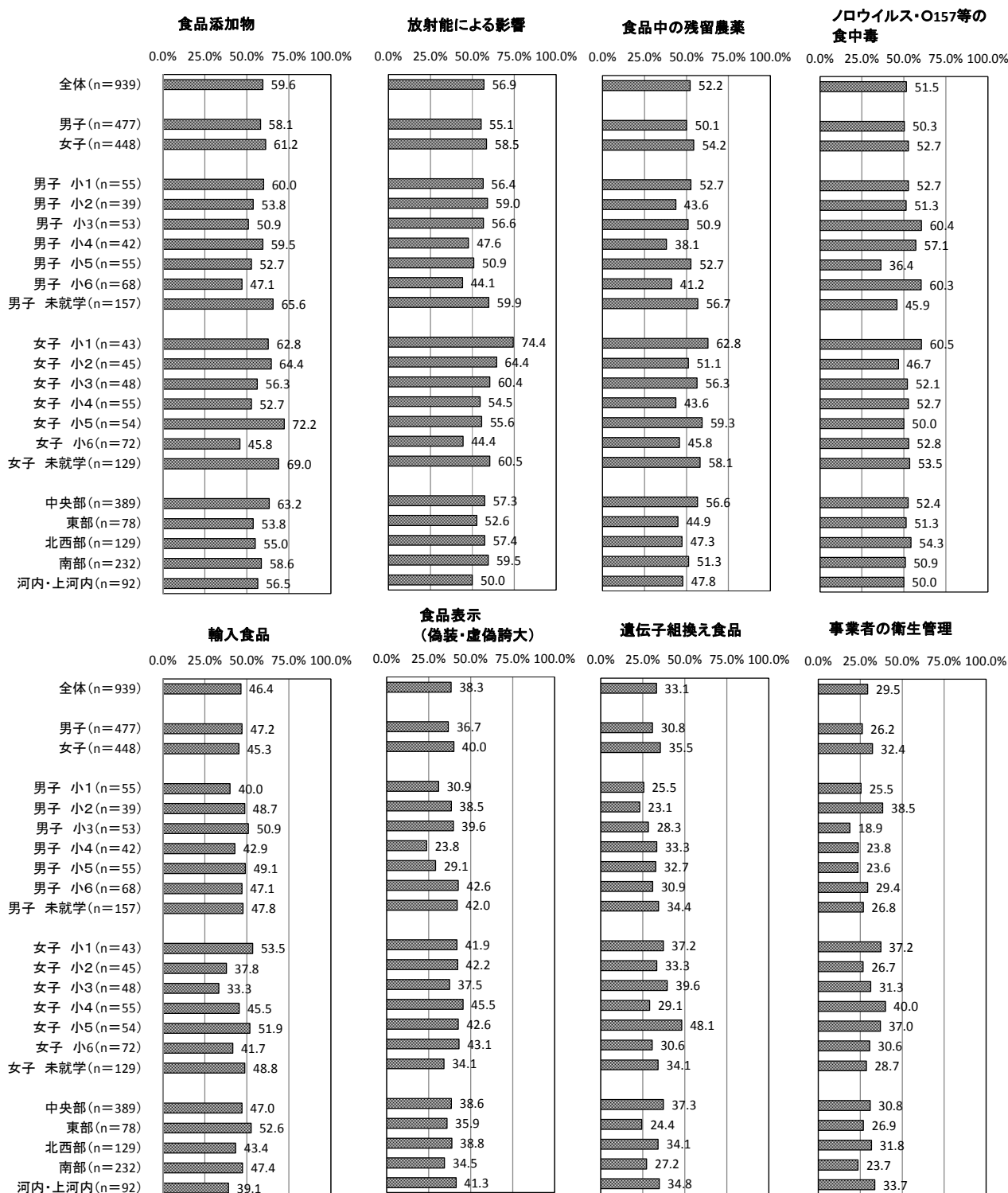
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

上位8項目を子どもの性別では、「輸入食品」以外の項目で、男子より女子の割合が高くなっている。

性・学年別では、女子の「放射能による影響」の割合が高く、学年が低いほど、割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「中央部」で「食品添加物」の割合が6割を超え、また、「食品中の残留農薬」、「遺伝子組換え食品」で、他地区に比べ高い割合となっている。(図表Ⅲ-2-12)

図表Ⅲ-2-12



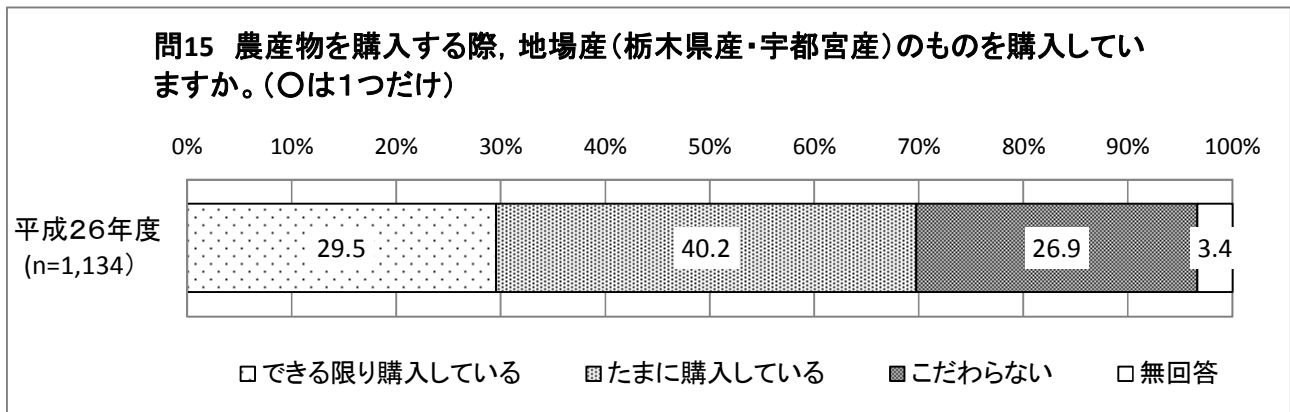
(15) 地場農産物の購入

15 あなたは農産物を購入する際、地場産(栃木県産, 宇都宮産)のものを購入していますか。

◆「たまに購入している」が4割

地場産のものを購入しているか聞いたところ、「たまに購入している」(40.2%)が最も多く、次いで、「できる限り購入している」(29.5%),「こだわらない」(26.9%)となっている。(図表Ⅲ-2-13)

図表Ⅲ-2-13



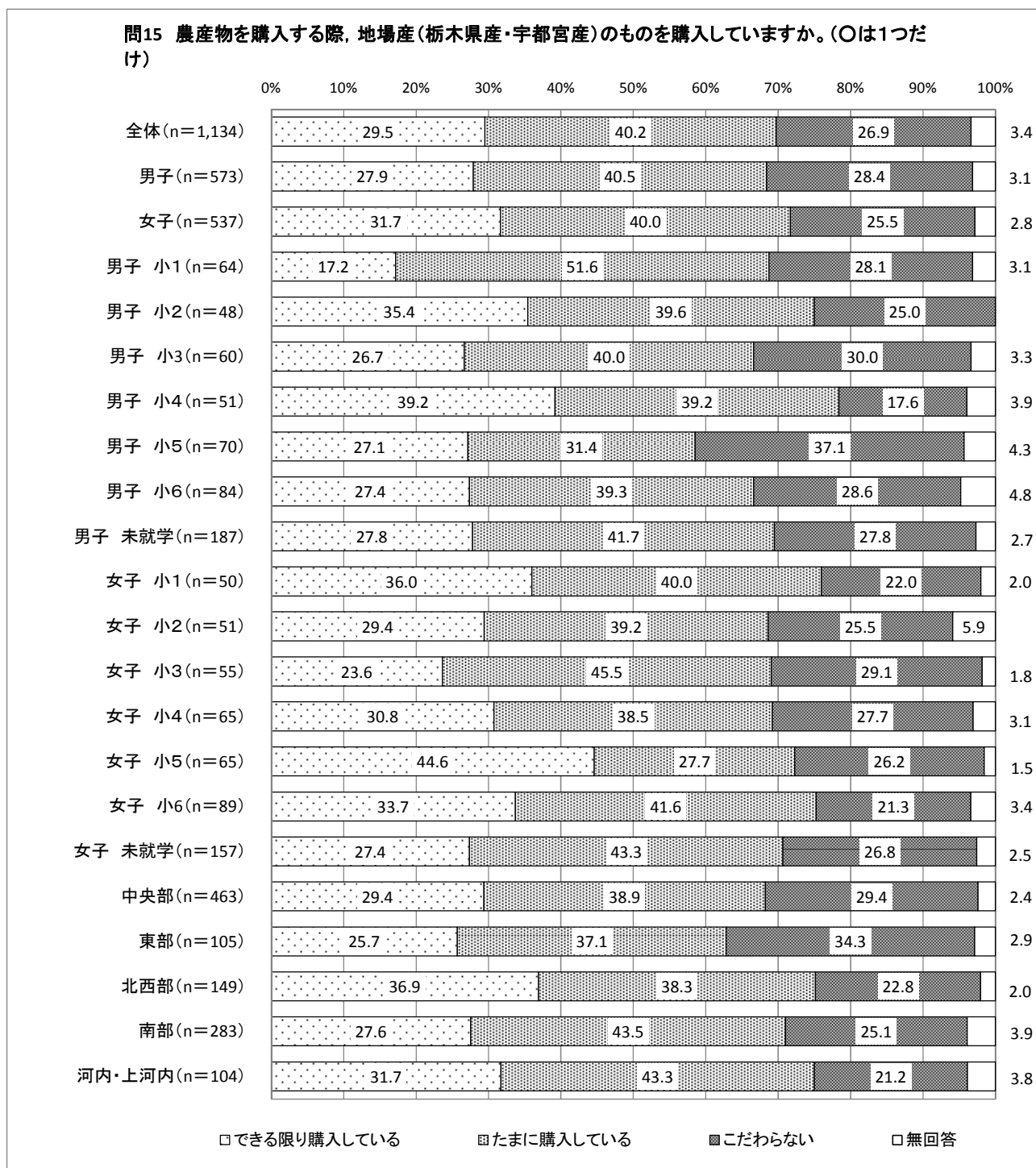
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「できる限り購入している」は、女子が（31.7%）が男子（27.9%）より約4%高くなっている。

性・学年別では、「できる限り購入している」の割合が、「男子小1」（17.2%）では他学年に比べ低くなっている。

居住地区別では、「北西部」で、「できる限り購入している」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－2－14）

図表Ⅲ－2－14



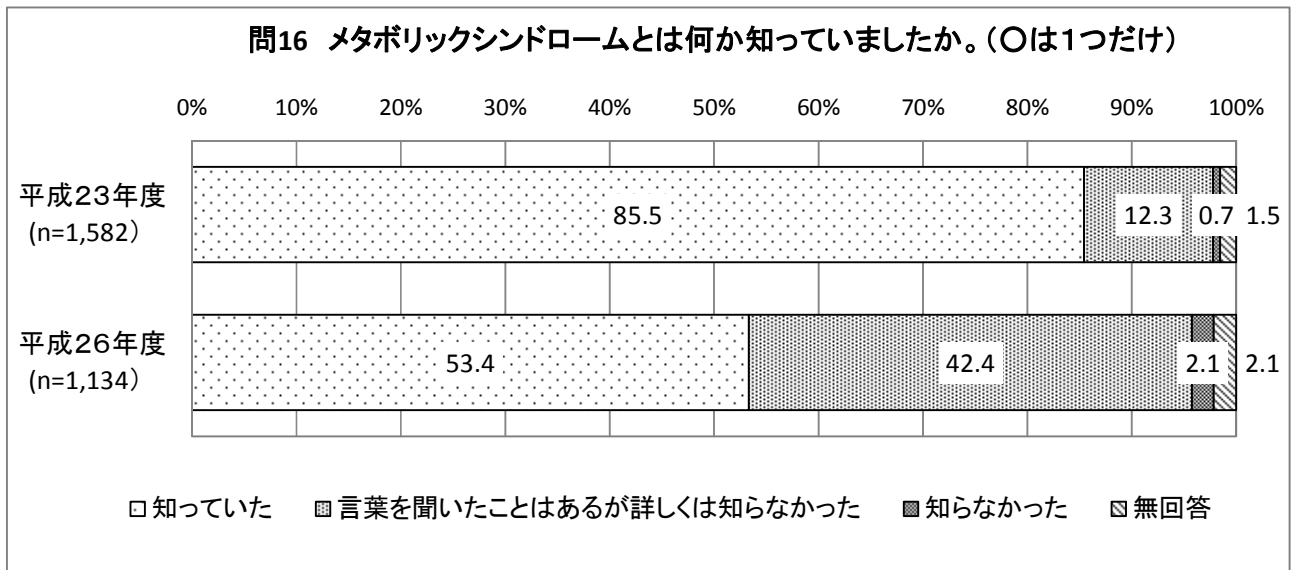
(16) メタボリックシンドロームの認知度

16 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が約半数で減少

メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」が53.4%と半数を占めるが、平成23年度調査からは約32%の減少となった。また、「知らなかった」(2.1%)は1.4%増加している。(図表Ⅲ-2-15)

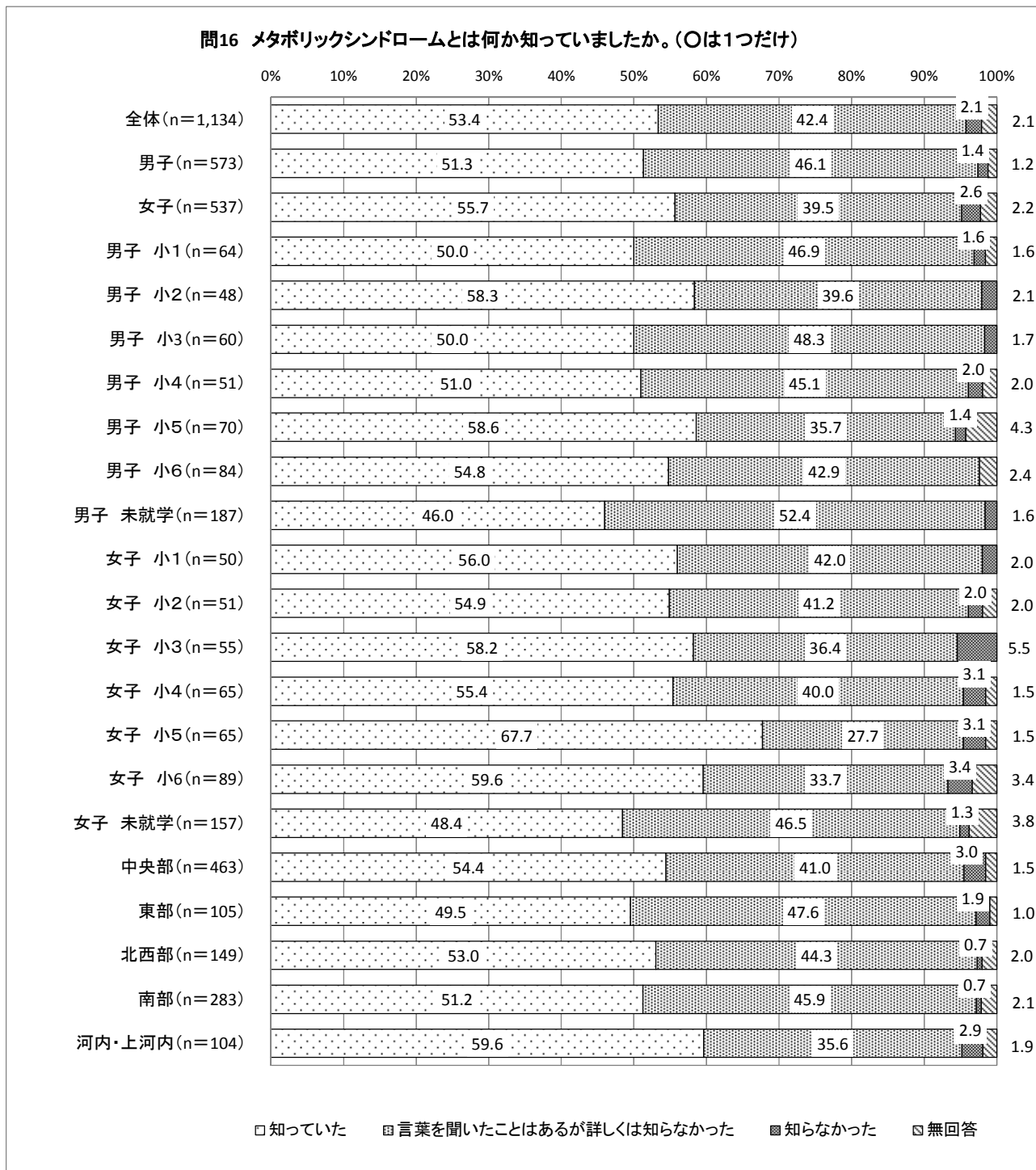
図表Ⅲ-2-15



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別・学年，居住地区全てで「知っていた」の割合が高くなっているが，「男子未就学」では，「言葉を聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」（52.4%）が「知っていた」（46.0%）を上回っている。（図表Ⅲ－2－16）

図表Ⅲ－2－16



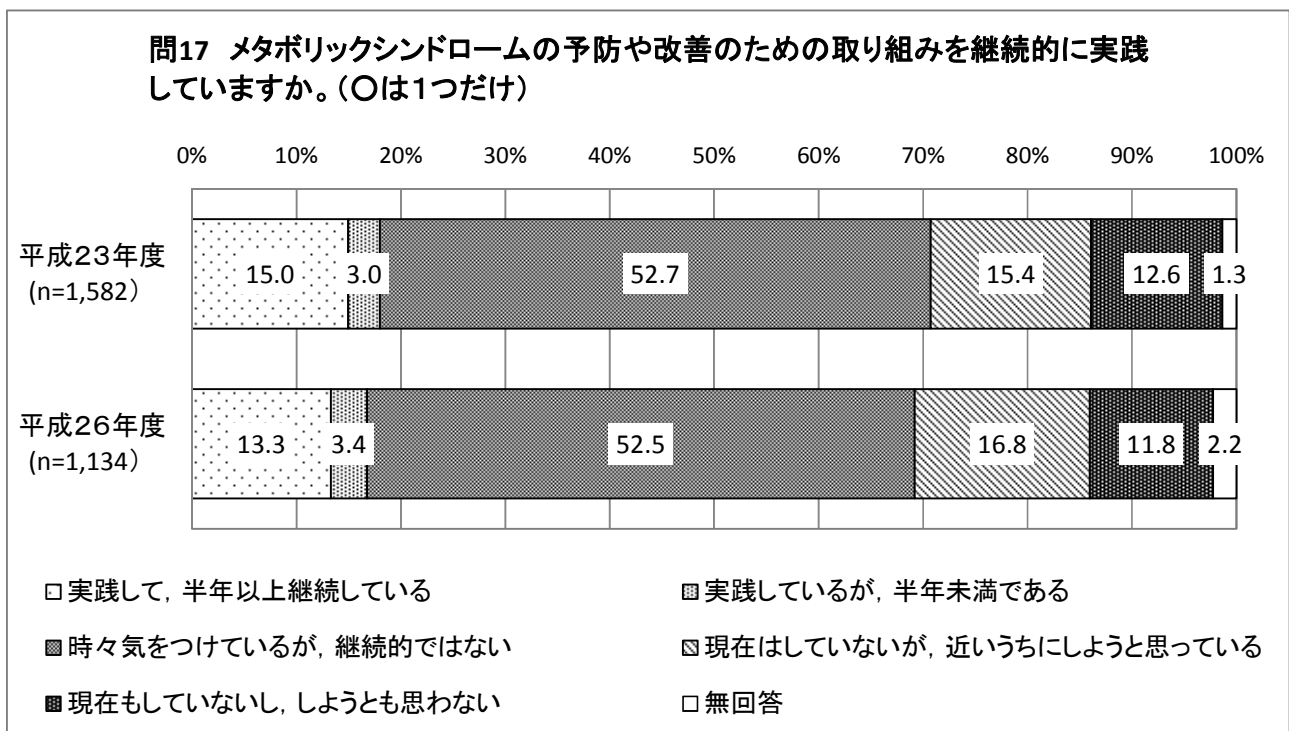
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

17 あなたはメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が半数以上

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続性は、「時々気をつけているが、継続的ではない」(52.5%)が半数以上を占めている。次いで、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」(16.8%)となっており、平成23年度調査と同様の傾向となっている。(図表Ⅲ-2-17)

図表Ⅲ-2-17



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では，男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では，男女とも「時々気をつけているが，継続的ではない」が5割前後を占めている。「男子小4」では，「現在もしていないし，しようとも思わない」(17.6%)の割合が他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では，「東部」では「実践して，半年以上継続している」が1割に留まっている。(図表Ⅲ-2-18)

図表Ⅲ-2-18



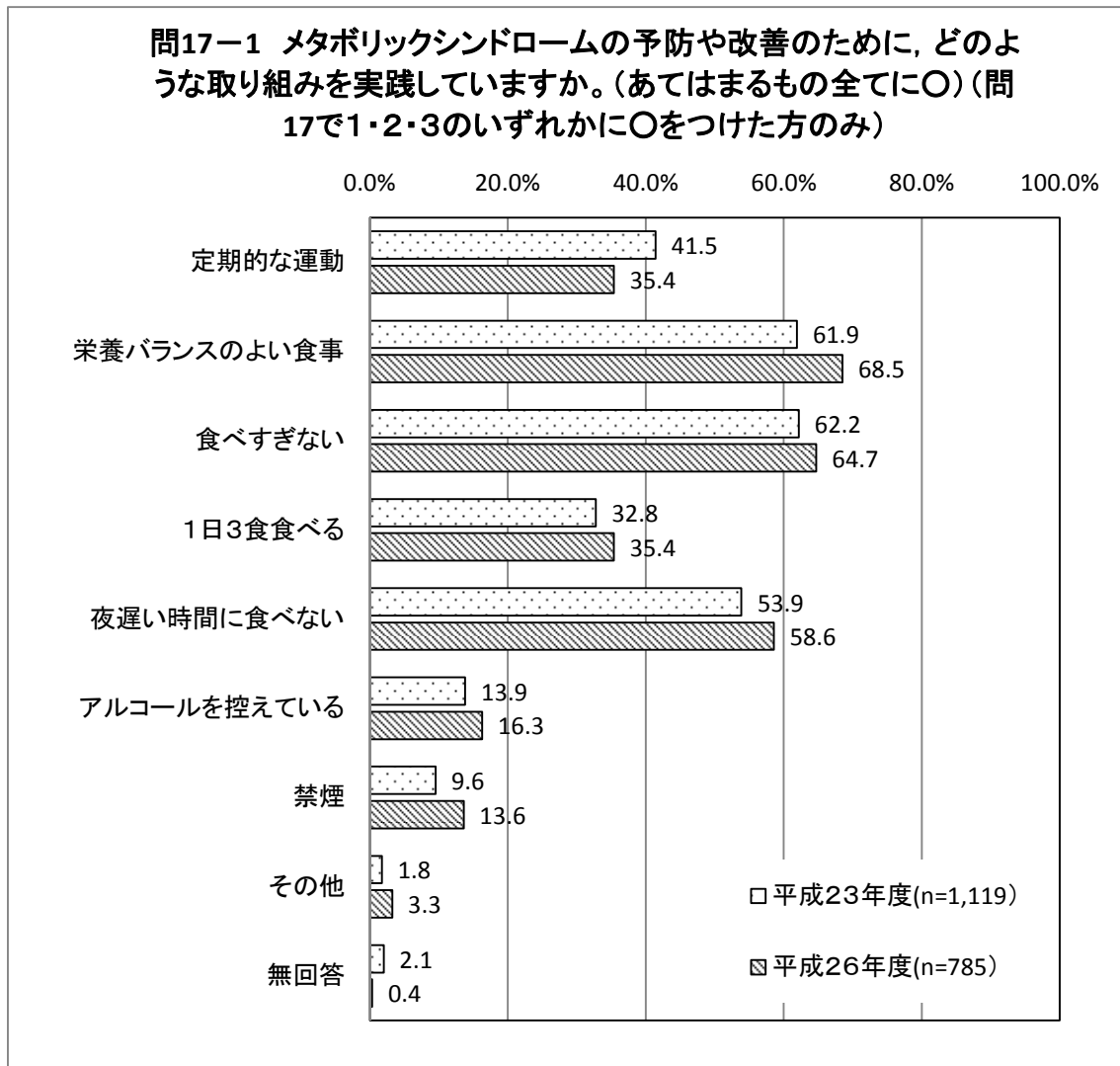
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

17-1 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「栄養バランスの良い食事」が約7割

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組は、「栄養バランスの良い食事」（68.5%）が最も多く、次いで「食べすぎない」（64.7%）、「夜遅い時間に食べない」（58.6%）となっている。（図表Ⅲ-2-19）

図表Ⅲ-2-19



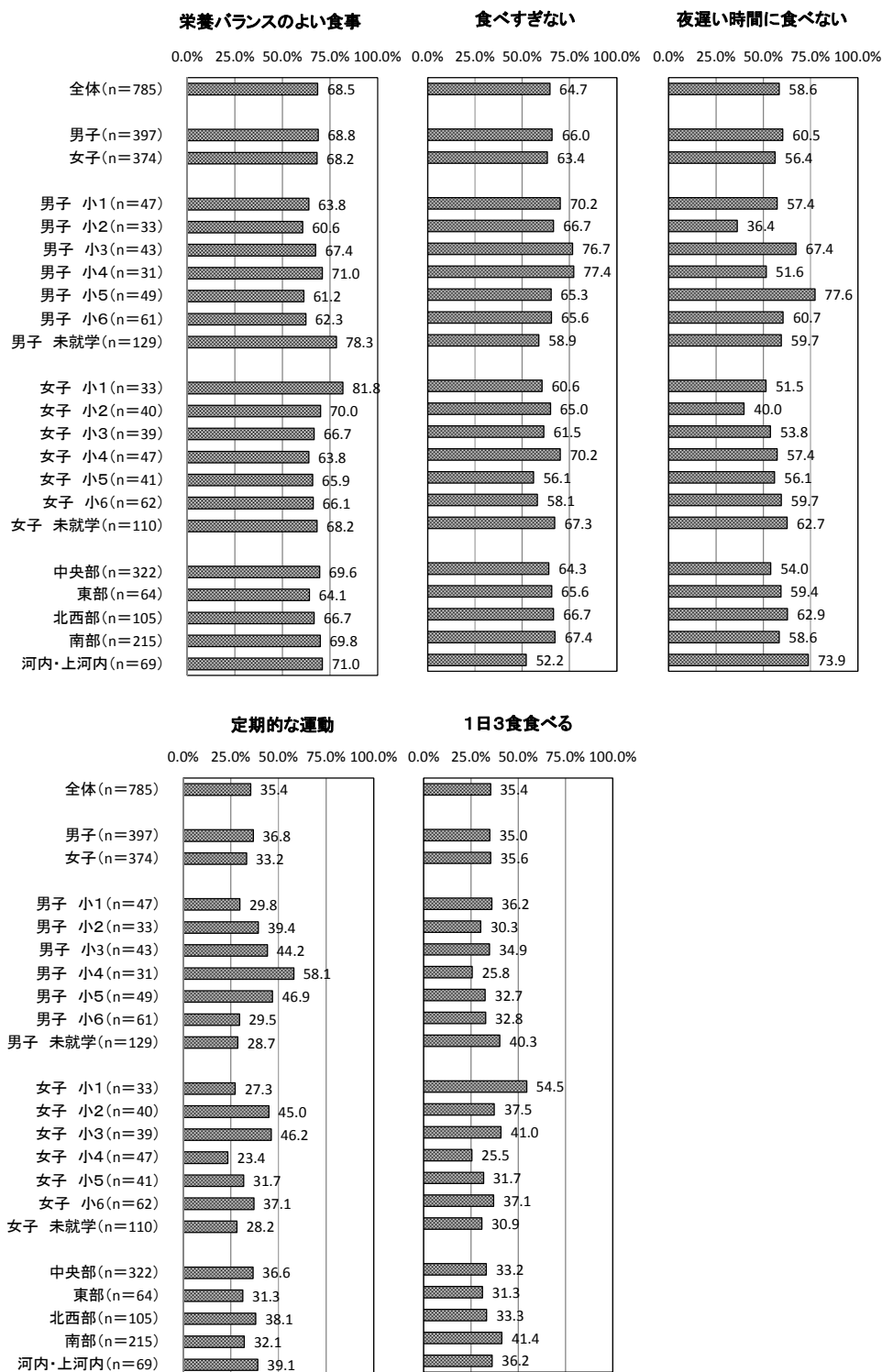
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「夜遅い時間に食べない」で、男子（60.5%）が女子（56.4%）より約4%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」で、「栄養バランスのよい食事」（81.8%）が8割台、「男子小4」で「定期的な運動」（58.1%）が、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で、「夜遅い時間に食べない」（73.9%）の割合が他地区に比べ高くなっている。また、「食べすぎない」（52.2%）の割合は他地区に比べて低くなっている。（図表Ⅲ－2－20）

図表Ⅲ－2－20



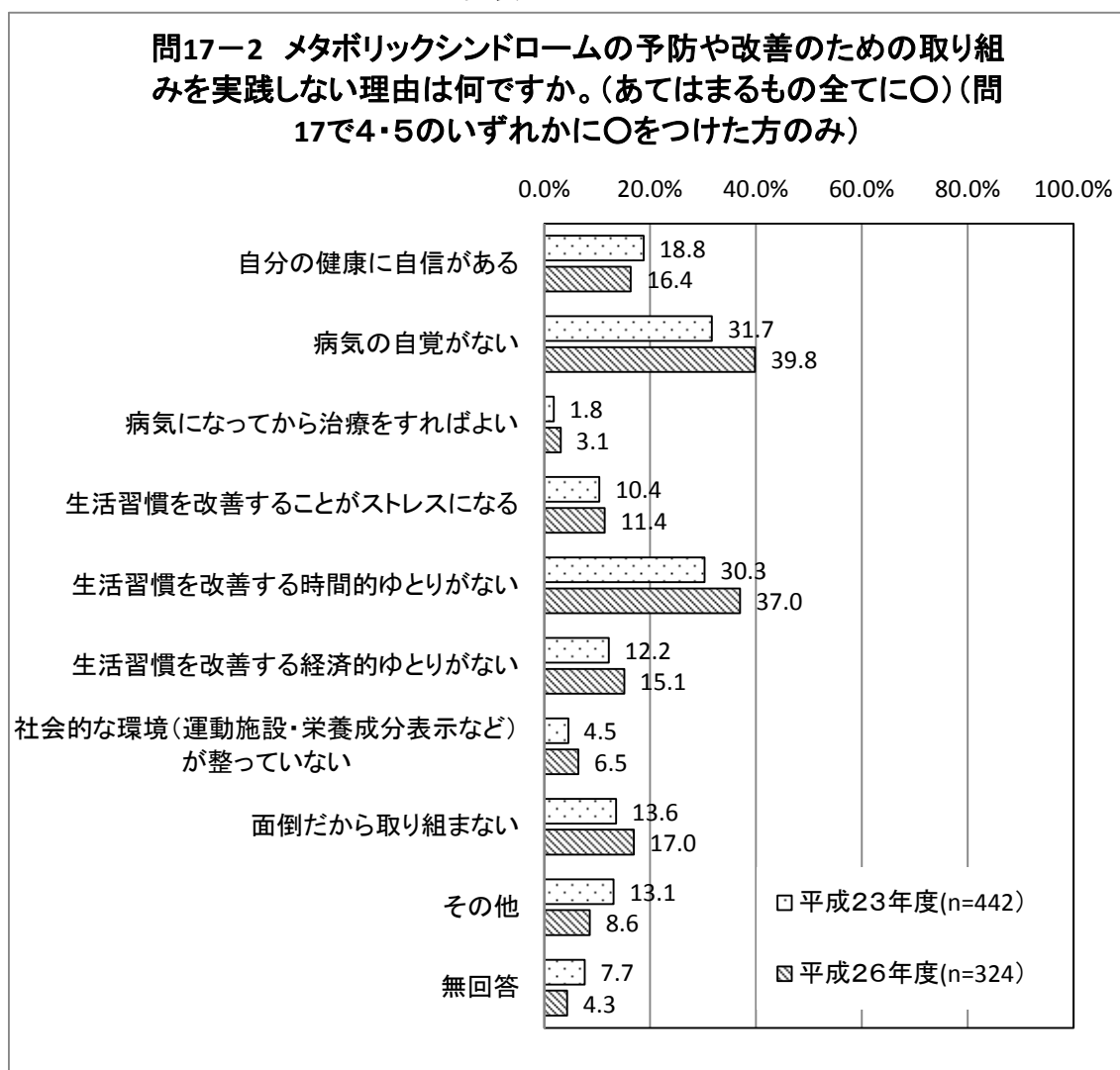
(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

17-2 あなたがメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が約4割

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(39.8%)が最も多く、以下、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」(37.0%)、「面倒だから取り組まない」(17.0%)、「自分の健康に自信がある」(16.4%)となっている。(図表Ⅲ-2-21)

図表Ⅲ-2-21



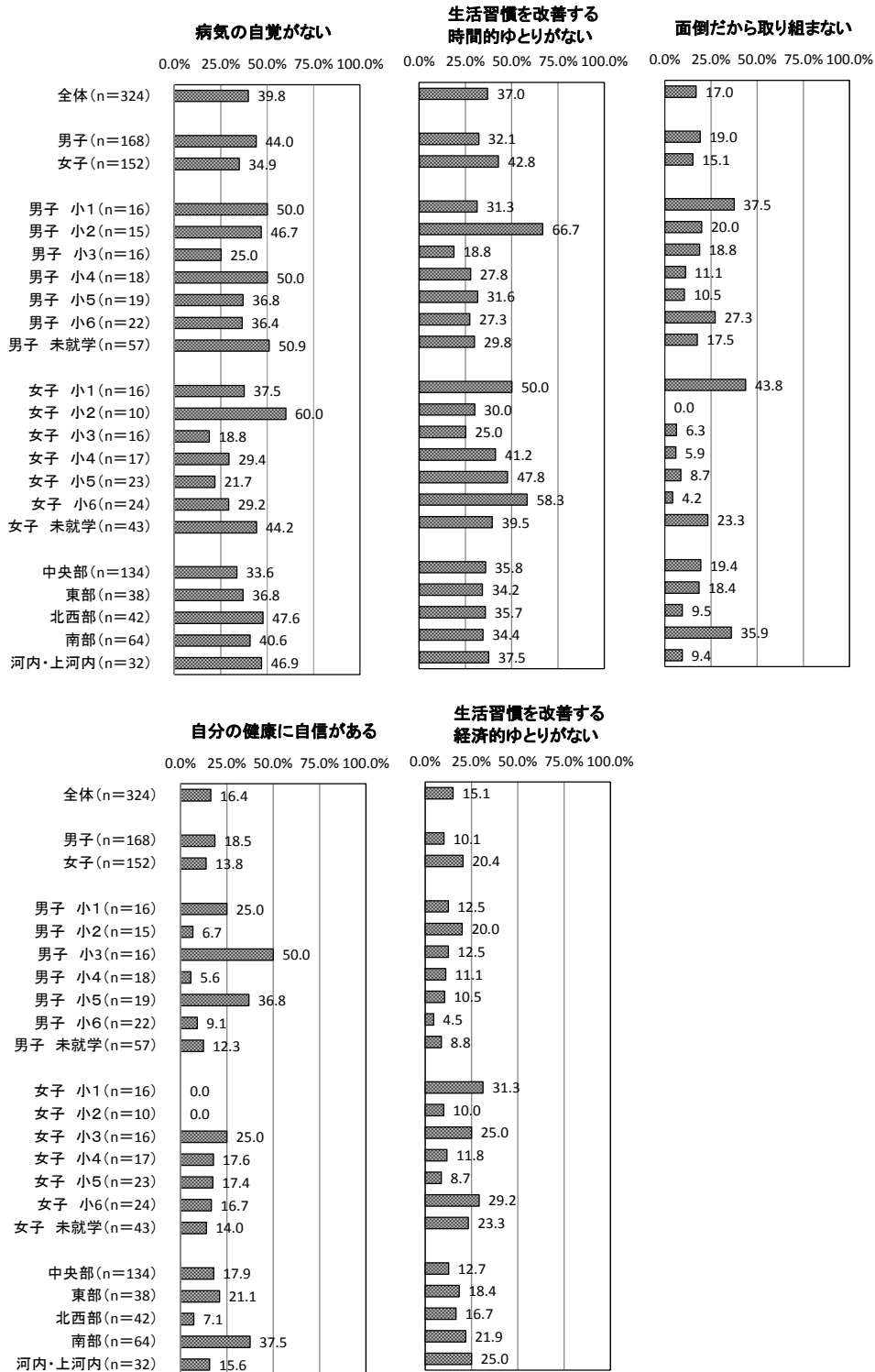
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「面倒だから取り組まない」の割合で、男子(19.0%)が女子(15.1%)より若干高くなっている。

子どもの性・学年別では、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合で、「男子小2」の66.7%が突出している。

居住地区別では、「南部」で「自分の健康に自信がある」(37.5%)、「面倒だから取り組まない」(35.9%)が他地区に比べ高くなっている。(図表Ⅲ-2-22)

図表Ⅲ-2-22



VI 資料（調査票）



宇都宮市マスコットキャラクター
「ミヤリー」

食育に関する意識調査のお願い

日ごろから、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

宇都宮市では、食育の実践を通して「人間力の向上」を図ることを目指し、「第2次宇都宮市食育推進計画」に基づき、様々な食育の取り組みを進めているところです。

この度、市民の皆様の「食育」に対するお考えや、日常生活での取り組みなどについてお聴きし、ご意見を踏まえて食育を推進する必要があると考え、アンケート調査を実施することになりました。

つきましては、住民基本台帳に登録されている18歳以上の方の中から、3,000人を無作為に抽出した結果、あなたを回答者として選ばせていただきました。

お忙しい中、大変ご面倒をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

平成26年6月

宇都宮市長 佐藤 栄一

【ご記入についてのお願い】

- 1 お答えいただいた内容は、本調査の目的にのみ利用し、秘密の保持には万全を期してまいります。
- 2 お名前を書いていただく必要はありません。
- 3 平成26年6月1日現在の状況をお答えください。
- 4 回答は、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。質問によっては、1つだけ選んでいただくものと、複数選んでいただくものがありますので、ご注意ください。
- 5 「その他」とお答えの方は（ ）内に、その内容を具体的にご記入ください。
- 6 ご記入いただきました調査票は、同封しました封筒に入れ、切手を貼らずに、**6月27日（金）まで**にご返送ください（当日消印有効）。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

宇都宮市保健所 健康増進課 健康づくりグループ

TEL 028-626-1126



宇都宮市食育応援キャラクター
「忍者食丸くん」

問1 「食育」(※)という言葉をごどの程度知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 言葉も意味も知っていた | 2 言葉だけは知っていた |
| 3 知らなかった | |

問2 「食育」に関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 関心がある | 2 どちらかといえば関心がある |
| 3 どちらかといえば関心がない | 4 関心がない |
| 5 わからない | |

問3 日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動(※)をしていますか。(○は1つだけ)

※ 「食育に関する活動や行動」とは、栄養バランスのとれた食生活の実践、地場産の食品の購入、農業生産・加工活動への参加・体験、食生活の改善に関する勉強会への参加、食に関わるボランティア活動への参加、食料自給状況に関する理解の向上などを指します。

- | | |
|---------------------|---------|
| 1 積極的にしている | } → 問4へ |
| 2 できるだけするようにしている | |
| 3 あまりしていない | |
| 4 したいと思うが、実際にはしていない | |
| 5 したいと思わないし、していない | |

(問3で、3～5のいずれかに○をつけた方のみ)

問3-1 「食育」に関する活動や行動をしない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 「食育」に関心がないから |
| 2 「食育」への関心はあるが、他のこと(仕事・趣味等)で忙しいから |
| 3 「食育」を特に意識しなくても問題はないから |
| 4 「食育」自体についてよく知らないから |
| 5 「食育」に関する活動や行動をしたくても情報が入手できないから |
| 6 その他() |
| 7 特になし |

問4 ご自分の食生活に何か問題があると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 問題があり改善したいと思う | } → 問5へ |
| 2 問題はあるが改善したいと思わない | |
| 3 問題はない | |
| 4 わからない | |

(問4で1・2のいずれかに○をつけた方のみ)

問4-1 食生活の問題点はどのようなものですか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 栄養のバランスが悪い | 2 欠食がある |
| 3 間食が多い | 4 食べすぎてしまう |
| 5 野菜の摂取量が少ない | 6 塩分のとりすぎ |
| 7 その他() | |

問5 朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------|
| 1 毎日食べる → 問6へ |
| 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる |
| 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べない |

(問5で2～5いずれかに○をつけた方のみ)

問5-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 時間がない | 2 食欲がわからない |
| 3 朝食を食べるより寝ていたい | 4 減量(ダイエット)のため |
| 5 朝食が用意されていない | 6 以前から食べる習慣がない |
| 7 食べることや準備することが面倒 | 8 その他() |

問6 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問7 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 食事のあいさつ | 2 箸の持ち方・使い方 |
| 3 食器を持って食べる | 4 食器の配置 |
| 5 食べ物を残さない | 6 食事中にほかの事をしない |
| 7 ひじをつかない | 8 その他() |
| 9 特になし | |

問9 食事をゆっくりとよくかんで(※)食べていますか。(○は1つだけ)

※ 厚生労働省では、食べ物をひとくち30回以上かむことを目標とした「嚙ミング30(カミングサンマル)」を提唱しています。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 よくかんで食べている | 2 あまりかんでいない |
| 3 わからない | |

問10 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 買いすぎないようにしている | 2 作りすぎないようにしている |
| 3 残さないように食べている | 4 特に気をつけていない |
| 5 その他() | |

問 11 食堂，レストランなど飲食店では，栄養バランスのとれたメニューを提供していると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 ほとんどが提供していると思う | 2 半分くらいが提供していると思う |
| 3 提供しているところは少ないと思う | 4 わからない |

問 12 食堂，レストランなど飲食店でのお食をどのくらい利用しますか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------|
| 1 週に5回以上 |
| 2 週に3～4回 |
| 3 週に1～2回 |
| 4 月に1～3回 |
| 5 ほとんど利用しない → 問13へ |

(問12で1～4いずれかに○をつけた方のみ)

問12-1 どういう基準でメニューを選びますか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 そのときに食べたいもの | 2 価格が安いもの |
| 3 ボリュームがあるもの | 4 カロリーの低いもの |
| 5 塩分の少ないもの | 6 栄養バランスのよいもの |
| 7 食材の産地 | 8 短時間で食べられるもの |
| 9 家庭で作ると手間がかかるもの | 10 その他 () |

問 13 コンビニやスーパーで購入する弁当・総菜などの中食^{なかしょく}(※)をどのくらい利用しますか。(○は1つだけ)

※ 「中食 (なかしょく)」とは，持ち帰り弁当，総菜，出前など家庭外で調理された食品を購入して持ち帰り，家庭の食卓で食べる食事形態をいいます。

- | |
|--------------------|
| 1 週に5回以上 |
| 2 週に3～4回 |
| 3 週に1～2回 |
| 4 月に1～3回 |
| 5 ほとんど利用しない → 問14へ |

(問13で1～4いずれかに○をつけた方のみ)

問13-1 どういう基準でメニューを選びますか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 そのときに食べたいもの | 2 価格が安いもの |
| 3 ボリュームがあるもの | 4 カロリーの低いもの |
| 5 塩分の少ないもの | 6 栄養バランスのよいもの |
| 7 食材の産地 | 8 短時間で食べられるもの |
| 9 家庭で作ると手間がかかるもの | 10 その他 () |

問 14 外食・中食を提供する飲食業者に対して，メニューや表示などの希望はありますか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 野菜たっぷりのメニュー | 2 カロリー控えめのメニュー |
| 3 減塩のメニュー | 4 脂肪控えめのメニュー |
| 5 地場農産物を使用したメニュー | 6 カロリー，食塩量等の栄養成分表示 |
| 7 食材の産地の表示 | 8 加工食品のアレルギー表示 |
| 9 その他 () | 10 希望はない |

問 15 「食事バランスガイド (※)」を知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安を分かりやすくコマのイラストで示したものです。(下図参照)

- | | |
|---------------|----------|
| 1 よく知っていた | } → 問16へ |
| 2 だいたい知っていた | |
| 3 言葉は聞いたことがある | |
| 4 知らなかった | |

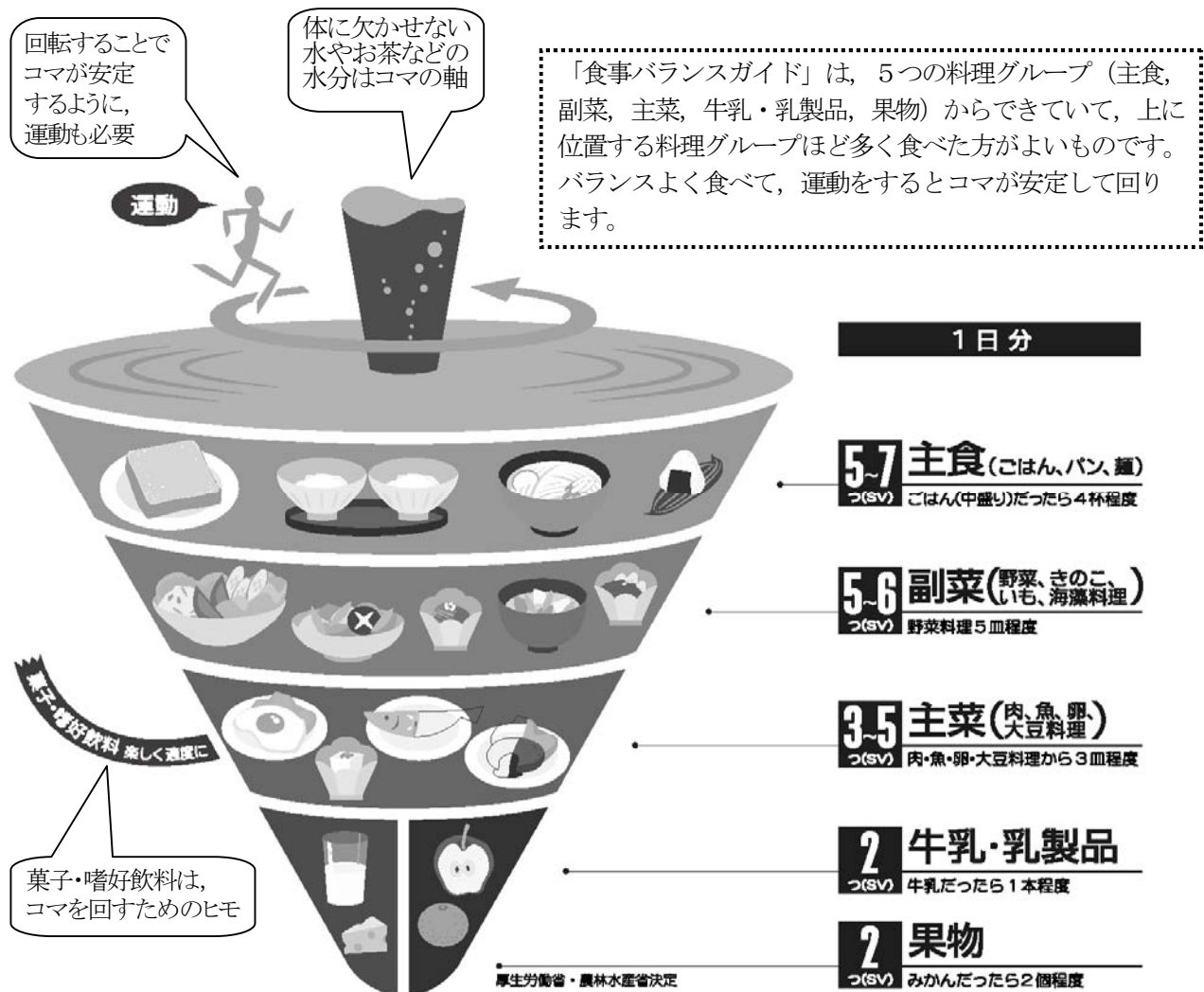
▶ (問15で1・2のいずれかに○をつけた方のみ)

問15-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日参考になっている | 2 時々参考になっている |
| 3 参考にしていない | 4 これから参考にしたい |
| 5 わからない | |

食事 バランスガイド

あなたの食事は大丈夫?



問 18 日ごろの食事で、うす味にする、漬物など塩分を多く含む食品を食べる回数や量を減らすなど減塩に取り組んでいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|----------|
| 1 積極的に取り組んでいる | } → 問19へ |
| 2 ある程度取り組んでいる | |
| 3 全く取り組んでいない | |

(問 18 で 3 に ○ を つけた 方 の み)

問 18-1 減塩に取り組んでいない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 おいしく食べたいから | 2 現在健康上の問題がないから |
| 3 とり過ぎていてと思わないから | 4 減塩のしかたがわからないから |
| 5 面倒だから | 6 家族が管理しているのでわからないから |
| 7 塩分の身体への影響がよくわからないから | 8 特に理由はない |

問 19 1日に必要な野菜摂取量350gを食べていると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 十分食べていると思う | } → 問20へ |
| 2 ほぼ食べていると思う | |
| 3 ほとんど食べていないと思う | |

(問 19 で 3 に ○ を つけた 方 の み)





問 19-1 野菜を食べない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 野菜が嫌い | 2 食べなくても健康に影響はないと思うから |
| 3 値段が高くて買わないから | 4 家族が食べないから |
| 5 調理する時間がないから | 6 調理法がわからないから |
| 7 家族が野菜料理を作らないから | 8 特に理由はない |
| 9 その他 () | |

【参考】★ 野菜の重さの目安 ★

・ にら(1束)	約100g
・ トマト(中1個)	約200g
・ ピーマン(中1個)	約40g
・ にんじん(中1本)	約150g
・ キャベツ(大きめの葉1枚)	約40g
・ きゅうり(1本)	約100g
・ 玉ねぎ(中1個)	約200g
・ もやし(1袋)	約250g

★ 料理に使われている野菜の量の目安 ★

 ほうれん草のおひたし 約80g	 具だくさんのみそ汁 約75g	 野菜炒め 約140g
 レタスときゅうりのサラダ 約85グラム	 かぼちゃの煮物 約100g	

問 20 「食生活改善推進員・健康づくり推進員(※)」を知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 宇都宮市では、「食生活改善推進員・健康づくり推進員」を養成し、栄養・運動・休養などのバランスのとれた生活習慣や食習慣の実践など、健康づくり活動を広めるボランティアとして、地域の中で活動いただいております。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 言葉も活動も知っていた | 2 言葉だけは聞いたことがあった |
| 3 知らなかった | |

問 21 食品の安全性に不安を感じていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 感じている | } → 問 22 へ |
| 2 多少は感じている | |
| 3 あまり感じていない | |
| 4 感じていない | |

(問 21 で 1・2 のいずれかに○をつけた方のみ)

問 21-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------------|
| 1 食品中の残留農薬 | 2 遺伝子組換え食品 | 3 ノロウイルス・O157等の食中毒 |
| 4 食品添加物 | 5 食品表示(偽装・虚偽誇大) | 6 異物混入 |
| 7 容器包装からの溶出化学物質 | 8 ダイオキシン | 9 輸入食品 |
| 10 BSE(牛海綿状脳症) | 11 放射能による影響 | 12 食物アレルギー |
| 13 事業者の衛生管理 | 14 行政による指導・監視体制 | |
| 15 その他() | | |

問 22 日ごろから食品の安全性についての情報や知識を得ようとしていますか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------|
| 1 積極的にしている |
| 2 できるだけするようにしている |
| 3 あまりしていない |
| 4 したいと思うが、していない |
| 5 したいと思わないし、していない |

(問 22 で 1・2 のいずれかに○をつけた方のみ)

問 22-1 食品の安全性に関する情報や知識をどこから入手していますか。(○は3つまで)

- | | | |
|-----------------|--------------|------------------|
| 1 専門書 | 2 新聞, 雑誌 | 3 テレビ, ラジオ |
| 4 講習会, イベント | 5 市や県などの相談窓口 | 6 友人, 知人, 家族, 親戚 |
| 7 インターネット・メール配信 | 8 その他() | |

(問 22 で 3~5 のいずれかに○をつけた方のみ)

問 22-2 食品の安全性に関する情報や知識を入手していない理由は何ですか。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 食品の安全性について興味がないから | 2 現在の環境に安心しているから |
| 3 関心や興味を持ってても余り意味がないと思うから | |
| 4 時間がないから | 5 その他() |

問 23 食品の安全性は向上していると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 向上している | 2 少しは向上している |
| 3 向上していない | 4 わからない |

問 24 「^{ちさんちしょう}地産地消 (※)」についてどの程度知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「地産地消」とは、地元でとれたものを地元で消費することをいいます。宇都宮市では、地元の農業を応援し、地場農産物の活用や購入を促進するための取り組みを推進しています。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 具体的な取り組み例を知っていた | 2 言葉も意味も知っていた |
| 3 言葉だけは知っていた | 4 知らなかった |

問 25 農産物を購入する際、地場産(栃木県産・宇都宮産)のものを購入していますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|----------|
| 1 できる限り購入している | } → 問26へ |
| 2 たまに購入している | |
| 3 こだわらない | |

(問25で3に○をつけた方のみ)

▶ 問25-1 地場産の農産物にこだわらない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|------------------------|
| 1 いつも買い物に行くお店に売っていないから |
| 2 地場産かどうかを特に意識していないから |
| 3 名産地や他県・他市のものが安いから |
| 4 その他() |

問 26 食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|----------|
| 1 関心がある | } → 問27へ |
| 2 多少関心がある | |
| 3 あまり関心はない | |
| 4 関心はない | |

(問26で3・4のいずれかに○をつけた方のみ)

▶ 問26-1 食文化や伝統料理は、どのようなきっかけがあれば関心を持つことができますか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて | 2 食に関するイベントや料理教室 |
| 3 テレビ・新聞等の報道や特集 | 4 その他() |

問 27 「日本型食生活 (※)」を知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「日本型食生活」とは、米(ごはん)を中心に、魚や肉、野菜、海藻、豆類などの多様なおかずを組み合わせ、適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた食事です。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 言葉も意味も知っていた | 2 言葉だけは知っていた |
| 3 知らなかった | |

問 28 日ごろの食事で「日本型食生活」を実践していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 毎日実践している | 2 時々実践している |
| 3 実践していない | 4 これから実践したい |

◆ あなた自身のことについてお伺いします。

F 1 性別

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 ※ 平成26年6月1日現在

1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳	4 30～34歳
5 35～39歳	6 40～44歳	7 45～49歳	8 50～54歳
9 55～59歳	10 60～64歳	11 65～69歳	12 70歳以上

F 3 お住まいの町名

--

※ 丁目までご記入ください。

(記入例)

宇都宮市下栗町にお住まいの方 ⇒ 下栗町

宇都宮市下栗1丁目にお住まいの方 ⇒ 下栗1丁目

F 4 家族構成 (あてはまるものに○)

1 ひとり暮らし	2 自分と配偶者	3 自分と配偶者と子ども
4 自分と子ども	5 自分と配偶者と子どもと親	6 自分と親
7 自分と親と兄弟姉妹	8 その他 ()	

F 5 職業 (あてはまるものに○)

1 会社員・公務員・団体職員	2 契約社員・派遣社員	3 自営業
4 農林業	5 パート・アルバイト	6 専業主婦 (夫)
7 学生	8 無職	9 その他 ()

F 6 身長と体重 ※ 小数点第1位まで記入してください。(記入例: 150.4cm, 50.0kg)

身長

--	--	--

 .

--

 cm 体重

--	--	--

 .

--

 kg

F 7 「食育」に関して、市へのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。



宇都宮市マスコットキャラクター
「ミヤリー」

食育に関する意識調査のお願い

宇都宮市では、食育の実践を通して「人間力の向上」を図ることを目指し、「第2次宇都宮市食育推進計画」に基づき、朝食の欠食をなくす、食事マナーに関心がある人を増やすなどの食育の取り組みを進めているところです。

このような中、宇都宮市内の学校に通う中学生と高校生に、「食育」に対する考えや、日常生活で取り組んでいることなどについてお聴きし、ご意見を踏まえて食育を推進する必要があると考え、アンケート調査を実施することになりましたので、ご協力をお願いします。

平成26年6月

宇都宮市長 佐藤 栄一

【ご記入についてのお願い】

- 1 お答えいただいた内容は、本調査の目的にだけ利用し、秘密は守りますので、ありのままにお答えください。
- 2 お名前を書いていただく必要はありません。
- 3 平成26年6月1日現在の状況をお答えください。
- 4 回答は、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。質問によっては、1つだけ選んでいただくものと、複数選んでいただくものがありますので、ご注意ください。
- 5 「その他」とお答えの方は（ ）内に、その内容を具体的に記入してください。
- 6 記入が済んだ調査票は、担任の先生に提出してください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

宇都宮市保健所 健康増進課 健康づくりグループ

TEL 028-626-1126



宇都宮市食育応援キャラクター
「忍者食丸くん」

問1 「食育」(※)という言葉をごどの程度知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 言葉も意味も知っていた | 2 言葉だけは知っていた |
| 3 知らなかった | |

問2 「食育」に関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 関心がある | 2 どちらかといえば関心がある |
| 3 どちらかといえば関心がない | 4 関心がない |
| 5 わからない | |

問3 自分の食生活に何か問題があると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 問題があり改善したいと思う | |
| 2 問題はあるが改善したいと思わない | |
| 3 問題はない | } → 問4へ |
| 4 わからない | |

(問3で1・2のいずれかに○をつけた方のみ)

問3-1 食生活の問題点はどのようなものですか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 栄養のバランスが悪い | 2 欠食がある |
| 3 間食が多い | 4 食べすぎてしまう |
| 5 野菜をあまり食べない | 6 塩分のとりすぎ |
| 7 その他 () | |

問4 朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|-------|
| 1 毎日食べる | → 問5へ |
| 2 週5~6回程度食べる | |
| 3 週3~4回程度食べる | |
| 4 週1~2回程度食べる | |
| 5 食べない | |

(問4で2~5いずれかに○をつけた方のみ)

問4-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 時間がない | 2 食欲がわからない |
| 3 朝食を食べるより寝ていたい | 4 減量(ダイエット)のため |
| 5 朝食が用意されていない | 6 以前から食べる習慣がない |
| 7 食べることや準備することが面倒 | 8 その他 () |

問5 朝食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問6 夕食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問7 食事をゆっくりとよくかんで(※)食べていますか。(○は1つだけ)

※ 厚生労働省では、食べ物をひとくち30回以上かむことを目標とした「嚙ミング30(カミングサンマル)」を提唱しています。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 よくかんでいる | 2 あまりかんでいない |
| 3 わからない | |

問8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 食事のあいさつ | 2 箸の持ち方・使い方 |
| 3 食器を持って食べる | 4 食器の配置 |
| 5 食べ物を残さない | 6 食事中にほかの事をしない |
| 7 ひじをつかない | 8 その他 () |
| 9 特になし | |

問9 食べ残しや食品の廃棄に気をつけていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 買いすぎないようにしている | 2 作りすぎないようにしている |
| 3 残さないように食べている | 4 特に気をつけていない |
| 5 その他 () | |

問10 「食事バランスガイド(※)」を知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安を分かりやすくコマのイラストで示したものです。(下図参照)

- | | |
|---------------|----------|
| 1 よく知っていた | } → 問11へ |
| 2 だいたい知っていた | |
| 3 言葉は聞いたことがある | |
| 4 知らなかった | |

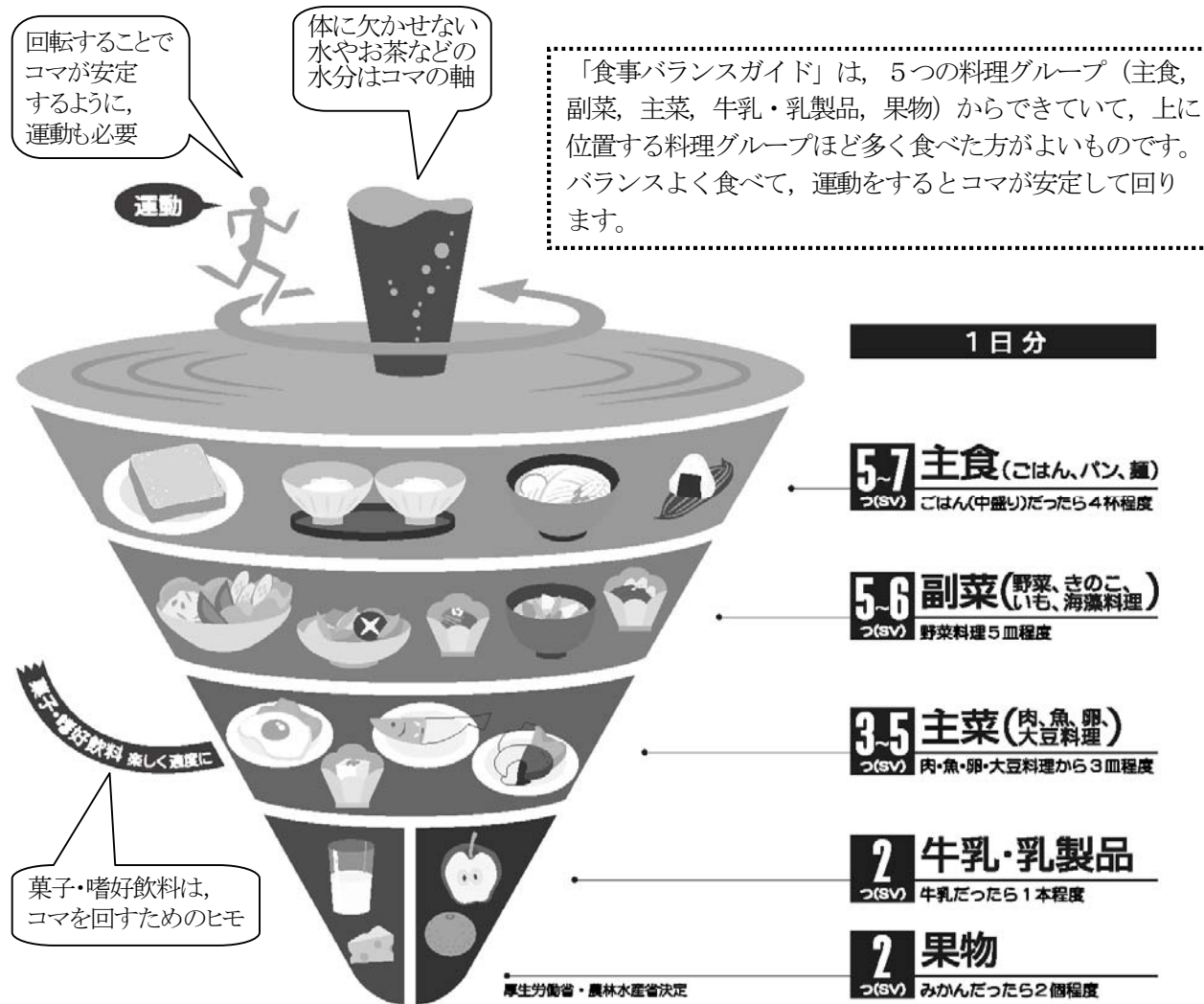
▶ (問10で1・2のいずれかに○をつけた方のみ)

問10-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日参考になっている | 2 時々参考になっている |
| 3 参考にしていない | 4 これから参考にしたい |
| 5 わからない | |

食事バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？



問 11 夜は何時頃に寝ますか。(○は1つだけ)

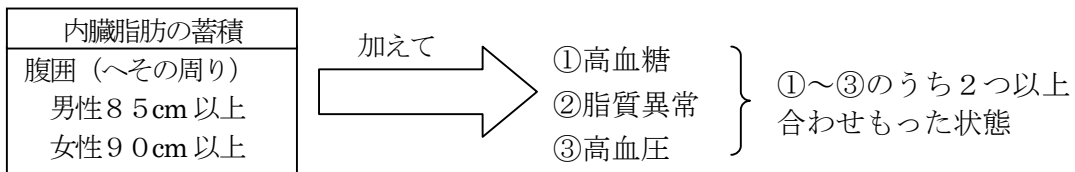
- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 午後8時前 | 2 午後8時台 | 3 午後9時台 |
| 4 午後10時台 | 5 午後11時台 | 6 午前0時以降 |

問 12 朝は何時頃に起きますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1 午前5時前 | 2 午前5時台 | 3 午前6時台 |
| 4 午前7時台 | 5 午前8時台 | 6 午前9時以降 |

問 13 メタボリックシンドローム(※)とは何か知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「メタボリックシンドローム」とは、お腹の周りに脂肪のつく内臓脂肪型肥満に加えて、「高血糖」、「脂質異常(血液中に含まれるコレステロールや中性脂肪などの脂質が多い)」、「高血圧」のうち2つ以上あわせもった状態をいいます。



- | | | |
|---------|----------------------|----------|
| 1 知っていた | 2 言葉を聞いたことはあるが知らなかった | 3 知らなかった |
|---------|----------------------|----------|

問 14 「^{ちさんちしょう}地産地消(※)」についてどの程度知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「地産地消」とは、地元でとれたものを地元で消費することをいいます。宇都宮市では、地元の農業を応援し、地場農産物の活用や購入を促進するための取り組みを推進しています。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 具体的な取り組み例を知っていた | 2 言葉も意味も知っていた |
| 3 言葉だけは知っていた | 4 知らなかった |

問 15 食品の安全性に不安を感じていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 感じている | } → 問16へ |
| 2 多少は感じている | |
| 3 あまり感じていない | |
| 4 感じていない | |

(問15で1・2のいずれかに○をつけた方のみ)

問 15-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------------|
| 1 食品中の残留農薬 | 2 遺伝子組換え食品 | 3 ノロウイルス・O157等の食中毒 |
| 4 食品添加物 | 5 食品表示(偽装・虚偽誇大) | 6 異物混入 |
| 7 容器包装からの溶出化学物質 | 8 ダイオキシン | 9 輸入食品 |
| 10 BSE(牛海綿状脳症) | 11 放射能による影響 | 12 食物アレルギー |
| 13 事業者の衛生管理 | 14 行政による指導・監視体制 | |
| 15 その他() | | |

問 16 あなたは食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-----------|
| 1 関心がある | 2 多少関心がある |
| 3 あまり関心はない | 4 関心はない |

◆ あなた自身のことについてお伺いします。

F 1 性別

1 男性	2 女性
------	------

F 2 学年（年齢） ※ 平成26年6月1日現在

1 中学1年生	2 中学2年生	3 中学3年生
4 高校1年生	5 高校2年生	6 高校3年生

F 3 お住まいの町名

--

※ 丁目までご記入ください。

(記入例)

宇都宮市下栗町にお住まいの方 ⇒ 下栗町

宇都宮市下栗1丁目にお住まいの方 ⇒ 下栗1丁目

市外の方は市町名を記入してください ⇒ 鹿沼市

F 4 誰と住んでいますか。(あてはまるもの全てに○)

1 ひとり暮らし	2 母	3 父
4 祖母や祖父	5 兄弟姉妹	6 親せき
7 学生寮に住んでいる	8 その他 ()	

F 5 身長と体重 ※小数点第1位まで記入してください。(記入例：150.4cm, 50.0kg)

身長	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				cm	体重	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				kg

F 6 「食育」に関して、市へのご意見やご要望がありましたら、ご自由に記入してください。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。



宇都宮市マスコットキャラクター
「ミヤリー」

食育に関する意識調査

【記入のしかた】

- 1 お答えいただいた内容は、本調査の目的にのみ利用し、秘密の保持には万全を期してまいります。
- 2 回答は、お子さまと一緒に考えながら、保護者の方が記入してください。
- 3 平成26年6月1日現在の状況をお答えください。
- 4 回答は、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。
質問によっては、1つだけ選んでいただくものと、複数選んでいただくものがありますので、ご注意ください。
- 5 「その他」とお答えの方は（ ）内に、その内容を具体的にご記入ください。
- 6 ご記入いただきました調査票は、平成26年6月16日（月）までに、
提出用封筒に入れて、封を閉じたうえ、担任の先生へご提出ください。
※ 調査票及び封筒にお名前を書いていただく必要はありません。

★ この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

宇都宮市保健所 健康増進課 健康づくりグループ
TEL 028-626-1126



宇都宮市食育応援キャラクター
「忍者食丸くん」

お子さまのことについて、お子さまと一緒に考えながらお答えください。

◆ お子さまの食生活についてお伺いします。

問1 お子さまは朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

- 1 毎日食べる → 問2へ
- 2 週5～6回程度食べる
- 3 週3～4回程度食べる
- 4 週1～2回程度食べる
- 5 食べない

(問1で2～5いずれかに○をつけた方のみ)

問1-1 お子さまが朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 時間がない | 2 食欲がわからない |
| 3 朝食を食べるより寝ていたい | 4 減量(ダイエット)のため |
| 5 保護者が食べない | 6 その他() |

問2 お子さまが朝食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問3 お子さまが夕食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 毎日食べる | 2 週5～6回程度食べる |
| 3 週3～4回程度食べる | 4 週1～2回程度食べる |
| 5 食べることはない | |

問4 お子さまは夜は何時頃に寝ますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1 午後7時前 | 2 午後7時台 | 3 午後8時台 |
| 4 午後9時台 | 5 午後10時台 | 6 午後11時以降 |

問5 お子さまは朝は何時頃に起きますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 午前6時前 | 2 午前6時台 | 3 午前7時台 |
| 4 午前8時台 | 5 午前9時台 | 6 午前10時以降 |

問6 お子さまは食事をゆっくりとよくかんで（※）食べていますか。（○は1つだけ）

※ 厚生労働省では、食べ物をひとくち30回以上かむことを目標とした「嚙ミング30（カミングサンマル）」を提唱しています。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 よくかんでいる | 2 あまりかんでいない |
| 3 わからない | |

問7 お子さまは好き嫌いがありますか。（○は1つだけ）

- | |
|------------|
| 1 たくさんある |
| 2 少しある |
| 3 ない → 問8へ |

（問7で1・2に○をつけた方のみ）

問7-1 お子さまに嫌いな食べ物を食べさせるために何をしますか。（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 食べたらほめる | 2 食べたらごほうびをあげる |
| 3 調理方法を工夫する | 4 周りの人が食べてみせる |
| 5 食べなくても食卓に出し続ける | 6 説得する |
| 7 怒って食べさせる | 8 食べるまで食卓に座らせておく |
| 9 その他（ ） | 10 何もしない |

問8 お子さまの食生活に何か問題があると思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|--------------------|
| 1 問題があり改善したいと思う |
| 2 問題はあるが改善したいと思わない |
| 3 問題はない |
| 4 わからない |
- } → 問9へ

（問8で1・2のいずれかに○をつけた方に）

問8-1 食生活の問題点はどのようなものですか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------|------------|
| 1 栄養のバランスが悪い | 2 欠食がある |
| 3 間食が多い | 4 食べすぎてしまう |
| 5 野菜の摂取量が少ない | 6 塩分のとりすぎ |
| 7 その他（ ） | |

問9 お子さまと一緒に実践している食育の取り組みは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1 食事のあいさつをする | 2 箸の持ち方や使い方に気をつける |
| 3 食事の買い物をする | 4 料理をする |
| 5 食べ物を残さず食べる | 6 食べ物に対する感謝の気持ちを持つ |
| 7 その他（ ） | 8 特になし |

「食育」について、あなた自身（保護者）のことをお答えください。

問 10 あなたは「食育」(※)という言葉をごどの程度知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 言葉も意味も知っていた | 2 言葉だけは知っていた |
| 3 知らなかった | |

問 11 あなたは「食育」に関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 関心がある | 2 どちらかといえば関心がある |
| 3 どちらかといえば関心がない | 4 関心がない |
| 5 わからない | |

問 12 あなたが食事の際に気をつけているマナーは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 食事のあいさつ | 2 箸の持ち方・使い方 |
| 3 食器を持って食べる | 4 食器の配置 |
| 5 食べ物を残さない | 6 食事中にほかの事をしない |
| 7 ひじをつかない | 8 その他 () |
| 9 特になし | |

問 13 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 買いすぎないようにしている | 2 作りすぎないようにしている |
| 3 残さないように食べている | 4 特に気をつけていない |
| 5 その他 () | |

問 14 あなたは食品の安全性に不安を感じていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 感じている | } → 問 15 へ |
| 2 多少は感じている | |
| 3 あまり感じていない | |
| 4 感じていない | |

(問 14 で 1・2 のいずれかに○をつけた方のみ)

問 14-1 あなたは食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。(あてはまるもの全てに○)

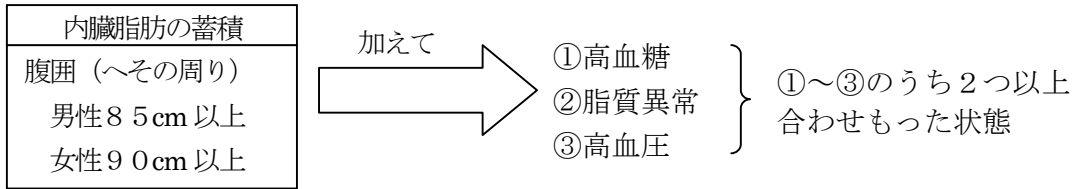
- | | | |
|-----------------|------------------|---------------------|
| 1 食品中の残留農薬 | 2 遺伝子組換え食品 | 3 ノロウイルス・O157 等の食中毒 |
| 4 食品添加物 | 5 食品表示 (偽装・虚偽誇大) | 6 異物混入 |
| 7 容器包装からの溶出化学物質 | 8 ダイオキシシン | 9 輸入食品 |
| 10 BSE (牛海綿状脳症) | 11 放射能による影響 | 12 食物アレルギー |
| 13 事業者の衛生管理 | 14 行政による指導・監視体制 | |
| 15 その他 () | | |

問 15 あなたは農産物を購入する際、地場産(栃木県産・宇都宮産)のものを購入していますか。
(○は1つだけ)

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-----------|---|--------|
| 1 | できる限り購入している | 2 | たまに購入している | 3 | こだわらない |
|---|-------------|---|-----------|---|--------|

問 16 あなたはメタボリックシンドローム(※)とは何か知っていましたか。(○は1つだけ)

※ 「メタボリックシンドローム」とは、内臓脂肪の蓄積に加えて、高血糖、脂質異常、高血圧のうち2つ以上あわせもった状態をいいます。



- | | | | | | |
|---|-------|---|------------------------|---|--------|
| 1 | 知っていた | 2 | 言葉を聞いたことはあるが詳しくは知らなかった | 3 | 知らなかった |
|---|-------|---|------------------------|---|--------|

問 17 あなたはメタボリックシンドロームの予防や改善のための取り組みを継続的に実践していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 実践して、半年以上継続している |
| 2 | 実践しているが、半年未満である |
| 3 | 時々気をつけているが、継続的ではない |
| 4 | 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている |
| 5 | 現在もしていないし、しようとも思わない |

(問 17 で 1・2・3 のいずれかに○をつけた方のみ)

▶ 問 17-1 メタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取り組みを実践していますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | | |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 定期的な運動 | 2 | 栄養バランスのよい食事 |
| 3 | 食べすぎない | 4 | 1日3食食べる |
| 5 | 夜遅い時間に食べない | 6 | アルコールを控えている |
| 7 | 禁煙 | 8 | その他 () |

(問 17 で 4・5 のいずれかに○をつけた方のみ)

▶ 問 17-2 メタボリックシンドロームの予防や改善のための取り組みを実践しない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | 自分の健康に自信がある |
| 2 | 病気の自覚がない |
| 3 | 病気になってから治療をすればよい |
| 4 | 生活習慣を改善することがストレスになる |
| 5 | 生活習慣を改善する時間的ゆとりがない |
| 6 | 生活習慣を改善する経済的ゆとりがない |
| 7 | 社会的な環境(運動施設・栄養成分表示など)が整っていない |
| 8 | 面倒だから取り組まない |
| 9 | その他 () |

◆ お子さまのことについてお伺いします。

F 1 お子さまの性別

1 男性	2 女性
------	------

F 2 お子さまの学年（年齢） ※ 平成26年6月1日現在

1 小学1年生	2 小学2年生	3 小学3年生
4 小学4年生	5 小学5年生	6 小学6年生
7 未就学（幼稚園・保育園など ⇒ 年齢： 歳）		

F 3 お子さまのお住まいの町名 ※ 丁目までご記入ください。

	(記入例)宇都宮市下栗町にお住まいの方 ⇒下栗町
	宇都宮市下栗1丁目にお住まいの方 ⇒下栗1丁目
	市外の方は市町名を記入してください⇒鹿沼市

F 4 お子さまは誰と暮らしていますか。（あてはまるもの全てに○）

1 父	2 母	3 祖父や祖母
4 兄弟姉妹	5 親せき	6 その他（ ）

F 5 お子さまの身長と体重 ※ 小数点第1位まで記入してください。（記入例：120.4cm, 30.0kg）

身長	<table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr></table> . <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr></table> cm					体重	<table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr></table> . <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr></table> kg				

◆ あなた自身（保護者）のことについてお伺いします。

F 6 お子さまとの続柄

1 父	2 母	3 祖父	4 祖母	5 その他（ ）
-----	-----	------	------	-------------------------------

F 7 あなた自身の年齢 ※ 平成26年6月1日現在

1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳	4 30～34歳
5 35～39歳	6 40～44歳	7 45～49歳	8 50～54歳
9 55～59歳	10 60～64歳	11 65～69歳	12 70歳以上

F 8 「食育」に関して、市へのご意見やご要望がありましたら、ご自由に記入してください。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

食育に関する意識調査 報告書

平成 26 年 10 月

調査主体 宇都宮市保健福祉部 保健所健康増進課
〒321-0974 宇都宮市竹林町 972 番地
TEL 028-626-1126
調査機関 株式会社アールピーアイ栃木